Vol.73通巻839号　平成4年2月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可　ISSN 0912-8182

建築と社会

ARCHITECTURE AND SOCIETY

1992

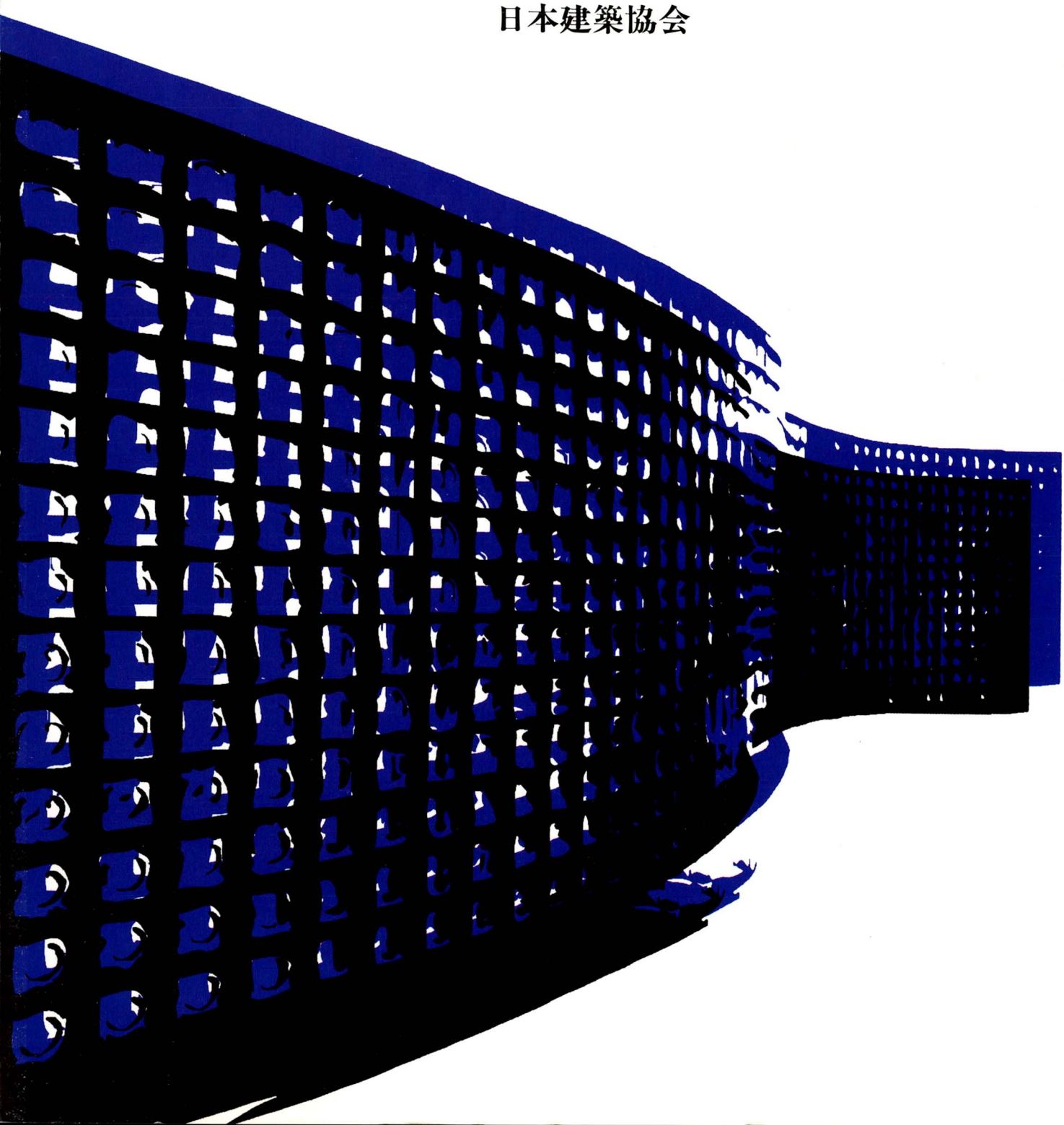
2

特集

こだわりのインテリア

近畿の郵政建築15年の歩み

日本建築協会



ガス空調を使用いたします。



ガスヒーポン
ビル用マルチ

❹室内機の集中制御ができます。
1台ごとの制御はもちろん、オフィスや会議室など複数の室内機の集中制御が、テナント別に可能です。またビル全体の集中制御もOK。スケジュールタイマーを加えれば、いっそう便利になります。

ガスだから

❶ランニングコストの軽減ができます。
ガスヒーポンならではのお得なガス料金制度（小型空調機器専用需給契約料金制度）がご利用いただけます。

❷電気容量にゆとりがもてます。
ガス空調なので契約電力の低減がはかれ、電力のゆとりぶん、OA機器の導入など運営面にも余裕がでます。

❸スピーディ&パワフル暖冷房。
ガスエンジンの排熱を有効に利用するので除霜運転も不要、暖房の立ち上がりもスピーディ。また冷房もパワフルで経済的です。

❹優遇税制・低利融資が用意されています。
ご購入の際には優遇税制が受けられ、また「ガスヒートポンプ普及促進融資制度」などの低利融資制度が用意されています。

大阪ガス
〒541 大阪市中央区平野町4-1-2 大阪ガス株式会社
都市エネルギー営業部 ☎06-202-2221（大代表）

●情報満載のカタログ差し上げます。資料請求券をハガキに添付のうえ『ビル用マルチ係』へご請求ください。

資料請求券
GE
A&S

お知らせします。
このビルは
ガスヒーポンの
ビル用マルチという

ガスヒーポンに
ビル用マルチ、新登場。

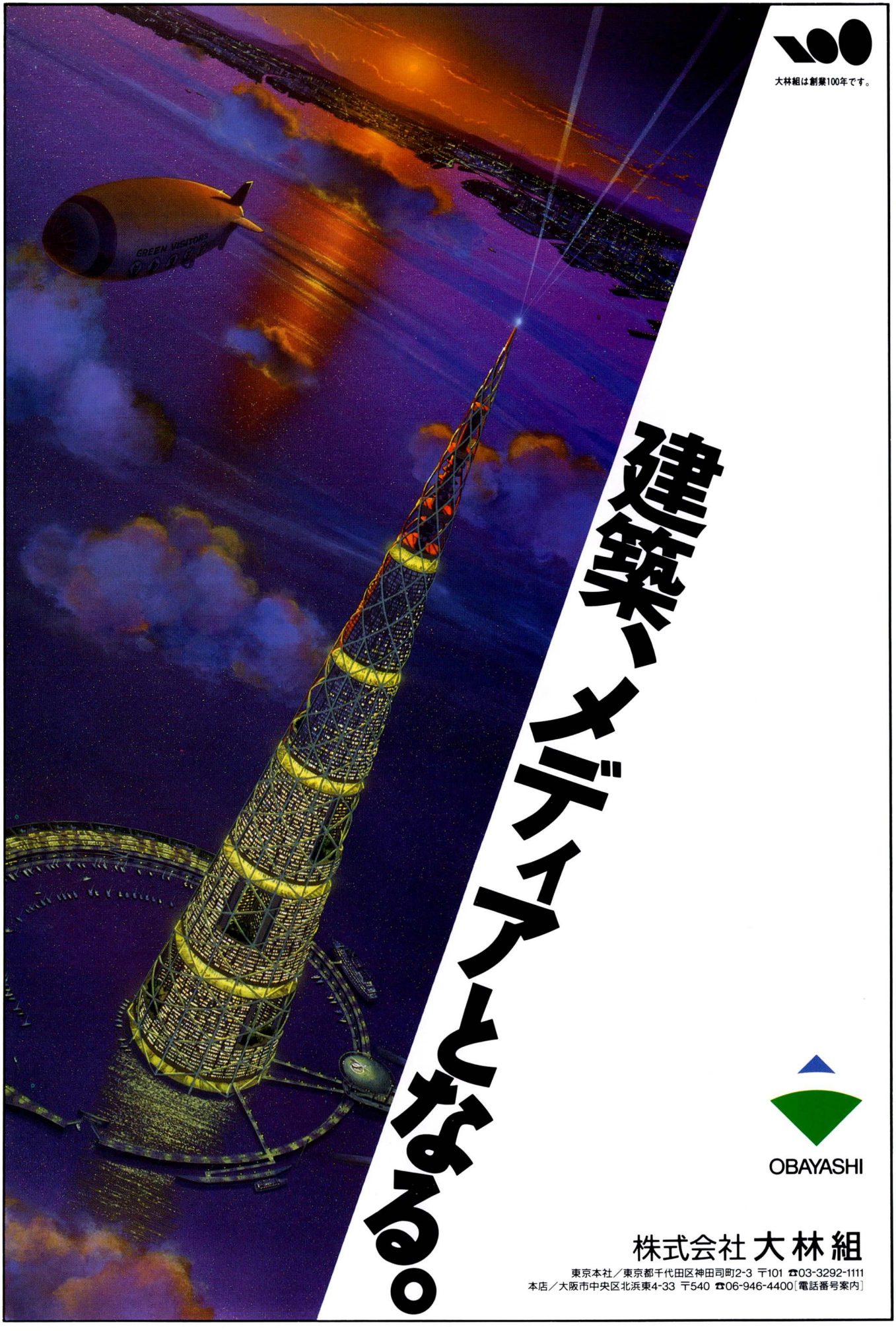
ガスヒーポンはガスエンジンによるヒートポンプ運転で、暖冷房をおこなうエアコンです。営業時間が異なるテナントごとに、自由に空調をコントロールでき、残業や不意の休日出勤などにもスムーズに対応できます。

ガスだけど

❶個別空調がスムーズにできます。
1台の室外機に対して、暖冷房能力の異なる室内機が最大6台まで設置可能な、異能力マルチシステムです。

❷設計・施工がしやすくなりました。
ライン分岐・ヘッダー分岐の両配管方式をとることができるので、設計・施工が容易になりました。

❸用途別に室内機が選択できます。
設置形態や暖冷房能力に合わせて、天井カセット型・天井ビルトイン型など、室内機のバリエーションも豊富に用意しました。



大林組は創業100年です。

建築、メディアとなる。

OBAYASHI

株式会社 大林組

東京本社／東京都千代田区神田司町2-3 〒101 ☎03-3292-1111
本店／大阪市中央区北浜東4-33 〒540 ☎06-946-4400［電話番号案内］

For a Lively World

人のいきいき、創造したい。



新しいTAISEIが、動き始めています。めざすものは、「人がいきいきとする環境の創造」。都市機能の充実や、暮らしのさまざまなステージづくりをはじめ、幅広い領域を活性化し、そこに生きる人びとがはつらつとして生活できる環境づくりがテーマです。自然と人間が心地よく共存するための確かな技術と柔軟な発想で、21世紀の地球環境にチャレンジするTAISEI。今日も街に、人に、いきいきとした風をおくり続けています。

大成建設株式会社

大阪支店　〒541　大阪市中央区北浜3-7-12

TAISEI



■OBP（大阪ビジネスパーク）の新しい顔「クリスタルタワー」。自然の景観美を生かし、オフィスの快適性を追求しています。■設計・施工：竹中工務店

建築は、それ自身が完成した時から、設計者の意図をはなれ、街と人と時代にゆだねられます。そして、その空間を訪れ、住み、働く人々にはぐくまれ、真に価値あるもののみが文化として、次代へと受け継がれます。竹中工務店は、自らが手がける建築を作品と考え、創造力の発揮に情熱を傾けてきました。その作品づくりの底流をなすものは、つねに"街と人へのやさしさ"です。ひとつひとつの建築作品が、後世に残る文化となることを願って……竹中工務店は、これからも、人へ、時代へ、鮮烈なメッセージを送り続けていきます。

創業1610年

竹中工務店

お問い合わせは――――――――総本店広報へ
〒541 大阪市中央区本町4丁目1-13 Tel.06(252)1201
〒104 東京都中央区銀座8丁目21-1 Tel.03(3542)7100

◀グリーンセミナー鷲尾金弥氏を囲んで　第2回

花博の開催を一つの契機として、都市や建築内部へ「はな・みどり」を積極的に導入することが時代の大きな流れとなってきている昨今です。そこで、このたび、花博の園芸プロデューサーの大役を務められた鷲尾氏を囲んで「グリーンセミナー」を開催する運びとなりました。鷲尾市は、花博を始め、諸外国での仕事にも数多く携わってこられ、「はな・みどり」の知識と経験が豊富で、しかも建築を含めた環境計画の原点に対する確かなフィロソフィーをお持ちの造園設計家であります。

第2回は、建築の内部や周辺における「はな・みどり」の取り扱い方について、鷲尾氏の豊富な体験をもとに、スライドによる実例を交えて、お話しを願う予定です。

多数のご参加をお待ちしております。

日　時　1992年3月10日(火)　14:00－16:00
会　場　(社)日本建築協会サロン（大阪駅前第3ビル21F）
定　員　30人（申込多数の場合は抽選）
参加費　会員 1,000円、一般 1,500円（含、消費税）
申　込　ハガキ、FAX、電話で、3月2日(月)までに(社)日本建築協会事業課へお申込みください。
1)催し名(グリーンセミナー)、2)氏名、3)会員・一般の別、4)勤務先、5)参加証送付先、6)電話番号をお知らせ願います。

(社)日本建築協会事業課　〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100
FAX 348-0634　TEL 348-0633

＊参加証を、3月3日(火)に発送します。



鷲尾金弥（わしお きんや）

1936　伊丹市生まれ
59　大阪府立大学農学部園芸学科卒業　花卉学専攻
60～63　同大学助手
64　カリフォルニア村田真珠会社社員として渡米
70　カツラウエスト・デザイン会社設立（米国）
74　ワシオアソシエイツ有限会社設立（米国）
——2000坪の温室をもつ約20haの農園（カリフォルニア州サンディエゴ市）シキエンナーセリーで、スーパーマーケットを対象とした観葉植物の生産(年間15万鉢)と卸、流通などを行う
80　帰国、㈱荒木造園設計事務所取締役企画部長
91　㈲ワシオアソシエイツ代表取締役
——カラフルランドスケープの企画、技術開発
——新品種・希少植物等の輸入、普及
キンヤワシオ アンド アソシエイツ連絡事務所を米国（カリフォルニア州サンディエゴ市）に設立、(財)日本花普及センター評議員兼務
●博覧会・イベント関係
1983　第1回全国都市緑化フェア　会場基本計画担当
86　兵庫県おのころ博　花壇設計
ユーロ・フローラ(イタリア・ジェノア)日本代表出展プロデューサー
88　兵庫県ホロンピア博　花壇設計
90　国際花と緑の博覧会　園芸プロデューサー
91　フロリアード92　日本国政府屋内出展プロデューサー
●技術士（都市及び地方計画部門）

日本建築協会企画図書目録

日本建築協会創立60周年記念事業
建築技術選書発行：学芸出版社

NO	書　籍　名	税込価格
1	茶室の話（岡田孝男著）	¥1,339-
8	建具の知識と意匠（山片三郎著）	¥1,339-
9	エレベータ・エスカレータ（木村利雄著）	¥1,339-
13	医院・診療所の計画と設計（池田有隣・船越暉由著）	¥1,339-
15	PC建築の話（下伊豆隆三著）	¥1,236-
16	石垣と石積壁（窪田　祐著）	¥1,339-
17	基礎と地盤の手ほどき（中堀和英著）	¥1,339-
20	タイルの話（田中　弘著）	¥1,339-
24	鉄骨構造の話(金多潔・甲津功夫・西澤英和著)	¥1,339-
27	建築積算業務（生島道春著）	¥1,442-
28	建築金物の知識（立野一郎著）	¥1,339-
29	瓦と屋根構造（佐藤滋朗著）	¥1,442-
32	建築塗装の手引き（児島修二著）	¥1,442-
33	建築式典の実際（若林嘉津雄著）	¥1,339-
38	住宅の照明（大島　博監修）	¥1,442-

日本建築協会創立70周年記念事業
選書特装版発行：学芸出版社

NO	書　籍　名	税込価格
1	構造コストと経済設計（須賀好富著）	¥3,605-
2	建築設備の健康診断（牧野　茂著）	¥3,914-
3	新・建築と設備の接点（宮脇　毅・南部　武著）	¥3,605-
4	外壁構法チェックリスト（飯塚五郎蔵著）	¥3,399-
5	建築デザインのための構造計画（須賀好富著）	¥2,884-
6	場所打ち杭の設計と施工（阪口　理著）	¥3,296-

日本建築協会創立60周年記念事業「建築技術選書」姉妹編
〈プロのノウハウ〉シリーズ発行：学芸出版社

NO	書　籍　名	税込価格
1	TQCから見た建設業（荒木睦彦著）	¥1,648-
2	躯体工事監理のチェックポイント100（須賀好富著）	¥2,060-
3	パソコン会計術（西部明郎著）	¥1,854-
4	建築の値打ちの高め方（小林清周著）	¥1,751-
5	空調設備のトラブル50（建築設備トラブル研究会著）	¥2,060-
6	衛生設備のトラブル50（建築設備トラブル研究会著）	¥2,060-
7	火災安全学入門（岡田光正著）	¥1,700-
8	現場マンのアイデア発想（合原一夫著）	¥1,854-
9	建築基準法の実際（矢吹茂郎著）	¥1,854-
10	工務店の税金対策100ポイント（建設税務所研究会著）	¥1,854-
11	工業化住宅・考（松村秀一著）	¥2,060-
12	鉄骨工事の現場学（石田満裔著）	¥2,060-
13	建築紛争の実際（岡本辰義著）	¥1,854-
14	仕上工事監理のチェックポイント（監理業務研究会著）	¥2,060-
15	ゼロ災への道（表　一郎著）	¥1,648-
16	木造住宅のしくみ（浅野平八・東　敏博著）	¥2,060-
17	コンクリート工事のチェックポイント100（加賀秀治著）	¥2,060-
18	インテリアコーディネートの100ポイント（町田ひろ子監修）	¥1,648-
19	建築基準法を読みこなすコツ（高木任之著）	¥2,060-
20	ニュー組積建築のすすめ（福嶋孝之著）	¥2,060-

日本建築協会事務局でお求めの場合、建築技術選書と〉プロのノウハウシリーズが100円割引き、選書特装版が200円割引きでおのおの頒布しておりますのでせいぜいご利用下さい。

◀『オーナークラスの経営と戦略研修会』

建築設計事務所の経営セミナー―日本建築協会後援―

日　時　1992年 **2** 月**29**日(土)　AM10時～PM17時
会　場　大阪科学技術センター４階
（大阪市西区靱本町1-8-4 ☎06-443-5321）
プログラム
パートⅠ　講師／仲西正幸(話力開発研究センター所長)
「大人の話し方教室」
パートⅡ　講師／滝井繁男(弁護士)
「監理技術の社会的地位と役割について」
パートⅢ　パネリスト／坂内幾男(坂内建築設計事務所)
本田勝實(本田設計)
進　　行／宮崎八郎(宮崎建築設計事務所)
「設計事務所の経営と戦略」
受講料　JIA会員、後援団体　20,000円(テキスト・昼食・飲物含む)
一　般　25,000円
定　員　100名
申込先　JIA近畿支部事務局（〒541 大阪市中央区備後町2-5-8）
TEL(06)229-3371　FAX(06)229-3374
電話かFAXにて申し込みのこと。

◀大阪公共建築フェア〝ふくらまそう、夢　輝かそう、おおさか〟

「心の豊かさ」が実感できる日常生活や生活環境を求める気運の高まりとともに、公共建築に対する社会的要請も大きく変化しています。

また、現在、大阪府内では関西国際空港をはじめとするビッグプロジェクトのほか、福祉や健康・教育・生活環境整備など、多様な施策が展開されており、これらの活動の拠点となる建物も続々と計画、建設されています。

各自治体では、このような情勢を踏まえ、文化と芸術性にあふれ、永く、人々に愛され親しまれる公共施設の実現に取り組んでいますが、これらの多くは、完成後でないとその施設の外観や創出される都市空間がイメージできず、身近なものになるには相当時間がかかっています。

このため、今まで公開されることの少なかった計画中や建築中の施設の模型やパースなどを展示し、ゆとりと、うるおいのある街づくりや、地域のシンボルとなる施設づくりを広く紹介することにより、"21世紀のおおさか"が体感できるフェアを開催します。入場は無料。

主　催　大阪府・大阪市・(社)大阪府建築士会
後　援　(財)大阪21世紀協会　(財)大阪府建設監理協会
(財)大阪市建築技術協会
協　賛　(社)日本建築協会ほか18団体

■公共建築展

平成４年 **3** 月**25**日(水)～**30**日(月)　午前10時～午後７時
大阪ビジネスパーク(OBP) ツイン21ギャラリー
1．模型・パース等の展示コーナー
① 大阪府（下記施設を地域別に展示）
（模　型）
1 空港ターミナルビル
2 りんくうゲートタワービル
3 (仮称)南大阪花き地方卸売市場
4 大阪府庁舎周辺整備
5 (仮称)大阪府産業技術総合研究所
6 新図書館
7 大規模スポーツ施設
8 総合教育研修センター
9 近つ飛鳥博物館
10 婦人総合センター
11 春宮地区再開発
12 府立病院
13 精神保健センター
14 府立天王寺高校
15 府立夕陽丘高校
16 府立大学総合情報センター
（パース）
1 大井処理場管理棟本館
2 府立清水谷高校
3 豊中保健所
4 砂川厚生福祉センター
5 淡輪ヨットハーバークラブ
6 千里セミナーハウス
7 三国丘高校
8 第５方面機動警ら隊本部
② 大阪市
（模　型）
1 中央卸売市場
2 淀川リバーサイド整備
3 桜之宮中野地区整備
4 アジア太平洋トレードセンター
5 大阪ワールドトレードセンター
6 インテックス大阪
7 開平小学校
（パース）
1 鶴見緑地乗馬苑
2 靱庭球場
3 長居陸上競技場
4 新中央図書館
5 (仮称)東淀川スポーツセンター・東淀川女性いきいきセンター
6 (仮称)旭スポーツセンター
7 総合医療センター
8 市立大学医学部附属病院
9 高見地区整備
10 阿倍野地区再開発
11 大阪駅前ダイヤモンド整備
③ その他市町村
（模　型）
1 堺　　市　(仮称)教育文化センター
2 八　尾　市　庁舎
3 門　真　市　市民文化会館
4 吹　田　市　総合武道館、リサイクルセンター
5 箕　面　市　豊川支所・(仮称)東小校区コミュニティセンター
6 豊　中　市　(老人センター)
（パース）
7 河内長野市　文化会館
8 富田林市　斎場
9 守　口　市　(仮称)生涯学習情報センター
10 摂　津　市　ＪＲ千里丘駅前駐車場
11 大阪狭山市　文化会館
④ ビデオ紹介
・ビッグプロジェクト等の広報用ビデオをアストロビジョンで放映。
（５回／１日、１本20分以内）
2．公共施設紹介コーナー
・府民が直接利用できる公共の宿泊施設や文化、体育施設などをビデオで紹介。
・展示施設および既存施設のパンフレット等を配付。
3．設備システム紹介コーナー
・環境にやさしい新エネルギーシステムや、情報をささえる新通信システム等の先端技術をパネル等により展示。
4．大阪府公共建築設計コンクール作品コーナー
・大阪府公共建築設計コンクールの入選作品８点をパネル展示。

■記念講演会

平成４年 **3** 月**25**日(水)　午後１時30分～４時30分
大阪ビジネスパーク(OBP)MIDシアター
・大阪府公共建築設計コンクールの講評および表彰式典
・記念講演
内井昭蔵氏（建築家）
「公共建築のあるべきすがた ～大阪に期待すること～」
端　信行氏（国立民族学博物館助教授）
「建築の進化 ～これからの都市と文化～」

「建築と社会」2月号表紙

デザイン・白子正人
（グラフィックデザイナー 日本タイポグラフィ協会会員）

2月号のモチーフは近畿郵政局体育館。美しいカーブを持った、ガラスブロックの造形である。そして、使用したカラーは、フランスの伝統色チャートよりPensée、パンジーの色である。Penséeは、『スミレ科に属する植物の総称で、その花びらは非常に美しい。2月の半ばになると公園の冷たい土の上に、中が黄色で縁が紫の可愛いい花びらをつけ始める』とのことである。

■特集予告

3月号／東海支部特集
4月号／建築家のための設備知識—III—
　地球環境時代の建築
5月号／住宅・都市整備公団特集

会　長　佐野正一
副会長　金多　潔・藁袋公明
　　市川　宏・鴻池藤一
編集委員会（平成3年度）
■編集理事
井上　豊　池田　秀行
金井　弘次　遠藤　進
川島　繁三　大田　克彦
小島　雄　梶井　宏修
須賀　好富　河津　隆之
竹中　錬一　○伊達　正雄
深江　實　★施工材料分科会
松村　慶三　有光　利治
溝神宏至朗　植田　実
若山　繁　小椎八重猛
■編集委員長　志水　史典
溝神宏至朗　加藤　眞
■編集顧問　○村上　信直
東　孝光　★法令分科会
■編集委員　稲継　典彦
★計画系分科会　岩田　純一
☆計画系　樫田　攻
梅村　宏尚　○佐藤　勝
河端　秀直　高見　成志
小浦　久子　中島　弘志
鈴木　克彦　■作品作風小委員会
○田中　直人　荒川　朱美
中井　省吾　遠藤　公介
松川　敏正　尾崎　久純
山尾　弘子　岡本　隆
横関　真紀　※北澤　修一
吉村　英祐　田中　均一
☆建築計画系　富田　昌義
石山　道男　福地　一彦
磯村千恵子　前川　治彦
上杉　秀隆　松田　善弘
江副　敏史　松村　衛
菅野　忠司　○宮下　幹雄
○北村　潤　水川　尚彦
黒川　明彦　■会員企画小委員会
※佐藤不二男　伊藤　郁郎
塚本　史郎　稲木　裕子
刃金　国男　尾崎　俊文
山本　匡　大沢　智弘
吉羽　逸郎　北村　恭一
☆インテリア・住宅系　グレッグ　ホール
大森　智子　小板橋鉄雄
大橋眞由美　小林　孝一
加藤　力　※佐伯由紀子
角方　利幸　佐野　洋
※神谷　剛　○高田　光雄
○北浦かほる　※高橋　麗子
駒田　哲男　塚口　明洋
中村　孝之　増渕　昌利
西川　純一　山嵜　章子
福田　由利　■広告企画小委員会
★構造分科会　※池渕　俊男
　上井　善一
　衣川　徳好
稲葉　繁夫　○佐野　寛志
○角　彰　山東　晃
多賀　謙蔵　下村　甫
野村外喜夫　原田　常介
馬場　研介　藤田　孝吉
★設備分科会　山下　修司
○印　副委員長と幹事　※印　同代行

印　刷　平成4年2月20日
発　行　平成4年2月25日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　電　06—348—0635
　振替口座 大阪1-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
　電　06—351—5428(代)
　日本電植株式会社
　電　06—357—1803(代)
定　価　980円（本体価格951円・送料共 消費税29円）

1917創刊
1992
73集

建築と社会 © ARCHITECTURE AND SOCIETY

CONTENTS

JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

2 839

会告

作品作風
GALLERY
being
W
大先輩に聞く
書評
ブックステーション
法令コーナー
GBRCニュース
新建材紹介コーナー
リポート
見学会リポート
INFORMATION

建築の眼

特集
総論
各論

総括
特集
巻頭言
座談会

作品

普通郵便局

特定郵便局

博覧会施設
リフォーム
ローカリティー
アーバニティー

文化施設
厚生施設
借入郵便局

年表
組織図

設備の頁201
構造の頁202
月報

特集●こだわりのインテリア
●近畿の郵政建築15年の歩み

●*SPECIAL FEATURE　WHERE DO YOU THINK IS MOST IMPORTANT　POINT ON INTERIOR DESIGN*
●*SPECIAL FEATURE ON THE RECENT WORKS OF KINKI POSTAL SERVICIES BUREAU*

グリーンセミナー鷲尾金弥氏を囲んで(第2回),『オーナークラスの経営と戦略研修会』,大阪公共建築フェア"ふくらまそう、夢 輝かそう、おおさか" —— 5
広島県立農業技術センター —— 設計監理：広島県営繕課・教育施設研究所 —— 8
施工：淺沼組・日興共同企業体
ギャラリー　キミ／藤岡　新 —— 10
大島勝寛／本多友常 —— 12
Watching－都市の風景－ —— 14
堀内三郎／伊藤郁郎 —— 16
アルド・ロッシ『都市の建築』「書」評／安原盛彦 —— 18
短評4冊／稲木裕子 —— 19
尼崎市火災予防条例の改正／酒居忠久 —— 20
京都分室「コンクリート試験用全自動100tf油圧式圧縮試験装置」 —— 21
ボーラル　ブリック&ペイパー／元木貞次 —— 23
北欧の都市と建築(3)－フィンランド・ヘルシンキ(I)／中島　一 —— 24
九州話題建築見学会－今、博多・熊本が面白い－／森田芳次・長瀬博一・武部由起子 —— 26
芸術文化センター街区プロポーザル募集,「居住空間の未来を探る」フォーラム,河口龍夫展,布絵フィールドワーク－岡本靖子の手法展 —— 28
小学校の数ほどケア施設を／北浦かほる,禁煙テーブル／島崎　勉,建築を見る眼／中川洋一,地球環境問題へ貢献の一歩／小林志朗 —— 30

こだわりのインテリア

綺麗は美か —— 出江　寛 —— 32
未来を考え、未来を創造する —— コシノ　ジュンコ —— 36
現代空間に生きる華道 —— 堀江　星苑 —— 38
フランスのエスプリ—ラ・ヌーヴェル フォンテーヌ —— 多々内　廣行 —— 40
イトーキ大阪ニューオフィスギャラリー —— 草間　喆雄 —— 42
椅子へのこだわり　デザインの出発点 —— 喜多　俊之 —— 44
有ることが"無"、無いことが"有"—演劇は哲学的時空— —— 嶋田　三朗 —— 46
眼が思惟する世界へ —— 東出　清彦 —— 48
光へのこだわり —— 田村　利夫 —— 50
こだわりのインテリア —— 北浦　かほる —— 52

近畿の郵政建築15年の歩み

不易流行・百花繚乱—郵政建築の現況— —— 観音　克平 —— 56
郵政建築、今日から明日へ —— 57
　澤　良雄/大久保久能/中川　理/観音克平/山本　晃/垣内　晃/山内一正
作品(郵便局)所在地 —— 67
郵政建築(近畿篇)79点
伊丹/東灘/左京/船場/野洲/近江日野/茨木/大阪狭山/都島/神戸西/峰山/甲西/香芝/浪速/八尾/奈良西/小野/尼崎北/福知山/加古川東/天王寺 —— 68
大江/古市/国包/淡路一宮/但東/丹後/西大和高塚台/日置川/御津/大塩/愛知川/村岡/二見/猪名川/市川/山東/湖東/神戸大田 —— 82
シルクロード博郵便局/花の万博郵便局 —— 88
中京/篠山/池田/竜野/門真/大阪中央/北浜/和歌山中央(普通局)・京都岡崎(特定局) —— 90
吉野山/高宮/平福(特定局)・山城田辺(普通局) —— 96
神戸サンパルビル・ポスタルショップサンパル(臨時出張所)・シティポスト阪急(都市型簡易局)・大阪ツイン21ビル内/K2ビル内/西中島南方駅前/天王寺小橋(特定局)・御堂筋ヒマワリ(都市型簡易局)・独立型カプセルCS —— 98
大阪郵便貯金会館(メルパルクOSAKA) —— 100
近畿郵政局研修所・近畿郵政局体育館・大阪北逓信病院・京都郵政共済会館《洛翠》— 102
芦屋公光・西宮神明・尼崎園田・草津矢橋・尼崎田能・大阪高津・大阪玉造・武庫川・伊丹森本・神戸竹の台・新宮横町・東淀川相川 —— 106
近畿の郵政建築の歩み —— 108
郵政省の組織 —— 109

遠赤外線パネルヒーター／小林　朗 —— 138
ステンレス鋼柱の構造設計／足立直行 —— 139
平成3年12月分 —— 141



機械棟

広島県立農業技術センター

設計監理　広島県営繕課・教育施設研究所
施　　工　浅沼組・日興共同企業体

所 在 地　東広島市八本松町原6869
敷地面積　35,810㎡
建築面積　 2,886㎡
延床面積　 7,108㎡
構造規模　RC、一部S、 4 F
工　　期　平成 2 年 3 月～平成 3 年 8 月
最 寄 駅　JR山陽本線八本松駅

撮　　影　国際写真

本施設は、東広島市の中央西条盆地の田園地帯にあり、前身である農業試験場の老朽化、施設の手狭さを一新し、加えてバイオや情報部門を取り入れた形で再整備されたものである。

整備は年次計画に基づき、今回工事として本館・宿泊棟・ジーンバンク棟（遺伝資源種苗貯蔵所）・温室等を計画した。設計にあたっては、研究施設の充実と共に地域に開かれた施設として、農業に親しみを持ってもらえる建物になればと考えた。配置計画は、全体敷地の中で建物・圃場・温室収納舎エリアのそれぞれの関連を保ちながら、動線を明確にした。本館の配置については旧館を使用しながら建設するという条件と、4階建の事務研究棟が周辺の田圃や民家に日影や通風上の影響の少ない位置に建つよう計画した。講堂・図書室は中庭を形成するように配置し、南側からの視線に対して圧迫感を少なくしヒューマンスケールを心がけている。周辺は民家と田園風景が広がっており、この中での4階建の建物はスケール的に大きいため、地域の特徴にもなっている民家の赤瓦を屋根に葺き、周辺との調和を図った。また切妻屋根を2つ並べた形態は屋上設備機械の目隠しを兼ねており、外観のモチーフとした。外壁は2丁掛タイル、腰壁は御影石風吹付とした。

事務研究棟の平面は、構造上必要な壁だけをRC造とし、各室の廊下側とバルコニー側に設備配管スペースを設け、研究内容や設備の変化に対応できる計画とした。講堂・展示ホール・図書室は、外来者が利用しやすい1階とし、中庭に面した大小のラウンジを併設させている。講堂周囲に設けたコロネードはコミュニティー施設として気軽に立ち寄ってほしいという期待から計画したものである。

（河野明則／教育施設研究所）



全景南西面



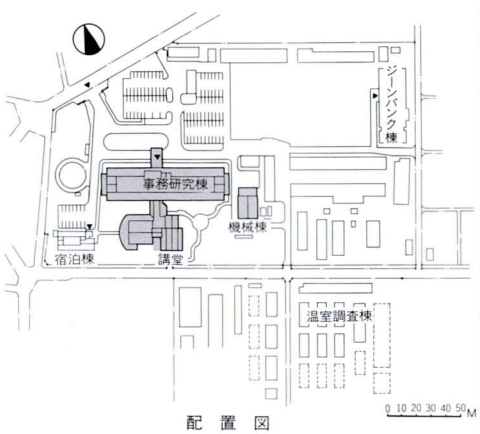
事務研究棟玄関廻り



同左エントランスホール



講堂内部



配　置　図



全景南面

Gallery

まち・建築・ひと



ギャラリー　キ ミ

設計　藤 岡　　新



藤岡　新

1959　京都市生まれ

1984　東海大学大学院修士課程修了

1985　古橋建築事務所

1989　PLATS DESIGN 設立

1990　京都<HOPE>賞受賞
（ギャラリーキミ）



この建物は京都市北区の住宅地の一画に建っている。明治10年頃建てられた土蔵であるが、傷みが激しく修理を機に貸ギャラリーとして改装したものである。

外観は周辺にオープンスペースをとり、無秩序に変わりゆく町並みの中、過去の記憶を全て消しさることのないように、あえて、しっくい壁、焼杉板張のまま残した。

内部は補強も兼ねて鉄骨2階床をつくり直し、化粧梁は手を加えず、白い壁の清潔感と古い木材の持つあたたかさを対比させた。

今回、この計画は朽ちかけている建物に命を吹きこむという難しさと、おもしろい素材を生かした改造の楽しみを教えられたような気がする。

（藤岡　新）

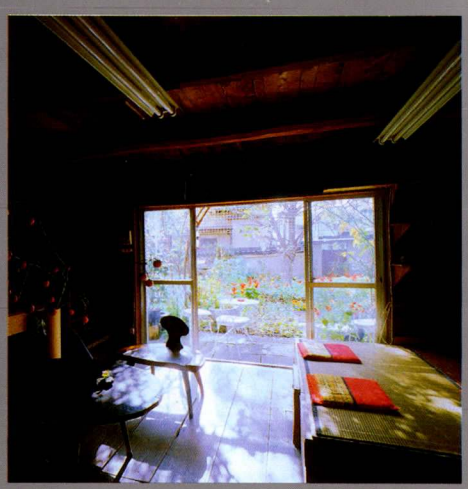
ギャラリーキミ　今後の開催予定

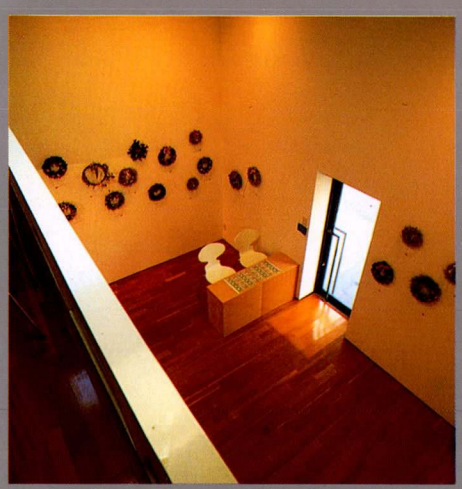
4月24日(金)～29日(水)

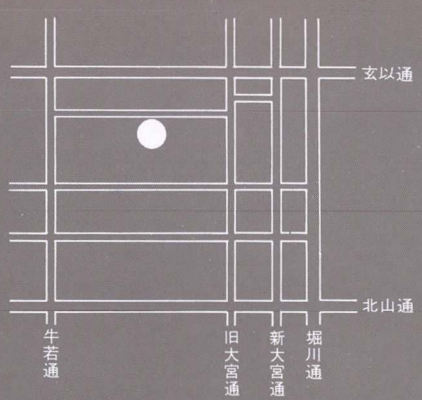
岸和郎作品展「Architectural Works 1987－91」

撮　　影　川元　斉

企画編集　作品作風小委員会　荒川朱美







所在地：京都市北区紫竹東大門町50

☎075(493)4001

being 33
大島 勝寛



ひかえめな人柄は、自らを職人の気質に属することを望んだ。作家と呼ばれることから距離をおき、建築写真職人として、黙々と仕事をこなす。人はそれもまた作家としての、ひとつの選択であったという。彼は建築を被写体として、自己表現のシャッターを押そうとはしない。そのせいか、竣工予想のモンタージュ写真や模型撮影には定評のリアリズムがある。

緊迫した空気に敏感な職人は、笑顔の下にひそかな強情を隠しながら事にあたる。時間を失った真夜中に、光とアングルを求めて油汗にまみれている姿を、何度目にしたことだろう。それは写真を目ざすものなら誰でもが見せる後姿には違いない。しかし体力の限界を越えたところでもたげてくる執着力は他の追随を許さない。明け方とともに残された数枚の写真に、その気迫は定着されて静かに輝きを放つ。

太陽とともに流れる悠久の時に身を託してかいま見せる個は、光に溶けこまんとする光の粒(つぶ)を目指す。

本多　友常





大島勝寛(おおしま・かつひろ)

1938　佐賀県生まれ

1959　日本写真専門学校商業美術写真学科卒業
　　㈱G.T.Sun入社

1970　フリーとなる。万博写真詩集出版

1977　㈲大島写真事務所設立
　　パリオペラザ国際コンペ、関西国際空港コンペ
　　等々、ビッグプロジェクト多数に参画。
　　建築の世界で写真を撮り続けている。

㈲大島写真事務所
〒530　大阪市北区西天満3-7-27(フジタビル)
TEL. 06-365-1223

Watching —都市の風景—





ウインドー　ショッキング













企　画　　会員企画小委員会
Director　　T. REIKO

堀内三郎



先生の御経歴や御研究の成果については、今更改めて申し上げるまでもありませんが、このたび機会を得て色々とお話を伺い、その育ってこられた自由闊達な家庭・社会の環境、エポックメーキングな時代の変化に柔軟に対応されるなかで築かれてきた先生の強い信念と姿勢、それらが研究者として、また教育者として京大・関西大を通じて20年間尽力された教育方針にも強く反映されている事を感じました。

大正デモクラシーに触れた科学少年時代

大正4年11月2日、大阪市西区江戸堀の寒天仲買商を父に持ち、男ばかりの4人兄弟の三男として生まれましたが、三男故家業を継ぐための修行も強いられず、好きな事をして気楽に過ごせた幼少年時代でした。体が弱く家に籠りがちであったせいもあり、幼稚園では木切れで船をつくったり、小学校4～5年生の頃から中学生にかけては、機械いじりや機械などの精密図を描くことが好きになり、当時数少ない少年科学雑誌であった「子供の科学」を片手に、電気機関車の制作に熱中し、のめり込んでいた科学少年でした。この頃は、自分の体の弱さから子供心に将来は医者になりたいと思っていましたが、ある時、枕元で医者に〝こんな体の弱い子は医者になんかなれるわけがない〟とぼろくそに言われ、むきになって反発し〝医者になんか絶対になるものか。科学の方面の何か違う道でみかえしてやるぞ〟という意地っぱりな一面もあったようです。

江戸堀尋常小学校を卒業して大阪府立浪速高等学校尋常科から高等科へと進学した時期は、いわゆる大正デモクラシーのまっただなかで、〈万機公論に決すべし〉との民主的な運動が社会的にも各分野で広まり、小学校高学年では民主的な基本的ルールが教えられました。7年制の浪速高等学校も全国で数少ない新しいタイプの中・高一貫教育モデル校となり、数学・語学・音楽等に進歩的な実験授業を行うなど、進取の気性に富んだ時代でした。やがて世間を覆う軍国主義の波に、この状況はまもなく消滅してしまいましたが、この新しい雰囲気の中での進歩的な経験は、私の心の中に民主主義にたいする強い期待の萌芽のようなものが生まれ、堅苦しく冷たくなってきた世の中で、何か人間味のある方面―建築がいいなと決心させる要因のひとつにもなりました。

大学へ

昭和10年4月京都帝国大学工学部建築科に入学、横尾先生、故増田先生等と同期で、当時は坂、天沼、藤井、森田の4教授が講座を受け持っておられましたが、数学が苦手なため構造は敬遠し計画に入りました。やはり同期で構造に進まれた小西岬氏が使われるタイガーの計算機の音がうるさくよく文句を云った事を今でも覚えています。当時は、デザム、新建築運動、分離派等の活動が華やかな時代で、その頃住宅営団におられ宇治の経理部経理将校でおられた新進気鋭の西山卯三氏に大きく影響を受け、住宅問題・都市計画に関心をもつようになりました。卒業設計は〝映画撮影所〟、卒業論文は〝住居用高層建築物の経済的高さについて〟でありました。これは東北大の火災の研究者でおられた藤田金一郎先生の、効率的・経済的な住宅の高さの限界を火災面からの原価計算に基き検討された研究論文に啓発されたもので、丁度私が興味を持ち始めた住宅・都市問題と関連があったからで、まだこの時には火災の研究を志そうとしたわけではありませんでした。

卒業、貴重な行政体験そして軍隊生活

昭和13年3月に大学を卒業しましたが、就職するにあたっては、当時教室主任でおられた坂先生の鶴の一声で有無もなく大阪府建築課にきまってしまいました。おそらく大学で建築法規の講座を非常勤で教えにきておられた大阪府課長の中沢誠一郎氏からのお話もあったのでしょう。当時の府庁は談論風発の活発な雰囲気で、この時代にこんな所もあるのかと大いに刺激を受け、入庁してよかったと思ったものでした。配属された地域係は、まだ不充分な都市計画のなかで市街地建築物の業種制限について、特に家屋密集地域を調査し違反建築を是正させる役目でありました。或る時、バラックの密集地帯のなかで、引火の危険性が高いアセトンが人工真珠の製造のため、無防備に扱われているのを見て腰を抜かすほど驚き、このような危険な状況をほっておいてはいけないと、都市防災にたいする危機意識が急速に高まったことが強く印象に残っています。

折角入った大阪府庁も、学生のため免除されていた徴兵検査をこの年受ける事になり、意外にも甲種合格となり入隊を余儀なくされたため、秋にはお別れとなってしまいました。短い間でしたが、この時の行政に身をおいての見聞・経験が後年の研究の基礎を作ることに大いに役立つことになりました。

軍隊は同年8月高槻の工兵第4連隊留守隊に入隊の後、満州・中国とまわり広東省広州市で終戦を迎え、昭和21年4月に浦賀に引き揚げて、大阪に戻ってきました。

焼け野原に立って

終戦直後の故郷はひどい焼け野原になっていました。灰塵に帰した街を目の前にし、また府庁にいた頃まのあたりにした危険な街の状況を思い起こし、木造の都市の危険性を痛切に感じました。安全

ほりうち　さぶろう
1915　大阪市にて生まれる
1938　京都帝國大学工学部建築学科卒業
1948　自治省消防庁消防研究所
1960　日本火災学会賞
1961　工学博士（京都大学）
1966　京都大学工学部教授
1978　日本建築学会賞
1979　京都大学停年退官、現・名誉教授
1979　関西大学工学部教授
1985　日本火災学会会長
1986　関西大学停年退職
1989　勲三等旭日中綬章


インタビュー風景（左・堀内三郎氏）　1991．4．25　於日本建築協会会議室

で燃えない都市を作らねばならない、いよいよ防火・都市計画に取り組もうと決心したわけです。大阪府庁に職は既になく、また両親も病死していて孤独になっていた私は、京大におられた横尾先生の御好意により京大に戻り、下宿のお世話にもなりながら大学院生として勉強をやり直し始めました。

消防研究所時代

昭和23年４月、当時助教授でおられた西山夘三先生の御推薦により東京三鷹に出来た消防研究所に国家消防庁技官として勤務することになりました。戦後の消防制度はアメリカのGHQにより作られたので、研究・作業の内容についてはGHQの指示・チェックが厳しかったのですが、理化学研究所の物理学の権威であった初代所長の小林辰夫博士は太っ腹の人で〝俺が責任をもつからGHQの仕事は半分のエネルギーでやれ、後の半分はそれぞれの好きな研究に使えばよい〟といわれ、我々研究員はおおいに助かったものでした。

配属は都市等級係といって、都市を火災危険度に応じて分類・ランク付けし、防火対策や消防体制を指導する作業でしたが、この研究所には建築のほか、土木・物理・化学・電気・機械の各分野の若い専門家達が集っていたため、異分野の人達との議論を重ねながらの共同研究は得るところが多く、バラエティに富む友人を持つ事が出来たことと共に、広い視野で考え物事に取り組む事が出来るようになりました。人手が無かったせいもありましたが、煙の特性を調べる実験に使う二十日ネズミの飼育や始末を自分一人ですべてやらねばならなかったことも、今ではよき思い出となっています。

再び大学へ、教職につく

消防研究所で第二研究部長まで勤めた後、昭和41年に京都大学に教授として招請され、建築施設講座を担当することになりました。折から大規模な都市火災が続いて起こったこともあって、都市火災の防止対策が一躍脚光を浴びるようになり、私達の理論や考え方が、全国の安全な街作りに大いに役立つ事が出来、これまでの研究がようやく実を結び始めた感がありました。京都大学に13年間、関西大学に移って７年間、自身の研究と学生の指導に携った後、教職を辞して現在に至っているわけです。

私の思考の形成

小さな頃から、好奇心は旺盛で、新しい事や面白いと思った事は、どんな分野であろうと首をつっこみ勉強し自分のものにしようと努力しました。わからない時は、相手が誰であろうとどんどん人に聞きましたし、面白そうなネタが得られる場や情報はその気になればいくらでもありました。勿論今ではもっと高度で多量に得られる機会がいくらでもあるでしょうが。そして、そのような好奇心が、私の育ち過ごしてきた環境と、たまたま巡りあってきた特色あるそれぞれの時代の時宜を得た反映により、徐々に私の思考形成がされていったように思います。

若い人達にたいして

京都大学、関西大学を通じて20年間若い人達を指導する立場に立ってみて、人は誰に対してでもその人を簡単に判断してはいけないと痛切に感じました。人は誰でも必ず潜在的に何かよいところを持っています。人の能力というものはそう容易に見抜けるものではなく、先入観を持つことなく、時間をかけてでも少しづつでもその良いところを引き出すようにリードしてあげなければいけないと思ったし、またそうしてきたつもりです。一方、そのためには若い人達も、好奇心を絶やすことなく、狭い視野でなく、新しい或は異なる分野であってもしりごみしないで首をつっこみ、わからない事は遠慮せず聞いて納得しようという意欲を持ち努力してほしいと思います。お互いの理解と努力が合致すれば必ず良い結果が出るものです。

今、一番頭を悩ましていること

防火関係の研究を引き継いでくれる若い人が少なく、なかなか育ってくれない事です。最大の理由は大学の環境にあると思います。私たちの行っている研究は地道に時間がかかるものですから、個々の研究そのものは民間企業でできるものもあるでしょうが、研究基盤を引き継いでいく人材を育て、研究をつなげていく事はおそらく大学でしか出来ないでしょう。大学に残りやすい環境づくりがなかなか出来ない事に非常に危機感を持っています。

最近の先生は、消防学校での講義や色々の委員会のお仕事等出かけられる事も多く、それが健康のためにもなっているといわれました。また近年ようやく念願かなって始められた〝やきもの〟づくりで土に触れているときが本当に楽しいと目を輝かされました。

「和而不同」―和して同ぜず、不和雷同でなく、色々な面で皆と仲良くしながらも、自分の個性を大切に持ち続けること―お好きなこの言葉は先生の生きざまそのものであるようで、ますますお元気でいつまでもご活躍いただきたいと願いつつインタビューを終えました。

文責・伊藤郁郎（編集委員・日建設計）

書　評

アルド・ロッシ『都市の建築』「書」評

安原盛彦

日本語と外国語、例えば英語の言葉のなかで、我々は始終、シュールな関係にぶつかる。勿論、外国語を理解する力のなさがそれを加速してはいるのだが、文法にも、言葉の列びにも、一つの言葉のなかにある意味の違いにも、いつも驚愕させられる。ミシンとコウモリ傘と手術台とをわざわざ集めてこなくても、ペーパーバックをめくる時、頭の中に交錯する日本語と英語のなかにそれらがしばしば見つけられる。又、それが楽しみでもある。

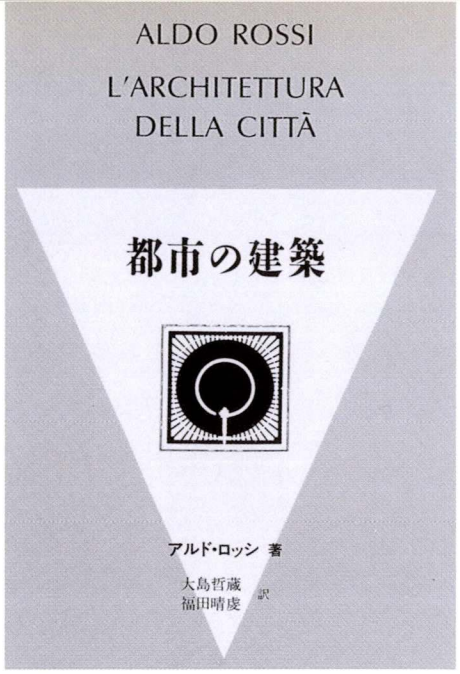
例えば、日本人のある世代には、ビートルズリリックを、それがビートルズであるがため、感じ入ってしまうところがあるが、それは必ずしもそうではなく、英語の表現が、日本語のそれとかけ離れているが為、ということの方が多いのかも知れない。かけ離れているからこそ日本では翻訳は楽しみでも、誤謬でもあるのだろう。Mac（防水コート）の上から背中を掻くように、遠くて、ぎこちなく、届かない。

イタリア語を知らない私がこのロッシの翻訳についてとやかく言う資格はないけれど、本の構成、訳者例言、原注、各国語版序文、等々の取り扱いから見て想像するに、訳者が原本へ出来るだけ厳密に近づこうとしている意志を感じさせられる。それは厳密であることに少なからず意味があるということでもあるのだろう。又、訳の日本語の使い方においても、例えば、私自身も、「まち」という言葉を使うとき、いつも「町」にしようか、「街」なのかと考える。そしてそのどちらでもないと思うときが往々にしてある。この書でも「まち」とひらがなであったり、無理に漢字にしない言葉を随所で見受けた。訳者も同じ迷いを感じているのでは、と共感してしまう。装丁はソフトカバーでデザインも色も平凡というか、凡庸ですらあるのだが、ロッシの日本への当初のあまりにも物騒がせな、入り方を見てしまうと、箱付、ハードカバーでおどろおどろしいものより遥かに好ましく見えてしまう。カバーすら要らなかったのではないか。

翻訳を読んでいつも感ずる、あたりまえのことをここに書いておかなければならない。私も、英語ではあるけれども、拙いペーパーバック読みPaperback Readerの一人として、その読解力の未熟さは重々承知しながらも、読めば読むほど感ずる一つのことは、これは日本語ではないという当り前のこと、逆に翻訳を読んで思うのは、これは日本語だという当り前の事実である。又、一方、翻訳文と邦文との違いは、ロッシの本文と訳者二人のあとがき（つまりこれは全くの日本文である）とを較べた時、何ともあとがきが解り易いか、呆れる程である。勿論、ロッシの文の内容からいって、福田氏が「お経」という意味も解るのであるが、イタリア語と日本語とは違うという当り前の事実も、又、解るのである。これは日本人がぶち当る、夏目漱石も森鷗外もぶち当った壁といまだに変らない。こうは思いながらもイタリア語を知らない私がこの書について何か書くとなれば翻訳に頼らざるを得ない。これも又、事実である。翻訳から批評をせざるをえない現実である。限界でもある。

通読して、ロッシには恐らく機能主義に対する嫌悪感があり、それは恐らく憎悪とすら言ってよい。彼は、かっての機能主義が様式や、装飾を完全に否定した時の過ちを徹底して排除しようと、もっと周到に「機能」を否定しようとしているに違いない。言葉のあいまいさをそのままにしているのはそうした射程の長さを保ちつつ、測っているからでもあるのだろう。機能主義へのボディーブローを細かく、数多く打ち続けているのもそこからくる。時にそれは（例えば「素朴機能主義」などという言葉は）ローブローですらある。これはいつかきいてくるに違いないという思いがあるのだろう。一方、ロッシがあまり語らないのは悪いことではない。「メタボリズム」を含めた日本の多くの建築家達は全てを細かく語ろうとし過ぎた。解らないことまで喋り、自らの言葉の射程を測ることを忘れた。ロッシはすでに1966年（この早さは驚くべきことだが）に自分が書いてしまった建築書『都市の建築』を、以来、各国語版の「序文」を書き続けることによってその射程を測り続けているかに見える。「序文」群を読み進めていて解るのはこれがただの序文ではなく、本文を明らかに補強、強化、拡張させるための「創成物」？となっているということだ（特に「ポルトガル語版序文」は彼の論理を最も明解に示している書の一つであろう。明解であることが、不思議にすら思えるが。）。磯崎新は『空間へ』でそれまでに彼があちこちに書き散らした文を、時代毎に集めて、その時代の間に「つなぎの解説文」をはさむことによって自伝を書いてしまったが、ロッシは『都市の建築』に「各国語版序文」を書き続けることで、この本を未完の建築書として提示し続けている。恐らくは1冊の本を彼の歴史書にも仕立て上げてしまおうとしているのかも知れない。共に原文に手を加えないという前提にたった二人の方法、この磯崎とロッシとの書の作り方の差に、二人の物づくりとしての差も又、ほの見えている。

この書は建築書、都市書と呼べるものであって、近代の建築論とも、建築方法論とも異質なもののように見える。それはこの書の中の、説明、論の展開における、言葉のトートロジーからも解る。見ようによって、それは何も説明していないことになるのだが。つまり、説明するのに、説明と同じ言葉をもってする、この書はそうした言葉でちりばめられている。結論は急がないのだし、むしろ無いのだし、「各国語版序文」で、又は、他の「書」で補強してゆけばよいのだろう。「各国語版序文」がロッシの言う「自分自身の変わり様を見せ」るということであるのなら、「日本語版序文」の無いことが気になる。1990年、1991年（つまりこの本の日本語版の出版にかかわる時期）は世界史的に見ても普通の時ではない。表紙の見返しの京都の絵図に、和服の見返し（八掛）の裏地の派手模様のように魅入られてはならない。これはロッシの日本への意識と関わっていて、かつ、日本での彼の作品とも関係してくる。このあたりのロッシを日本人は徹底して批評すべきと思うし、ロッシの曖昧さを言わねばならぬであろう。



『都市の建築』アルド・ロッシ著／大島哲蔵・福田晴虔訳
大龍堂書店　1991年11月15日刊
タテ240×ヨコ182ミリ　440頁　4,944円

この『都市の建築』の基本言語である「都市的創成物」についても触れておかねばならない。私事にわたるが、訳者を含めた5人がことさらくだけた英文の招請文によって大阪・ミナミの某所に、月1回ほど集まっていたのだが、そこで我々はこの本の訳文の初期草稿の一部を見ていた。そこにはこの「都市的創成物」は「都市的工作物」とあったという事実は、恐らく、この訳書がこの言葉への変化の時点で決定的に変わったのではないか。この曖昧性の中に、恐らくは、ロッシの理論もあるのだろうし、それこそがこのいつまでも未完の本がその理論を他人によって進めさせる構造を持つものですらあるのだ。この言葉が定着、流布するとは思わないが、「工作物」から「創成物」への曖昧さ、こめられた意味性がこの本を自由に、深く読ませることにもなるのだろうし、時には過度に深めの溝に入り込ませてしまうのかも知れない。そしてこの言葉に、訳者の側からの並々ならぬ意図も、又、こめられているのだろう。私個人としてはこの「都市的創成物」Fattoは、Artifactという英文が理解を喚起してくれたように思う。つまり、FattoをArtifactと訳した才能も、又、理解したいと思う。

最後に言っておかねばならないことは図版である。「原書の版下に使った図版をそのまま使った」とあるようにはっきりとしていて、しかも興味をひく図版に溢れている。例えば「シャトォ・ガィヤール」の図版、日本で言うと少し時代は早いが、戦国の戦いが目前にありありと現出されているといった案配。ここでは説明文すら要らないように思えてしまう。こうした意図的な図版に満ちていることもこの本を、ロッシの視点をこめた建築書たらしめている。　1991.12.15

（やすはら　もりひこ／建築家・安原建築設計事務所）

てくてくあーきてくと 英訳版

——女性建築技術者からのメッセージ——

女性建築技術者の会 編集・発行

B5判 38頁 1,000円

今回は、ちょっとかわった角度からの建築関係の書籍を紹介したい。この「てくてくあーきてくと」なる書籍は、建築関係の仕事に携わる女性のコミュニケーションの会である大阪女性建築技術者の会のメンバーが中心となって、女性の建築技術者がどのような問題を抱えているかを知るために実施した貴重なアンケートの集大成である。仕事について、結婚・育児と仕事の両立について、建築・女性だからのプラス・マイナスなど、その内容は関西の女性建築技術者100人の声がぎっしりと詰まっている。今回の英語版は、1989年に発行され好評だった本誌を、昨年コペンハーゲンで開かれたＵＩＦＡ（国際女性建築家会議）で紹介するために英訳したものである。本誌の問い合わせは、コンコード建築設計事務所内、谷山氏(06-543-3845)まで…。 （Ｉ）



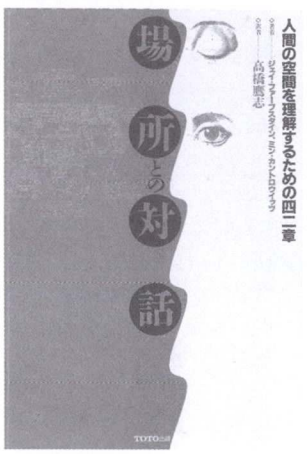
場所との対話

人間の空間を理解するための42章

ジェイ・ファーブスタイン、
ミン・カントロウィッツ 共著
高橋鷹志 訳

TOTO出版 1991.11.10刊
A5判 240頁 2,300円

本書で言うところの場所とは、「単に部屋や建物や戸外の空間自体のことではなく、人間、家具、機械や行為と一体になった環境」のことを言う。そして、その場所と対話するということは、「理解し感じ合うことによって、場所の意味や魅力を知り、場所を活かすためにどう振る舞ったらよいか、望ましい場所にするにはどうしたらよいかを考えること」である。本自体が一つのワークブックとなっており、それぞれの章に実習（実習によって場所を実感する）や写真・イラストが掲載され、どこからでも自由に読めるというのが魅力。場所の体験自体を楽しむことによって、最後には、自分自身で楽しめる場所をつくろうと思い立つようになる？不思議な本。 （Ｉ）



建築を考える 1

——設計をめぐるディスクール——

菊竹清訓 編著

鹿島出版会 1991.11.15刊
B6判 182頁 2,884円

本書は、建築の設計方法論について、菊竹清訓氏、谷口吉生氏、安藤忠雄氏などの建築家や建築評論家が、早稲田大学大学院で行った講義内容をまとめたものである。そもそものきっかけとしては、菊竹氏が「建築設計の混迷ともみえる現状から、環境を好ましいものに方向づけるには、共通のパラダイムが必要ではないか、そのためには方法論を研究するのが一つのてだてではないか」と考えたことによる。コルビュジェの旅のスケッチ(「東方の旅」) を題材にして方法論を語る富永譲氏や、話題になった自分の作品を通して語られる様々な建築家の方法論。それらの珠玉の講義内容は、本書を手に取ることによってその場を「大学」に変えてしまうだろう。 （Ｉ）

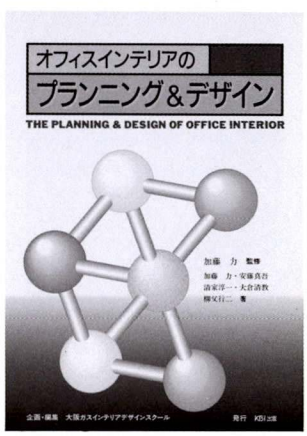


オフィスインテリアのプランニング＆デザイン

加藤 力 監修
加藤 力・安藤真吾・清家淳一・
大倉清教・柳父行二 著

KBI出版 1992.2.15刊
A4判 112頁 3,000円

我が経済大国を支えるワーカーの働くオフィス環境は、欧米などに比べ、余りに貧しいといえる。近年、そうした職場環境を見直す動きが、オフィスのOA化、パーソナル化の波にのってようやく盛り上がってきた。しかし、オフィスインテリアのプランニングとデザインの手法と情報を体系的に収録したものがなかったのが現状である。本書は、オフィスの計画と設計にあたる設計者が理解しやすいように、計画の流れと要素にそって、事例の写真やプラン、ベースとなる関連資料のデータなどを数多く掲載し、丁寧な解説を加えた実務書といえよう。



担当：会員企画小委員会／稲木裕子

法令コーナー

編集委員会法令分科会

265

尼崎市火災予防条例の改正

平成２年３月18日（日）の昼食どき、兵庫県尼崎市で発生した大型物品販売店舗の火災は、多数の犠牲者を出す大惨事となった。

この火災を機に消防法施行令が改正され、スプリンクラー設備の設置基準が、物品販売店舗等にあっては、「床面積の合計が6,000平方メートル以上のもの」から「床面積の合計が3,000平方メートル以上のもの」へと拡大が図られた。また、火災発生時の初期消火体制の充実を図るため、消防法施行規則が改正され、特定防火対象物（不特定多数の者が出入りする防火対象物や自力避難が困難な者等が入所している防火対象物等）にあっては、消火訓練についても避難訓練と同様に年２回以上の実施が義務づけられた。

尼崎市においても、これらの改正内容やこの災害事例を踏まえ、不特定の人々が出入りする防火対象物等の防火安全の強化を図るため、尼崎市火災予防条例を改正（平成３年７月８日尼崎市条例第26号）し、原則として平成３年10月１日から施行されている。

この改正の概要は次のとおりである。

改正内容

1　避難経路の確保対策の強化に関する事項

(1)　百貨店等に設けられる主要避難通路は、色別等により他の部分と明確に識別できるようにしておかなければならない。（第48条第２項関係）

〔趣旨〕尼崎市火災予防条例の規定により、一定規模以上の物品販売店舗等には、屋外へ通ずる避難口または階段に直通する主要避難通路を設けなければならないこととされているが、この主要避難通路を色別等で明確にすることにより、避難を容易するとともに、避難に支障となる物件等が置かれないよう管理を容易にしようとするもの。

(2)　劇場等、百貨店等（当該用途に供される部分の床面積が1,000平方メートル未満のものを除く。）、旅館、ホテル、宿泊所及び病院にあっては、ロビー、売場、待合室等多数の者の目に触れやすい場所に、避難経路図を掲示するとともに、従業員が常時勤務する場所には、避難誘導に使用するための携帯用拡声器及び携帯用電灯を常備すること。

また、旅館、ホテル、宿泊所にあっては、宿泊室に、避難経路図及び携帯用電灯を常備しておくこと。（第49条関係）

〔趣旨〕避難口、避難階段、避難器具等の位置や避難経路を明示しておくことにより、非常の際の避難を容易するとともに、徒業員が行う避難誘導等が有効、的確に行えるようにしようとするもの。

(3)　避難口その他これに類するものに設ける戸及びその前方には、当該戸を隠ぺいするカーテン等を設け、又は当該戸の識別を妨げるおそれのある鏡、装飾用物品等を設けてはならない。また、当該戸は、公開時間内等においては、施錠してはならない。（第51条第４号及び第５号関係）

〔趣旨〕避難口等が設けられていてもカーテン等で隠されていたり、また、装飾品等でわかりにくくされていたり、施錠されていては有効に避難ができないため。

(4)　特定防火対象物の防火区画の防火戸にあっては、その閉鎖の障害となる物件を置いてはならない範囲を表示する等の措置を講じなければならない。（第51条の２第２項関係）

〔趣旨〕防火戸であるかどうか、閉鎖に支障となる範囲がどの部分であるかを明確にすることにより、火災の際の防火戸の重要性を周知し、物品等が置かれないよう、管理を容易にしようとするもの。

2　自動火災報知設備等の防火上安全な場所における集中管理に関する事項

物品販売店舗等及び特定複合用途防火対象物（特定用途部分1,000平方メートル未満のものを除く。）で、地階を除く階数が５以上のものに設置された自動火災報知設備の受信機等と非常放送設備の操作部とは、避難階等の防火上安全な場所で集中して、監視、操作等ができるよう管理しなければならない。（第51条の３関係）

〔趣旨〕火災信号及びその信号を発した区域を自動的に把握することができる自動火災報知設備の受信機等と、建物内にいる人々に災害の情報を知らせ避難誘導等を行うための非常放送設備の操作部とを、同一の防火上安全な場所で管理することにより、適切な情報による迅速、的確な避難誘導等が行われるようにするとともに、避難階で管理することで、操作等を行う自衛消防隊員の安全を確保しようとするもの。

3　消防隊の進入口等の適正管理に関する事項

建築基準法令の規定により設けられた非常用の進入口等の付近及び非常用の進入口等に面する道等は、消防隊の進入や消防活動の妨げになるおそれのある工作物等を設け又は物件を置かないように管理すること。（第51条の４関係）

〔趣旨〕消防隊の消防活動のため３階以上の階に設けられた非常用の進入口等について、管理を適切にすることにより災害発生時の消防隊の活動が有効的確に行えるようにしようとするもの。

4　自衛消防活動体制の充実に関する事項

防火管理者を選任しなければならない防火対象物のうち消防長が指定するもの（劇場、集会場、百貨店、旅館、特別養護老人ホーム等及び病院のうち一定規模以上のもの）の管理権原者は、災害が発生した場合の避難誘導、通報連絡、消火活動等の自衛消防活動に熟練した者の養成に努めるとともに、養成のため、消防長が定める自衛消防熟練者講習を受けさせなければならない。（第51条の５関係）

〔趣旨〕自衛消防訓練の実施等については、消防法令で義務づけられてはいるが、形式的になりやすく、災害の際、有効に行われなかった事例が多いところから、災害発生時の避難誘導、通報連絡、消火活動等の自衛消防活動に熟練した者を養成するよう努めるとともに、自衛消防隊員に対し、消防長が定める自衛消防熟練者講習を受けさせ、熟練者を多数養成するシステムを確立しようとするもの。

5　百貨店等の放火防止対策に関する事項

百貨店等の管理権原者は、当該百貨店等において陳列し、又は存置されている、カーテン、衣類、寝具類等の可燃性商品に対する放火を防止するために必要な措置を講じなければならない。（第52条の２第２項関係）

〔趣旨〕百貨店等に係る火災原因は過半が放火等であるところから、放火を前提とした火災予防を徹底するため、カーテン、衣類、寝具類等に対する放火を防止するため、商品の陳列高さの制限、監視テレビの設置、炎感知器等の設置などの措置を講じ、放火をさせないようにしようとするもの。

付則

1　施行期日

平成３年10月１日

2　経過措置

(1)「自動火災報知設備等の防火上安全な場所における集中管理に関する事項」については、施行日以降に新築、一定規模以上の増築等する防火対象物に適用する。

(2)「避難経路の確保対策の強化に関する事項」のうち、(1)百貨店等の主要避難通路の色別表示に関する事項、及び(4)特定防火対象物に係る防火戸の閉鎖範囲の表示に関する事項については、施行日において既存のものは、平成４年３月31日までの間適用しない。

（尼崎市消防局警防部予防課　**酒居忠久**）

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

京都分室「コンクリート試験用全自動100tf油圧式圧縮試験装置」

財団法人 日本建築総合試験所
所 在 地…吹田市藤白台5－8－1 〒565
電　　話…(06)872－0391 FAX…(06)872－0784
業務時間…平日：9：00～17：00
土曜：9：00～12：00(第2、第4土曜休日)

コンクリート圧縮試験業務の能率化、省力化および試験精度の向上を目的とする全自動圧縮試験装置が、平成3年度施設整備計画の一環として、このほど京都分室に完成しましたので、その概要をご紹介します。

本装置は、ϕ10×20cmのコンクリート円柱形供試体の圧縮強度試験を全自動で行います。また、ϕ5×10cm、ϕ10×20cm、ϕ12.5×25cmおよびϕ15×30cmの円柱形供試体についても従来通り手動により、各種の強度試験が行えます。

本装置は、**図－1**に示すとおり、圧縮試験装置と試験制御データ記憶処理装置とで構成されています。各装置の概要を以下に説明します。

①圧縮試験装置……供試体供給装置（1基当り：6本×10列、最大60本セット可能）にセットされた供試体が、供試体供給ロボットにより順次、圧縮試験機の所定の位置に運ばれ、圧縮強度誠験に供されます。圧縮強度試験終了後の供試体は、供試体排出装置（ベルトコンベアー）により自動的に屋外コンクリート廃材置場に運搬されます。

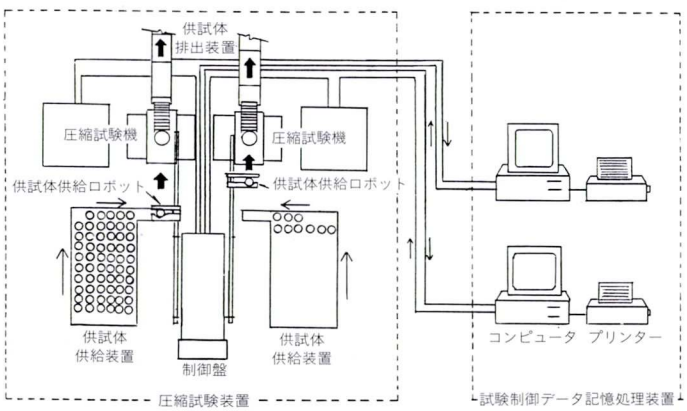


図　コンクリート試験用全自動100tf油圧式圧縮試験装置

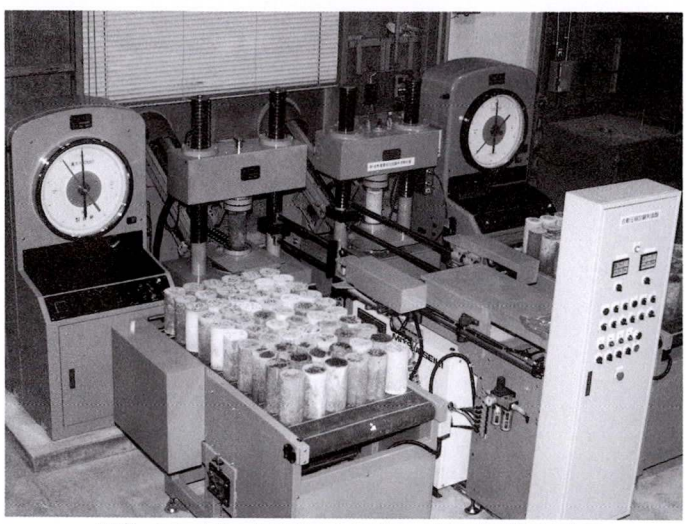


写真　コンクリート試験用全自動100tf油圧式圧縮試験装置

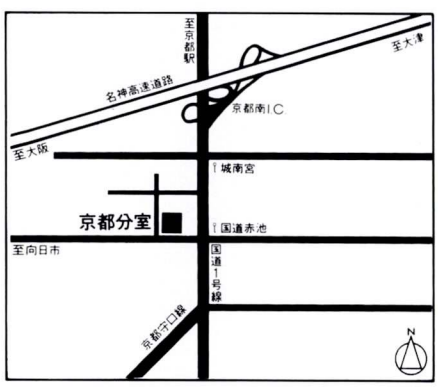
なお、供試体供給装置の駆動は、ベルト方式で、供試体供給ロボットはエアー方式で動くようになっています。

②試験制御データ記憶処理装置……各供試体の試験条件（呼び強度、材齢、養生条件、使用材料等）を入力する事により、予想強度を計算します。実際の圧縮強度と比べ極端に離れている場合や、1ロット（3本)内のバラツキが大きいなど試験値に異常のある場合は、警告音を発するようになっています。また、供試体供給ロボットが圧縮試験機の所定の位置にセットしたことを知らせる信号を受けると、予想強度の½まではすみやかに載荷し、½を超えるとJIS A1108に定められた載荷速度となるように、圧縮試験機を制御して試験を行います。試験終了後は、報告書を即時に、またはまとめて任意の時間に作成することができます。これらの試験結果は全てフロッピーディスクに保存され、いつでも取り出す事が可能です。

これらの保存されたデータは、当所工事用材料部門で毎年集計を行っている工事用材料受託試験のデータに変換され、公表されることになります。

以上、全自動圧縮試験装置について簡単にご説明しました。本装置の導入により、今まで以上にコンクリートの圧縮業務が、正確かつ迅速に行えるようになります。

本装置に関するご質問やお問合せがありましたら、京都分室(075-622-0713)までお願いします。あわせて、当分室で実施しております鋼材試験、圧接材の超音波探傷試験、骨材試験等の各種工事用材料試験についてもお気軽にご相談下さい。



京都分室位置図

財団法人　日本建築総合試験所京都分室
〒612　京都市伏見区中島前山町24－2
電 話　075－622－0713
ＦＡＸ　075－602－1882

BORAL

新製品ボーラル・ペイバー

自然の恵みを活かし、伝統、経験そして技術を誇る、
オーストラリア最大のレンガメーカー「ボーラル社」が造り上げたボーラル・ペイバー。
その味わい深き風合いは、一般住宅はもとより、公共の空間にも落ち着きと優しさを醸し出します。



PAVERS



CRYSTAL SAND／クリスタルサンド



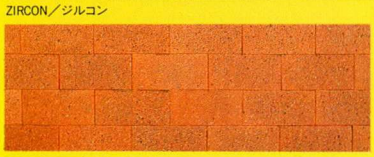
GLENSTOCK PAVER／グレンストック・ペイバー



ZIRCON／ジルコン



PEWTER PAVER／ピューター・ペイバー



RUBY SAND／ルビーサンド

■総輸入元：東京貿易㈱／03-3555-7255

◎ボーラル・レンガのパンフレットが、
新たに出来ました。ご請求ください。



BORAL BRICKS 代理店

■発売元：北海道　㈱サンエイ／011-764-4448・㈱旭ダンケ／0166-57-2098・東　北　㈱コスモグリーン外装／022-246-4413
山　形　㈱中部／0236-42-0332・関東甲信越　エスビック㈱／03-3984-2696・長　野　炭平コーポレーション㈱／0262-43-1830
中部東海　鈴与商事㈱／053-456-3213・㈱イワタ／0537-48-4170・関　西　㈱森新／0726-85-2688・太陽セメント工業㈱／06-466-6751
中　国　㈱フレックス瀬戸／0862-64-1710・九州　四国　岩丸産業㈱／093-561-1181・沖　縄　㈱アーレックス／0988-79-7008

オーストラリア レンガ

ボーラル ブリック＆ペイバー

株式会社 森　新　本　　社　大阪府高槻市梶原中村町7－1
TEL 0726－69－3388
環境資材部　大阪府高槻市紺屋町7－27
TEL 0726－85－2688

1．はじめに

近年、日本の舗装用レンガの市場の進展は目覚しく、壁積用レンガも含めて、世界中のレンガが日本上陸をはたした感があります。高級指向、本物指向の中で、石材にない暖かさ、タイルでは表現しきれない素朴さ、また一方では重厚な歴史をも感じさせてくれるレンガは自分の武器にしたい建築素材の一つです。

今回ご紹介いたしますボーラル社はオーストラリア最大の建材メーカーで、90年度実績で年間5億個のレンガを生産しております。主要プラントは東部3州で、11工場・16キルンを保有し、昨年は西オーストラリアの著名メーカーをも傘下に納め、名実共にNo.1の座を不動のものとしています。

日本ではレンガと言えば210×100×60がスタンダードサイズで、組積・床敷併用ですが、豪州では組積用はブリック、舗装用はペイバーと最初から用途のちがう物として製造・使用されていることもレンガ文化の歴史の重さを感じさせられてしまいます。今日、オーストラリアが世界的なレンガの供給地になってきたのも西洋の伝統を基礎に広大な国土・良質の粘土がレンガ製造の必要条件を満たしているからでもあります。

2．ペイバー(舗装レンガ)

壁用8：床用2がオーストラリアのレンガ市場で、日本のそれとは正反対です。またペイバーの寸法も各州まちまちで製造されていました。

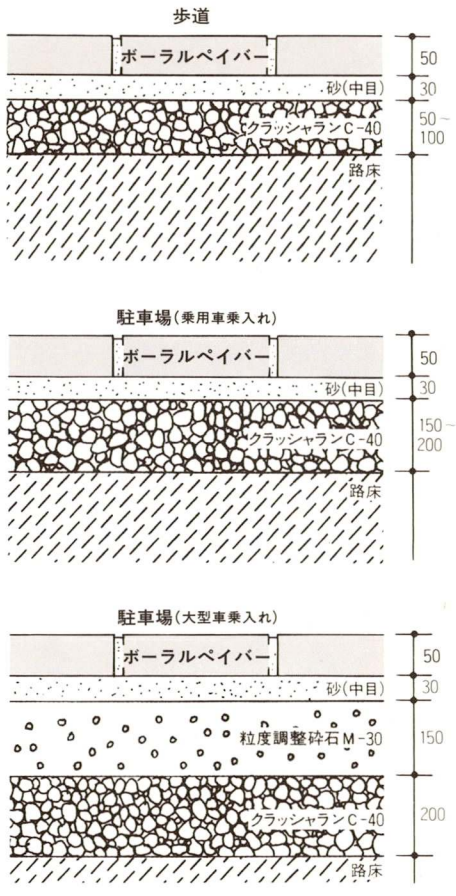
今回日本で販売を始めるに際し、日本の基準で商品を選別し、改善して来ました。

〈寸法〉

230×110×50を基準に製造され、寸法精度もＪＩＳ許容範囲に限定しました。そのために色柄・強度共に優れていたニューサウスウエールズ州の商品が今回の選からもれてしまいましたが、2～3年以内には提供出来る予定です。

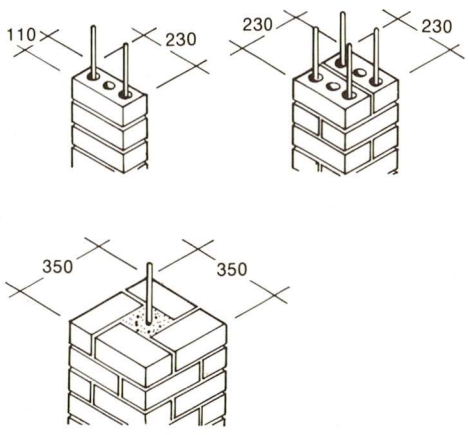
〈物性〉

インターロッキングブロックの基準と比較して大半が圧縮強度・曲げ強度共に優れています。従来日本に入っていたオーストラリアレンガと比較しても焼成温度が1100℃以上なので吸水率も大変低く、凍結融解の心配のない商品です。個人住宅の車庫なら、サンドクッション工法で充分に対応出来ますし、重量車の通行に耐える商品も用意されております。(図－1)



※交通量と現場の状況により構造内容が変わりますのでご注意ください。

図－1　標準構造



図－2　ブリック補強デザイン例

〈今後の計画〉

ボーラル社が製造しているレンガは現在数百種類ありますので、色柄等でオリジナル商品の対応が可能です。

規格品として、縁石、段鼻用等の特殊形状品の用意及び色柄をどんどん増やしていく予定です。

3．ブリック(組積レンガ)

壁積レンガのオーストラリアの標準品は穴あき（それも10穴以上）です。これを日本向けに三ツ穴に統一し、差筋を可能にしました。同時に穴なしの天端用も用意しております。(図－2)寸法は230×110×76です。ボーラル社ブリックの最大の特徴は物性が従来のオーストラリアレンガと比べ、格段に優れている点です。この原因は原料の粘土の差です。従来のオーストラリアレンガは西海岸の土で焼かれているために900℃程度しか温度を上げる事が出来ず、これ以上になると土が融けてしまいます。一方、ボーラルは東部3州で良質の粘土に恵まれているため、1100℃以上の焼成が可能で、高品質を誇っております。日本の瓦にたとえれば、釉薬をかけなければ凍結融解してしまう淡路瓦と、イブシのままでも大丈夫な三州瓦との差と言えます。

第2の特徴は、ボーラル社の工場が東部3州で11ヶ所もあり、日本で言えば北海道から沖縄くらいまで分散しており、さまざまな種類の粘土が使えるので、数百種類の色柄を規格品として品ぞろえしている点です。今回はその中より6種類を標準品として国内カタログに発表いたしましたが、大口物件につきましてはどの色柄でも対応させていただけます。

4．おわりに

現在オーストラリアに有るものをそのままの形でご紹介するだけでなく、日本の需要者の要望をボーラル社に伝え、実状に即した商品を開発、供給していく方針です。

また、施工ノウハウについても、レンガに付きものの白華（エフロ）防止法、除去法や、レンガの表情を引き立て、変化させる目地着色剤等も「ボーラル社 BRICKS & PAVERS」総合カタログにて紹介させていただいております。

（元木貞次／建材委員）

北欧の都市と建築(3)——フィンランド・ヘルシンキ(I)

中島　一

北欧の白い都——ヘルシンキ

スウェーデンのストックホルムを飛びたって、ほんのひと時、森と湖の変化に富んだ海岸線を眼下にすると、間もなく航空機は機首を下げた。波静かなボスニア湾をひと跨ぎである。

〝世界で最も美しい都市〟を実感した。海がメラーレン湖と接した風光明媚のストックホルムのアルランダ国際空港を1991年8月9日11:30フィンランド航空(AY)636便に搭乗、13:25着である。時差が1時間早いので、僅か55分である。全くの隣国といえる。

ヘルシンキ空港のエアターミナルはモダンで、瀟洒な建物、9年前の1983年の7月19日の10：55に一度訪ねた時とほとんど変っていない。あえて変っているのを探すとすれば、エアターミナルビルの正面の自走式3階建ての立体駐車場の増築されたビルぐらいである。

以前と全く同じように手荷物受け取り所も、銀行横の出口も、乗客数が少ないせいか静かである。

入国はノーチェックに等しい。税関を出るとすぐ到着待合室の横を擦り抜け、外側のバス乗り場へ進む。ここもオーバーハングの大きな庇のため薄暗い。

ここヘルシンキは「バルト海の乙女」、「北欧の白い都」と形容されるが、これらはいずれも海からの眺めでこの町の美しさを表現する言葉であるが、しかし、空路でこの町に入るとゆったり感じられるのは、豊富な緑のためだろう。そういえば、最近の市域拡張の際も、市街地の30パーセントは公園か庭園に残すという原則が守られ、新しい住宅は北の郊外や西側の半島につくられているのである。しかし、ヘルシンキの美しさは、恵まれた自然環境を上手に生かした都市創りであろう。あちこちに残された建築物の中に、かつてのロシアの影響を強く感じとることができる。

ところで、この市は、町として400年、首都としては160年の歴史をもっている。1550年にスウェーデンのグスタフ・ヴァーサ王によって町は開かれ、貿易港として発展してきた。当時は木造の建物で構成されていたが、1808年の大火で大きな損害を受け、これを機会に石造り建築を中心に市の再建が始まった。1812年、フィンランドが帝政ロシアの支配下に入り、首都はトゥルクからヘルシンキに移り、市の再建と拡張が軌道にのった。再建は建築家エンゲルの手により1840年に完成している。1917年、ロシア革命によるフィンランドの独立、第2次世界大戦中、対ソ連においての敗戦など、ヘルシンキは歴史の渦の中を生きてきた都市なのである。

まず、市内を歩いてみよう。

ヘルシンキ中央駅　1914年にエリエル・サーリネンの設計により完成した建物。19世紀後半、ガッレン＝カッレラ等の影響をうけて、フィンランドを制したナショナル・ロマンティズムの建築である。1904年の公募で選ばれたものでは、その性格がより強いものであったが、合理主義の立場にたつフロステルス等からの反対を受けて、実施設計では造形的に単純化され、合理主義的な配慮がみられるようになったが、中世の教会を思わせる茶色の正面は浪漫主義的風格がある。

ラウタ・タロ(鉄の家)　ヘルシンキ中央駅前の大通りを、進むと、すぐ左側にシンプルな6階建てのビルが目につく。ここは、ヘルシンキの都市の中心部で1930年代の後半に大きく発展した地域で、このビルは、店舗とオフィス空間をいっしょにした商業建築で、アルヴァ・アアルトの名作で、鉄鋼業者の組合のビルである。隣接するサーリネンの作品であるビルに似たスタイルでデザインするという都市景観を配慮したものである。このことから、鉄筋コンクリートの骨組構造を用い、近隣の建物と視覚的に一体となる格間をつくる試みがなされている。道路側のファサードは銅で覆われ、コルクで断熱されているが、妻側の立面はむき出しのレンガである。

中心となる大空間は、多数の円形トップライトに照された3層吹抜けで、コーヒーハウス・商店で囲まれ、内部でありながら外部的な性格をもっている。



ヘルシンキ南港——フィンランド、スウェーデン間の大型豪華フェリーの白い船が停泊していた



中世の教会を思わせる茶色のファサードは、浪漫主義的風格をもつヘルシンキ中央駅



隣接するサーリネンの作品に似たスタイルでデザインしたアアルトのラウタ・タロ(左)

フィンランド国民年金局　1948年にコンペで1位入選し、その後計画変更されたアルヴァ・アアルトの作品で、1952年に着工、1956年に完成をみている。

この建物の主要な建築上の問題は、市の繁華なビジネス地区に、800人の従業員のための大オフィス・ビルをつくることだった。建物全体は幾つかの部分と建物ブロックからなっていて、すべて道路より高くなったパティオの周囲にまとめられている。

正面ファサードはマスによる構成で、これは見事である。それはさらに背後の公園へ連続させていこうという設計意図をうかがうことができる。地味な外観に対して、内部は独立柱のタイルのコーナービート、壁はC型断面タイル——わが国では、ここ数年よく使われているように思うが……——天井の格子、照明器具など、数多くのインテリア構成材のディテールが、独特な空間を創り、私どもを魅了させてくれるのである。

テンペリアキオン教会　国立博物館の横を西へ入っていくと岩山の上に石が積み上げられ、その中に円盤のようなドームが見える。これが自然の効果を十分に計算に入れた設計のテンペリアキオン教会である。

1961年コンペでの1位の作品である。ティモス・スオマライネンとツオモ・スオマライネンの二人兄弟の建築家の手によって石の教会として設計されたものである。

実は、もともとこのあたりは、フィンランド特有の岩の台地で、この台地をできるだけ残すというコンセプトがこの教会のスタートであった。ちょうどトンネルを掘るような形で岩を刳り貫いている。


「陰翳礼讃」を想い起こす岩を刳り貫いたテンペリアキオン教会


道路面より高いパティオからみたアアルトのフィンランド国民年金局

教会の屋根は、コンクリートの緩やかなドームで碗の蓋を伏せた恰好である。このドームの端と、石壁との間には、コンクリートの格子状のルーバーがあり、ここにガラスが嵌め込まれ、ここから指しこむ光の淡い明るさは、内壁の石壁を浮び上がらせ、あたかも石壁が生きもののように見える。

私はこのとき、なぜか谷崎潤一郎の随筆『陰翳礼讃（いんえいらいさん）』を想い起こすのであった。

> 「……美というものは常に生活の実際から発達するもので、暗い部屋に住むことを余儀なくされたわれわれの先祖は、いつしか陰翳のうちに美を発見し、美の目的に添うように陰翳を利用するに至った。(中略) われわれは何処までも、見るからにおぼつかなげな外光が、黄昏色の壁の面に取りついて辛くも余命を保っている。あの繊細な明るさを楽しむ。我等にとっては、この壁の上の明るさ、或いは、ほのぐらさが何物の装飾にも優るものであり、しみじみと見飽きがしないのである」(『陰翳礼讃』中公文庫) と。

私は、カウパトリへと歩む。港の岸壁の前にある広場カウパトリとはマーケット広場の意味で、平日早朝から昼ごろまでここで食料品を中心に農民・漁民・行商人が色とりどりの海の幸、森の幸を並べる。広場に面した北側の白い建物が大統領官邸。国家元首の家の前に庶民の市場を置くという設計は、鋭い政治感覚なくして成しえぬものであろう。

（なかじま　はじむ／愛知工業大学教授）


大統領官邸前のカウパトリの賑わい

見学会リポート

九州話題建築見学会
―今、博多・熊本が面白い―



事業委員会では標記見学会を、現地集合・解散方式で、10月29、30日（金・土）の２日間にわたって開催した。関西だけでなく、関東地区その他から合計35名の参加者があり、好評のもとに無事終了しましたので、概要をリポートいたします。

■ネクサスワールド

説明　岩永一／福岡地所

JR博多駅からタクシーで約15分、福岡の新都心として注目を集めつつあるネクサスワールドの案内センターに着いた。そこは見学予定のレム・クールハース棟の１階店舗部分である。センターに入ると、２期工事の高層ツインタワーを含めた全体模型が目に飛び込んでくる。建物の形態や色彩が設計者それぞれに異なるのが一目で理解できる。講師の説明に続いて、クールハース棟とスティーブン・ホール棟の内部を見学した。どちらも通常のマンションではお目にかかれないような、吹抜やスキップフロアのある個性的なプランである。また各住戸へのアプローチ空間がおのおの豊かで、計画戸数密度の低さとともに全体プロデュースをした福岡地所の英断、コーディネーターの磯崎新氏の見識が伺われる。販売価格はこの敷地周辺の相場といわれる180万円／坪ということだが、かなり個性的な住まい方が要求されるのにもかかわらず、青田売りでなく完成後の販売のせいか、入居者のクレームもほとんどないということであった。

二棟見学後、次の集合予定時刻まで、１時間ほど自由時間が設けられていた。参加者は思い思いに、ネクサスの他の棟の外周を見学したり、一足先にシーサイドももちへ向かい、集合住宅群や福岡タワー、市立博物館を見学して回った。

■西部ガス ミュージアム

説明　上窪哲也／葉デザイン事務所

数年前に開催されたアジア太平洋博の中心展示施設として、地元に事務所を構える葉祥栄氏が設計した施設である。博覧会終了後、タワーや博物館とともに新都心の中心軸を形成する施設として残された。大胆な発想と研ぎ澄まされたディテールで話題を投げかける作者が、ガラスの箱をスチールで軽快に吊り、解放感を演出するのを目標とした吊り構造の建物だが、規模もそれほど大きくないせいか、骨太な感じは全然なく、シャープで軽快な納まりになっていた。説明によれば、2.5mをモデュールに四周に7.5mはね出しているのだが、振れ止め防止のスチールロッドの効果で全然床の振動も感じられなかった。展示内容もガスの物性を巧みに生かした興味深いもので、子供にも十分楽しめる施設となっていた。参加者の中に５歳ぐらいの女の子をつれたカップルがいたが、楽しそうであった。最後に、展示の一部にもなっている中央ホール下の機械室を特別に見学させていただき、一日目の見学を終えた。

*

スケジュール終了後、一部有志は西部ガスを後に、シーサイドももちにあるウォータフロントのマリゾン、福岡タワーを訪れた。ホテルにチェックインした後、今度はベイサイドプレイス博多埠頭を見学した。その後は、もつ鍋に舌鼓を打ち、中州で夜風に吹かれ、屋台で一杯ひっかけて、お開きと思いきや、イル・パラッツオのバー巡りに出かけた。４人の著名なデザイナーに同じ広さ・形の空間を与え、自由にデザインさせたバーを、何とワンドリンクずつ飲んでまわれるチケットをホテルで発売しているのであった。最後には皆ジュースをオーダーする始末であったが、博多の夜もかなり更けた（？）頃フトンにもぐり込んだ。

一夜明けて熊本（アートポリス）へ

説明　磯田桂史、小林至、吉富寛、田上文徳／熊本県建築課、くまもとアートポリス

翌朝、早い集合時刻（7：45）にもかかわらず、全員前夜の疲れも見せずバスに乗り込み、明るく茶目っ気のあるバスガイドの案内で熊本へ向かった。高速道路に入るまでの渋滞で若干遅れたが、県庁でアートポリス事務局の方々（午後から慰安旅行の予定にもかかわらず案内役を務めていただいた）が乗り込み、県営保田窪団地に到着した。

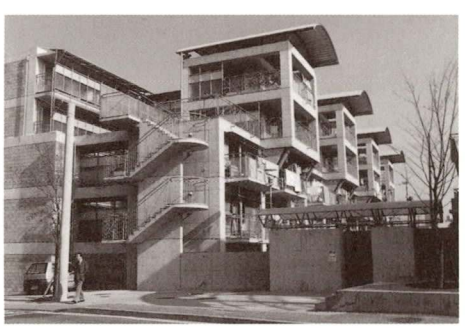
■県営保田窪第一団地

説明　原井正／熊本県住宅課

団地集会所前で説明を受けた後、幸運にも空室を見せていただけることになり、一般ジャーナリズムでも取り沙汰された住戸を直接体験できた。公営住宅という制約の中での作者の意欲的な取り組みが感じられると同時に、その限界みたいなものも感じた。なおいろいろ問題となったのは居住者の一部が従前の住宅からの移住であったためで、公募による居住者のみであればトラブルは起こらなかったのではないか、ということであった。


ネクサスワールド、手前左からレム棟、クールハース棟、マーク・マック棟


西部ガスミュージアム


県営保田窪第一団地

■熊本北警察署

説明　鑓修次／太宏設計事務所



熊本北警察署

バスが熊本中心部に近い白川沿いの道に入ってくると、警察署の側面が姿を表し、次いで迫力のある正面が見えてきた。正面駐車場からの景観はやはり圧巻である。場所柄内部での撮影は人の姿が入らないようにとの忠告を受け、ロビー廻りと4～5（吹抜）階にある武道場を見学した。建物の性格と見学箇所が限定されているせいもあろうが、内部はチョット物足りない感じがしたのは私だけであろうか。

■熊本市営新地団地A

説明　鶴田幸三／熊本市住宅建設課



熊本市営新地団地A

市の郊外に立地する新地団地を訪れた。敷地二辺を圧倒的な長さの5階建が建っているが、立面の変化と所々に2～3層吹き抜けたゲートから内側が見え、それほど圧迫感を感じさせない。敷地の内側に入ると3階建のブロックがやはりゲート越しにさらに奥の中庭を感じさせるように建てられていて、全体としてバラエティーと一体感の両方を合わせ持った共有空間のリッチさがある。住戸タイプはバラエティーに富んでおり、われわれは1階の身障者対応の住戸などを見学した。高齢化社会に対応した今後の公営住宅のあり方としても参考になる事例であった。

■八代市立博物館

説明　曽我部昌史／伊東豊雄建築設計事務所

熊本市からバスで小一時間、車中で遅い昼食弁当（わりとおいしかった）を済ますと、さすがに疲れのためかウトウトする人が目立ったが、博物館に到着すると皆目が輝き出した。軽く浮遊するような建物外周をなめるように巡りながら玄関ホールへ向かい説明を受けた。展示建築物の持つ特性を逆手にとって、地中化することによりボリューム感と威圧感を抑え、周囲の文教地区内の景観と調和した前庭が親しみのある建物にしている。流れるように軽い屋根やエッジの利いた各部ディテールの納め方など、内外部の隅々まで作者の意欲が感じられた。オープンしたばかりという目新しさも手伝ってか、最も印象に残った建物であった。



八代市立博物館

博物館を最後にツアーは無事に終了し、八代駅前で降車する人、博多でもう一泊して翌日さらに見学する人など、各自思い思いに散会した。今回の見学会では女性の参加者や関東からの申込者がかなり多かったのが特徴的であったが、集合住宅とアートポリス施設の見学が要因だったのかなと思われる。最後に、ややハードなスケジュールだったにもかかわらず、予定通りに無事終了できましたのは、各建物の運営者や、説明、ご案内をいただいた方々と、参加者の皆様方の熱意とご協力によるものであり、この紙面をお借りしてお礼を申しあげ、報告とします。

（森田芳次／事業委員・安井建築設計事務所）

二つの集合住宅

長瀬　博一

京都市のように山で囲まれた所と異なり、海に面した福岡、神戸、横浜等は陸地を増やして新しい街造りも行える。

一方、森・山が豊かで海を埋め立てるでもなく、各地に、まず点として強い文化の刻印を打ち込んでゆこうとするのを目のあたりにした。それは、熊本で進められている、設計者の選定方法と土木建造物まで対象としている点でも画期的な、アートポリスである。

細川前知事の発声のもと、コミッショナー磯崎氏、アドヴァイザー堀内教授の指揮下で、公共物のみならず民間の一部も誘い込んでの後世に遺しうる建築文化、街造り、環境整備と新しい田園文化圏をめざす志高き事業である。4年に一度成果を世に問うという。

急行見学スケジュールの中、4点を牽引者・熊本県庁の方に案内していただく。「集合住宅」が2件。まだ御用になったことのない「警察署」へも御初に。最後は、飛翔するような軽やかさと環境性の融合体「博物館」であった。

県と市の集合住宅2件は、日本の公共住宅ゆえ予算の乏しさでは共通項だが、間取りと外部の扱いは大いに異なる。県《保田窪》は、低層高密度な集住体である京町家に一見相似たるプラン（空間分離とつなぎ—内・外空間の共生ねらい）なれど中層・積層集合体ゆえ、様相は大きく異なる。ここでは、集合の仕方も日照重視の並列でなく中央広場（中庭）囲い込み型で、各家族室に広がるゆとりのテラスが面し、個室への出入りも屋外廊下（バルコニー）から。また各戸出入口と階段を2カ所ずつ持つ際立ったユニークさである。中庭は周辺地域から全く閉鎖的なのに比べ、片や市《新地A》は団地規模も倍以上で、幾重かのヒエラルキーを持った外部空間を周辺地域に開かれた系として解き放っている。両件、今後地域にどのように根差し営まれていくか興味深い。

今から、約40物件も揃う秋の国際建築展が楽しみである。

（長瀬建築研究所）

熊本—『文化』を創る—

武部由紀子

建設業界のみならず、一般誌やTVにまで取り上げられ、すっかり有名になった観のある〝熊本アートポリス構想〟の諸施設を巡る見学会が催された。きっと担当者どうしで思わず競い合うかたちになったであろう、大変な力作ぞろいの建物だった。

なかでも県営保田窪第一団地には、頭の下がる想いである。住まいと、それに続く広々としたバルコニー、ゆったりと屋外階段を下りて出る中庭。建物それ自体よりも、はるかに重く、豊かな空白の部分。そこには住み手が自分達で家を創ってゆける余地が、いっぱいにある。こんな団地をみると、なぜ『集まって住む』のか、積極的な答えのひとつがここにあるようで、見に行ったこちらも、元気が出てしまいそうだ。見学時には、この団地の要をなす中庭の工事に取りかかっていたが、その後どんな広場になったのか。一、二年後の住みこなし方が見たいものだ。

『文化』を創る——といったとき、ホールや美術館など、記念碑的な建物を建てて、街の文化レベルが上がったように考える（そうしてできた大変立派な建物は日本中にいっぱいある）。しかしながら、公立の小中学校や、公営住宅、児童公園など、はるかに日常的に使用されながら、単なるプロトタイプの繰り返しでよしとされているものも少なくない。熊本アートポリス構想のなかで、住宅も博物館と同列におかれ、また土木施設などをも対象としているのは大変意義深いことだと想う。第二、第三の保田窪団地が増えてゆけば、どんなに街を変えることになるだろう。

この『文化』のなかで育った次の世代が、また新しい『文化』を産む母体となってくれれば、アートポリス構想も一つの実を結ぶことになるのだが。

（オム設計室）

芸術文化センター街区プロポーザル募集——兵庫県芸術文化課

このほど西宮北口駅南西地区において、兵庫県の計画する芸術文化センター、阪急電鉄の計画するホテル及びその関連施設、ニチイが計画する商業施設及びアミューズメント施設を中核施設とし、これらが一体となって、21世紀を展望する街区を建設する計画が発表され、この街区建設に先立ち、プロポーザルを募集している。

同街区に建設する施設の総延床面積は、11.5万㎡（駐車場を除く）で、施設概要はつぎのとおり。

●兵庫県／芸術文化センター（延床面積約4万㎡）
●阪急／ホテル及び関連施設（延床面積約4.5万㎡）
●ニチイ／商業施設及びアミューズメント（延床面積約3万㎡）

■プロポーザルの概要

●主催者　兵庫県、阪急電鉄、ニチイ
（代表主催者は兵庫県）
●協　力　西宮市
●方　法　公募による二段階方式のプロポーザルとし第1段階では広く本プロジェクトに対する提案を求めて10名程度の入選者を選定し、第2段階では、第1段階の入選者に対してヒアリングを実施し、最終当選者を決定する。
●応募資格
(1)建築士法に基づく一級建築士である者を擁するグループ。※グループは、個人または法人で構成する。
(2)一級建築士を擁する法人
このプロポーザルに関する主務者は一級建築士とする。
●提出書類
(1)応募者の主要設計実績概要とその写真、実施担当者の経歴等
(2)次の項目についての合計1000字程度の提案及び配置基本構想図（鳥瞰図）
提案趣旨・設計にあたっての基本理念
・調和ある街区景観の形成
・配置計画の基本的考え方
●入選賞金
第1段階の入選者には、1件につき100万円の入選賞金を支払う。
●当選者（担当設計者）の業務
詳細な業務内容については第2段階の時点で明らかにするが、次のような業務の予定である。
(1)街区全体のデザイン指導及び街区内の配置計画の作成
(2)建物の外観のデザイン指導及び共用部分の基本設計
(3)兵庫県が発注する芸術文化センター部分の基本設計

■応募、審査日程

(1)募集要項の配付開始……現在、配付中
(2)第1段階提出書類受付開始……平成4年3月2日
(3)第1段階提出書類受付締切……平成4年3月9日
(4)第1段階審査結果発表……平成4年3月下旬
(5)第2段階要項発表……平成4年3月下旬
(6)第2段階審査結果発表……平成4年6月上旬

■審査委員会

会　　長　芦原義信（東京大学名誉教授・建築家）
会長代理　内田祥哉（東京大学名誉教授）
委員　内井昭蔵（建築家）
委員　近江　栄（日本大学教授）
委員　山崎正和（大阪大学教授）
委員　山崎泰孝（福井工業大学教授・建築家）
委員　菅井基裕（阪急電鉄副社長）
委員　坂井清志（ニチイ副社長）
委員　馬場順三（西宮市助役）
委員　板野英彦（兵庫県副知事）

■募集要項の配布

募集要項は3月9日(月)まで、下記事務局及び兵庫県東京事務所（東京都千代田区平河町2-6-3都道府県会館内TEL03-3261-4266）で配布

■事務局

兵庫県生活文化部芸術文化課
〒650神戸市中央区下山手通5-10-1兵庫県第2号館11F　TEL078-362-3153

「居住空間の未来を探る」フォーラム

師弟による「居住空間の未来」展望シリーズの第2回目は、若手建築家・高崎正治と、釧路市立博物館などで知られる建築家・毛綱毅曠が対談する。

テーマ　物人建築
司　会　安藤正雄（建築家・千葉大学講師）
パネリスト　毛綱毅曠（建築家）
高崎正治（建築家）
と　き　1992年3月12日(木)PM2：00～5：00
ところ　MIDシアター
大阪市中央区城見2－1－61
定　員　550名（予約先着順）
入場料　無料
申込み　松下電器関西HALS支店営業推進部
設計情報センター
TEL0120－06－2203（フリーダイヤル）
主　催　松下電器HALS支店
●同エキシビジョン
テーマ　TAKASAKI物人建築1992
と　き　1992年3月6日（金）～22日（月）
AM10：00～PM6：00
ところ　ナショナルリビングプラザ大阪
大阪市中央区城見2－1－61ツイン21ナショナルタワー3F
TEL06－949－2221
主　催　ナショナルリビングプラザ大阪

河口龍夫展
——アートスペース虹

20世紀の美術は、目に見える対象を再現するに止まらず、物や事の本質、不可視の世界をも対象とするようになった。

河口龍夫氏はそれまで20年間の作品の総称として使用してきた「関係」も、「関係そのもの」は、直接、目に見えるわけではない。チェルノブイリ以後、銅板や鉄板を布で覆い錆を浮き出させる作品から、種子を鉛で覆う仕事にと転じている。

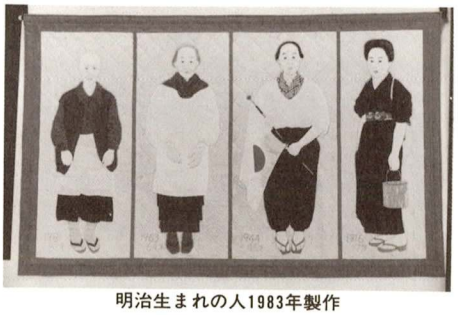
そうした河口氏の個展がこのほど京都で開催される。

テーマ　「鳥のために」
と　き　1992年3月17日～29日AM11：00～PM7：00
ところ　アートスペース虹
京都市東山区三条通けあげ西（都ホテル西隣）
TEL075－761－9238

布絵フィールドワーク
——岡本靖子の手法展

岡本靖子氏は、庶民の衣服の観察を続けており、そのためのフィールドワークを全国の津々浦々で行っている。集めた資料の中から代表的なスタイルを選び、実際に用いられていた布を使って人々の服装を写実的に縫ってゆく。こうして集められた、17年間にわたる観察や記録を通して作られた布絵20点を中心に、大阪で定点観察した風俗のスケッチなども紹介する。

と　き　1992年3月2日（月）～29日（日）
ところ　INAX大阪ショールーム2F
AM10：00～PM6：00
大阪市西区新町1－7－1
TEL06－532－1956
入場料　無料



明治生まれの人1983年製作

4月より
初心者コース開講

DRA-CAD スクール

弊社は『構造システムグループ』の中で、建築設計事務所としてDRA-CADを使い４年間設計をし、蓄積してきたノウハウを皆様のお役に立つようDRA-CADスクールを開講しております。

◉授業はステップ方式です。興味のある講座のみの受講も可能です。

なお４月より初心者コースをCADの操作及び出力の初歩を学習できるコースとして新たに開講します。

講座内容

初心者コース CADの操作及び出力の初歩
STEP-1 出力
出力マニュアルの作成
STEP-2 CADによる文章の作り方
プレゼンテーション
CADによる模型作成
STEP-3 データの整理
データの再利用
STEP-4 ARM(3次元CAD)になれる
ARM(3次元CAD)でエスキース
ARM(3次元CAD)の出力
STEP-5 企画設計Ⅰ(日影計算とCAD)
企画設計Ⅱ(検索、ソート、集計)
企画設計Ⅲ(エスキース)
企画設計Ⅳ(分析)
STEP-6 基本設計Ⅰ(シミュレーション)
基本設計Ⅱ(基本設計のコマンド)
STEP-7 実施設計Ⅰ(実施設計のコマンド)
実施設計Ⅱ(図面作成の手順)
STEP-8 CADマネージャー
(ハードウェアーのメンテナンス)
STEP-9 設計事務所のOA化
STEP-10 総合学習(建物の設計)

大阪校開講予定表

	2月	3月	4月
初心者コース (3日間・7万5千円)		8,22	6,25
STEP-1 (2日間・5万円)	2		
STEP-2 (3日間・7万5千円)	4		11
STEP-3 (2日間・5万円)	9	20	14
STEP-4 (3日間・7万5千円)	1,23	15	18
STEP-5 (4日間・10万円)	16		
STEP-7 (2日間・5万円)	30		

＊4月より講座内容が一部変更します。

講座内容は10のステップに分かれており、STEPによっては1日のみの受講も可能です。(その場合受講料は3万円となります)
詳しいことはお問い合わせ下さい。
なお、東京校も開講しています。

1時間目：10:00～11:15
2時間目：11:30～12:45
昼　食：12:45～13:45
3時間目：13:45～15:00
4時間目：15:15～16:30

株式会社バス BUS INC.
大阪校　〒550 大阪市西区南堀江一丁目11-21 栗建ビル別館8F　TEL.06-541-4198　FAX.06-541-5320[担当：原田]

新刊 全国書店で好評発売中！

名画と遊ぶおもしろ音響学

音響額 ―名画に探る音の不思議―

「晩鐘」や「最後の晩餐」…。数々の名画の中で音はどう響いているのか？そんな疑問から、音響学者がおもしろく『音』を語る。

山下充康 著　B6判　152頁　税込定価1,600円

建築構造問題快答集15巻

実務の上で遭遇した疑問・難問
に対して明快に回答する
――シリーズ第15巻完結編！

石黒徳衛 監修　A5判　316頁　税込定価4,000円

あと施工アンカー 設計・施工読本

―初歩から応用まで―

あと施工アンカーを正しく活用するための設計・施工上のポイントを、多くの事例をまじえながら紹介した実務的な入門書となっています。

広沢雅也・松崎育弘編　A5判　256頁　税込定価3,500円

株式会社　建築技術
〒151 東京都渋谷区幡ヶ谷1-1-2 福西ビル
TEL. 03-5371-3811 FAX. 03-5371-8282

建築技術者必携の専門誌

建築技術3

2月18日
全国書店一斉発売
税込定価1,350円

●●●●● 特集 ●●●●●

外壁仕上材チェックガイド

建築における外壁仕上材とファサードデザインとのかかわりについて、経験豊富な設計者・施工管理者という立場から考えてみるとともに、外壁仕上材の特長、設計・施工はどうなっているのかを、最新の建築作品を取り上げながら紹介します。

1. 外壁仕上材とファサードデザイン
●建築におけるファサードデザインとは?
●外壁仕上材とファサードデザインの係わり
●外壁仕上材のメインテナンス
2. 外壁仕上材の特徴とその利用法（実例）
石材／タイル／セラミックス／メタルカーテンウォール（アルミ+石）／PCカーテンウォール／ALCパネル／GRCカーテンウォール／金属パネル／押出成形セメント板／シーリング／ガスケット

■ 連載 ■　現代建築紀行【第3回】ワールドビジネスガーデン

●住まいのアメニティ⑨
21世紀の住まいのアメニティ

●地下水のはなし⑩
地盤は地下水の入れ物

建築の眼



コモンシティ星田Ａ２ゾーン住宅
設計　坂本一成

きたうら
北浦かほる
大阪市立大学生活科学部
生活環境学科助教授

しまざき　つとむ
島崎　勉
愛知県建築部長

なかがわよういち
中川洋一
安井建築設計事務所
設計部長

こばやししろう
小林志朗
フジタ大阪支店近畿圏
設計部長

小学校の数ほどケア施設を…

高齢化社会の到来で、ホテル並みの病院や医療サービス付きの高級シルバーマンションが増えている。そしてここ２年ほどの間に病院から家庭に復帰するための中間施設として相当な数の老人保健施設も出来た。しかし、日本人の多くが望んでいる、老後も家族に囲まれて過ごす生活を可能にするためには生活圏内での援助施設の方がもっと必要なのだが…。積極的な医療の対象ではないが、寝たきりやボケ症状があったりして全面的に介護を要する老人には、医療機能は劣っても地域に密着し、介護に重点を置いた小規模なケア施設を小学校の数ほどつくることが意味をもつ。家の近くで、それぞれの家庭の状況に応じて必要な時にステイを頼めることが、在宅ケアを支えるためには何よりも重要な条件となる。医療機能はそれらを統括する病院から医者がバスで施設を巡回すればよい。家庭に専業主婦がいるのを前提とした施策はもう成り立たない時代になっている。「91年婦人労働白書」によれば共働き世帯は全世帯の３分の１を占めると言う。右半身麻痺で寝たきりになった母は今、町の小さな病院でお世話になっている。脳溢血で倒れたが危篤状態を脱したので、近くの公立病院を出されたためである。

（K.K）

禁煙テーブル

タバコの功罪については、健康や環境上の観点から色々な意見がある。功も罪もなかなか決着しないので思いきって禁煙テーブルを作ってみた。テーブルは18名程が座れ、部内の会議等に利用するものである。その仕掛けは極めて簡単で、灰皿を置かないようにしたわけである。実はこの措置をするに当って、部屋の壁面が年数を経ていたこともあるが、タバコの煙でほとんど黒ずんでおり、全体的に暗い雰囲気であったので、張り替えて明かるくしてもらったのである。喫煙家の人々は最近、我慢できなくなるとトイレに行くようである。

タバコで思うのはホテルに泊る場合と、新幹線の中である。いずれも他人の息を再吸入するようで気持が悪い。新幹線は禁煙車の両数も増えたが、ホテルではそうもいくまい。建物の空調も冷暖房のほかそこにむずかしさがあると思う。そこで考えるのだが、禁煙建物というのはあり得るだろうか。戸建の住宅では家族に強いられて結果としてそのようになっている例もあると思う。

それから、タバコの外箱の注意書は、〝タバコの煙によって生じる他人の健康に気をつけましょう〟ではないだろうか。

（T.S）

建築を見る眼

建築家は実際の街づくりや建築の成果によって評価される。景観の立場からの建築外観の評価が常識となってきた今日である。このこととあいまって建築家の職能が社会的にクローズアップされ、建築家に対する要求もきびしいものとなってきた。建築家側と評価をする市民側双方のコンセンサスのレベルアップを計るためには一般教養としての建築教育が必要である。建築教育は多岐にわたるが、その共通の基本は優れた建築を正しく評価する能力を養うことから始まると思う。

既存の街並の中に新しく建築する場合の、特に街並形成にかかわる建築の場合の、優れた教材の一つとしてロイズオブロンドンを挙げることができる。石造の歴史的な市街地の中で違和感なく愛着をもたれているこの現代建築は、既存のシティの新しいシンボルとなり、都市のアイデンティティを高める役割を果している。建築家の努力と優れた判断がにじみ出た名作である。

実在する優れた教材を選びその背景や経過をトレースして、地道に建築評価論を展開し建築デザインの指標を共通認識としてゆくことが一般市民にとっても専門家にとっても必要な建築教育であると思う。

（Y.N）

地球環境問題へ貢献の一歩

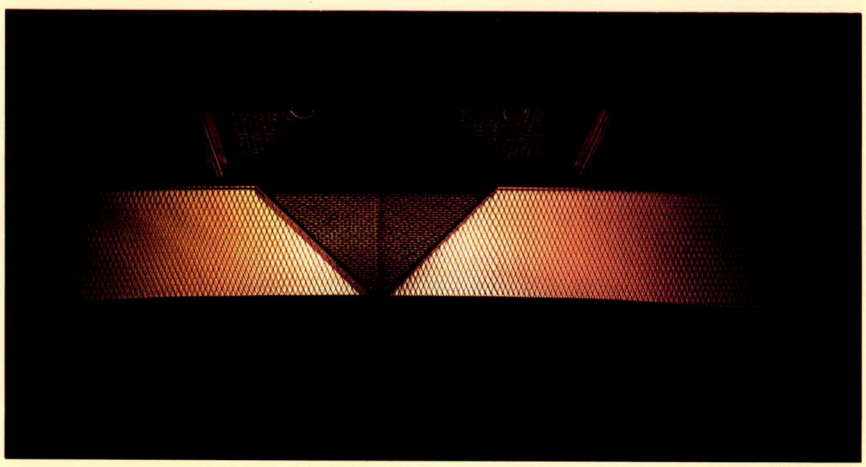
昨年10月にリサイクル法が施行されいよいよ４月から実行段階に入るようである。その中で、我々建設業もまたその対象業種とされ、コンクリート塊、アスコン塊、建設残土、木材を、利用促進するようになった。地球環境をめぐる昨今の問題は、いろいろに取り上げられているが、これを法制化したことは画期的であり、すばらしい一歩となるであろう。

さて、我が国はいうまでもなく資源を世界各国に頼っていてしかも、大量消費国であり、その恩恵をまた最大に受けている国であるために、より大きく資源問題、環境問題に取り組むべきである。自動車を始めとする産業各界は最近こぞってリサイクル思考の設計を取り上げ試行し始めている。また素材メーカーも積極的に取り組むなどやっとその意識が本格的になって来たものと思う。

建設産業はその占める大きさから、あるいは家庭用品などと異なり、その発生場所なり、発生量なりは集中的に扱え、その気になって取り組めば、資源再利用の提供機会は大きなものとなるのではないか、それには法律のみでなく、自然や社会を豊かにする心をもって継続した努力が必要である。

（S.K）

特集
こだわりのインテリア



東京竹葉亭の欄間

総　論

綺麗は美か——出江 寛

各　論

未来を考え、未来を創造する——服飾デザイナー／コシノジュンコ

現代空間に生きる華道——華道家／堀江星苑

フランスのエスプリ—ラ・ヌーヴェル フォンテーヌ——料理人／多々内廣行

イトーキ大阪ニューオフィスギャラリー——造形作家／草間詰雄

椅子へのこだわり——インダストリアルデザイナー／喜多俊之

有ることが〝無〟、無いことが〝有〟—演劇は哲学的時空———舞台演出家／嶋田三朗

眼が思惟する世界へ——写真家／東出清彦

光へのこだわり——照明デザイナー／田村利夫

総　括

こだわりのインテリア——北浦かほる

本特集担当　インテリア・住宅分科会委員　北浦かほる　神谷　剛　大森智子　大橋真由美　加藤　力　角方利幸　駒田哲男　中村孝之　西川純一　福田由利



総論

綺麗は美か

「綺麗が犯した最大の罪は
人間から本当の美(アート)の心を
奪い去ったことである。」

出江寛

綺麗と美しい

「綺麗」と「美しい」という言葉は、その違いについて、普段あまり意識せず使っています。辞書によると「綺麗」は美しく華やか、美しく心地よい、美麗とあり格別の違いはありません。そこで両者がどう違うかということについて、はっきりさせておきたいと思います。建築に限らず、ものをつくる人も見る人もこのふたつの言葉を混同しているように思えるからです。その結果、現代の都市は建築もインテリアも綺麗になってはきたが、決して美しいとは言えないのではないでしょうか。

綺麗と汚いの関係ですが例えば少し古くなった家やマンションのトイレやキッチン、風呂などを思い浮かべてみてください。これらはだいたい新築もしくは改造されてから、五年か十年もすると汚くなって取り替えられます。そうしますと「綺麗」と「汚い」との関係というのは、五年か十年位のサイクルで回転しています。単に古くなったもの（材料）が新しくサニタリー（衛生的）になったということに過ぎません。何ひとつとして「美」（アート）としての心の関わりあいをもたないということになります。また、汚いと美しいの関係ですが、例えば、骨董品はかつて、労咳の人が使ったかもしれない汚い茶碗や食器類であっても、美しいがゆえに美術品として重宝されることからも分かると思います。

建築の「美」とは

世界の名建築と言われるパルテノン神殿（紀元前447）やノートルダム寺院（1250）そして、我が国では法隆寺（607）や薬師寺（698）等々の宗教建築は永い歳月の中でほこりを被り、汚れてサリタリー（衛生的）ではありません。しかし何百年を経た今でも実に美しく、人の心を打ちます。これらの建築はかつて、極彩色で彩られていましたが、長い歳月のなかで風化し、色を失って古色蒼然となっています。しかしそれでも、とても美しいのです。色を失えばこそ、より美しくなったといえるでしょう。それは水墨画とか禅画といった、色のない精神性の高い美しさに通じます。一方、現代建築がハゲチョロケになったとしたらどうでしょう。歴史的名建築のように美しいでしょうか。それはとても見苦しく汚いものになっているであろうことが想像できます。それはまずプロポーションの悪さによります。第二は新建材という利便性だけを追求した軽率で表面的な材料からくるのです。ですから、現代の都市は綺麗になってはきたが、美しくなってきたとは思えないのです。商業建築（インテリア）など経済の活性化のためにはそれも許されるかもしれませんが、もう少し落ち着きがあって生命力のある社会共通資本となり得るものにしなければならないと思うのです。

美しさの原点（茶室）

古くなり汚れてきても美しさを保ち続ける建築を支える手法（美学）とは何なのでしょうか。私はそれを千利休の思想に見ています。茶室の「美学」と言えばよろしいでしょうか。使い古して煤けた百姓屋の蒲（がま）の天井、古材の柱や敷鴨居そして藁スサの浮き出た質素な壁、その壁の腰貼り紙には古暦の使い古したものを裏返して貼るなどして造られています。建築としての本来の生命をすでに終えた廃材などで造られていますから、茶室は竣工の時点から綺麗ではありません。利休の「待庵」（国宝）や織田有楽斎の「如庵」しかりです。では綺麗ではないのだから、汚いかというと決してそうではありません。よく掃除が行き届いていて、畳の上を歩いても足袋の裏は白いままで汚れることはありません。茶室には坊主襖とよばれる襖を使っていますが、これには黒い枠がなく枠まで白い襖紙をまわして貼ってあり、引手の所も白い襖紙が貼ってあります。普通の家庭だったら、この白い引手のところが、手垢ですぐに薄汚れてくるので、一般的には黒っぽい引手金物を使い枠も黒いものを使います。引き手が黒ずんでいたり、足袋の裏が黒く汚れるようでは茶人としては失格なのです。茶室は古い材料で造ってあっても清潔なのです。この茶の湯の簡素美という意識が次第に庶民に行き渡り、できあがっていったのが数寄屋建築です。

素材と材料

ただ材料といってもその中には素材とそうでないものとがあります。素材とは芸術のもとになる材料であると辞書に書いてあります。材料そのものがある種の精神性をもっているものでないといけないのです。材料が心をもっていると言ったらおかしな話ですが、心を持つか否かを適格に見極め、その上でものを造るべきでしょう。インテリアデザイナーも建築家も、材料か素材か、又は単なる材料でも作家の力で素材になり得るものかどうかを見極める心の目を持たなければなりません。

例えば、同じ金属でも、安物のステンレスのスプーンと銀のスプーンでは、安物は見るからに表面がてらてらと光って深さを感じさせないのですが、銀のスプーンは何かしっとりとしたウェットで深いものを感じさせます。そういう感覚的なものを持ったものが素材だと思うのです。また、昔の瓦は吸水率が13%もあったので寒い所ですと透水が凍って膨張し割れることもありました。今は研究が重ねられて水を吸わないため割れることもなくなりました。このこと自体は素晴らしいことなのですが、それとは引き替えに吸水性を断ったがために現代の瓦はドライになり昔の情緒性を失ってしまったのです。同じようなことが煉瓦とタイルについていうことができます。タイルは煉瓦に比

◀東京竹葉亭　設計　出江寛建築事務所　撮影　村井　修

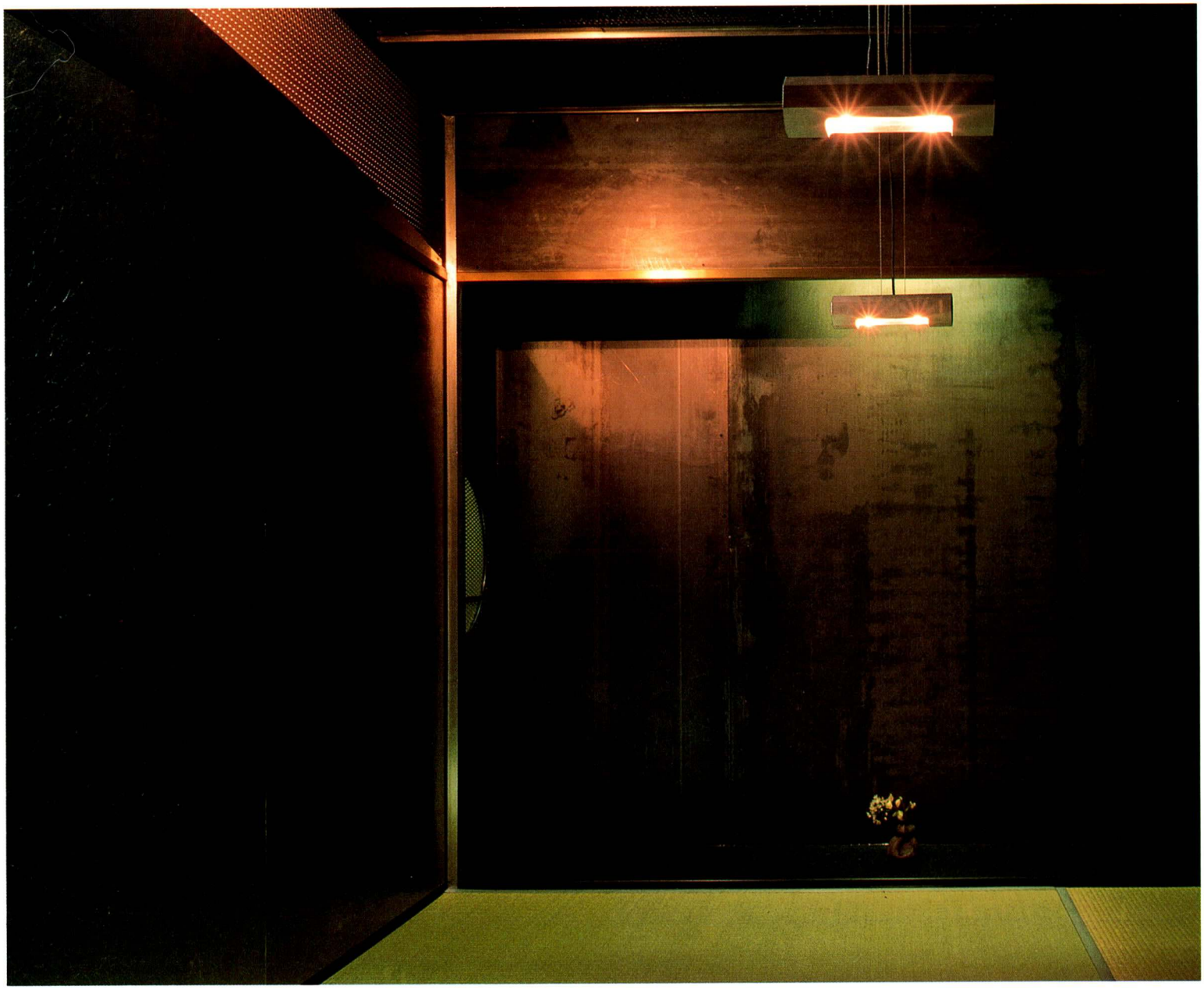
べて吸水性のない分だけ情緒美がなくドライな事がわかるでしょう。つまりよく考えないといけないのは、失っていったものが何であるかということなのです。形や機能性、経済性の追求ばかりでなく、材料の本質的な美しさがどこにあるかということについて、インテリアデザイナー（建築家）や業者やメーカーの方はよく考えて、その選択を誤らないようにすべきだと思います。そうすれば日本のインテリア（建築）は世界に先駆けて素晴らしいものになると思うのです。

沈黙の美学

「神の本質は沈黙である。人間の本質は言葉である。」とドイツのマックス・ピカートは『沈黙の世界』の中で「沈黙とは〝語らざること〟ではなく、積極的なもの、充実した世界である。」といっている。また、藤原定歌の和歌に「見渡せば花ももみじもなかりけり蒲の苫屋の秋の夕暮れ」というのがありますが、「花ももみじも」といったとたんそこで切ると思い浮かべた花やもみじはそう簡単には消えません。その消えないうちに、冬も近い晩秋の寒々としてみすぼらしい浦の苫屋を、そこにない花ともみじで装飾しているのです。この実際に存在しない「花ともみじ」が『沈黙』の美しさなのです。

沈黙の素材

昔から我が国では「石のように押し黙る。」と言われるように、石の本質は沈黙である。石のように硬く、冷たく、重く、拒絶、永劫不変（腐敗しない、墓石）等々が考えられる。この考えに沿って現代における沈黙的な素材を私なりにいくつか拾いあげてみると、コンクリート打放し、コンクリートブロック、PCブロック、瓦、アスファルトブロック、波形スレート、ソリッドな金属、ガラス、和紙等々があげられる。しかも、前にも述べたようにこれ等の「沈黙」の素材を使ってインテリア（建築）

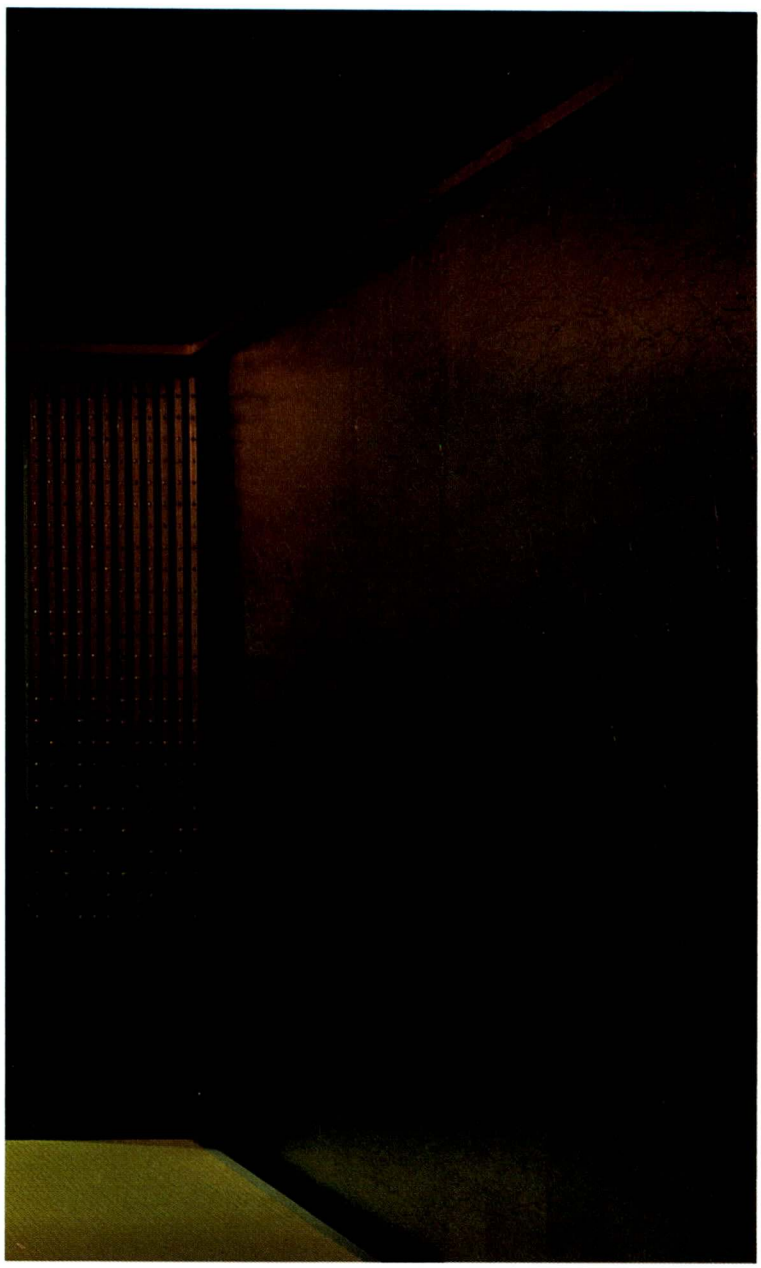


を造るとき、造り手に『沈黙』の美意識がなければ、軽薄なものになってしまうでしょう。

金属の数寄屋(竹葉亭)

私は竹葉亭では、金属による数寄屋を造ってみようと思った。これは今まで独自の数寄屋の中で、床柱や落し掛け、天井等々に金属を使いながら、少しずつ数寄屋における金属の材質感をさぐってきた。そして今回、金属で積極的に造ることにした。

これは単なる好奇心からではなく、かつての伝統の建築が優しく情緒的な自然（木・土・石）の素材によって造られてきたのに対し、現代の素材である金属という非情な工業製品を使いながらどこまで素材の持つ精神性を表出し得るか、ということへの挑戦である。利休がことさら悪い材料で「待庵」を造ったと同じ思想である。これは茶記（山上宗二）にある「師と西と東と違えてするなり、……茶を若くするなり。」の心である。



東京竹葉亭　撮影　村井　修

外観とインテリア

建築の外観には公共性が要求されます。特に京都、金沢、倉敷等々の歴史的な町並みでは、その美しさをそこなわないよう配慮しなければなりません。また、日々、人々の目に触れ、なんらかの印象を与えるわけですから、建築の外観そのものも美しいものでなければなりません。インテリア（一部の公共施設は除いて）はそれに引き替え、私的性が強く、そのデザインは施主やデザイナーの意向通り造っても、問題にはならないのですが、しかし、インテリアにおいても、やはり外観と同じ思想で、統一性のある方が望ましいでしょう。

インテリアは「心」

建築におけるインテリアとは、人間におけるインテリアすなわちマインド（心）を示すものなのです。心が豊かでなければ、豊かで、良いインテリアはつくれません。心の具象化したものがインテリアなのですから、その為に日頃から、遊び心の他、精神性や思想性のある美しい建築や芸術に触れ、心を豊かにするよう努めることが大切です。

（いずえ　かん／出江寛建築事務所）

出江 寛 プロフィール

（経歴）	1931年	8月29日京都市に生まれる	
	1951年	京都市立伏見工業高校建築科卒業	
	1957年	立命館大学理工学部土木工学科卒業	
	1951～59年	京都大学施設部文部技官として勤務	
	1959～76年	竹中工務店大阪本店設計部副部長を経て退職	
	1976年	出江寛建築事務所設立	
	1984年～	大阪市立大学講師	
	1986年	ドイツ講演（アーヘン大学、ダルムシュタット大学、ベルリン大学、ブランシュバイク大学、ハノーファー工科大学）	
	1988年	ギャラリー「間」にて「伝統美」の個展	
（設計競技入選作品）	1959年	埼玉県飯能市公会堂	（佳作）
	1960年	大阪府建設業協会マーク	（2等）
	1966年	第1回セントラル硝子	（最優秀）
	1967年	日本万国博本部事務所	（佳作）
	1969年	最高裁判所	（佳作）
	1985年	全労済会館	（1等）
	1986年	第二国立劇場	（佳作）
	1987年	愛知県新文化会館	（佳作）
	1989年	二色の浜集合住宅	（特別賞）
	1989年	中之島公会堂再生	（優秀賞）
（代表作品）	1978年	山水商事中百舌鳥給油所	（第24回大阪府知事賞）
	1980年	谷崎邸ゲストハウス	（第26回大阪府知事賞）
	1981年	心斎橋タワービル	（商空間デザイン賞優秀賞）
	1984年	岡慶東京支店	（商空間デザイン賞優秀賞）
	1984年	逆瀬台の家	（日本インテリアデザイン賞優秀賞）
	1986年	ホテルリバティ	（商環境デザイン賞優秀賞）
	1987年	BOOK　PORT	（商環境デザイン賞優秀賞）
	1987年	広島MIDビル	（商環境デザイン賞佳作）
	1987年	広島MIDビル	（SDA賞佳作）
	1988年	広島MIDビル	（広島市優秀建築物賞）
	1990年	東京竹葉亭	（商環境デザイン賞大賞）
	1990年	東京竹葉亭（第9回 Nashop ライティングコンテスト Nashop 賞）	
	1991年	東京竹葉亭	（第16回吉田五十八賞）
	1991年	東京竹葉亭	（第6回日本建築士会連合会賞特別賞）

服飾デザイナー

コシノ ジュンコ

コシノ ジュンコ プロフィール

大阪に生まれる。

1960年　第7回装苑賞受賞

1961年　文化服装学院デザイン科卒業

1965年　青山にオート・クチュール・ブティックをオープン。

1969年　EXPO'70『大阪万博』ペプシ・コーラ館、タカラ館、生活産業館ユニフォームデザイン。

1977年　10月パリコレに初参加。
12月FEC賞（ファッションエディターズクラブ賞）受賞。

1980年　『Mr. Junko』メンズ・コレクションを発表。

1985年　3月EXPO'85『つくば博』政府館ユニフォームデザイン

1985年　北京で『Junko Koshino』コレクション発表。

1989年　8月オペラ「平泉炎上」コスチュームデザイン
10月アベニューモンテーニュギャラリー『Junko Koshino』オープン

1990年　4月オラトリオ『ヤマト・タケル』コスチュームデザイン
10月オペラ「天国と地獄」コスチュームデザイン
11月『JUNKO　KOSHINO-ART FUTUR』ニューヨーク・メトロポリタン美術館にてファッションショー。

1991年　10月コシノジュンコデザインの業界展　於スパイラルホール
オペラ「魔笛」衣裳デザイン
11月「ファッション都市宣言」於大阪府立体育館
12月「博多コレクション」とコシノジュンコデザイン展　於福岡市立博物館

毎年2回　パリコレクション、東京コレクションを開催

未来を考え、未来を創造する



コシノジュンコ PARIS COLLECTIONより

ファッションが衣服に限らず、生活（衣食住）の価値観の一つになっている時代ということで、90年代は新しい時代であると思います。その時々の時代感覚が要求するものを、衣服ばかりでなく、生活の場で必要なすべてのモノのニーズに対応してつくる、つまり人をとり巻く環境、生活の場での様々なシーン、全てをトータルで考えてはじめて、ファッションが生かされると思います。衣服やモードだけが単独で存在するわけではなく、人が着て、その情況の中でマッチして、それが生きてくるのだと思います。

デザインというと、とかく、もともとあるものに飾りをつけて違ったものにしていく作業に思われがちですが、本来の意味では、法律の原案とか、会社の経営計画とか設計といったものを最初につくるときの考え方を創造することをいいます。本来、あるものを整理し、シンプル化して組織化することであり、

こだわりのインテリア



オペラ「魔笛」の衣裳デザイン（夜の女王）

デザインの目的は美的感覚をプラスして整理していくことであると思います。

そして、又、モノの本質を追求し、人がどうかかわっていくか、人が生活していく上で、いかに快適に生きられるかの提案であると思っています。ですから、創作活動においては、衣服ならどういうシーンで、どんなインテリアの中で着られるのかが重要になってきます。又、パリコレクションなどの場合は、ステージの色、照明などをイメージしながらデザインをします。

快適なインテリアとは、創作活動を含めて、できるだけシンプルな空間ほどいいと思います。色の印象は強烈ですから全体は無機質にして、アクセントとして色を一色だけ使います。色が何色もあると、特にモノを作る時は邪魔になります。生活の場においても、色はできるだけ整理するようにします。どうしても必要なモノを色々置かざるをえないにしても、色を統一しているとあまり気にならないものです。

次にできるだけ空間をつくるようにします。住居においても、オフィスにおいても、空間ほど、ゆとりを感じさせるものはありません。昨今のように地価高騰の折りに、広々とした空間といってもなかなかむつかしいでしょうから、それには、できるだけモノを整理、モノの収納を工夫し、いかにコンパクトにして生活できるか、昔からある日本の生活の中から生み出された美意識に、目を向けることだと思います。例えば、折る、たたむ、重ねるというしぐさの中に、生活の知恵と美学を感じます。横の空間が無理なら縦でもいいと思います。どこかに、「間」、つまり空間をとることが、快適に過ごす為のポイントであると思います。

次に素材です。木、あるいは石、紙、床や壁の素材を統一することで、一体感、まとまりが出ます。いろいろな素材を使うほど、落ちつかない、ゴチャゴチャした印象を感じさせます。次に照明ですが、空間をより快適に感じさせる為に活躍します。空間がなくても、壁だけでも、照明によって、無限の広がりをイメージさせることができます。

色々なモノをデザインしていますが、何を共通にデザインしているかといえば、明日以後の生活、未来を想像して考えます。未来を想像することは全く自由であり、無限の広がりと希望があります。未来とは広く宇宙につながっていくものであり、又、宇宙は常に動いていて、宇宙のリズムがあります（ムーブメント）。固定的、動かないということはある意味では死であり、ムーブメントというのは生です。宇宙のリズムにあったもので未来を考える、未来を創造する、ボーダレスの時代にこのことがポイントではないかと思っています。



JUNKO KOSHINO PARIS BOUTIQE

現代空間に生きる華道

華道家

堀江星苑



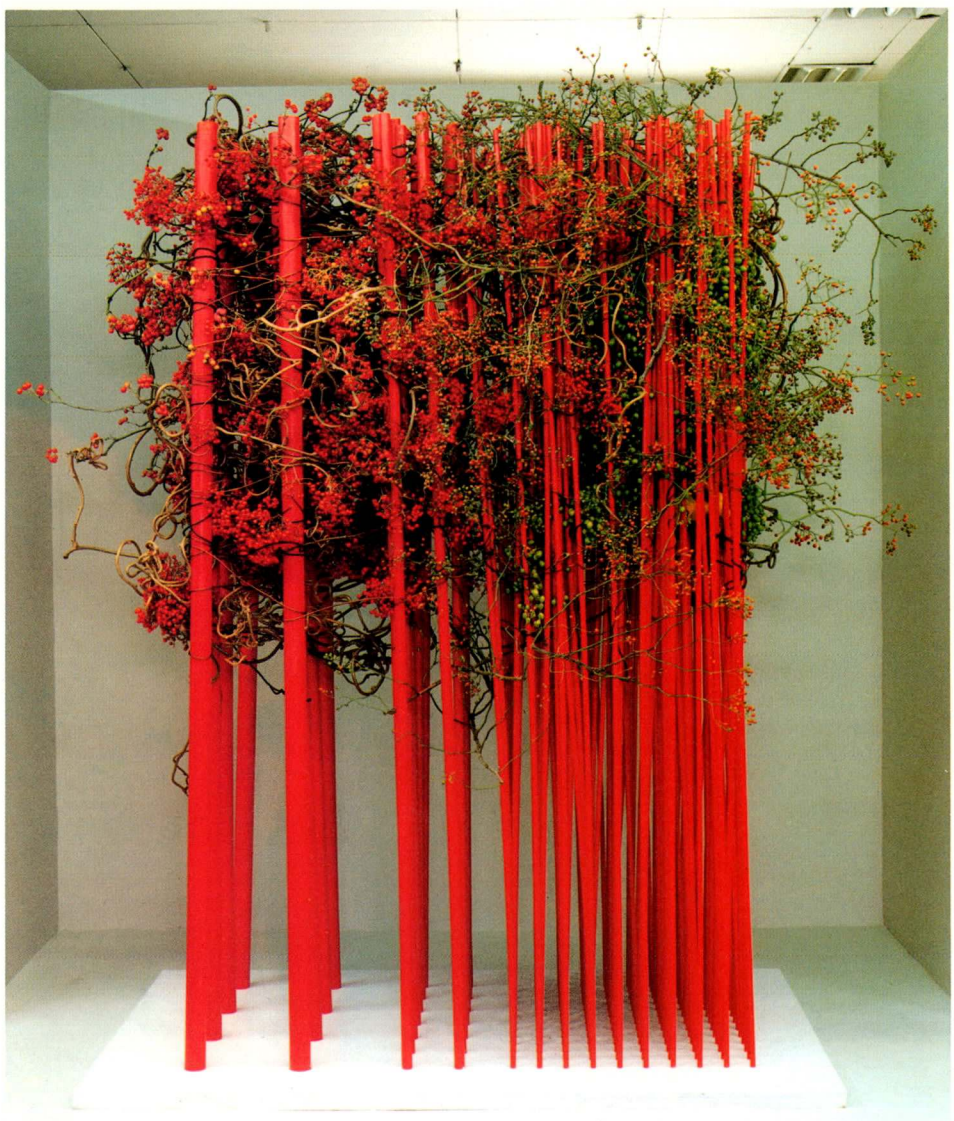
ライカ撮影 中川邦昭

時代と共に、その時代に要求された空間へ挑むことを草月流は非常に重きを置いています。完成した存在である植物を、自分の方へ引き寄せ、変化させ、空間環境を変貌させてゆく楽しみはあります。草月流にも３本の線という基本はありますが、生ける人の独自性を重要視しています。

華はアートであると思います。色・形等どれにこだわりますかと言われても、全部が必要です。でも一番大切なのは空間ですね。様々な空間で、訴えてくるものが違いますから、空間への順応・挑戦かで素材を決めます。活きた空間へ生けますので、着眼点が生けるその場だけではなくて、周囲全体を考慮に入れて創作しています。

空間自体を変えることはできません。生ける本人が柔軟性を持って挑まなくてはなりません。永年していますと、肌の一部のように生けてゆきます。が、それが得心のいく作品かと言われると、生け花は難しいです。完成

こだわりのインテリア



「錦秋」

ほりえ せいえん プロフィール

1924年　大阪市に生まれる。
1947年　樟蔭女子大学卒業
1962年　第47回二科会特選
1981年　第66回二科会会友賞
1985年　二科会会員推挙
1986年　個展（ギャラリー白）
1988年　個展（ギャラリー白）
1989年　個展（大阪三越百貨店）第18回日本国際展入選（絵画）
1990年　個展（ギャラリー白）
1991年　個展（ギャラリー白）
現　在　二科会会員（審査員・彫刻）
草月流大阪支部長
日本いけばな芸術会評議員
草月流師範会理事

品をそれ以上に生かすことが求められていますから。

生け花は線の方向性で空間を表現する線の構成です。

画家・彫刻家・映画監督でもある今の家元から、私達はものをつくることを学びました。彫刻は清水九兵衛氏、絵画は元永定正氏と講師を招いて勉強もしてきました。

生け花は現在の活きた空間に自分を表現する総合芸術だと思います。花を生けることで、空間を倍以上に感じさせられるといいですね。

遊びのある大空間は刺激的です。10年前に建てられた草月会館〈丹下健三氏設計〉は、贅沢な空間です。3階までの吹抜で、イサムノグチの作品がある石庭では色んなことに挑むことができます。上への広がりをもつ空間に着眼された先先代の家元蒼風先生は、本当の芸術家だったのでしょうね。

草月にはフラワーワークというのがありまして、ホテルのロビーや展示会場の大ホールに生ける等の仕事が入ってきます。大きい作品だから難しいのではなく、一点の無駄も出せない小品ほど難しいものです。

家元の宏氏が、安藤忠雄氏と「ライカ」で去年なされたパーフォーマンスでは、私も屋上の芝庭園でのパーフォーマンスを演出したのです。会場が海に近いビルの屋上でしたので、足を運ぶうちに、朝夕の風の変化に気がつき、最初風にはらむ布をイメージしました。ところが、当日は朝から雨。演ずる時刻には雨は止みましたが風は吹かず。即興的に、歩かせた人にブルーの光りを射てて貰いました。コンクリートの壁に映る、動きと距離変化のあるブルーの影の面白さに演出を変えたのでした。変化する空間では、その変化も頭に入れておくことの大切さを勉強したのです。空間も、見ていい空間であるだけでなく、多目的に使い表現してこそ楽しいですね。

作品展の空間といっても、共同展と個展の空間があります。花博の頃、共同展でテーマを決め、間仕切りのない大空間で展開しました。多人数になると、レベルの問題で空間を殺す危険性も含んでいます。個展では、自由に環境を変貌させて表現できますが、現状では、会場選択に制限があります。ライカのような自由に遊べる空間でさせてもらえると嬉しいですね。

後進の指導も華道家の大事な要素です。皆がもっと空間扱いを学ぶと、華道も発展し華道家の社会的地位も上がると思います。草月流は、花のみではなく、異質素材でもっても、生ける人の精神を表現し、空間を変貌させることもあります。アクリル棒・縄・フーセンでも生けられます。現代造形との接点すれすれに位置し、空間環境へ呼応し挑戦し響き合い表現しています。

千葉の幕張メッセのような大空間で、大胆に遊び、大きく空間を変貌させたいものです。

（談）

（聞き手 福田由利／編集委員）



ライカ　撮影　中川邦昭

料理人

多々内廣行

ただうち ひろゆき プロフィール

1944年　東京に生まれる。
明治大学文学部仏文学科卒業後、フランス系商社勤務６年後退職。
ル・コルドンブルー料理学校（パリ）にてグラン・ディプロム取得。
パリの最高級レストラン「（前）アルケストラート」のアラン・サンドランスに師事。
その後、フランス各地のレストランで修業。

1983年　「ラ・ヌーヴェル　フォンテーヌ」を京都に開店、自らオーナーシェフとして活躍中。

フランスのエスプリ
――ラ・ヌーヴェル フォンテーヌ――



ラ・ヌーヴェル フォンテーヌ

私は長いフランス生活の中で、フランス料理の持つ味わいの深さや豊潤さを、肌で体験したことが、この仕事への強いこだわりの要因につながっているのではないかと思います。

フランスの文化である芸術性の高い料理を深く理解するためにはまず、フランス人の国民性や発想の違い、想像力の旺盛さ、同じラテン系でもイタリア人とは違った性格等、まず彼らの持つ優れた感性を学びとることが大切だと思います。料理は味の芸術であり、気候、風土、味覚の異なる日本で無限に拡がるフランス料理の味の豊潤さそのままを力強く表現していくことが、私のこの仕事への最もこだわりとしているところです。

このことは、私がプロデュースした空間にも反映していると思います。私は、フランス各地やヨーロッパ各国のレストランを体験しましたが、どの店にもインテリアにシェフやオーナーのしっかりした主張が感じられ、堂々としているように私の目には映りました。

こだわりのインテリア



窓際はゆとりの空間として演出されている

それらはインテリアを楽しみながら料理を味わうというトータルコーディネイトが、みごとに演出されていたのです。

オーナーシェフの場合は、そのシェフのセンスによる店造りが可能ですが、問題なのはオーナーとデザイナーが舞台をつくって、そこに料理人が入ってくる場合です。不適格な動線のために、働きづらい厨房であったり、自分の料理とイメージの合わないインテリアであったりするわけです。伝統的などっしりした料理を出す店と軽めのヌーヴェルキュイジーヌではインテリアも異なってくるわけです。又、特に厨房のしめるスペースが狭すぎるという事はよく耳にする話です。

私は店を造る時、自分の出す料理にマッチするような、フランスのエスプリを感じて頂ける雰囲気づくりを心がけました。それはシンプルで何年たっても飽きのこないデザインを目指しました。そしてこの業界は女性客の多いこともあり、フェミニンなエレガントさをもったパリの小粋なレストランのイメージに造り上げました。

計画にあたっては施工業者の方に自分で、プランや原寸のスケッチを描くなどして指示しましたが、何と言っても12.5坪しかなく、マンションということもあり、小さな空間をいかに広く見せるかということに一番気を使いました。

白い塗り壁は拡がりを感じさせ、家具や絵画を替えてもマッチしやすく、生花を飾った正面の丸テーブルの席は、ゆとりを演出する効果を狙ったもので、普段は使わないようにしています。

フランス料理のコースは2時間ほどかかるので、椅子は長時間運動しても疲れないメルセデスベンツのシートのほどよい固さを持ち、お客様が食事中に、ナイフやフォークを手に持ってスムーズに腕が伸ばせる高さのテーブルと組み合わせました。

一般に、日本のホテルのレストランなどでは、テーブルが高すぎたり、大きすぎるところが多いようです。照明の効果もレストランのムード作りには欠かせない要素ですが、間接照明の演出のすばらしさも、私はヨーロッパで十分体験したものを生かせたつもりです。

味の芸術である料理は、それがいかに美しく盛りつけられたとしても、その味が伴わなければ価値がないのと同様に、フランス料理店を作ることに限って言いますと、デザイナーの方も、味わいのある空間作りをするためには、図面を作る前に、レストランを体験されることが必要だと思います。店のインテリアを単に一見するだけにとどまらず、自らその空間に長時間お客様として何度か体験されることが快適な空間作りに大いに役立つと思います。お客様に快適な空間でゆったりくつろいで料理を楽しんで頂くため、料理そのものを含めたトータルな視点から、バランスの良いデザインを設計して頂きたいと考えております。(談)　　(聞き手 中村孝之/編集委員)



高貴でフェミニンなムードを標わせているゴブラン織り

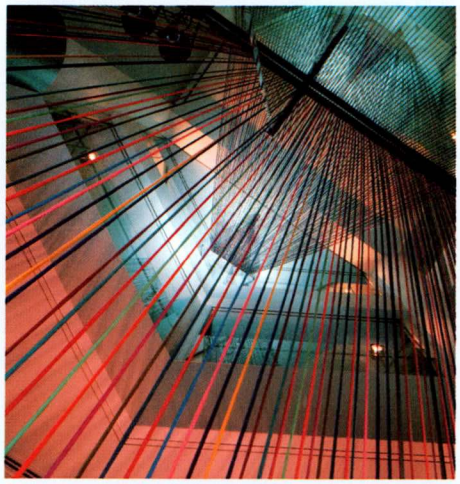
造形作家

草間喆雄

くさま てつお プロフィール

1946年　東京に生まれる。
1969年　武蔵野美術大学卒業
1973年　米国クランブルックアカデミーオブアート大学院修了
1975年　米国州立ユタ大学芸術学部助教授
1976年　米国芸術基金(N.E.A) クラフトマンフェロウシップ受賞
1979年　国際タピストリービエンナーレ(スイス)
1984年　現代日本ファイバーワーク展(ベルギー)
1990年　京都ファイバース展(米国)
1989年　芸術選奨文部大臣新人賞受賞
現　在　成安女子短期大学教授

イトーキ大阪ニューオフィスギャラリー



イトーキ大阪ニューオフィスギャラリー吹抜け

現在までにかなりの数の作品を空間にインストールしてきましたが、その中で特に自分で気に入っているものとして、「イトーキ大阪ニューオフィスギャラリー」のために制作した作品をあげたいと思います。

この空間での作品は、それまでに制作したものと異なり、期間を1年間に限って展示され、しかもウィンドウディスプレー的な機能を持たせるというものでした。このような試みは自分にとって始めての経験であり、スケール的にも上下方向に約14m、左右方向に約22mと非常に大きな立体作品でありました。素材・技術においても従来から使用していた織・糸という枠からはなれ、14色のアクリル製ロープ100本を建物の4階天井から1階床まで張り巡らせるという方法を試みました。このようにそれまでにインストールしたどの作品とも違う新しい作品を作る機会を得るこ

こだわりのインテリア



大阪音楽大学　撮影　柄松　稔

とが出来ました。一般的に建築物の内部空間において構造的な役割を果たしている素材は金属・石・ガラス・プラスティック等と非常に無機質で硬く冷たい素材でその大部分が占められています。そこに反対の性質を持つ素材：ファイバー・テキスタイル等が同じ空間に使われることによって、心理的あるいは、物理的バランスが保たれているように思われます。

今回の場合も建物の片面がガラスとコンクリート、そして床が石、柱に金属が使用されており、そこへアクリル製ロープというソフトな素材を用い、あるときはテンションをかけ、あるときにはゆるめるなどしてファイバーの持つ柔らかさ・暖かさ・線の美しさを強調し空間のバランスを保つように心掛けました。デザイナーあるいは建築家との共同作業に関しては、この建物が既存の建物であったためにほとんどありませんでした。しかしインテリアの一部に使用されていた装飾的な素材とのデザイン上の競合があり多少苦労しました。又、作品の設置が一時的であったために床部分での作品固定が出来ず止むおえず 100 kgの重石でこれに替えるようなこともありました。

現在、存在している空間とは限りませんが、大きな広がりを持つアトリウム的な空間で糸・布・ロープ等の軽くソフトな素材を使用し、空気の流れや風に反応するような立体作品を試みてみたいと思っております。又、反対に比較的小さく、機能的な要求が少ない空間（ショップインテリア等）でかつソフトな素材でも構造体の一部になりえる空間での仕事にも興味を持っております。

私自身テキスタイルデザイナー出身で現在、作家として活動していますが、インテリアデザイナーがある空間をてがける場合、その空間の目的にマッチした確かな方向性を持ったコンセプトを作り、それにもとづいて全て決定して行くべきであると思います。その空間に使われるアートがあるとしてもそれはデザインの欠点を補うためのものではなく、デザイナーと作家が協力してそのコンセプトにもとづいてアートをつくりあげていくものであると思います。

作家側も美術館・ギャラリーで展示している作品をそのままその空間に持ち込むような事は絶対に避けるべきである。

最近、興味深く見ているインテリアデザインとして、先に少しふれたショップインテリアがあります。制作過程は種々あると思われますが、とくにデザイナーと作家が組んで仕事をしているものに考え方・素材使いに今までにない新しい試みが見ることが出来ると思います。



イトーキ大阪ニューオフィスギャラリー1Fロビー　撮影　柄松　稔

インダストリアルデザイナー

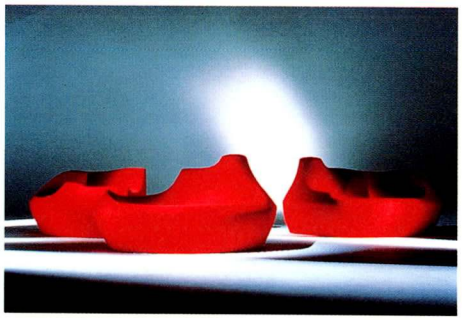
喜多俊之

きた としゆき プロフィール

1942年　大阪に生まれる。
1969年　イタリア、日本で制作活動を開始する。
1987年　パリ・ポンピドゥセンター10周年記念招待作家として「未来空間」を発表する。他に、ミラノ、ニューヨーク、ウィーン、バルセロナ等において個展や展示会に出展。
1990年　作品集“MOVEMENT AS CONCEPT”を出版。
1990年　スペインにおいて、デルタ・デ・オロ金賞を受賞。

ニューヨーク近代美術館に作品2点、ミュンヘンの美術館に1点が永久コレクションとして選定されている。
現在、イタリア、アメリカ、日本などでデザイン審査委員をつとめる。
環境及びプロダクトデザインで国際的に活躍する。
DIE NEUE SAMMLUNG 美術館のパーマネントコレクションに1988年TK-1・TK-2が選ばれている。

椅子へのこだわり
——デザインの出発点——



SARUYAMA

1980年に私がデザインした、CASSINA社の「ウインクチェアー」が、昨年ヨーロッパで一番売れている椅子に指定されました。これは私自身、子供の時から畳中心の生活をしていて、この視点で椅子というものをとらえたのがよかったのではないかと思っています。1990年にミラノで、私はこの椅子のルーツというべき「SARUYAMA」を発表しました。これは私が二十数年くらい前から温めていた椅子の原点をみつめたものです。椅子を考えるとき、私は昔から人間工学的なものだけで片づけるには抵抗がありました。それよりも、「イメージ」を創ることも必要と考えます。それが「SARUYAMA」といえます。

椅子を三次元の立体の世界だけで考えるのは無理で、「気分」というものも大切だと思います。「座り心地」と「気分よく座る」というのは別ものです。つまり椅子には座るという行為のための機能性といい椅子を見て感動す

こだわりのインテリア



ウインクチェアー

る精神性の二つの要素があります。限られた空間の中で、素材・テクスチャー・ボリューム・光など、そうしたものの総合的な関係としての家具づくりが私の考えです。

私が、漆塗りの家具を作ったりするのは、伝統工芸に強く心ひかれたからです。職人の作業場をみると、単にその職人の技だけではなく、そこには過去からの心の伝承が、その職人に乗り移っているように思えてなりません。例えば、和紙とか漆とかの素材の面白さだけでなく、素材そのものに過去からの集積があり、何世紀にもわたる何百人の人々の技術の凝縮があるのが非常に興味深い。これに「現代のデザイナーは何をプラスできるのか」と挑戦するのが楽しみなのです。ヨーロッパでは職人が企業に入り込み、内部で活動しているため、本来の職人という言葉の意味が変わってきました。職人と呼べる人はイタリアよりも、むしろ日本のほうにたくさん残っていると思います。

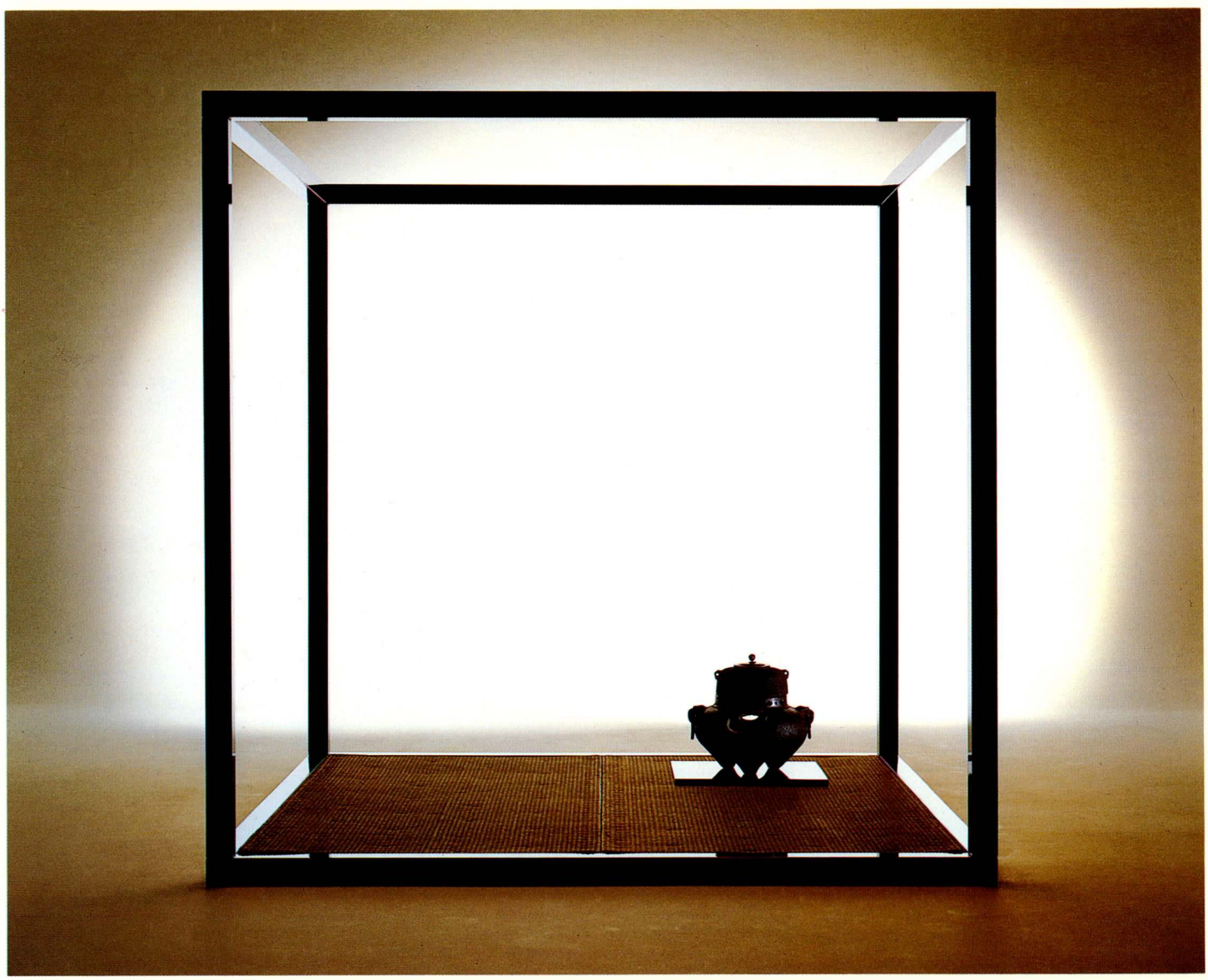
現在の日本は、特殊な状態におかれています。日本の気候、風土にあったものと、洪水のように外国から入ってきた文化、技術の入り混った大混乱の真っ只中にあると思います。

街並みを例にとっても、ヨーロッパでは過去の遺産をうまく継承してバランスを取っているのに比べて日本では、劣悪な街の風景が目立っている状況にあります。日本に来た外国の友人は、「京都は単に日本の一都市ではなく、世界有数の文化都市なのだから人類の遺産と考えてもらわなければならない」と言っていました。そして家庭もまたこの都市と同じような状況だといえます。考える間もなく、文化がまるで泡のように消えてゆくのは残念ですね。

住宅のインテリアも、本当はもっと良いものが出来ていてもよかったと思います。家族、親子の関係が、薄くなってゆくのも根本的には住環境に原因があるのではないでしょうか。住環境が、日本の将来を左右すると言っても過言ではないと思います。

日本の住まいで気になるのは、過去の人々が積み上げてきたものを、どうして新しい生活に吸収しないのかということです。日本には美しい精神性に育くまれてきた住文化があります。日本とヨーロッパでは、空間意識、家で靴を脱いでいるのといないということが、文化の基本的な違いなのでしょう。

日本の住まいの中身は、先進国と呼ばれる欧米からは遅れてしまいました。整理整頓や、インテリア・コーディネーションということも、空間の量と物の量とのアンバランスで、どうしてよいかわからないというのが現実です。生活の現場は、現実と夢の入り混じったものです。プロフェッショナルが一つの方向をガイドすることも、必要なことだと思っています。（談）　（聞き手　神谷　剛／編集委員）



セレモニースペース

舞台演出家

嶋田三朗

有ることが〝無〟、無いことが〝有〟
――演劇は哲学的時空――

「『無への憧れ』と私の芝居が評されたこともある」と語る嶋田三郎氏は、劇団「らせん舘」を率いる演出家。その劇団は、今、尼崎を本拠地に日本国内はもとより、ドイツ、イギリス、イタリア、タイ、スリランカなど世界各地を公演して回る現代演劇の小集団。嶋田氏は好んで近松門左衛門の作品を現代風に新しく演出し、そこに伝統の再発見、国に対する問題、民族のアイデンティティの深求といったテーマを盛り込む。演劇という限られた時空の中で、アジアの片隅の島国〝日本〟に住む私達に、もう少し地球的規模で自分達の暮らしを見つめ直してもらいたい、生きていく上で何らかの刺激となり得るものを感じとってもらいたいという願いを込める。

彼の演出する舞台は、衣裳や背景・小道具はもちろん、エピソードを文節化し区切るために使われる太鼓の音及びその打つ動作、舞台空間を全面的に使用するその手法、効果的



風に咲く

こだわりのインテリア



セロ弾きのゴーシュ

しまだ さぶろう プロフィール

1944年　大阪府堺市に生まれる。
1978年　劇団らせん舘設立。
1986年　廃工場跡に芝居小屋をつくり、近松作品を独自の構成・演出で上演、話題となった。移動劇団としての活動を始める。
1989年　海外活動を始める。西ドイツとイギリスで上演、エジンバラフェスティバルでは高い評価を受ける。
1990年　8月～10月　イギリス、西ドイツ、イタリア、スリランカ、タイの5ヶ国10都市で公演、大好評。
1991年　10月～12月　イギリス、ポーランド、ドイツの8都市で公演。

に考えぬかれた照明、闘争や衝突・追跡・逃亡の際に演じられる儀式的動作、合唱や舞踏の象徴性、言葉とそれが意図する向う側の真実を表現しようとしてほとばしる緊張感などなどで、視覚的に非常に素晴らしいものである。

演技とは、言葉の調子、動作、表情などその各々が一体となって、本当に伝えたい情報を発信する行為。つまり、言葉だけでは人間の感情は表現できない。「好きです。好きです。」の言葉の裏に、本当はそんなに好きでもないという感情が隠されている場合もある。かえって、そのような場面こそ、劇的なシーンなのである。演劇とは、こうした言葉の向う側にある人間の感情をコミュニケートするものなのだと、嶋田氏は強調する。

そのため、舞台に配置された小道具1つ1つに演出家の思い入れは込められ、それぞれに語るべき役割を与えられているのも当然のことである。確かに嶋田氏の演出する舞台インテリアは特異で、まるで抽象絵画のようであり、コラージュ作品の画面構成のようでもある。一見、ものに溢れたような舞台環境の中の1つ1つの小道具は、その各々が全く無関係のような面持ちでなんとはなく並んでいるようなのだが、テクスチャーの統一及び対比、物と物との距離・空間の頃合いなどは十分考えられた上で、その劇中無くてはならない意味付けがされている。それは「私達はものに囲まれた非常に豊かな現代に生きている。しかし、そのことによって失っているものがあることを帳消しにしてしまっても良いものであろうか」と言う『現代社会への警鐘』の具現化でもある。舞台をそうした小道具で飾り、その中で人が演じることにより、舞台のもの達は非常によく見えたり、全く消えてしまったりする。結局のところ、「人間の創造力こそが最も素晴らしいのだ」と謳うことにも繋がっていく。『無への憧れ』と評される所以もこうしたところにある。

また、彼は観客が劇を見るまでに歩む道行きの空間にも気を使う。それは、観客と一番最初の関係をどこで作るか、観客が劇場に入った時どのように向かえるか、を大切にしたいためでもある。昔、近松の時代には、橋を渡って劇場へ行った。沿道には小さな店、のぼりがたくさんあって、太鼓・お囃子が聞こえてくる。自然とこれから芝居をみるのだという気分になる。今なお、ヨーロッパにはそうした空間、環境が残っている。しかし、日本にはもう少なくなった。彼は道行きの空間を仕掛けることで、観客を非日常的空間に誘い、その別空間で観客自身が開放され、演劇に込められたメッセージに素直な状態で対峙するよう工夫する。

「らせん舘」の目標は、様々な国の人達で構成された劇団を作り、世界を移動する国際的活動をすることにある。その実現を私も心から願いたい。

（聞き手　西川純一／編集委員）



風に咲く

写真家

東出清彦

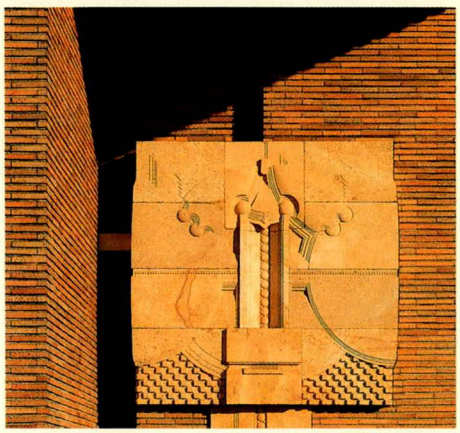
ひがしで きよひこ プロフィール

1941年　大阪生まれ
横浜市立大学独文学専攻

1971年　大型カメラによる建築の撮影をはじめる。
東出清彦写真事務所を開設。
現在に至る。

写真展　『悠悠閑閑』〈雲崗・西安他〉（大阪フォルム画廊）、1920年代日本展〈建築部門〉（東京都美術館・朝日新聞社）、現代建築と伝統技術〈シリーズ〉（アートスペース虹）他。

眼が思惟する世界へ



旧甲子園ホテル外壁のレリーフ

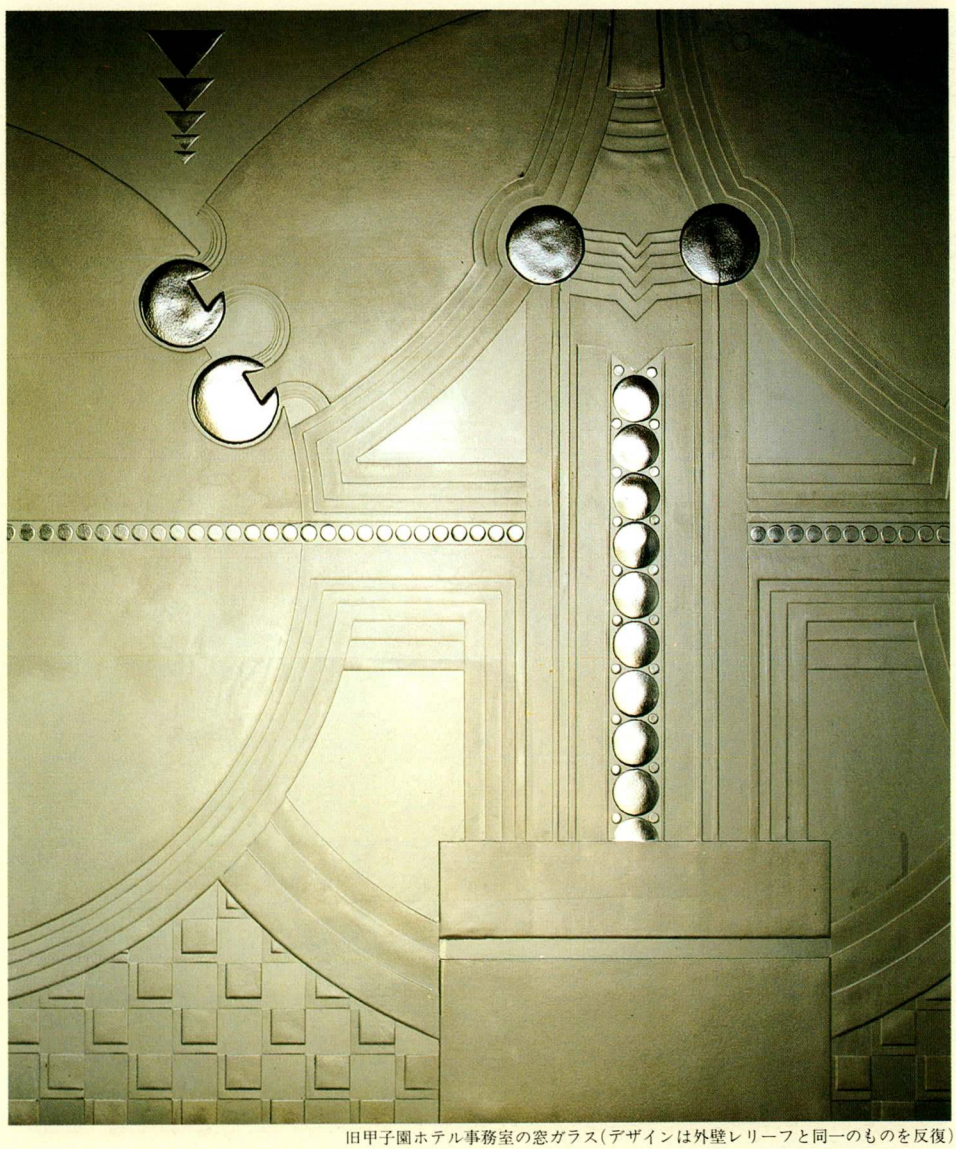
〈こだわりのインテリア〉というタイトルであるが、どの辺りを捉えてこだわりというのか焦点を定めかねている。近頃は、いい意味でも使うようだが、なにせ「そんな些細なことにこだわっていては大きい人物にはなれんぞ」というように負のイメージしか知らずにきた古いタイプ。

ここでは、「心に懸る」「凝る」といったところだろうか。

さて、ある空間を前にして、モチーフがなかなか見えてこないことがある。そういう時、呪文のように呟くことばがある。〈眼が思惟する〉と〈見えないもの見える眼〉である。ブルーノ・タウトと河井寛次郎の世界である。ここに共通するものは内に向かう精神である。光と時間により刻々移りゆく空間の発見への、集中を促してくれるのである。

タウトの桂・松琴亭における一節。『床の間にも二の間との境の襖にも、青白二色の真四角な奉書紙が市松模様に貼付けてある。ほか

こだわりのインテリア



旧甲子園ホテル事務室の窓ガラス（デザインは外壁レリーフと同一のものを反復）

のところだったら堪らない悪趣味に堕するだろうと思われるものが、ここではっきりした意味をもっているのだ——この一見異様な意匠は、ここから見えかつ聞えるあの小瀑の水の反射を意味しているのである。』

なんという類推のダイナミズム。タウトの思惟する眼が光っている。

1991年初秋。国道2号線を西へ武庫川大橋を渡ると西宮に入る。そのすぐ山手に松並木に囲まれて、旧甲子園ホテルがある。現在は武庫川学院第三学舎として使われている。

甲子園ホテルは、タウトの卓見の数年前、1930年に竣工した。この本館中央のバーの床に目を見張る陶片タイルが貼りつめられてある。窓からは、樹々を通してホテル客がボートで遊んだ池が見える。

この建築の土とやきものをテーマにカレンダーを作ることになり、その一コマにバーの床を撮ることにした。華麗で融通無碍。見ているだけで楽しくなる。二重の類推が浮ぶ。

ホテルにおける多彩なモザイク模様と池の水面の対応は、まるで桂における青白の市松模様と小瀑の関係のようではないか。

いま一つは、昼間、ボートで遊んだカップルが、日没ともなるとバーに繰り出しグラスを傾ける。足下は一面、タングステン光の温かいあかりに煌く、多彩な陶片のファンタジー。それは太陽光を反射して輝く池水の連想へ、そしてボートでの語らいや想いへと誘う。口に含んだウィスキーを転がすように、心の揺れる一時を楽しんでいる。そうだ！陶片のタイル床は、煌く池面なのだ。

ライトの弟子、遠藤新は、この類推を草葉の陰で笑っているだろうか。僕はシャッターを切った。建築家の、まだ見ぬ使い手への心憎い演出と、勝手に決めてかかっている自分にどこかおかしさを覚えながら。

建築家と、このタイルを焼き、敷きつめた陶工。両者の、生む苦しみと創る喜びを存分に楽しむ様が伝わってくるようだ。それは、こんなところにも現われている。タイルの裏面を故意に表面にして貼ってある箇所がある。そこには、窯元の印があり、墨によるメモ書きまである。そして、この粋が陶工の自信と責任と更なる向上への証しのようにもおもえる。

ホテル全体の色調は抑制されており、このバーの床面のみ華やいでいる。色彩感覚とその形状は今も斬新であり、かつ全体の統一感、バランスを崩していない。

昨今、ハッとする色や形が採り入れられたおもしろいインテリアが流行のようである。たしかに一見、強烈な印象を受けるが、しばらくするとその目を引いた、手間をかけた箇所が気になり、落ち着かぬことがある。

心がなごみ、寛ぎを覚えるのは、こだわりを超えた世界、なに気ない自然な感じの内にいる時ではないだろうか。単純で、風が流れていくような優雅があり、自由で天衣無縫さが感じられるような、そのような空間に僕は魅かれる。

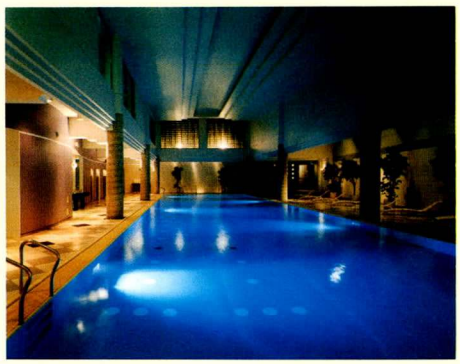


旧甲子園ホテルのバー（現武庫川学院第三学舎）

照明デザイナー

田村利夫

光へのこだわり

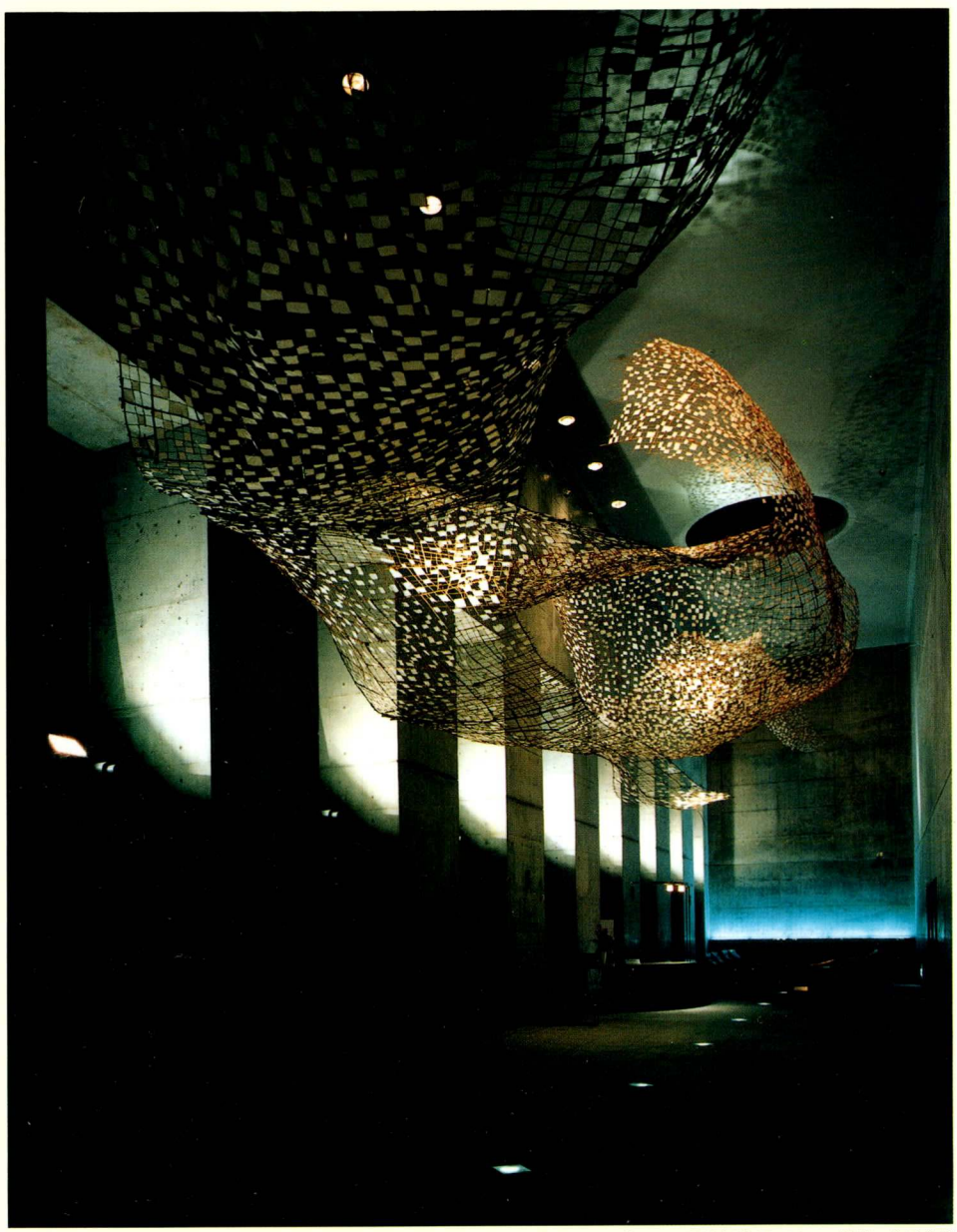


ラ・サンテ　撮影　福本正明

「こだわり」という言葉が氾濫する現代。その多くが物理的な物に対するもので、インテリアにおいても多分にその傾向はあった様に思われる。「この室は家具にこだわりました」など、その物の質の高さイコール空間の質の高さというとらえ方をし、結果、個々を見ると素晴しいが、全体を見るとバランスの取れない空間になっていることも多かったし、照明によっては、よりバランスを崩す結果にもなる。

元来、設計者はそれらの要素を介して生れる空間にこだわりを持っているわけである。照明もインテリアを構成する大切な要素のひとつで、いくら素晴しい空間が存在しても光がなければ人間の目には見えないし、感じられないに等しい。照明計画をする際、設計者とのコミュニケーションが大切なのはこの点

こだわりのインテリア



アシックススポーツ工学研究所1Fロビー　撮影　金子俊男

たむら としお プロフィール

1950年　東京に生まれる。
1975年　日本工業大学建築学科卒業。都市総合計画・環境開発研究所などにて、都市計画に参加。
1978年　ヤマギワ㈱入社
1980年　㈱ＴＬヤマギワ研究所大阪分室室長として、照明計画をてがける。
1988年　退社、同４月、ＡＺＵ設計工房設立、現在に至る。
著書　「インテリア・アイデンティティー」共著
主な作品　梅田大丸、ニチメン本社、京都国立近代美術館、ラ・サンテ、東京ブラウス大阪支社、パラディッソ、アシックススポーツ工学研究所、ダイキンＭＥＣ技術研究所、島精機製作所

であり、いかに設計者の考え方を汲み取るかで、結果が大きく変わる例えば、テーブル1つを取っても集中的に光を当てるのか、シルエットで見せるのかで、まったくちがった雰囲気になってしまうわけである。

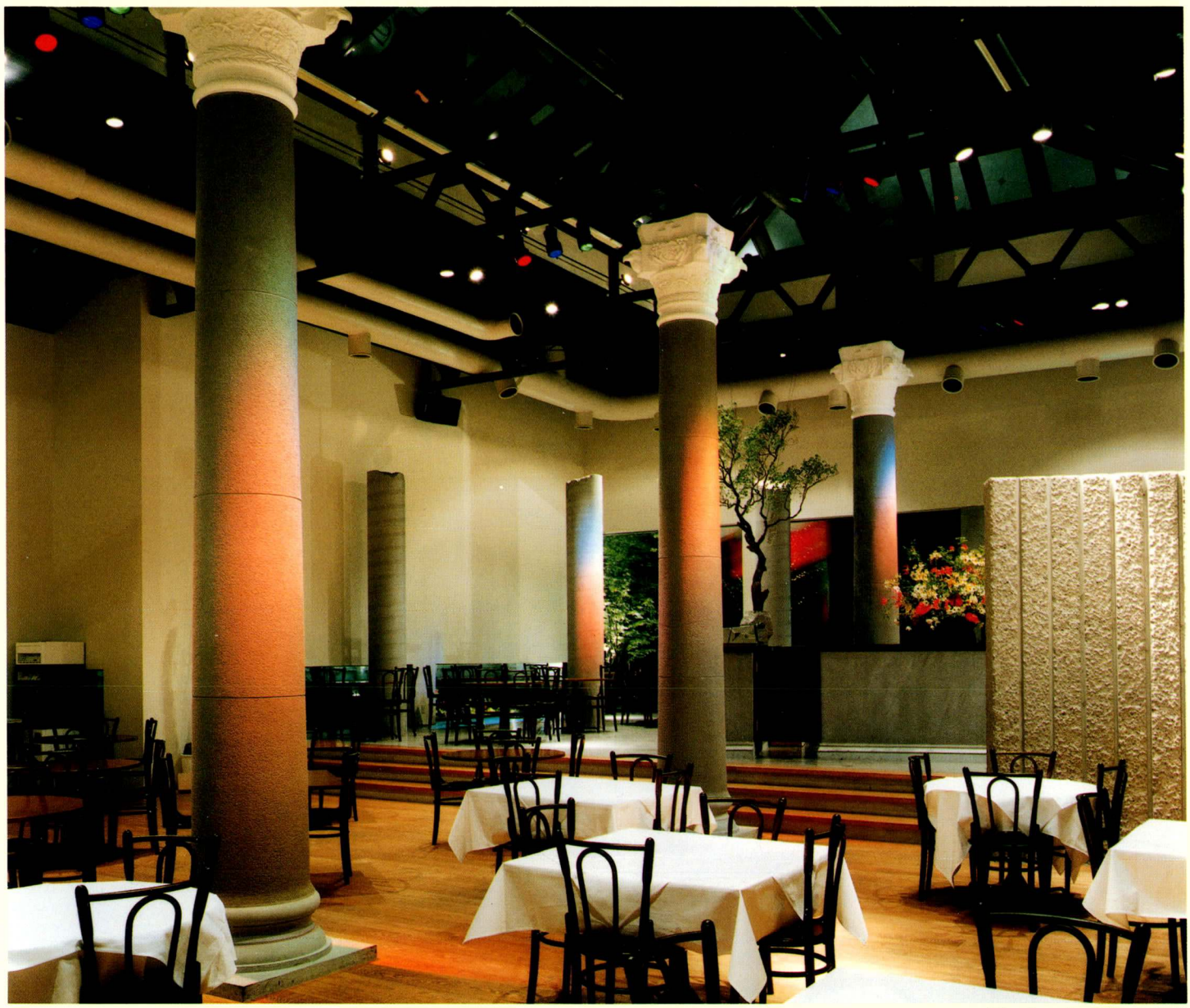
写真のアシックススポーツ工学研究所の1Fロビー空間は、インテリアにアートを融合させた例である。この空間は人工的なコンクリート打放しと、北山善夫氏の竹と和紙という自然の素材を使ったオブジェとで構成されており、空間に立つと人も時間も一瞬にして包み込んでしまう包容力と、力強さが感じられる。ここに立つ人それぞれが何かを感じ、何かを考える。それは全く自由であり、この様な空間自体を存在させること自体がこだわりである様に思う。この様な空間では照明も精神性を高めるための補助的な存在であり、オブジェを通して、空間のダイナミック性を演出しているわけである。

郊外型レストラン「ボナペティート」の空間は天井の半分以上をトップライトが占める吹抜空間で、前面も開放的な一面のガラスである。内部の仕上も壁は白のペイント、床はフローリングと部分的にコンクリートブロックである。そして、外部から内部にかけて、列柱が並んでいるというシンプルなインテリアとなっている。

家具なども決して、超高級なものではないが、この空間にゆとりをもって配置された時、それは質の高いものへと変わる様に思える。出来るだけ物理的な要素を切り捨て、インと、アウトを融合させ自然を体感できる空間そのものにこだわりを感じる。客は空間を通じておしつけではない豊かさを感じる。照明は光中心のスポットライトのみにより光と影とを演出し、空間の高さや、広さを感じさせている。そして、調光や、ポイント的なカラーライティングにより、光における「間」を演出している。

いづれの空間もこだわりの観点が物理的な物そのものではなく、これらのものが、調和し、融合した時に生まれる空間そのものであり、人をその中心にとらえている。

もともとそこに人間がいて初めてインテリアを感じ空気を感じる。いまや人工的な空間の中の人工的な照明のもとで、一日の大半を過ごさなければならない現代社会において、すでに生理的精神的な障害も報告されている中で照明ももう一度原点にもどり光そのものにこだわりをもたなければいけない様に感じる。



ボナペティート　撮影　金子俊男

こだわりのインテリア

北浦かほる

どうして今、インテリアなのか

歴史的にみて寝殿造りを除けば、日本には西洋に見られるような、インテリアという考え方は存在しなかったとされている。柱と梁の木組みに畳や障子・土壁で構成された日本の空間は、内部空間が外部空間と連続しているのみならず、表裏一体であり、建物の完成が即ちインテリア空間の完成でもあった。近代主義や機能主義建築が「形態は機能に従う」として、内部と外部が矛盾しない建築空間を主張してきたが、そこからも内部空間の自律性の確保はありえなかった。インテリア空間の原型は組積造の厚く、硬い壁をもつ西洋の内部空間にさかのぼる。そして、究極の純粋内部空間とは、外観のない洞窟住居であり、岩窟墓であり、地下室であった。

現代における洞窟的内部空間の意味はその意外性であり、外観からは推察できない内部空間の乖離や、別世界の展開の面白さであると言える。外観と内部空間の相互独立の主張はまた、現代においては町並みと屋内空間の分離であり、技術とアートとの分離でもあった。その矛盾と対立の面白さが、現代に洞窟空間の再構築をさらに促しているとも考えられる。そして今、インテリア空間は殻の束縛を離れて、自由奔放に羽ばたきはじめている。

しかし、その背景には価値観の多様化や、多くの物に取り囲まれた生活、そして開発や公害による外部環境の荒廃や、人間関係の錯綜したストレス社会がある。そういったことが、精神的にも物理的にも外なる圧迫から切り離され、やわらかなインテリア空間に包み込まれ、守られていたいと言う人々の渇望をより高めてきていると考えられる。まさに「未来の建築は柔らかくて毛深いものになるだろう」と言う画家S・ダリの予言通りになっていると言えよう。

このような今日的状況の中で、建築家は何にこだわり、デザイナー達は何をよりどころに、インテリア空間を計画しているのだろうか。建築家を含めてインテリア空間と馴染みの深い８業種の専門家の方々に、それぞれの視点からインテリア空間へのこだわりの原点についての主張をうかがい「こだわりのインテリアとは何か」を考えてみたい。

空間を「図」と見るか、「地」と見るか

ここにご登場いただいた各業種の専門家の、インテリア空間とのかかわり方は分野においてそれぞれ違いがみられる。建築家や舞台演出家などのように、インテリア空間自体を造る立場の人達と、華道家のように、出来上がったインテリア空間にかかわる人達とでは、インテリアのとらえ方は自ずと異なっている。また、対象とするインテリア空間が、、ある特定のインテリア空間なのか、不特定多数のインテリア空間なのかによっても、その空間へのこだわり方には相違がみられる。

８業種の中でも多数派である、特定の空間を対象としている人達は、空間を「図」として認識し、それに〈感性と精神性〉をもたせることにこだわっている。

例えば、華道家は「線の構成」を駆使することによって空間に〈自分の感性〉をそそぎ込み、空間を思いのままに従わせようとしている。与えられた空間に順応するのか、その空間に戦いを挑むのかで、用いる素材は自ずと決まってくると言う。造形作家も素材を用いて空間に〈自分の感性〉を表現することにこだわっている。彼は空間を構成している金属や石やガラスのような無機質で硬い素材に対して、柔らかさやあたたかさを感じさせる「ファイバーテキスタイル」を用いて、空間との心理的・物理的バランスを造りあげようとしている。そして写真家もまた〈自分の感性〉にこだわっている。彼は瞬時に逃げ去る「光と影」を、眼に見えない建築の息遣いを、心の眼でとらえ、それをカメラの目で再現しようとしている。

これに対して、照明デザイナーは自らの〈設計者の感性〉を高次元に実現するための演出者であると位置づけている。彼は光を通して空間のダイナミック性を演出し、しかも常にその中心に人をとらえている。人の感性なくしては空間が見えず、空間を認知するためには光が必要である。人工的な空間の中の人工的な照明が生理的・心理的障害を生んでいる現代においては「光」の質そのものが問題であり、それは空間の内外を融合させた、自然を体感できる空間へのこだわりでもある。

また、料理を味の芸術であるとするシェフは、その〈文化の感性〉がにじみでる物や空間にこだわっている。フランスの風土と気候の中で生まれたフランス料理の本質を味わうためにはその背景となる文化抜きには語れないと言う。そして、舞台演出家は言葉の背後にある〈時間も文化さえも乗り超えた人の感性〉人間の感情をコミュニケートするものにこだわっている。それこそが演劇なのだと強調している。彼は物本来の姿を無に帰し、存在としての「物」と「その相互関係」を演出することによってはじめて、舞台空間における時間と空間を超えた、即ち文化も民族も伝統さえも乗り超えたコミュニケーションを成立させることが出来ると確信している。

他方、ファッションデザイナーや工業デザイナーなどのように、不特定多数のインテリア空間を対象として物造りをしている人達は、空間を「地」と認識している。

彼らのデザインした〈モノの感性〉を生かすためには、インテリア空間が〈感性〉を持ち自己主張することは許さないとしている。生活の場におけるファッションの色や、椅子の素材を生かすためには、空間は禁欲的でその存在さえ意識されてはならないと言う。そういった不特定多数のインテリア空間に求められる機能は、無機的で、シンプルで、無と一体感を持ち、無限の広がりを感じさせる「地」としての空間である。

空間を超えた「時間」へのこだわり

対象とする空間が特定か、不特定多数かによって、空間へのこだわり方には大きく差がみられる。それはインテリア空間を「図」と見るのか「地」と見るのかの違いでもある。

しかし、両者に共通して見られるのは人の存在を超えた〈時間〉へのこだわりである。空間を「図」と意識しようと「地」ととらえていようと物造りにかかわっている人達は、〈時間〉を超えた空間の本質、そして再び生を超えた人の存在に迫ろうとしている。

華道家は風や日差しの変化をとらえることで空間に〈時間〉のうつろいを映し出し〈時間〉の背後にある空間の感性をとらえようとしている。造形作家も空気の流れや風に反応するものを意識している。そして常に、空間を通して〈時間〉を超えた人の存在を感じ、空間と対決する期間を念頭においている。

最も〈時間〉にこだわっているのは工業デザイナーである。彼は椅子の機能性以上に、その精神性にこだわり「過去からの伝承がある素材」そのものにこだわっている。伝統工芸を過去からの文化や技術の集積として受けとめ、それが凝縮されている素材の扱い方に〈時間〉を意識している。それは彼が『たった1つの椅子』を通してかかわるインテリア空間が、多種多様で不特定である上に、そのほとんどすべてを把握出来ないこととも関係していると考えられる。素材の語る〈時間〉を通じて、彼は過去の空間を現代のさまざまなインテリア空間にだぶらせようとしているのであろう。

そして、建築家もまた素材に〈時間〉を語らせることにこだわっている。華やかに現代を語るおしゃべりな素材が氾濫する中で、彼は「沈黙の素材」を使ってインテリア空間を創造し、人の感性を無言のうちに未来まで語り続けさせようとしている。

空間が無機的な構造物としてとらえられる限り〈時間〉は永遠であった。しかし、そこに人の影を投影し、感性や精神性を持ち込むや否や、空間は有機的で、限りあるものとなる。そして人は「生」あるからこそ、いつの世までも無限でありたいと願い、自分のつくる空間に無限の〈時間〉を刻み込むことによって、不滅の自己の「生」にこだわって生きているのではないだろうか。

「生」のゆらぎをどう伝えるか

この原稿を書きかけていた時、丁度、東京で建築学会の空間研究委員会主催の「イメージの風景論」と題する研究会を持った。映画監督の篠田正浩氏の「心中天網島」を鑑賞した後に、氏の話をうかがった。彼の空間のとらえ方とその表現についての話はとても興味深かったので、余談になるかもしれないがその一端を紹介したい。

「心中天網島」は1250万と言う映画としては法外に安い製作費しかなかったこともあり、オープンセットを一切用いず、グラフィックデザイナーの粟津潔氏に依頼して、グラフィックによるコピーで近松の世界をつくりあげたものだと言う。それは江戸中期の読み本の木版文字のコピーを駆使したイメージの空間であった。この物語自体、日本人の意識下にある「生と隣あわせた死」への葬送の儀式化であり、形而上的思念の世界を心象の空間として描いたものだと篠田氏は言う。生は常にゆれ動いているが、それは死によってのみ固定される。近松の人形浄瑠璃の世界はまさにそれを表したものである。彼は黒子を使うことによってその世界を象徴し、その形而上的空間を、天井のない、結界による空間で表現している。彼は日本の文化はその底流において、死からすべての問題を考えていると解釈している。床の間が日本間の一つひとつが危険な死のイメージをはらんでおり、彼は幼い頃からそれらに常におびえていたという。伝統的な日本の空間は生と死が襖1枚で隣合わせている空間である。日本人は超近代的な高層ビルを建てる時にさえ、地鎮祭をしている。こうしたことにこだわりを持つ限り、我々は日本的文化の中の時間と空間から解放されることがないと言う。

しかし他方、住まいの中に仏間も仏壇もなくなり、葬式すら家でしなくなった現代では、住まいから自分たちの運命を暗示する空間が失われてしまっているとも言う。そこにはきれいで、うすっぺらな空間しか存在しない。

現代に必要なのは日常生活の中で、必ずやってくる「死」をどうイメージするかであり、「生」のゆらぎをどう伝えるかであると言う。彼はこれまで常に『いかに死ぬか』を映像の中で模索し続けている。人間の生から死への移ろいの速さにくらべて、現代の空間はその変化についていけない。今、住まいの中に「生」のゆらぎを感じさせる空間が必要だと言う。

彼もまた、時を超えて日本的感性をもった心象の空間、即ち自分達の「運命を暗示する空間」にこだわっている。

（きたうら　かほる／大阪市立大学助教授）

北浦かほる　プロフィール
大阪市立大学卒1963年。倉敷建築研究所を経て現在、大阪市立大学生活科学部生活環境学科助教授。学術博士。住居計画及び環境心理。主な著者：「インテリアの発想」彰国社。「建築・都市計画のための空間学」井上書院。「図解住まいの設計」彰国社。

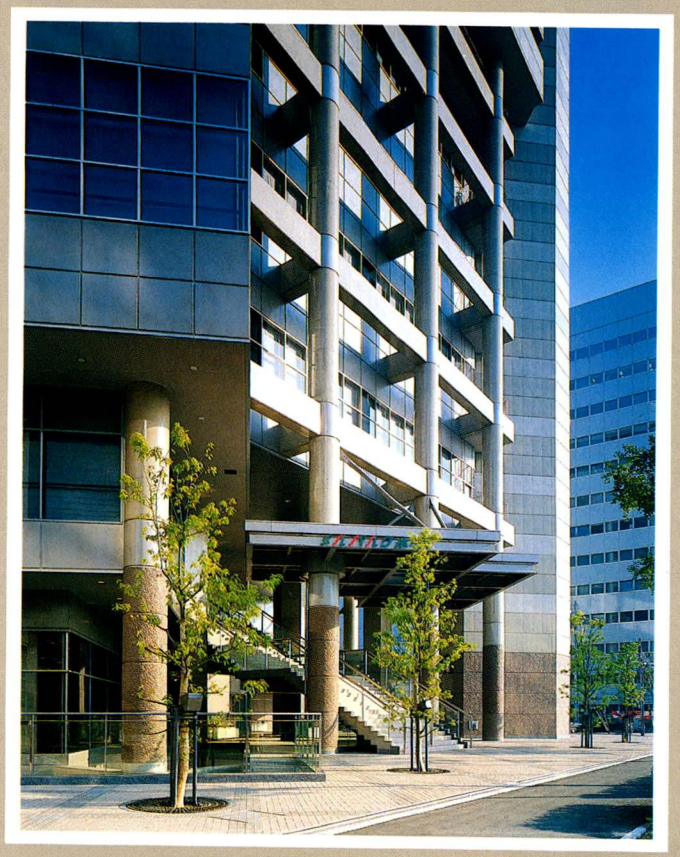
「建築と社会」誌21年●特集一覧——昭和47年～平成4年

「建築と社会」誌は昭和42年からA4変形判となり、特集と作品作風頁を二本柱に、シリーズものの頁を織り込み、その時の社会を反映したテーマを選んで掲載してきた。売価は980円（消費税込）。購読希望者は事務局（06—348—0635）へ。

＊は欠号

巻号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
昭和47年（53集）	冬期オリンピックと札幌	600号記念号	インテリアデザイン	都市交通問題	水利用	量産住宅の設備	一般号（桂中学）		都市住環境へのアプローチ	都市防災	第19回青年技術者	北陸の新建築
昭和48年（54集）	建築教育	泉北ニュータウンのコミュニティ施設	大阪大林ビルディング	レジャーと施設	大阪国際ビルディング	老人コミュニティ	住宅—建築家のすまい	新用途地域制と環境	構造と施工	仕上と材料	第20回青年技術者	ヨーロッパのまちづくり
昭和49年（55集）	歴史的環境保全	明日の建築はどうなるか	保養所作品	既成市街地の住宅地整備の方策	北摂ニュータウン計画	建築生産と流通機構の変容	ビルの省エネルギー化	高層プレハブ住宅の構造設計	みどり	屋根防水工事の失敗例とその対策	第21回青年技術者	ビル防災に関する12章
昭和50年（56集）	図書館	東海の新建築	インテリア	PC板を使用した工業化住宅	社会・建築・法	都市の景観と施設	建築とプレストレストコンクリート	生活排水処理施設のあり方	人間環境としてのターミナル	騒音対策と防音材料	第22回青年技術者	集合住宅の設備
昭和51年（57集）	証言'76—建築デザインの動向	建築基礎構造の問題点	医療施設	床工法と材料	建築防災と法	市街地整備	工場建築と設備	鉄骨構造のジョイント	集住体のハードとソフト	結露防止対策と断熱材料	第23回青年技術者	設備からみた建築の問題点
昭和52年（58集）	デザインの動向—部分と全体	兵庫県—その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	コンクリートの品質管理と行政指導の方向	日影規制と法	身障者施設	照明設備	埋立地における構造問題—大阪南港と芦屋浜を例として	日本住宅公団と建築作品	ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ	建築における省エネルギー化	第24回青年技術者
昭和53年（59集）	デザインの動向—新旧のコントラスト	水	医療施設—病院建築と情報システム	外壁塗装材料	電波障害と建築	組合方式による集合住宅計画	住宅設備	新しい耐震設計	CAD—設計とコンピュータ	一般号	第25回青年技術者	ビル環境
昭和54年（60集）	転換期の再開発	大阪南港ポートタウン	商業空間	コンクリートのひびわれ	日影規制	ホテル建築と情報システム	農村施設の変貌	建物の終局強度の検討	庄内のまちづくり	80年代のインテリア	第26回青年技術者	建設業の労務事情
昭和55年（61集）	80年代の都市と建築—まちづくりの歴史と展望	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集	住宅の耐久性	建築行政と法規	最近の防水工法	都市景観とアメニティ	屋内体育施設の設備	水ぎわのまちづくり	今後の外装吹付仕上材	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション集合住宅	設計のための新耐震設計法
昭和56年（62集）	職能論	中国の論文—北京の都市計画	ポートピア'81	台所まわりの計画と設備	シーリング材の知識	災害と法—安全な環境をめざして	都市住宅—住まい手からの発想	●建築物と風—デザイナーのために ●日建設計作品集	住宅都市整備公団—関西における都市整備を中心とした新公団の役割	間仕切壁の性能評価	第28回青年技術者	障害者の暮らしやすい環境と設備
昭和57年（63集）	新たな商業空間の展開	省エネルギーと開口部	医療施設—地域医療と設備計画	近畿の地盤と地質	都市景観—まちなみ美観への誘い	大阪市庁舎（第一期）	音とホール建築	大スパン構造	昭和設計作品集	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築	風土・空気と人間
昭和58年（64集）	関西の建築文化を考える	マイコンの建築への利用	多様化する運動施設	建築と品質管理	計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	大阪駅とターミナルビル	維持管理と設備更新	東海の将来と文化を考える	オフィス・インテリアの変革	プレストレスト（鉄筋）コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール	集合住宅と生活音
昭和59年（65集）	21世紀への関西—魅力あるまちづくりを問う	関西の超高層ビル	ビルのリフレッシュ—内外装補修技術の現状と発展—	建設産業とロボット開発	住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口（アバンティ）	消防設備のポイント	みどりとそれをとりまく人々	高齢化社会と生活空間	床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	光応用システムと建築
昭和60年（66集）	大阪湾物語	東海の現在と近未来	●自由様式への道—建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	情報化をめぐる建築・都市事情	ホール—それが生み出す文化—	建物の表情—最近の外壁材料	大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	都市と健康スポーツ	●接合 ●日建設計作品	●村野藤吾の一断章 ●東海特集	第32回青年技術者
昭和61年（67集）	これからの住空間—都市型集合住宅にみる	屋根—そのデザインと素材	●現代デザイン—ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	インテリジェントビルの建築・設備計画	自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎	21世紀の住居と設備	●開発 ●ツイン21	CAD—その応用と展開	オフィス空間の構成	第33回青年技術者	インテリア・イクステンションとリニューアル
昭和62年（67集）	入浴物語	腐食	創立70周年記念号	躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	室内の仕上床	駅	行政建築家の可能性	シティホテルの設備	宝塚のまちづくり	●建物と街並みの接点 ●昭和設計作品集	第34回青年技術者
昭和63年（69集）	ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統—東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	建物の外装リフレッシュ	都心居住	中国地方の展望とひろしまのまちなみ	21世紀への照明	制振	超高層住宅を考える	●大阪府営繕 ●集合住宅のリフレッシュ	●第35回青年技術者 ●800号記念	讀賣テレビ
昭和64年 平成元年（70集）	夢をのせる輸送設備	●竹中工務店創立90周年記念 ●リゾート事情	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術	省力化のための材料・工法	まちづくりと法	博覧会とまちづくり	都市環境創造と設備Ⅰ	建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備Ⅱ ●ユーザー参加のハウジング	第36回青年技術者	最近の博覧会パビリオン
平成2年（71集）	商業化住宅のデザイン	ニュータウン・ルネサンス	東海の都市景観	スケール感	プレハブ住宅技術の現在と未来	国際花と緑の博覧会	建築家のための設備知識—中規模オフィスビルによるケーススタディー	高強度化—設計の多様化をめざして—	やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観	感性の時代を迎えての外装材
平成3年（72集）	新しい都市空間づくり—Ⅰ—	●オフィス・プレジャー— ●新しい都市空間づくりⅡ— ●建築の風景	東海支部復活30周年記念	大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識—複合商業ビルにおけるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	一般号	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんてん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木—構造技術の世界— ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
平成4年（73集）	夢物語—人がかわる、まちがかわる—	●こだわりのインテリア ●近畿郵政局建築部作品集	建築とデザイン—東海支部—（予定）	●建築家のための設備知識 ●地球環境時代の建築	住宅・都市整備公団関西支社—公団の集住これからの10年—							

近畿の郵政建築15年の歩み



●

不易流行・百花繚乱 ―郵政建築の現況―

●

座談会―郵政建築、今日から明日へ―

●

郵政建築79点

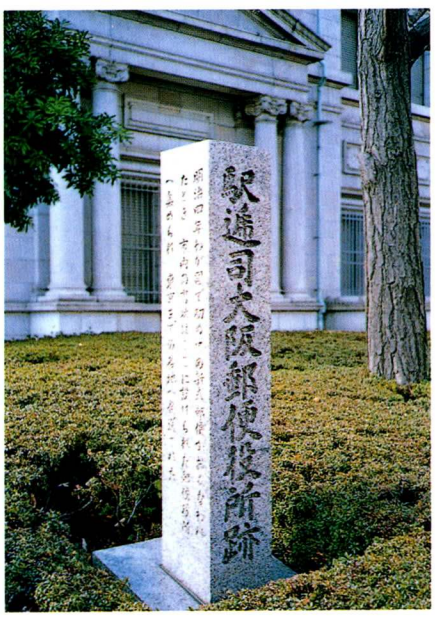
不易流行・百花繚乱
―郵政建築の現況―

観　音　克　平

大阪・中之島の日本銀行大阪支店前に「駅逓司大阪郵便役所跡」と刻まれた小さな石碑が建っている。ここに、郵便創業(明治４年）と同時に郵便役所が置かれたことを記念するものである。大阪郵便役所は、大阪郵便局、大阪郵便電信局と名を変え、明治26年には、同じ中之島の別地で、煉瓦造の堂々たる様式建築に生まれ変わる。工部大学校造家学科第一回卒業の逓信技師佐立七次郎の設計である。のちに大阪中央郵便局と改称され、昭和15年、梅田の現在地に移転されるまで、中之島にその偉容を誇った。

昭和14年、大阪駅前に、大阪中央郵便局が完成する。吉田鉄郎が心血を注いだ不朽の名作である。山田守の逓信病院とともに、日本の現代建築の礎を築いたものとして、内外から高く評価されている。昨年、この窓口を改装した。昭和51年についで、２回目である。かなり大幅に手を入れたが、原作の格調を損なわずに今日化すること、いわば「古き革袋に新しき酒を盛る」ことに心を砕いた。奇しくも、東京・大阪の両中央局の改修に関わったが、あらためて、吉田鉄郎の建築に対する執念と情熱をひしと肌で感じ、粛然とさせられるとともに、この足跡を大切にして、郵政建築の伝統を未来につなげて行きたいとの念を強くした。

ちなみに、逓信建築をその出発点とすれば、郵政建築は今年で107年目を迎える。郵便創業にまで遡れば、120年を越える。その歩みは、まさに、日本の近代建築史そのものであるといってよい。擬洋風に始まり、本格的西洋様式、そして、近代建築運動を経て、合理主義・機能主義に逢着する。戦争による空白の時期はあったものの、通信の持つ近代性・先端性に根ざした「進取の姿勢」は逓信省から郵政省へと改編されてからも受け継がれ、基本的には、今日に至るまで貫かれている。その建築作法は、小坂秀雄、薬師寺厚などの作品に見られるように「合理的」、「禁欲的」で、意匠も簡明・直截を旨とし、繰り返しによる洗練と比例美・整合美を追求しているが、印象としては、どちらかといえば「地味」で、いわゆる玄人好みであった。しかしながら昭和50年代に入って、民業との競争が表面化し、郵政事業の営業化と、郵便局と地域との密着が叫ばれるようになると、これに呼応して「店舗性」や「地域性」をテーマに打ち出した作品が登場する。さらに、昭和60年代に入って、工事量が急増し、設計者の若年化が進むのを機に、在来の郵政建築の作法にのっとらない自由で華やかなデザインが堰を切ったようにあらわれる。まさに「百花斉放」である。そして今日、少なくとも表面的には、「郵便局は変わった」「とても郵便局には見えない」「郵便局は面白い」などと評されるまでに変貌する。公共建築としての節度を保ちつつも、そこには、かつての統一的なスタイルや強力なデザインポリシーに代わって、状況や与条件に臨機応変に対処する柔軟な姿勢がうかがわれる。芭蕉の言う「不易流行」である。これも先に述べた郵政建築の伝統である「進取性」の一つのあらわれであろう。



このように、現在、郵政建築は多様かつ多彩な展開を見せている。「百花繚乱」といってもよい。それは地方郵政局の作品において、特に顕著である。この意味から、本企画で、近畿における「郵政建築15年の歩み」を概観することによって、郵政建築の変貌の過程を追体験し、同時に、郵政建築の内外から、そのあり方を問い直し、「郵政建築の明日への方向性」を探るよすがとしたい。

末筆ながら、郵政事業も郵政建築もサバイバルをかけて、懸命の努力をしている。「百花繚乱」はそのあらわれともいえよう。しかしながら、こんな今こそ、もう一度、郵政建筋の原点に立ち戻って、自らのとるべき方向を考えてみる必要がある。

この特集が、郵政建築の近況を伝え、広く読者から、ご叱正とご鞭撻をいただくきっかけになれば幸いである。

（近畿郵政局建築部長）

郵政建築、今日から明日へ

座談会

日　時　1991年11月13日(水) PM6:00～8:00
会　場　メルパルク OSAKA(大阪郵便貯金会館)



澤　　良雄(アトリエ サワ主宰)
1970年　東京大学工学部建築学科卒業
磯崎新アトリエ 勤務を経て
1971年　工房S20 設立主宰
1972年　伊丹市内にて、アトリエ サワと改称主宰
●主な作品：伊丹市迎賓館「鴻臚館」(1984)、大西呉服店（内子町景観デザイン賞受賞,1991)、伊丹市営斎場(1991)、ハッセルト市セレモニィハウス（工事中）など。



中川　　理(平安女学院短期大学・京都精華大学非常勤講師)
1980年　京都大学工学部建築学科卒業
1988年　京都大学大学院博士課程修了（工学博士）
1989年　日本学術振興会特別研究員、現在、平安女学院短期大学、京都精華大学非常勤講師
●著書：「重税都市―もうひとつの郊外住宅史―」。共著：「モダンシティーKYOTO」、「近代建築ガイドブック関西編」など。
●日本都市計画学会論文奨励賞受賞(1991)

観音　克平(近畿郵政局建築部長)
1972年　東京大学大学院(建築史)修了
1972年　郵政省入省(大臣官房建築部)
1977年　トロント大学大学院留学(～79年)
1981年　東海郵政局(設計課長)
1983年　東京郵政局(設計課長)
1985年　大臣官房建築部設計課長補佐
1988年　北陸郵政局建築部長
1990年　近畿郵政局建築部長
●従事した主な設計作品(完成年)
中京郵便局(1978)　沖縄郵便局(1982)　田園調布郵便局(1986)　水戸中央郵便局(1989)　大阪郵便貯金会館(1990)



大久保久能(建築研究所ALSEC主宰)
1972年　早稲田大学理工学部建築学科卒業
1972年　兵庫県北摂開発局
1974年　坂倉建築研究所入所
―グリンピア三木、浪速短大伊丹学舎等を担当。
1987年　建築研究所ALSEC開設
―住宅・医院・オフィスビルを中心に、商業施設や社寺、公園・マリーナ等。
●主な作品：塚口T邸(1988)、キューブ園田(1988)、4walls(正英印刷ビル)(1990)、和歌山県護国神社(1991)、坂田医院(1991)





山本　　晃(近畿郵政局建築部設計課長)
1979年　東京工業大学大学院(建築系)修了
1979年　郵政省入省（大臣官房建築部設計課）
1984年　東京郵政局(設計係長)
1987年　大臣官房建築部設計課長補佐
1989年　近畿郵政局建築部設計課長
●従事した主な設計作品
聖蹟桜が丘郵便局・郵政宿舎(1987)、一橋学園駅前郵便局(1988)、京橋郵便局(増築模様替、1988)、長崎北郵便局(1990)



垣内　　晃(近畿郵政局建築部設備課長)
1977年　大阪府立大学工学部電気工学科卒業
1977年　郵政省建築部入省(設備課)
1984年　中国郵政局建築部設計課機械設備係長
1986年　郵政省建築部設備課課長補佐
1990年　近畿郵政局建築部設備課長
●郵政本省時代は、郵便局の電気設備および空調衛生設備の設計、工事管理業務や設備設計基準の改訂作業等に従事。現在は、管理業務を主に行っている。



山内　一正(近畿郵政局建築部設計課)
1970年　奈良県立吉野工業高校建築科卒業
1970年　郵政省入省（大阪郵政局建築部設計課）
1973年　大阪工業大学短期大学部建築科卒業
1982年　近畿郵政局建築部建築技術官
●従事した主な作品
吉野山郵便局(1980)、姫路今宿郵便局(1981)、吉野郵便局(1984)、国包郵便局(1988)、日置川郵便局(1989)、香芝郵便局(1991)



本特集にちなんで、関西で活躍中の若手建築家と近畿郵政局建築部職員とで、郵政建築の現況と明日への展望について、自由に発言するフォーラムを開催した。近畿郵政局の観音建築部長が司会を兼ねた。
なお、これに先だって、雑誌『郵政建築』(含、年鑑)および完成写真ファイルなどで郵政建築の近況を概観し、併せて、最近完成の浪速郵便局およびメルパルクOSAKAを出席者全員で見た。

座談会および見学会スナップ写真撮影／平塚　潤（近畿郵政局建築部）

観音（司会）　ここにご出席の部外の方も、「郵政建築」についてはある程度の予備知識をお持ちのこととは思いますが、ここ十年ほどでずいぶん変わってきております。最近の状況もご理解いただきたいということで、この座談会に先だって見学会を催したというわけなんです。

「郵便局が変わった」という声がよく聞かれますが、郵便局の基本的なところは、実は余り変わってません。つまり、簡単に言いますと、明治から今日に至るまで一貫して、郵便局は利用者、今、われわれが呼んでいるところの「お客様」すなわち、一般国民のための建築であったと言って良いと思います。しかし、最近になって、郵政事業そのもののお客様に対する姿勢が、受け身から能動に変わってきまして、必然的に郵便局のあり方も「お役所」から「お店」へとシフトしてきました。その要因としては、10年ほど前からなんですが、郵政事業が民間企業との競合に直面し始めたことがあげられます。われわれも営業という視点からとらえ直さなくちゃいけないと。郵便・貯金・保険の三事業ともに言えることなんですが。国の経営する企業ではあるけれどもやはり一つの企業だと、そういう意識に変わってきて、窓口一つにしても、用がある人は来なさいという態度から、お客様に来ていただこうという姿勢に変わってきてます。したがって、われわれの建築に対する姿勢もそれに伴って変わってきていますし、そういうことが建物のいろんなところにあらわれていると思います。

平成3年度の近畿郵政局建築部の指標は、“魅力ある局舎づくり”ですが、スローガンそのものが「お客様を引きつけていこう、よりよいサービスを提供しよう」というふうにユーザーを意識したものとなっています。ここから、われわれの今の建築活動のすべてが派生しています。コミュニティー・ルームを設けていることや窓口をゆったりとしてお客様がくつろげる雰囲気にしていることも、この一環です。

お客様とは直接関係のない作業室についても、機械化を導入するなど、作業を効率化し、できるだけ早く配達に回せるように工夫してますが、それも大きな意味でのお客様サービスだろうと思います。

作業室も、お客様と直接触れ合う窓口も、営業化時代にふさわしいものを追求した結果の最近例の一つが、今日見ていただいた浪速郵便局です。なお、郵便貯金会館もお客様サービスと作業性を追求したという意味では、郵便局と軌を一にしたものです。

商業主義の時代に郵政建築は…
—営業性・地域性とデザイン—

観音　前置きが長くなりましたが、この辺で座談会に入りたいと思います。今日の建築界の状況をふまえて、明日の郵政建築を展望できれば幸いです。

それでは皮切りは、歴史家として、公共建築のデザインにも興味を持っていらっしゃる中川先生にお願いします。

中川　今日は、最近の郵政建築を非常に面白く拝見させていただきました。郵政の方々の前で、さらに郵政の建物（メルパルク大阪）の中で、なかなか批判的なことは言いにくいなと思いますが（笑）、勝手に言ってしまいます。

観音　後でカットさせてさせていただくかも知れませんが、ご遠慮なく（笑）。

中川　今日、写真をふくめて郵政建築をいくつか拝見して、最初に感じたのは、今はやっぱり商業建築の時代なのかなということですね。つまり60年代、70年代ぐらいまではずっと公共建築の時代だった。それが、現在、たとえば建築の雑誌なんかを見ても、載ってるのは住宅のほかは、もっぱら商店やホテルといった商業関係の建築が多いですね。そんな中で、浪速郵便局を見て思ったのは、商業建築的な要素が非常に多く取り入れられているなということです。

さっきのお話にありましたように、確かに、郵政も今、民業との競争で営業重視路線に転向してきたということはあるでしょうけれども、郵政事業そのものは公共的な側面を持っているわけですから、やっぱり郵便局というのはどちらかというと公共建築に位置づけられると思うのですね。公共建築のデザインというのが、今、ドラスチックに変わりつつあるというのは確かですが、そういう中で公共建築にいわゆる商業建築で使われているデザイン的な手法ですとか、エレメントを取り入れていくことが、果たして公共建築のあり方としていいのかどうかというのは、いろいろ議論があるところです。もちろん、新しい時代に即したデザインというのを考えなければいけないということは大前提にあるんだけれども、商業的な価値観から出てくるデザインを取り入れることが果たして新しい公共建築のスタイルを考えるということになるのかどうかということですね。

ほかの官公庁でも、たとえば県庁だとか市役所などはまだしも、最近ですと警察の交番ですとか、公衆トイレ、それからNTTの公衆電話ボックス、こういったものの中に、ほとんどキッチュとしか言いようのないものが出てきてますよね。あれが僕には、何とも不気味な感じがします。

ふり返って見ると、たとえば吉田鉄郎の東京中央郵便局や大阪中央郵便局。どちらも、それ以後の日本の、いわゆる、日本式の近代建築の一つのスタイルをつくり上げた大傑作だと思うんです。そういうふうに公共建築が時代のデザインを引っ張っていく時代というのがずっとあったわけですよね。それがいま逆転してしまっている。つまり、公共建築が商業デザインの後を追っていくような、そういった印象を持ってしてしまうんですね。そこで公共建築の、あるいは郵政建築のデザインの独自性というのをどこに見つけていくかと、具体的にどうするかというと、なかなかむずかしい、答えはなかなか出にくいと思うんです。

そこで、僕が郵政の方々にお聞きしたかったのは、最近、地域性を大切にしたいということが、公共建築の場合、必ず建前として出てきますね。では具体的にどういう形でその地域性というのを考えていらっしゃるのかと。デザインの面でですね。先ほどのNTTの公衆電話の場合、たとえばミカンの産地だと、電話ボックスの上にミカンを乗せるとか（笑）。交番の場合にも、カッパの民話で有名なところだと、カッパの形をした交番だとか、ほんとに実際あるんですよ。でも、それは単に即物的な記号化であって、キッチュでしかないと思うのです。地域性というものを真剣にとらえた場合、たとえば沖縄郵便局など、あれは非常によくできたものじゃないかと思うんですけれども、地域性とデザインというのをどうなふうに郵政

の中でとらえていらっしゃるか……。

観音　沖縄は私の設計ですから、これは司会者から話さなくちゃいけないことになりますね（笑）。

当たり前のことかもしれませんが、設計を始める前の現地調査の中で、できるだけ地域の建築のパラダイム、まあ文法ですね、そして、それを構成するボキャブラリー、フレーズとか、キーワードとか言ってもよいかもしれませんが、そういうものを、必死に探ろうとする。たとえば、沖縄郵便局を設計したときは、何回かに分けて、それも、かなり長い間現地に滞在して、いろんな季節や時間帯の沖縄を調べました。短期間に現地を眺め、役所回りをして、パパッと手軽にデータを集めて、すべて終わりというような設計調査ではなくて、むしろ体得すると言うんですか、地域の系と言うか、風土を構成するファクターを肌で感じ、目と手と足で確かめるという、まあ象設計集団なんかはそういうふうにやってらっしゃるんじゃないかと思うんですが、そいうことから始めるのが理想だと思います。

だから極論すると、地元の人とお酒を飲むのも大切な調査なんですよ。（笑）街の酒場に行ったりして……。観光客としてではないですよ。そういうところからやっていかないと、本当に地域性を考えた設計などできないんじゃないかと思いますね。あんまり表面的・独断的に風土や歴史を解釈して表現してしまうと、それはかえって地域に対して失礼になると思います。たとえば、古い町並みの中に伝統的な民家を意識して郵便局を設計する場合、例えば、格子一つにしても、吹寄せとか、長短の組み合わせとか、いろいろあるわけですから、付辺に格子のある家が多いからといってただ格子をつけりゃいいというものではないと思います。相当研究してやらないと……。そうでなかったら、むしろ郵政建築のスタイルを通したほうがいいと思いますね。その辺がむずかしいところです。だから、風土とか歴史とかいうものを現代建築に生かそうとする場合には、用意周到な調査以前に、その地域に対する好意というか温かい思いやりみたいなものがないと、だめなんでしょうね。敬愛の念と言ってもいいのかもしれませんが。

ところで、京都には、地域によって市役所のデザイン指導というのがありますね、色彩や造形について。たとえば、勾配屋根をつけなさいとか。これについてはどのような見解をお持ちですか。

中川　まあ、お役所の指導という点で仕方がない部分もあると思います。つまり制度で縛らなければならないという事情もありますからね。デザインの質の判断を役所にしろと言ったって、それはなかなかむずかしいと思いますね。何か制度的な手法でやるとしたら、屋根をかけろとか、この色に塗れとかいうことしかできないのかなという気もしますが。しかし、それが京都の場合ですと、完全に形式化してしまって、逆に条件さえ満たせばオーケーというふうになってしまっている。特に、外の建築家が京都で仕事をしようとしたときに面食らうみたいですね。結局、京都在住のそういうことをよく知っている建築家と組まないと、なかなか入っていけないところがあるようです。行政のやり方としては、確かに、仕方がない部分もあるけれども、それは結果としてまずいやり方になってしまっていると思います。つまり、おっしゃる通り、地域性というのを解釈するのは、実は大変なことですが、それを制度的手法に乗せるというのはもっとむずかしいと思います。

都市の建築のスタイル
―浪速郵便局の場合は―

中川　ところで、地方都市の場合には、それなりに風土にかかわる形態みたいなものが比較的容易に出てくると思うんですが、今日見せていただいた浪速郵便局なんかになりますと、大阪＝浪速というと、どうなんでしょうね、もともと「風土」とかいう言葉さえなじまないわけで、むずかしくなりますよね。

観音　ここには浪速の設計を担当した人はいないんですが、聞いたところでは、設計にあたっては、浪速の露天商をイメージの底に置いたということです。窓口ロビーの上が吹き抜けになってロビーの上に雨が降るのが見える。

そういう開放された空間が露天のイメージにつながるというわけです。そういうふうに感じてもらえるかどうかは別としても、それを一つのデザインのモチーフにして、ああいう展開をしてるんでしょうね。

中川　都市においては、たとえば東京とか大阪などでは、風土性とか地域性とかいうのはあまり意味をなさなくなってきているのだろうと思いますね。だからそこでは、もう少し都市の建築のスタイルみたいなものを出していけばいいと思うのです。浪速の場合には、最近の建築の流行を、たとえば丸や三角の窓をつけるとか、中へ入るとパンチングメタルを使うとか、どこかで見たことがあるボキャブラリーがたくさん出てきますよね。ああいうのは意識的になさってるんですか、それが都市的な建築のスタイルであるというようなとらえ方で……。

山本　浪速の場合、その地域性を考えると、むずかしいと思いますね。むしろ、大阪のミナミという繁華街の近くにある。そういう意味で、ミナミの活気があるとか、若者が多いとか、そういうのに合わせてデザインしたんじゃないかなという気がするんですけれどね。だからもっと深い、浪速の何かを意識したんじゃないですかね。僕は地元については、まだよくわからないんですけれど。山内さんどうですか。

山内　どうなんでしょうね（笑）。あの界隈自体が、どの店にしても壁が敷地いっぱいに建ってるわけですよね。そうすると、もう前



浪速郵便局の見学

の道路というのは、大阪は違法駐車の街ですから、ほとんど人が歩けない。そのかわりに、浪速郵便局では、内部に一つの通路を提供する、というふうな考え方をしてますんでしょうね。ですから道路を通れなければ、中を通れるわけです。あれこそ大阪でしかできない建て方ではないかなという気がするんですね。

山本　大々的なトップライトをつくって、それで中を人工照明じゃなくて、外からも光を入れて、自然な感じで、ということもあったと思いますね。

大久保　今、地域性の話が出てきたんですけれど、(郵政建築も)やっぱりその時代性のほうを優先してつくっているんじゃないかと思います。建築のデザインをするときは、その時代が持っている建築の手法なり、ボキャブラリーなりを使えば、自然と、空間構造とかそういうのには普遍的なものがありますから、地域性というのはおのずから出てくると思いますね。たとえば北海道で、沖縄で使うスース一通るような建物はだれも設計しないだろうし、また反対に沖縄では北海道みたいに断熱を頑丈にしてとかいうようなことはしないだろうし、それと、街の持っている歴史が、江戸時代とか、それ以前とか、まあ地域地域で違うと思いますけれども、そういうものがその地域性を表現していってしまうんじゃないだろうかと。

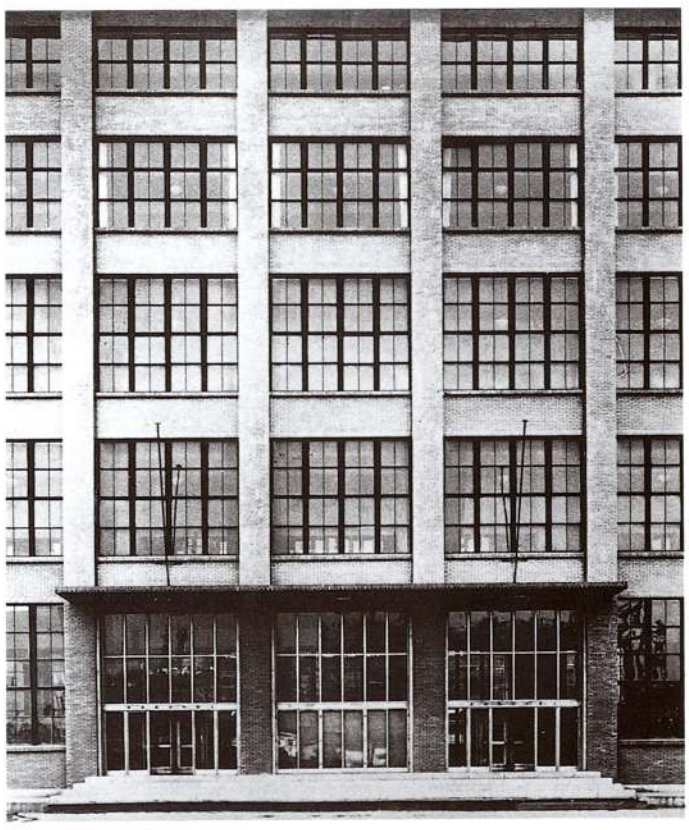
公共建築と商業建築
—どこに違いを見いだすか—

大久保　先ほど、公共建築がリーダーシップをとるべきだというようなお話があったんですけれども、確かに、これまでの歴史をずっと見てくると、いろいろ、その地域そのときの一番頂点に立った人たちが、その時代の建物をリードするようなものをつくってきたと思います。昭和も半ばまでは、お役所のほうが民間よりも世の中をリードしていく状況にあったので、公共建築というのが世の中の中心に座ってたわけですね。ところが現代というのは、消費者の時代で、すべてが、消費者中心。使い手が、庶民なり一般の市民なりですね。で、そういう人に向けて建物をつくる。お役所でリードしなくても、民間のほうでもそれぞれの分野の領袖がそれぞれ自分の新しいアイデアなり、デザインなりを持ち出して切り開いていっているわけですね。ですから建築のレベルアップはそれぞれの作家なり、担当者なりの努力によるところが大きくて、上からかくあるべしとみんなに普遍させる時代でもないだろうと思います。

中川　公共建築がリードした時代というのは、確かにおっしゃる通りですね。特に60年代のコンクリート打放しの公共建築のように、丹下（健三）さんなり前川（國男）さんなりの作品が模範解答としての意味を持っていた時代だったわけです。今は確かにそういう時代ではないんですね。まさしく消費者が王様の時代ですし、消費者のニーズにこたえたいろんなデザインが出てきても、それはそれで自然なことなんですね。といっても、建築を利用するわれわれからしてみると、レストランや何かへ入るのと、市役所に入るのとでは、やっぱり全然意識が違う。レストランには多少ともおしゃれをしていこうかと思うけど、市役所に行くのには普段着で気軽に入りたいと思う。建築を設計する側の立場から考えても、公共性というものを、例えば郵政省の建築なんだということをどこかで意識するべきではないかと思うのです。つまり、国が設計に携わっているわけですから、普通のレストランや商業施設を設計するのと全く同じ感覚では、やっぱりまずいのではないでしょうか。しかし、そこでどう違いを持たしていこうかという、その辺がむずかしいんじゃないかなと思いますね。

山本　確かにむずかしいんです。僕らもずっとこの郵便局という公共建築をつくってきながら、時々、公共建築とは一体なんだろうかということを自問したりして。よくわからないですね、その定義が。先ほど大久保さんが言われたみたいに、もう公共建築が時代をリードする必要はないんじゃないか。国のほうがどんどん引っ張り上げなければだめだというのでは、いわゆる発展途上国みたいで、今やそういう時代ではないんじゃないかなという気がするんです。商業建築がどんどん伸びていっている中で、公共建築と商業建築とどこが違うかという、この差というのは非常に微妙になっていますね。たとえば、端的な例なんですけれども、今、われわれは郵便局を、とくに非常に小さい特定郵便局とか、もっと小さいので、最近ポスタルショップなんていう呼び方をしている都市型簡易局なんてのをデパートの中につくっていってるわけです。デパート、いわば商業建築のかたまりみたいなものですね、そういう中にお役所が出向くということが以前はなかったわけですね。相容れないものがあったわけで。それが今ではデパートの一画に行くと郵便局も交通公社もあるというようなことになって、一体、公共建築と商業建築の差はどこにあるんだと。かなりボーダーレスになってるんじゃないかなという気がするんです。

そうは言っても客観的に見ると、やっぱり僕らのはまだ商業建築になりきれてないなという部分があるんですね。育ちが育ちだもんで(笑)。かなり、変わったつもりではいますけれども、非常に細か



大阪中央郵便局（完成当時の東面）

いところでは、全然違うなと。僕らは、今まで持ってきた伝統、単に伝統にあぐらをかくという意味の伝統じゃないんですが……。蓄積とかいろんなノーハウに乗っかった上で、そういうものを加味しているだけであって、決して、いかにも商業建築ですよというふうに、どんな手法でも好き勝手に使ったらいいってわけじゃないんです。たとえば材料を使うのにも、それなりに吟味して、耐久性だとかメンテのしやすさだとかいろんなことを考えながらやっているわけです。そういう意味では、なかなか、商業建築的にはなり切れない。急に変われと言われても、できない（笑）。

中川　しかし利用者の立場から言わせていただくと、とまどう場面も多いのです。商業建築は、装飾が豊かで、華やいだ気分になる。それはそれなりの対価を払って、そういう空間を享受するわけだけれども、その一方で、だれでもが利用できて、それでいて何か空間的に落ち着けるものというのがあっていいはずだと思うのですが。たとえば大阪中央郵便局。時々利用しますが、あの空間には、商業建築では体験できない充実したものを感じることができる。ああいったものは、おそらく利潤追求の論理だけでは、決してできないものだろうと思うんですね。

大久保　あの時代にできた、たとえば、中之島の住友銀行本店の営業室に入りますと、もう全くすごい。あれもまあ公共性の強いジャンルに入るのかもしれないけれど、やっぱり商業建築だったんではなかろうかという気もしますね。

節度を保つ
―伊丹郵便局に見る―

澤　公共と商業の分け方がおかしいんですね。中川さんがおっしゃったように、だれでもが共有できるのが公共建築。利潤を上げる目的に沿ってできたのが商業建築。だから、商業建築はお客様以外は排除するわけです。差別化を図るのが商業建築ですね。そういう意味では、商業建築は、現代のトレンドというのを追っかけていいと思う。あしたは変わってきますが、それはまたスクラップにすればいいんですからね。

ただし、先ほども、ちょっと中川さんと話したんですが、モダニストたち、たとえば山田守さん、吉田鉄郎さんたちは建築が正しいか正しくないかということを求めていたはず。ところが今の建築家は、私も含めてかもわかりませんが、カッコいいかカッコ悪くないかということばかり考えている。先ほどの浪速郵便局でも、浪速の露天商だ、サイドパスだと言われてもそうかなあと思うんです。そうは見えなかったんです実は。確かに、道端にテラーがいて、そこでメール・サービスなり、貯金なり、すべてのサービスがされているというけど。見せていただいた限りでは、あまり成功しているとは思えない。私は伊丹郵便局の近くに住んでいるんですが、伊丹は成功してると思うんです。浪速も伊丹も同じような感じがするんですが、内外が全く逆。伊丹は外がよくて中がよくないと思う。浪速は外がよくないと思った。中はいいと思うんですよ。どちらも、建築の構成の要素が非常に多い建物なんです。（伊丹郵便局の写真を見ながら）伊丹は大理石あり、メタルあり、材料をたくさん使っている。でもかなり抑制がきいている。そばに有名なホテルがあるんですが、これは大したことない。全然ディグニティがない。こちら（伊丹郵便局）にはディグニティがある。これは何故かなと考えると、先ほど課長さんがおっしゃった伝統かなあと、いい意味でですよ。ただし、インテリアがグルーミーなのが嫌いなんです。外は、この都市景観の中で、品位を保ちながら、要素の多さを抑制しているんですよね。その辺が僕はうまいと思う。一方、浪速郵便局は、一見商業建築風だけれども、商業建築になり切れていない部分でディテールの甘さが目立つ。変に商業建築を意識しないほうがいいと思うのです。

中川　その通りですね。

澤　浪速の場合は、もう少し素直にやられたほうが、よかったんじゃないかな。変にディテールに凝ろうと思うと、破綻がくる。伊丹のほうは、近くに住んでいる者の一人として素敵なものをつくってもらって嬉しかったんですね。さすが国のやることは違う。というのは、隣のホテルは、商業建築で、当然ペイしなきゃいけない。で、やっぱり安物っぽいんですよ。伊丹は事実、かなり金がかかってると思うけど、その嫌らしさは出てない。この辺の節度の保ち方が、公共建築のこれから目指す方向じゃないかなという気がするんです。

中川　一つは今の品位の問題だと思うんです。商業建築は、要するに利潤追求だけでやっているわけですから、多かれ少なかれ、品位が犠牲にならざるを得ない。僕らはそういう空間も楽しいんだけれども、一方で、やっぱり品位のある空間なりというのが絶対必要で、それを生み出す役割というのを公共建築が担っていると思うんですよ。

郵政建築の空間
―余裕が品位を生む―

観音　営利を追求しているわけではないですからね。われわれもある程度の利潤は上げないといけないんですけれども、それはわれわれに給料が払える程度であれば、いいわけです（笑）。そういう意味では、ほんとの商業建築にはなり切れない。商業建築をやっている人から見れば、甘いと思われるかもしれませんけど、投資効率を第一に考えて裏表のある建物をつくらなければいけないということはないわけです。たとえばこの会館（メルパルク）にしても、運営を貯金振興会というところに委託してますので、ある程度の利潤は上がらなければいけないんですが、収支に建物の減価償却や改修の費用を考えなくてもいいわけですから、お客様に非常に低廉な価格で高質なサービスを提供することが可能になるわけですね。それに、こういう施設では、「安全」というのは最大のサービスだと思うんですが、構造がしっかりしていて、防災計画にも万全を期している。だから万が一火がでたときとか、地震のときとか、そういうときにも安全に避難できる。こういうことを最優先して考えられるのも公共建築ではないかなと。もちろん、サービスとか動線とか作業環境とか、そういう直接お客様の目に触れないところにもきめ細かな配慮がしてある。基本的なことですけれど、旅館なんかで見るように、そこらじゅうでいろんな動線が交錯して、嫌な思いをするというようなことが極力ないようにしてある。結果として、売れる部



メルパルクの見学

分の割合、つまり、レンタブル比が小さくなる。目に見えないぜいたくなんですね。そういう「いい意味でのぜいたく」というのが公共施設の特質ではないかと思います。それが、吉田鉄郎とか山田守の時代にはあったんじゃないかと。それが「余裕」につながるし、「品位」をかもし出す。これは、さっき澤さんがいい言葉を使いましたけれど、「ディグニティ」といってもよい。“威厳”などと翻訳すると権威主義的な感じがしますが、そうじゃなくて、“格調”あるいは“品格”というぐらいの感じですね。

いずれにしてもそういうディグニティをいまだに忘れないで追求していけるのがわれわれかなと。もちろん、それに、さきほどの澤さんのもう一つのことばの“節度”が必要ですが……。

澤　このメルパルクを見せていただいて、とてもよくできていると思ったんですが、僕の聞き方がよくなかったのかなと思ったことが一つあるんです。ホールの2階席と1階席のホワイエから直接外に出られる広いバルコニーがありましたね、あれは僕はとっても素敵だと思うんです。あれを（防災計画上）「取らされた」というふうにおっしゃったように聞こえて……。（笑）被害者意識があるのかな？

観音　いえ、被害者意識というわけでは……。（笑）

澤　僕は「取った」と言ってほしかったんです。というのは、それが今おっしゃった「余裕」なんですよね。今のホールで、あれだけの屋外避難広場を持ったホールというのは少ないと思うんです。何かがあったときのために、千日デパートがそうでしたね、あれにも（避難施設が）あったけれども機能していない…、だから、願わくば、あの広場が何か他のものに転用されなくて、今のままでおいておかれることを望む。ということは、そういう余裕が必要ということ。たとえば先ほどの吉田鉄郎の中央郵便局がなぜ60年も生き延びたのか。それはエアコンが入ってきても、ダクトや配管を天井裏に納めるスペースがあった。今みたいに経済設計をしたんでは、その時代の設備的な変化についていけないから、その余命を全うせずに死んでいく建物がたくさんある。高度成長期につくられた建物は経済性を大原則につくってるから、20年、まあ30年たったら、だめになっちゃう。逆に言うと、われわれはいつも建築基準法とにらめっこしてるけど、お役所の場合は、むしろあれをミニマムだと考えてやってもらいたい。

観音　「取らされた」という言葉にはちょっと受け身の響きがありますが、確かにミニマムなんですよ。基準法の精神を汲んで国が範を垂れろというのは、常に言われているわけですよね。国が率先して防災計画とか構造設計とか安全の確保に力を入れるようにと。まあ、言われてやっているだけでもないんですが……。本音を言えば、それを逆手に取るというか（笑）、それで本来あるべき姿勢を貫くということがあるわけです。たしかに、あれは否定的な言い方でしたね。反省します（笑）。

澤　だからそこを肯定的に申し上げたんです。

観音　今、設備の話が出ましたので、設備設計の立場から、その余裕というのにちょっと触れてもらえれば……。

垣内　実はオイル・ショック以来、省エネルギーということが叫ばれまして、たとえば空調計算の方法もだんだんシビアになってきているんですね。余裕を持つというよりも、むしろ、いかに経済的な設備設計をやるかというようなことが検討されてきたわけです。よりシビアに空調計算をしてやった結果、一部に、たとえばかえって冷房がきかないとかいった苦情も出てきまして、こういったことではいけないと。たとえば空調計算をして、何十万キロカロリー必要と出ますね、そうしたら、メーカーで出している各段階の空調機の中から一つ上位の機種を選ぶようにしてます。まあ設備的な余裕と言えば、能力的な余裕と、それから、当たり前のようですが、使いやすくてメンテしやすいシステムということになりますね。

郵便局の宿命として、年賀葉書の差立や配達区分がありますので、必ず郵便予備室というものを取っているわけです。そこは暖房しかしないんですね。というのは冬しか使いませんのでね（笑）。ところが最近は、部屋があるのに冬しか使わないというのはおかしい、夏もいろいろ会議とか研修とかに使いたいといったことで冷房がほしいと。ですから、最近はそれも見直して、冷房も入れています。

大久保　そういう一時期だけ使われるところを、ちょっと一般の市民に開放して使わせるとか……。

垣内　それをすでにやってるんです。でも今までのは、夏には使えない。暑いコミュニティー・ルームになってしまいますから。

大久保　その辺の接点をどう求めるかですね。

村の郵便局、町の郵便局
―地域で期待される郵便局に―

山本　わたしも近畿に来てつくづく感じたんですけれども、近畿というのは過密と過疎を同時にしょってるわけなんですね。過疎の地域がかなりある。そういう過疎の地域で、たとえばこれから村おこしをどうやるかとか、街の活性化をどうやるかというときに、そこでの公共建築の意味というのは非常に大きい。それはわれわれがつくるときに、よくわかるわけです。地域は物凄い期待をしている。

民間だったら、まず、建てるということをしないですね。建築のデザインがどうあるべきかということよりもまず、ペイするかしないかです。ちなみに、郵便局でペイしてる郵便局というのは、一説によると約4割で、6割は赤字なんですよ。まあ東京とか大阪とかの都心の郵便局はペイしているわけですけれども、後の6割の郵便局というのはペイしていない、赤字であると。まあそういうところ

は当然のことながら過疎の問題とかがあって、郵便局を新しくつくるなんていうと、これはその地域あげて歓迎する。……郵便局は、当然われわれの三事業をやっていく拠点であると同時に、地域のコミュニティー・センターとか情報センターみたいな役割も十分果たしているわけです。非常に小さい郵便局でも、それなりにそういうコミュニティー・ルームをつくって、そこを使ってもらうということはやっているわけなんですね。反対に、こういう都会にいますと、郵便局というのは何千、何万あるうちの一つの建物に過ぎない。地方では郵便局が持っている役割というのはまだまだあるんだなという気がしましたね。

大久保　郵便局の数はすごいですね。今まで街を歩いても、それほど郵便局を意識せずに通り過ぎていたんですけれども、郵便局を気にすると、ちょっと行けばここにもある、かしこにもあると。その小さいほうがみんなの郵便局というイメージだと思うんですね。本庁でやられている大きい建物よりも、自分たちがいつも通っていくような、地域と密着している、一部屋しかないような郵便局のほうが、親しみやすい。でも、今までのお役所建築というのはちょっと暗いのが多いので、どうにかならんかなと思います。

観音　ごもっともで、今、われわれは、設計課長をはじめ部をあげて、そういった地域に密着した郵便局づくりに取り組んでいます。特に、これまで直接対象としなかった借入局のイメージアップには大いに力を入れています。ただ、数が物凄く多いんですよ。年間、100局ぐらいあるかな。

山本　いろんな局を合わせると、近畿で郵便局が3,000近くあります。そのうち、年間100局ぐらいが建て替えられます。…それでも30年たたないと、全部直せないんですね。そういう特定局の設計というのは、必ずしも私たちがやっているわけじゃなくて、外の郵便局専門の設計事務所、あるいは一般の設計事務所とか、まれには工務店とかが設計してくるのを、われわれがチェックし、指導するんですけれども、そういうのを見てると、われわれの設計というのは実にまじめだなと思うのです。

街の「系」を読むデザインへ
― 借入局へのデザインコントロール ―

澤　では、その借入局を設計されている方に対する郵政省というか、郵政局の建築家の姿勢はどうなんですか。ポリシーを打ち出しているんですか。

山本　それは出してます。こういう方針で設計してくださいと、文書で示しています。たとえば、注意事項で、ドアの入口は身障者の車椅子が通れるように有効850以上取りなさいとか、スロープは12分の１以下にしなさいとか、そういう細かいものもありますけれども、それとは別に、郵便局というのは公共建築なんですから、それなりの品位を保ってくださいよというような基本姿勢みたいなものも当然明示して、指導しています。でも、その基本的なところをまず施主（郵便局長の場合が多い）に理解してもらうというところが、一番むずかしいですね。

中川　チェックはするんですか。

山本　ええ、チェックしますけど、最初の思い込みが違っちゃうと、もう全然方向が違っちゃって、違っちゃった方向のものをずーっと角度を戻すという作業、これが、なかなか……。

大久保　借入局の多くは「建物レベル」で終わっていて、「建築レベル」に達しているものは少ないと思うんですよ。だから、まちの大工さんや工務店が建てたと同じようなレベルを越えないわけで……。

澤　いやいや、そんなことはないですよ。

大久保　たまにはいいのがあると思いますよ。だけど街を、普通に歩いていてぶつかるのはそうですよ。

澤　それは、さっき部長がおっしゃったような、街の系“システム”ですね。それぞれの街の「系」を読んでいない建築が、多いからだと思うんですよ。

僕は、貯金のハンコを集めたので、郵便局をかなり見たんです。ところが、何とも……特に最近建て替わった建物を見ると、商業建築と見間違うかのごときふつり合いな建物が多いですね。

ポストモダンかどうか知らないけれども、同じ真似するのなら、もう少しうまくやればなというのが多い。いったい、どういうコントロールをされてるのか、お尋ねしたいんです。

中川　やっぱり、昔と違って、ある程度親しまれるデザインにとか、そういった指導はあるわけですか。

山本　建て主というか、オーナーがほとんどの場合、局長さんですから、まず、局長さんにわれわれと同じような考え方に立ってもらわないと困るわけですよね。

ただ、局長さんにしてみると、今までの古い、狭い、さっき言われたじめじめしたような局舎で30年も頑張ってきたわけですから、気持ちの中で、今度やるときにはパッと派手にやりたいとか、近所でもびっくりするような建物を建てたいとか、そういう気持ちがどうしても働いちゃうんですね。そういうことをたとえば地元の建設会社に話すと、わかりました、じゃトンガリ屋根に風見鶏をつけましょうとか、アーチをかけましょうというような発想になってしまうんですね。その辺が非常に怖いので、われわれとしては細かく指導せざるを得ない。「いや、そうじゃないんですよ、お宅の局、一局だけで事業をやってるわけじゃなくてネットワークでやってる、ネットワークというのは一つの信頼みたいなものです」「郵便局が一つ一つみんなばらばらの方向を向いてたんじゃ、信頼というものも生まれないんですよ」と。「われわれは金融機関なんですよ、われわれはパチンコ屋さんとはちょっと違うんですよ」というようなことを言うと、だんだん局長さんも、そうかなあと傾く、でも、やってみたい……と（笑）。なかなかそれがむずかしいんです。

中川　その場合、建設の費用には、枠があるんですか。

観音　ええ、あります。国が建設費用を出すわけではありませんが、借料の対象となる建設費には上限があります。今はそういう意味では上限を超えるものが多いですね。

中川　その出た分はどうするんですか。

観音　建て主の負担です。持ち出しても、石を張りたい、ステンレスを使いたい、という局長もなかにはいらっしゃいますよ。

中川　山内さんなんか、指導を実際にやられててどうですか。

山内　なかなかむずかしいですね。言うてみれば、ほとんどの場合、局長さんが建てて、それを国が借りてるわけですから、局長さんは、もう自分が経営者だと思ってるわけですね。そうすると、自

分のニーズに合ったものを建ててほしいと思われるわけです。ところが、僕らが求めているのはそうじゃなくて、郵便局として体裁の整った品位のあるものですからね。その辺が非常に指導しにくいというか、むずかしいですね。

垣内　局長さんのお金で建てるわけですから、局長さんのお好み通り建ててもいいんじゃないかと思いがちですけれども、そこには職員が働いているし、お客様も来る。設備サイドから見ても、たとえば窓口の照度は500ルックス以上にしましょうとか、そういったいろんな基準がありますので、間接照明ばかりの、まあカフェバーみたいな暗くて落ち着いたムードの局舎にしたいと言っても、やっぱりチェックして、ある程度の明るさ以上にしていただくわけです。

大久保　建物というのは、割合、暗いところが気持ちいい場合もあるんですよね。それを設備の方が全部明るくしちゃってね（笑）。

垣内　確かに事務室側は明るくて、ロビー側は落ち着いた雰囲気というやり方もあるんですけれど、ちょっと目の不自由な方が来られると、暗い、見えにくいとか、そういった苦情も出ますのでね、なかなかむずかしいんですね。

澤　その設備の話の中で出た明るさ、ルックスと量だけではなく、光の質をもう少し考えるべきだと思うのです。伊丹の内部が嫌だと言ったのは、螢光灯を使い過ぎているんですよ。しかも中が全部グレーなんです。グレーに螢光灯の色を当てると、どんなに気持ち悪くなるか。それには、今おっしゃったように、ロビー側で白熱灯をポンポンポンと使うのが落ち着くんです。確かに電気代はかかりますよ、かかるけれどもその辺のことを少し考えていただかないとね。単なるオフィス空間じゃなくて、人が寄り集まって来て、リラックスする場所でもあるわけですから。明るさもあるけれども、明るさの質を少しお考えいただいたら、空間がもっとリラックスしたものになるんじゃないかなと。

垣内　そうですね、照度というのはあくまで机上面と言いますか、ある限られた場所での明るさですから。

澤　ルックスばかりでしょう。色彩は言いませんからね。

垣内　見た目に明るいことと照度が高いというのは、少し違うと思うんですよ。まあ照明の質としては、たとえば明るい雰囲気というものがありますよね。窓口、ロビー、それに玄関回りですね。そこが暗いとどうしても入りにくいとか、そういったことがいろいろあると思うんですが、どうしても技術屋になってしまって。デザイン的感覚を持った電気設備の設計者が必要ですね。

澤　デザイナーとの連係プレーはとれないんですか。

垣内　それはもちろん建物の設計者と連係プレーで打ち合わせをしながらやっております。

空間の使い方のソフトを
―広告宣伝のノウハウも―

澤　もう一つは、ロビーでの広報の仕方ですね。さっき浪速でたくさんパネルが並んでましたね。その向こうにはチラシが随分積んでありました。郵便局としてはこれだけのサービスをしてますよということを皆さんに喧伝されたい気持ちはわかるんですが、その情報に強弱がないんですよ。吊り下げとけばいいというような……。かえって情報的価値を下げてしまうんじゃないか。たくさんあり過ぎます。確かに今までのように、色のあせたポスターを張ってるのに比べればいいんですが……。これからは、もう少し情報の処理の仕方をうまくされたらね。あれだけスペースがあるんですから。

つまり、空間の使い方のソフトまでを、設計者がきちっと、運営される方に伝授しとかないと、せっかくの工夫がありながら死んでしまうんじゃないかな、もったいないな、という気がしたんです。

山本　確かに、それは、前から大きな問題になってるんですね。その窓口ロビーは、せっかくお客様に来ていただく空間なんだから、そこにいかにうまくわれわれの商品とか考えてることをＰＲするか、わかってもらえるかということ、この広告宣伝についてははっきり言うと、われながら下手だなと。

むずかしいところは、われわれの組織では、そういう広告宣伝の戦略をするところが、民間の企業のようにきちんと一本化されても系統立ってもいないんですよ。郵便は郵便で一つの縦割りになっているし、貯金、保険と、それぞれ別個にやっている。そういう三つの事業が一つのロビー空間の中に同居していて、それらが必ずしもうまくチームワークが取れているわけじゃない。実は私も本省にいましたときに、そういう広告宣伝戦略の研究をしたんですけれども、そういう専門の先生方にいろいろ話をしたら、これだけ大きな組織なんだから、そういうまとまった広告宣伝の戦略部隊がなけりゃ、無理だよと…。やっぱり広告宣伝というのは、単に局前やロビーだけじゃなくて、たとえばマス・メディアとか、テレビとか、いろんなものと複合されていくところに一つの大きなメリットが生まれるのであって、そういうものがばらばらに動いていたんでは意味がないわけです。そうは言っても、われわれがこれだけ多く持っている施設の空間をどういうふうに広告宣伝に生かしていくかというのは、これからまだまだ考えなければいけない点だと思ってるんです。

澤　今おっしゃったのは、ポジティブな意味での広告宣伝ですね。ところが、先ほどおっしゃった全国のネットワークで6割がマイナスだと、そうするとマイナスでもサービスを続けられているというのはこれは国のバックアップがあるからでしょう。それだけのサービスがあるんだということを彼らが知っているかどうかということを聞きたいんです。

つくるほうは、せっかくその地域のためなんだからといろんな工夫をする。人々の集えるような広場もつくる。ところがそれをどう活用するか。そもそも、それがあるということを知らない人もいる。郵便局舎の中で情報を選別して、どうディスプレーをするかというのは、今後の大きな問題だと思いますね。

山本　われわれが扱ってるサービスがどのくらいわかってもらえてるかというのを、調査したことがあるんです。かなり高い割合で、たとえば“定額貯金”なんてのは90何％が知ってるんですよ。ところが、知ってるんだけれど、定額貯金のもっと細かい仕組みは、これは知らない人がいっぱいいるわけです。それでは、どうやってわかってもらうかというと、非常にむずかしい。たとえば、それをお知らせとして掲示したりすると、もう壁が全部埋め尽くされても、まだ足りないぐらいになる。これからは、ビデオとかコンピュータグラフィックスとか、そういうものをうまく使いながらＴＶ画面で見せるとか、なんか新しいメディアを使った方法を考えてい

かないと、今みたいに掲示板一本槍では、もう無理だと思うのです。

観音　これまで、われわれは、どっちかというとハードの充実に力をそそいできたわけですけれど、これからは郵便局の使い方の指導はもちろん、ＰＲの仕方等、ソフト面の充実も建築部の役割というぐらいに思ってやっていかないと、ほんとの意味での魅力的な局舎になっていかないんじゃないかなと、そんな気がしますね。

リーバイタライゼーション
―建築と自然の共生―

観音　さて、話は公共建築としての役割にもどるんですけれど、今、環境破壊とか、公害とか、いろんなことが地球的な規模で言われてますが、そういうものに対しても、公共建築として率先してできることはする。「人間と自然との共生」を建築の分野でも真剣に考えていかなければならない時代にさしかかっているんじゃないかと思います。

たまたま、先日、設備課長会議というのがありまして、そのテーマが「郵政建築とエコロジー」という非常に壮大なものだったんです。環境問題と建築というのは、案外今までコンビネーションとしてとらえられていなかったんじゃないかと。それが意匠のほうじゃなくて、設備のほうでそういうテーマが提起されたということは、非常に興味深い。その辺を設備課長から……。

垣内　工場乱立の時代には、公害が問題になったりしましたし、オイルショック以降は省エネルギーということが叫ばれたわけですけれども、今、話題になっている地球環境問題というのは、公害問題と省エネルギー問題を一緒にしたようなものだと思うんですよ。そういった意味では、従来われわれが目指してきた省エネルギーとか、公害を極力出さないということと同じで、特段目新しい問題ではないわけですよね。ただ一つ切実な問題がフロン規制で、ドイツだったかな、西暦2,000年までに特定フロンというものを全廃しましょうといったこともあって、各冷凍機メーカーは今オゾン層をなるべく破壊しないフロンで製作してるんですが、そういったものを使うと空調機が２倍近い値段になる。しかし、いずれ将来、建築設備分野でもいろいろな法的規制が加わってくるんじゃないかと。そういったものを後追い後追いしていくよりは、今から少しでも考えて、できるものは率先してやっていこうじゃないかというような観点から、ああいったカッコいいテーマで会議をしたんです。

内容的には、われわれが従来やってきた省エネルギーの再確認、具体的には、照明の分野では昼光制御ですとか自動点滅、それから空調衛生には外気冷房とか、特に建築的な断熱ですね、そういったような話で終わったわけです。

山本　郵政省は、省エネルギーについてもかなり一生懸命取り組んでるんじゃないかという気がします。今から10数年ぐらい前に省エネルギーの問題が叫ばれたとき、われわれ建築部でも、かなり早い段階から省エネルギー問題に取り組みました。プロジェクトチームや研究会をつくって。研究したり、基準を改正したり、それを新たな予算を取る資料にしたりして、随分いろんなことをやった記憶がありますね。多分民間の建物より、かなり早くからやってたと思います。

今では、そういうものがほとんど定着していると言いますが、過去にいろんなものをやったことで技術的蓄積がいっぱいあるので、もう一回この辺で見直して、また、さらにいいものがあればやっていくような時期に来ているんじゃないかなという気がしますね。

観音　それに、大きな意味での省資源、省エネルギーになるかなと思うんですが、「保存と緑化」ですね。まず保存について、もっと真剣に考えなくっちゃいけない。スクラップ・アンド・ビルドで建物をどんどん壊して建て直すだけがこれからの道ではないんではないかなと。そういう意味では、既存の建物をうまく使っていく、再利用する、あるいは再生する……。保存と言うと、凍結するみたいに聞こえるけど、そういう意味じゃなくて、英語で言うリーバイタライゼーション（revitalization）ですね。再活性化ですか。そういう保存の方法もあるんじゃないかと。そこで、その「保存と再生」のあたりを、中川先生にお願いしたいんですが……。環境問題と保存を同列にとらえたことは、あまりなかったんではないかなと思って……。

中川　最近気になるのは、省エネと経済効率というのをすり替えてしまうことです。要するに、省エネは経済効率最優先の言い訳に使われてしまっているのではないかという気がしてたんだけど、今のお話を聞いてると、そこにやっぱり公共建築が模範を垂れる意義というのが、まさしく出てくるんだと思いますね。そういう意味で、今おっしゃったように、それを延長して考えていくと、保存の問題というのもやはり公共の側から積極的にやっていかれるというのが一番いいわけですね。

わたしは京都ですから、中京郵便局の事例をよく知っているわけですけれども、ああいう形で……あれは非常に苦労なされたようですけれども、郵政省が積極的に保存の活用というのを考えていかれるというのは、非常にありがたいことです。ところで、あの京都の三条通りには、明治建築、大正建築がたくさんありましてね、その中の一つに、元銀行だったんですが、今、テナントビルに替わった建物があるんですね。それは再利用は再利用なんですけれども、要するに、そういう古い建物が商売になるということで、商業施設として生まれ変わって、それが非常に若い人に人気が出た。一方でそういうやり方もある。それはつまり古いものが新しい価値を持ち始めたということで、結局、商業的にも価値が出てきたということになるわけです。では、こうした動きを、はやりすたりの一過性のもので終わらせないためにはどうしたらよいか。その意味でも、やはり公共的なものが率先して、保存活用の事業に飛び込んでいくというのが非常に大切なことだろうと思います。

次に、保存を考える場合に特に重要なのは、メンテナンスの問題ですね。大阪中央の話のときにも出てましたけれども、反対に、使い方が悪くて建築が耐用年数以前にだめになるというケースが圧倒的に多い。つまり、建築の寿命を全うしないで終わってしまうことが多いわけですね。もちろん時代によって用途というか、必要とされる機能が変わってくることはあるわけですけれども、それに対応しつつ、どうやって古い建物でも工夫して使っていくか。そういう発想が大切にされるべきだと思うのですね。そしておそらく、そういった発想が最も期待できるのは、お役所だと思うのです。

先ほど「保存」という言葉が適切でないとおっしゃいましたけれども、まさしくそうです。要は、使い方をどう考えていくかという、

つまり古い建物をどう活かしていくかということになるわけです。それは技術的な問題でもあると思います。古い建物を今の機能に合わせるような技術というものが考えられなければならない。中京郵便局の壁面保存の技術などもその一つになると思いますが、そういった新しい技術を積極的に考えていくというのも、まあ公共の使命じゃないかという気がしています。

観音　次に環境問題を語るときに、抜きにしては考えられないのが「緑化」ですが、これについて、丹波篠山の山林を購入して自然との共生を実践していらっしゃる澤さんに……。

澤　おっしゃる通り、篠山に少々の山林を手に入れましたので、この春からほとんど毎週末、間伐・枝打ちや林道の整理に通っています。ゆくゆくは、ちょっとした庵を結びたいと思っています。

こうした作業をしていてつくづく思うのは、現代人は都市文明に埋没してしまって、自然のありがたさを忘れてしまっているんじゃないかと言うことです。山仕事は、ゴルフなんかと……あれは自然破壊の元凶ですが…、比べ物にならないくらいの、最高のスポーツです。もう一度、自然の中で肉体労働をする、その原点に立ち帰るべきだと思いますね。建築で言えば、もっと緑を大切にする。それも申し訳程度に芝生や低木を植えるんじゃなくて、植生を考えてちゃんとしたランドスケープをつくる。これが都市の中で、われわれにできる建築と自然の共生だと思います。

観音　同感です。われわれも今は、郵便局の周囲、ときには内部にできる限り植栽を施すようにしていますが、問題はやはりメンテナンスです。そういう意味でも、やはりソフトの充実が緊要ですね。

ハート（ハード）をどう建築に取り込むか
―心の拠りどころとなる郵便局―

観音　最後に、目前に迫っている21世紀に向かって、郵政建築がどうあるべきかということに話題を移したいと思います。

今までのお話をまとめると、公共建築としての節度を守れとか、あるいは、使命を果たせとかいうことになると思うのですが、その中の一つに、やっぱり、避けられない高齢化とか情報化社会への対応いうのがあると思うんです。それから、モノがあふれている反面、精神面がおろそかになっている今、心の復権が叫ばれていますが、郵便は、まさに人の心と心に橋を懸けるものです。そういう意味で、郵政省というか、われわれは、かなり文化とか精神生活とか、そういうのにこれからも大きく寄与していけるんじゃないかと思います。まあ、ハードじゃなくてハートを……（笑）。駄じゃれではないんですが、ハート面をどう建築に取り込んでいくか、その辺を山内さんにちょっと……。

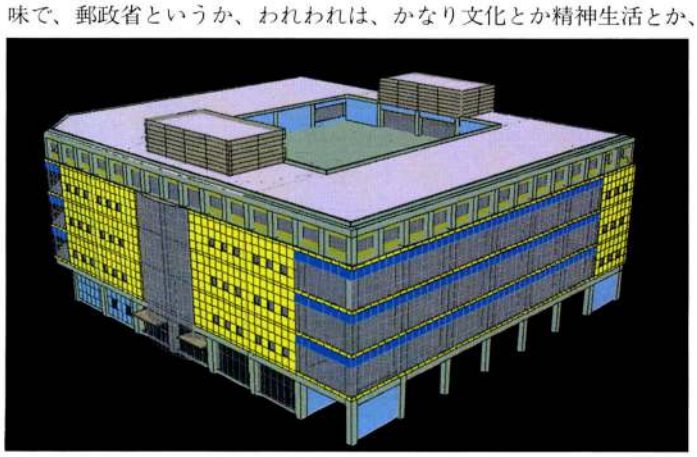
山内　僕、思いますのに、郵便局はあくまでも公共建築でなければならない。しかし公共建築が果たしてこれから先、どこでも一緒かというところは、ちょっと違うんではないか…。

今までは、街でも田舎でも同じものを建てたんですね。このごろ、よく、昔の郵政建築はよかったですねという話を聞くんですが、ほとんどの人の頭の中にある郵政建築というのは、昭和30年代から40年代に建ったあの庇のある建物なんですね。全国的に同じデザイン、同じ手法で統一されたようなものを見て、昔の郵政建築はよかったですねとおっしゃるわけです。それは一体何なのかというと、要するにどこに行っても官庁は同じなんだと、これは全国津々浦々、そういう安定したものがあるんだという、なんかそういう安心感のようなものがうちの建物からにじみ出ていたというか、発信されていたんではないかと。まあ、デザインの組み方も展開のしかたも同じで、できるだけ要素を減らしたシンプルな建物を目指したわけですね。そういうものから生まれる安定性というのはやはり大切にしていくべきですが、ただ、これからは、地方ではその地方の特色を加味するというふうに、もう少しほっとする、たとえばお年寄りにも安心できる建物、時代にかかわらずずっと存在しつづけ得る建物というのが要求されるんと違うかなと。

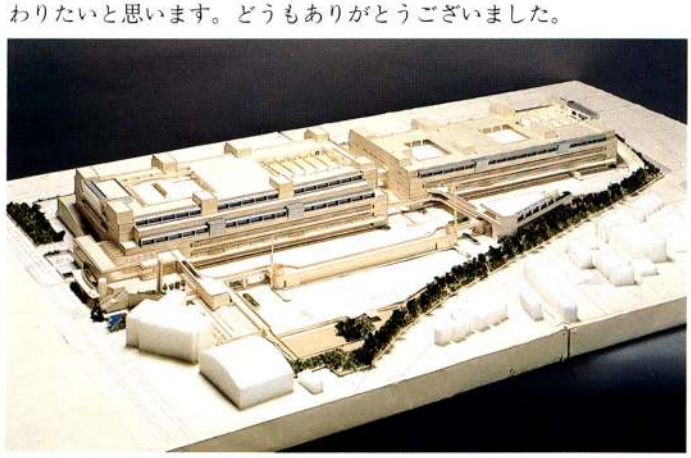
時代はどんどん流れてますので、街ではそれなりに変化というのはあっていいと思うんですが、場所によっては、もっと安定した、しっかりとした、地域に根差したようなものをどんどんつくるべきではないかと。そのためには、たとえばもっとロビーを広げて人々の集まれる場所を設けるとかですね、そういう心の拠りどころとなる、いわばオアシスのような郵便局をつくっていくべきではないのかなとは思ってるんです。

観音　平成4年度は、近畿郵政局だけでも、超大型機械化局の大阪新局、関西新空港内の大阪国際郵便局、尼崎郵便局、西日本貯金計算事務センターなどのビッグプロジェクトをはじめとして、多種多様のプロジェクトが控えていますが、結局、これまで郵政建築のとってきた「不易流行」の姿勢を崩さず、真に血の通った、信頼感のある建築をつくりつづければよいということですね。

ちょうどいい締めくくりになりましたので、座談会はこの辺で終わりたいと思います。どうもありがとうございました。



CADによる大阪国際郵便局完成予想図



大阪新局『大阪通常郵便局（仮称）・大阪小包郵便局（仮称）』模型写真

作品(郵便局)所在地



掲載した郵政建築79点のうち、普通局●と特定局●の位置を示している。



「劇場都市」伊丹の中心街に建つ。現代的なデザイン記号をちりばめた豊かな表情のファサード

伊丹郵便局
(S.63)



窓口ロビー/ボールト天井がゆとりの空間を生む

普通郵便局

---

1 伊丹郵便局

所 在 地　兵庫県伊丹市中央
施　　工　飛島建設
構造規模　RC造　B1　3F
延床面積　6,438㎡
工　　期　昭和62年1月～昭和63年2月

東灘郵便局
(S.61)



国道2号線に面して建つ。ランドマーク的なキュービクルな外観

左京郵便局
(S.62)



かつてこの一帯の景観を形づくっていたレンガ造の工場のイメージを継承した磁器質タイルの外観

普通郵便局

---

2 東灘郵便局

所 在 地　神戸市東灘区住吉東町
施　　工　東急建設・山田工務店
構造規模　RC造　B1　4F
延床面積　7440㎡
工　　期　昭和60年3月～昭和61年10月

3 左京郵便局

所 在 地　京都市左京区高野竹屋町
施　　工　大成建設・戸田建設・前田建設工業
構造規模　RC造　B1　4F
延床面積　11471㎡
工　　期　昭和61年3月～昭和62年8月



繊維街の中心地に建つ。アルミパネルによるシャープで端正な外観。主な窓口機能が2階にある。4階はコミュニティ施設

船場郵便局
(S.63)



窓口ロビー/エスカレーターとエレベーターで客を2階に導く

普通局

---

4 船場郵便局

所 在 地　大阪市中央区南久太郎町
施　　工　松井建設
構造規模　RC造　B1　4F
延床面積　4,673㎡
工　　期　昭和62年3月～昭和63年6月

野洲郵便局
(H.1)



グリッドをモチーフとした立面構成。局前には十分な駐車スペースを確保

近江日野郵便局
(H.1)



窓口庇とフロントサッシュの緊張感を、出隅の曲面が和らげる。シャープな外観

普通局

---

5 野洲郵便局

所 在 地　滋賀県野洲郡野洲町大字小篠原字高田
施　　工　笹川組
構造規模　RC造　2F
延床面積　2,272㎡
工　　期　昭和63年10月～平成1年7月

6 近江日野郵便局

所 在 地　滋賀県蒲生郡日野町大字松尾
施　　工　辻寅建設
構造規模　RC造　2F
延床面積　1,820㎡
工　　期　昭和63年３月～平成１年２月



周囲の街並みを配慮して、ゆるくカーブしたファサードとのびやかな局前構成

茨木郵便局
(H.1)



窓口ロビー/新しい時代を感じさせる広々とした窓口ロビー

普通局

---

7 茨木郵便局

所 在 地　大阪府茨木市中穂積
施　　工　大成建設・富士工・辰村組
構造規模　RC造　B1　4F
延床面積　13,893㎡
工　　期　昭和63年6月～平成1年10月

大阪狭山郵便局
(H.2)



列柱をモチーフとした曲面ファサードと角地を活かした丸いペントハウスは、地域のランドマーク

都島郵便局
(H.2)



街並みとの整合を意識したシャープな外観。タイルと吹付けの組み合わせにより豊かさを演出

普通局

---

8 大阪狭山郵便局
所 在 地　大阪府大阪狭山市岩室
施　　工　海原建設
構造規模　RC造　2F
延床面積　2,794㎡
工　　期　昭和63年12月～平成2年4月

9 都島郵便局
所 在 地　大阪市都島区高倉町
施　　工　青木建設
構造規模　RC造　B1　3F
延床面積　5,017㎡
工　　期　平成1年3月～平成2年8月



西神ニュータウンの駅前に建つ。曲面がキューブを貫通するマッシブな造形と、タイル貼りの外装がニュータウンの若々しさを印象づける

神戸西郵便局
(H.2)



窓口ロビー/ナラ合板やコンクリート打放しなど、ナチュラルな素材を多用したヒューマンな内部空間

普通局

---

10 神戸西郵便局

所在地　神戸市西区糀台
施　工　古久根建設
構造規模　RC造　B1　2F
延床面積　4,431㎡
工　期　平成1年3月～平成2年6月

峰山郵便局
(H.2)



セットバックした局舎を顕在化させ、客を誘導する装置としてのキャノピーが特徴的

甲西郵便局
(H.2)



二方道路に面する矩形の作業棟に、丸いロビー部分が貫入するビビッドな造形

普通局

11 峰山郵便局

所 在 地　京都府中郡峰山町字上
施　　工　山寅組
構造規模　RC造　2F
延床面積　1,812㎡
工　　期　平成1年9月～平成2年9月

12 甲西郵便局

所 在 地　滋賀県甲賀郡甲西町中央
施　　工　共和建設
構造規模　RC造　2F
延床面積　2,421㎡
工　　期　平成1年9月～平成2年10月



前面の国道に対する緩衝装置としてのスクリーンと、局前のサンクガーデンが、内部空間に緑と光の拡がりを与え、郵便局のあり方を提示する

香芝郵便局
(H.3)



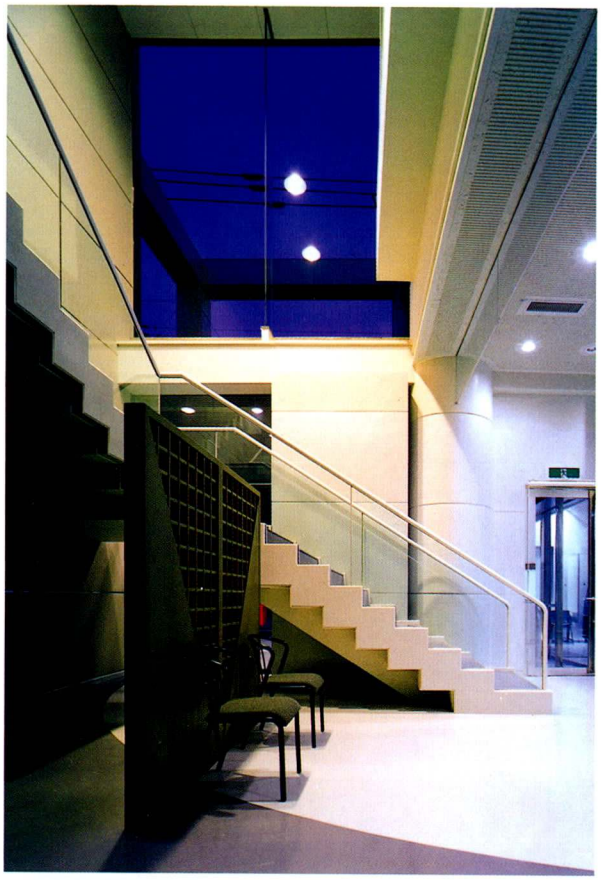
窓口ロビー/ゆったりとして近代的センスあふれるインテリア

普通局

---

13 香芝郵便局

所 在 地　奈良県北葛城郡香芝町下田西
施　　工　村本建設
構造規模　RC造　B1　2F
延床面積　4,820㎡
工　　期　平成２年２月～平成３年３月





浪速郵便局
(H.3)





上左　階段室
上右　露天をモチーフした吹抜けの窓口ロビー
下左　外観ディテール
下右　東面外観

大きく屹立する壁面は、ミナミの錯雑とした外部環境を落ちついた内部空間に変換するスクリーンとして機能している

普通局

---

14 浪速郵便局

所 在 地　大阪市浪速区難波中
施　　工　熊谷組・飛島建設・藤木工務店
構造規模　RC造　B1　5F
延床面積　9,508㎡
工　　期　平成２年１月～平成３年９月



張り出したガラスのグリッドサッシュとアルミパネルのカーテンウォールは、増築を意識させない

八尾郵便局
(H.3)



窓口ロビー/出窓状のサンルームには植栽が施され、窓口ロビーにうるおいを与えている

普通局

---

15 八尾郵便局

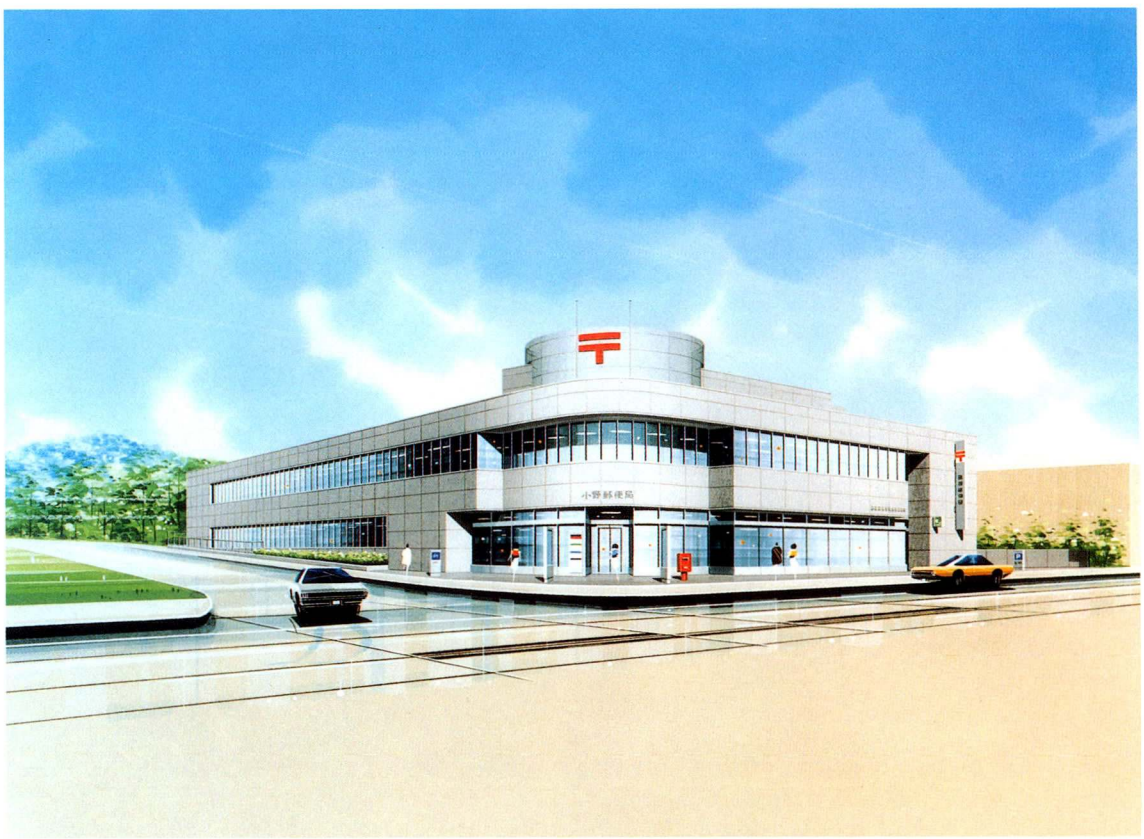
所 在 地　大阪府八尾市陽光園
施　　工　前田建設工業・錢高組・新井組
構造規模　RC造　B1　3F
延床面積　13,191㎡
工　　期　平成２年３月～平成３年10月

奈良西郵便局
(工事中)



磁器質タイルとガラスカーテンウォールを対比させた存在感のあるファサード

小野郵便局
(工事中)



角地を活かし、45°方向に正面性を持たせたシンボリックなファサード

普通局

16 奈良西郵便局

所 在 地　奈良市学園北
施　　工　奥村組・淺沼組・辰村組
構造規模　SRC造　B2　5F
延床面積　9,819㎡
工　　期　平成２年１月～平成４年２月(予定)

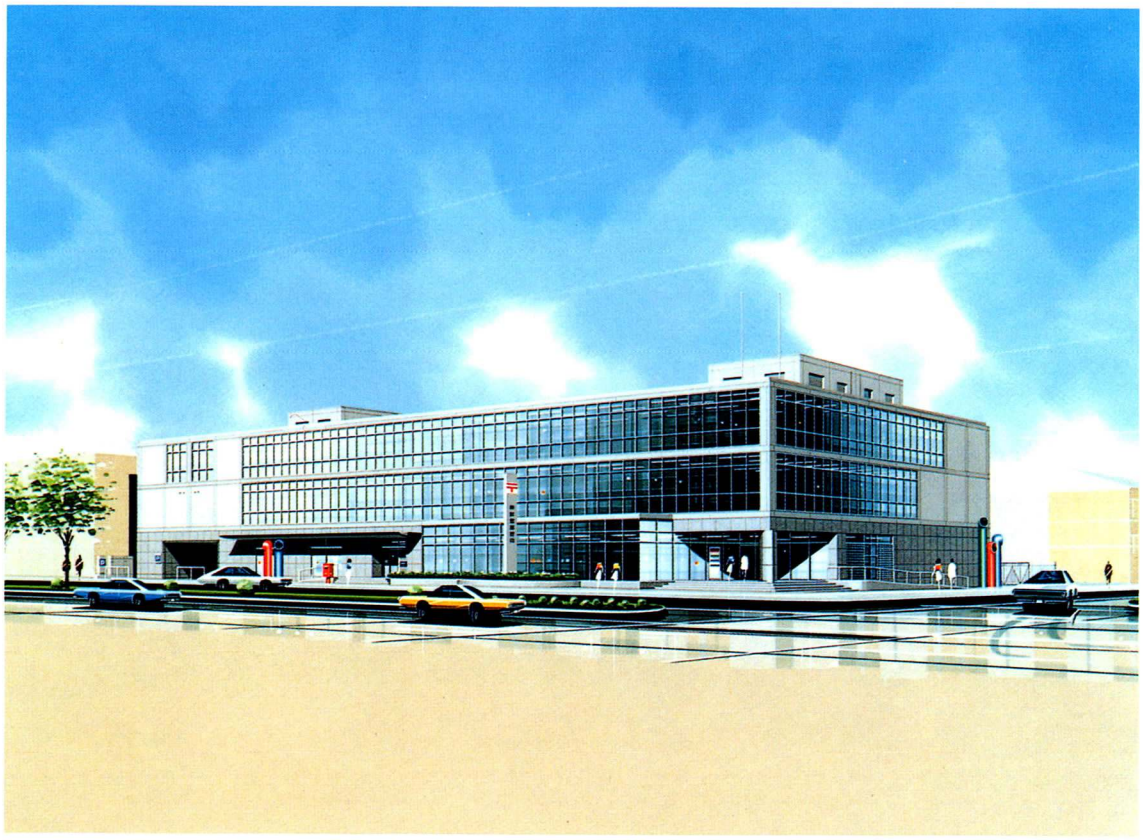
17 小野郵便局

所 在 地　兵庫県小野市王寺町宮山山ノ下
施　　工　村本建設
構造規模　RC造　B1　2F
延床面積　3,622㎡
工　　期　平成２年12月～平成４年３月(予定)



尼崎北郵便局
（工事中）

ヴォリュームを、マッスの分割によりスケールダウン。矩形の構造物とアーチ屋根の組み合わせによる変化に富んだ造形



福知山郵便局
（工事中）

在来局の増築模様替えであるが、シンプルかつシャープなカーテンウォールで、旧局のイメージを一新

普通局

---

18 尼崎北郵便局

所 在 地　兵庫県尼崎市南塚口町
施　　工　鴻池組・飛島建設・藤木工務店
構造規模　RC造　B1　3F
延床面積　10,973㎡
工　　期　平成２年10月～平成４年６月(予定)

19 福知山郵便局

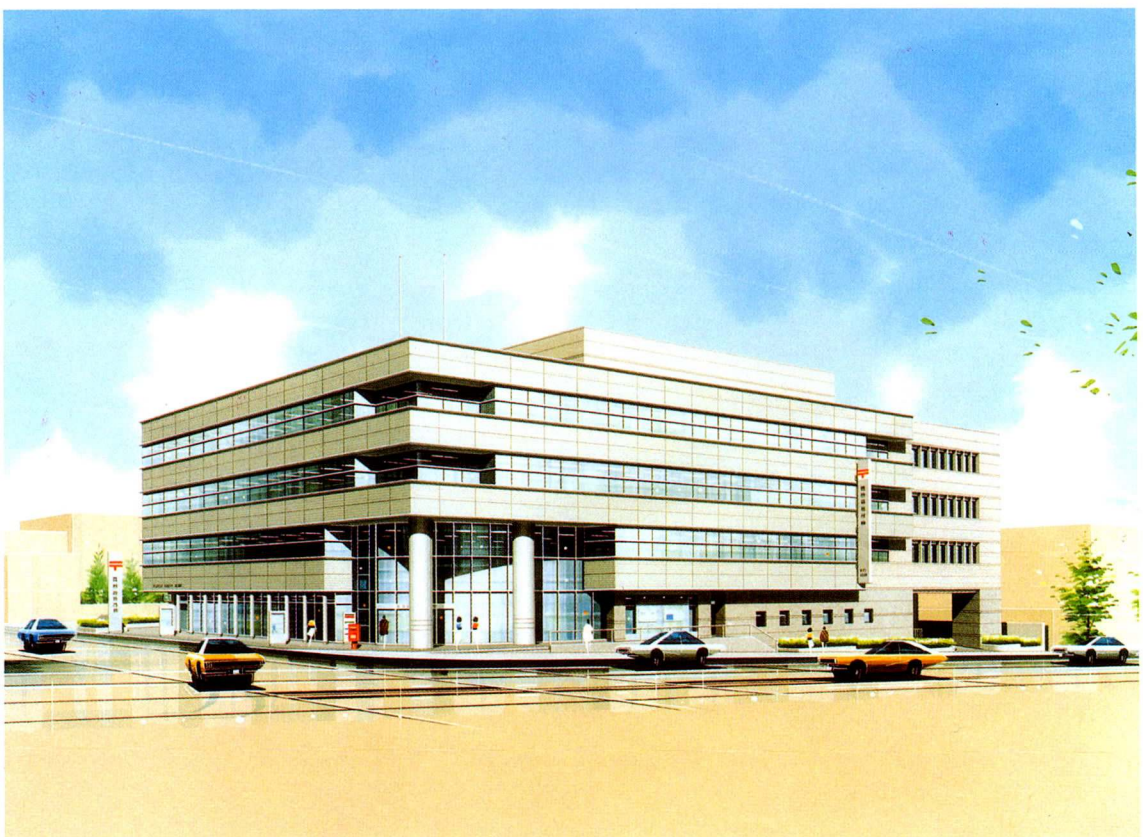
所 在 地　京都府福知山市字天田小字長戸
施　　工　大成建設・松村組・西田工業
構造規模　RC造　B1　3F
延床面積　11,529㎡
工　　期　平成３年３月～平成５年１月(予定)

加古川東郵便局
（工事中）



ゆるく円弧状に張り出したフロントサッシュは、親しみやすいファサードを創り出す

天王寺郵便局
（工事中）



郵政建築の伝統を感じさせる水平ライン強調のオーソドックスな面構成

普通局

---

20 加古川東郵便局

所 在 地　兵庫県加古川市平岡町一色字三ッ池
施　　工　東海興業
構造規模　RC造　B1　3F
延床面積　5,192㎡
工　　期　平成３年８月～平成５年３月(予定)

21 天王寺郵便局

所 在 地　大阪市天王寺区上汐町
施　　工　淺沼組・村本建設
構造規模　SRC造　B1　6F
延床面積　10,232㎡
工　　期　平成３年９月～平成６年３月(予定)



大江郵便局 (S.61)

小さな山村に夢を与え、地域活性化の拠点となることをめざした局舎



古市郵便局 (S.62)

コンクリート打放しであるが、テクスチュアの変化で若々しさを表現



国包郵便局 (S.63)

殺風景な前面道路にやさしい表情を与える曲面の壁が印象的

特定郵便局

---

22 大江郵便局
所 在 地　京都府加佐郡大江町字河守
施　　工　河守工業
構造規模　RC造　1F
延床面積　473㎡
工　　期　昭和61年２月～昭和61年10月

23 古市郵便局
所 在 地　兵庫県多紀郡丹南町不来坂
施　　工　平尾工務店
構造規模　RC造　1F
延床面積　324㎡
工　　期　昭和62年３月～昭和62年10月

24 国包郵便局
所 在 地　兵庫県加古川市上荘町国包辻の外
施　　工　前川建設
構造規模　RC造　2F
延床面積　723㎡
工　　期　昭和62年３月～昭和63年１月

淡路一宮郵便局(S.63)

セットバックした建物の顕在化と
客の誘導を図るゲートとキャノピー





但東郵便局(H.1)

多雪地帯への配慮として連続庇
を設け、これをデザインモチーフ
としている

丹後郵便局(H.1)

日本海を背にしたシンプルで力
強い造形

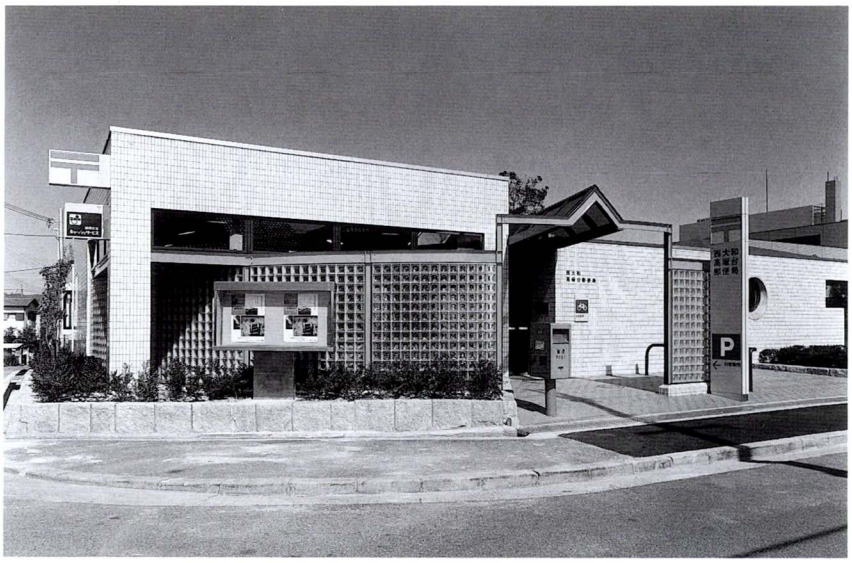


特定郵便局

25 淡路一宮郵便局
所 在 地　兵庫県津名郡一宮町カジヤ谷
施　　工　四ッ橋組
構造規模　RC造　2F
延床面積　628㎡
工　　期　昭和63年２月～昭和63年11月

26 但東郵便局
所 在 地　兵庫県出石郡但東町南家
施　　工　川嶋工務店
構造規模　RC造　2F
延床面積　775㎡
工　　期　昭和63年９月～平成１年６月

27 丹後郵便局
所 在 地　京都府竹野郡丹後町間人小字清水
施　　工　豊國建設
構造規模　RC造　2F
延床面積　477㎡
工　　期　昭和63年８月～平成１年６月



西大和高塚台郵便局 (H.1)

郵政研修所との調和と同時に、
キャノピーによって顕在性を演出



日置川郵便局 (H.1)

過疎地振興のインパクトをテーマ
にした力強い造形



御津郵便局 (H.2)

局舎の顕在化と、のびやかな内
部空間の確保をねらった、ヴォー
ルト屋根が特色

特定局

---

28 西大和高塚台郵便局
所 在 地　奈良県北葛城郡河合町高塚台
施　　工　吉村工務店
構造規模　RC造　1F
延床面積　134㎡
工　　期　平成１年３月～平成１年９月

29 日置川郵便局
所 在 地　和歌山県西牟婁郡日置川町
施　　工　天光組
構造規模　RC造　1F
延床面積　428㎡
工　　期　平成１年２月～平成１年９月

30 御津郵便局
所 在 地　兵庫県揖保郡御津町釜屋
施　　工　永岡組
構造規模　RC造　2F
延床面積　589㎡
工　　期　平成２年３月～平成２年11月

大塩郵便局 (H.2)

広い敷地をデザインに活かし、水平ラインを強調したシンプルなファサード



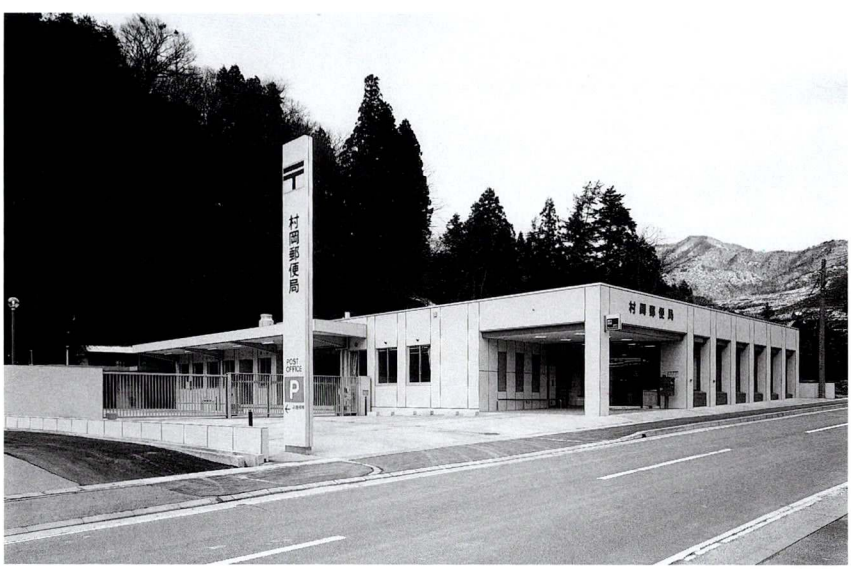


愛知川郵便局 (H.2)

コンクリート打放しの本体から突出するラスタータイル貼りの曲面壁が、存在感にあふれる

村岡郵便局 (H.3)

積雪を考慮した広いポーチが、シンプルな造形の中にも魅力的な陰影を与えている



特定局

31 大塩郵便局
所 在 地　兵庫県姫路市大塩町字宮前
施　　工　永岡組
構造規模　RC造　1F
延床面積　793㎡
工　　期　平成２年２月～平成２年11月

32 愛知川郵便局
所 在 地　滋賀県愛知郡愛知川町大字愛知川
施　　工　藤塚工務店
構造規模　RC造　2F
延床面積　525㎡
工　　期　平成２年１月～平成２年11月

33 村岡郵便局
所 在 地　兵庫県美方郡村岡町村岡
施　　工　株本建設工業
構造規模　RC造　1F
延床面積　569㎡
工　　期　平成２年３月～平成３年２月



二見郵便局 (H.3)

直線的な壁面の組み合わせによる端正な立面



猪名川郵便局 (H.3)

グリッドと曲面の組み合わせはユニークで、ニュータウンにふさわしい



市川郵便局 (H.3)

鋭角的に突出する風除室は、アイストップとしての役割をも果たす

特定局

---

34 二見郵便局

所 在 地　兵庫県明石市二見町東二見字瀬戸田
施　　工　中田工務店
構造規模　RC造　1F
延床面積　194㎡
工　　期　平成２年９月～平成３年８月

35 猪名川郵便局

所 在 地　兵庫県川辺郡猪名川町白金
施　　工　阪神土木工業
構造規模　RC造　2F
延床面積　2,198㎡
工　　期　平成２年９月～平成３年９月

36 市川郵便局

所 在 地　兵庫県神崎郡市川町甘地字中島
施　　工　三和建設
構造規模　RC造　2F
延床面積　789㎡
工　　期　平成２年10月～平成３年９月

山東郵便局 (H.3)

地域性を意識したきめ細かな壁面構成と、勾配屋根による落ち着いた外観





湖東郵便局 (工事中)

立方体とシリンダーの組み合わせで、安定感の中にもリズム感のある造形となっている

神戸大田郵便局 (工事中)

郵便局と職員宿舎の合築。全く異なる二つの機能を、水平梁で分離しつつ表現している



特定局

37 山東郵便局
所 在 地　滋賀県坂田郡山東町大字長岡字小林
施　　工　林尚工務店
構造規模　RC造　2F
延床面積　789㎡
工　　期　平成２年10月～平成３年11月

38 湖東郵便局
所 在 地　滋賀県愛知郡湖東町大字横溝字出口野
施　　工　伊藤組
構造規模　RC造　2F
延床面積　888㎡
工　　期　平成２年３月～平成４年３月

39 神戸大田郵便局
所 在 地　神戸市須磨区大田町
施　　工　四ッ橋組
構造規模　RC造　4F
延床面積　1,121㎡
工　　期　平成３年９月～平成４年８月



シルクロード博の春日野会場に建ったもの。軽やかな現代的表現の中にも、自然環境および周辺の建物との調和を図る配慮がうかがわれる

シルクロード博郵便局 (S.63)



内観/展示・掲示を中心にしたシンプルなインテリア

博覧会施設

---

40 奈良中央郵便局　シルクロード博覧会臨時出張所

所 在 地　奈良市春日野町
施　　工　大林組
構造規模　S造　1F
延床面積　199m²
工　　期　昭和62年12月～昭和63年３月



花の万博郵便局 (H.2)

花博の「咲くやこの花館」前に建ったもの。輝く光をテーマにしたシンボリックな外観は、多くの人々を惹きつけた



内観/魅力的なロビーのインテリアとともに、ヤマザキミノリ氏制作の「光の花園」は大好評

博覧会施設

---

41 花の万博郵便局

所 在 地　大阪市鶴見区鶴見緑地内
施　　工　戸田建設・東海興業・松村組
構造規模　S造　2F
延床面積　520㎡
工　　期　平成１年11月～平成２年２月

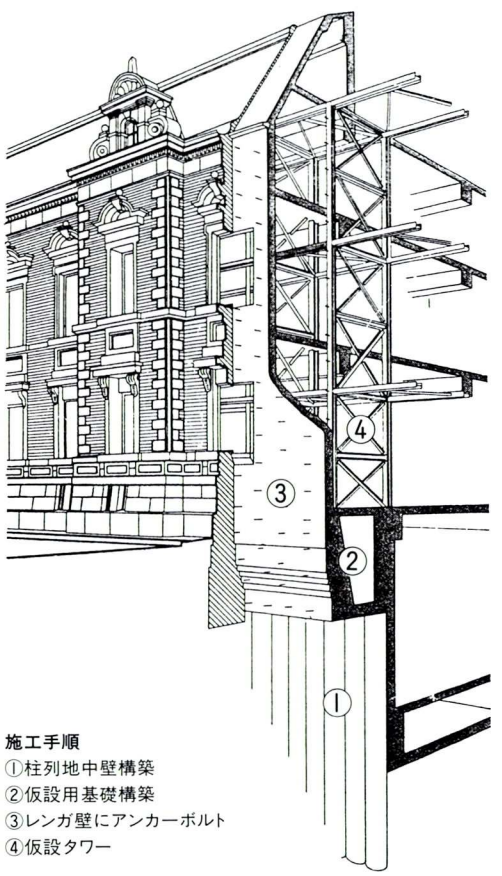
旧中京局(明治35年建立)のレンガ造外壁の一部を保存しつつ鉄筋コンクリート造で新築したもの。わが国の外壁部分保存の先駆的存在（昭和53年日本建築学会賞）

中京郵便局

リフォーム



旧外観(東洞院側)、後方に取りこわされた旧別館(明45)が見える



施工手順
①柱列地中壁構築
②仮設用基礎構築
③レンガ壁にアンカーボルト
④仮設タワー

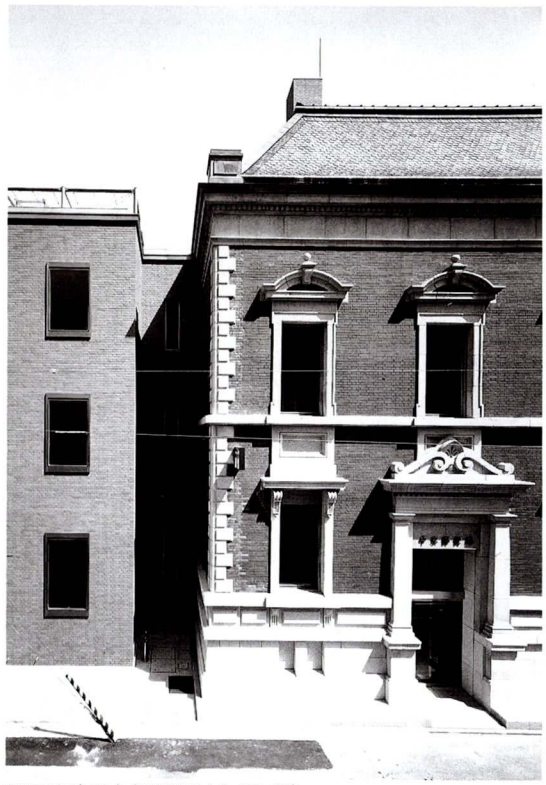
保存レンガ壁と新設躯体(断面図)

42 中京郵便局

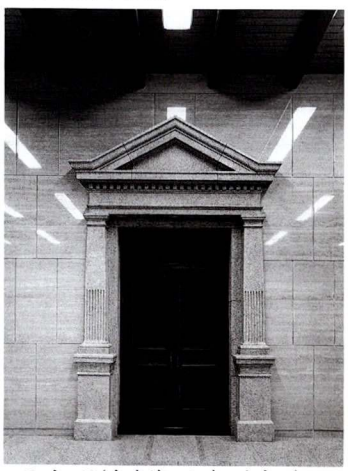
所 在 地　京都市中京区三条通り東洞院
施　　工　大林組
構造規模　本館　RC造一部SRC造　B1　3F
延床面積　本館　9,700㎡
工　　期　昭和51年３月～昭和58年３月



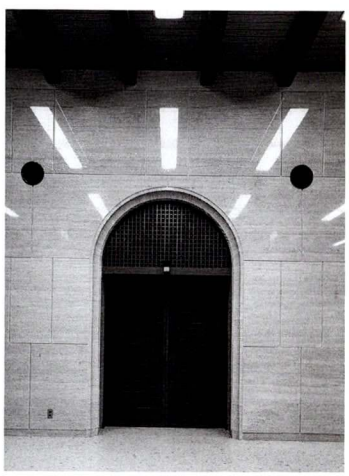
発着場(新築部分)



新旧外壁接合部(隅石まわり改造)



エディキュラ(在来窓口にあったもの)



郵便事務室への連絡口扉



窓口ロビー(在来エディキュラを壁面中央に移し象徴保存)



城下町を意識した、和風的立面構成による窓口改修

(新外観)

篠山郵便局 (H.1)

(旧外観)





窓口を顕在化させるため、窓口部分の外壁をアルミパネルでリフレッシュ

(新外観)



(旧外観)

池田郵便局 (H.2)

リフォーム

---

43 篠山郵便局

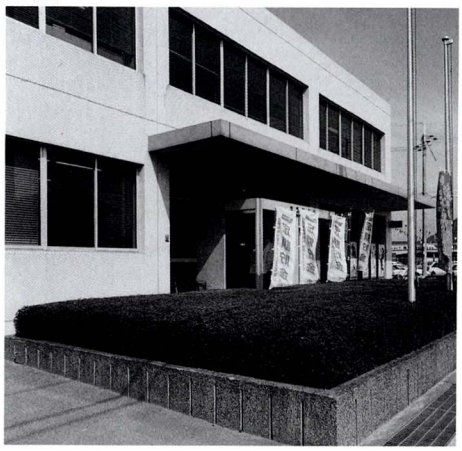
所 在 地　兵庫県多紀郡篠山町北新町
施　　工　青木建設
工　　期　平成１年５月～平成１年11月

44 池田郵便局

所 在 地　大阪府池田市城南
施　　工　松村組
工　　期　平成２年２月～平成２年10月

竜野郵便局
(H.2)

(旧外観)





庇を利用して窓口を拡張。新旧の調和を重視した手堅いデザイン

(新外観)



(模様替前)

門真郵便局
(H.3)



全面的にサッシを改修。明るく広々した窓口ロビー

(模様替後)

リフォーム

---

45 竜野郵便局

所 在 地　兵庫県竜野市竜野町富永字南野神
施　　工　進藤組
工　　期　平成２年２月～平成２年10月

46 門真郵便局

所 在 地　大阪府門真市一番町
施　　工　佐藤工業
工　　期　平成２年12月～平成３年６月



大阪中央郵便局 (H.3)







上段　平成3年改修の窓口ロビー
中段　昭和51年改修の窓口ロビー
下段　竣工当時の“公衆溜(窓口ロビー)”
右段　平成3年改修のコミュニティー・ルーム

戦前のモダニズム建築の骨格を残し、インテリアに華やかさを加味した。吉田鉄郎設計

リフォーム

---

47 大阪中央郵便局

所 在 地　大阪市北区梅田
施　　工　鴻池組
工　　期　平成２年10月～平成３年11月

北浜郵便局 (H.3)

大阪証券取引所内にある無集配普通局。インテリアをリフレッシュし大きくイメージチェンジ





和歌山中央郵便局 (H.1)

サッシュを前面に張り出し、窓口ロビースペースを拡充





京都岡崎郵便局 (H.3)

旧普通局(左京郵便局)を特定局に改修し、ゆったりとしたロビー空間を確保





リフォーム

---

48 北浜郵便局
所 在 地　大阪市中央区北浜
施　　工　大林組
工　　期　平成２年11月～平成３年３月

49 和歌山中央郵便局
所 在 地　和歌山市1番丁1番地
施　　工　戸田建設
工　　期　平成１年３月～平成１年９月

50 京都岡崎郵便局
所 在 地　京都市左京区岡崎入江町
施　　工　鴻池組
工　　期　平成２年３月～平成３年11月



吉野山郵便局
(S.55)

吉野山の伝統的な民家を、現代的な手法で再現している



高宮郵便局
(S.63)

隣接する多賀大社の鳥居と、古い街並みを意識し、住宅的スケールに近づけた現代和風の局舎 (うるわしの滋賀県建築努力賞)

51 吉野山郵便局
所 在 地　奈良県吉野郡吉野町吉野山
施　　工　菊田組
構造規模　S造　2F
延床面積　108㎡
工　　期　昭和54年12月～昭和55年８月

52 高宮郵便局
所 在 地　滋賀県彦根市高宮町
施　　工　土屋組
構造規模　RC造　2F
延床面積　767㎡
工　　期　昭和62年３月～昭和63年１月

平福郵便局
(H.3)



町家風デザインを採用し、町並み保存に積極的に協力した局舎

山城田辺郵便局
(S.63)



地域性を考慮し、笠木と屋根のディテールに工夫。シックな雰囲気の局舎

ローカリティー

53 平福郵便局
所 在 地　兵庫県佐用郡佐用町平福字中町東側
施　　工　神名工務店
構造規模　RC造　1F
延床面積　150㎡
工　　期　平成２年９月～平成３年８月

54 山城田辺郵便局
所 在 地　京都府綴喜郡田辺町大字興戸
施　　工　公成建設
構造規模　RC造　2F
延床面積　2621㎡
工　　期　昭和62年10月～昭和63年８月

ポスタルショップ サンパル(H.2)



神戸・三宮の商業ビル内の特定局。コンセプトは神戸の港。カウンターはヨットをモチーフに(臨時出張所)

シティポスト阪急
(H.2)



大阪・梅田の阪急デパート内の簡易局。グレーでまとめた今風でシックなデザイン(都市型簡易局)

大阪ツイン21ビル内郵便局(S.61)



2階フロアにあるが、ペデストリアンデッキからはアプローチしやすい。シティポストの先駆的存在(特定局)

K2ビル内郵便局
(H.3)



大阪・京橋駅前のK2ビル(篠原一男設計)内の特定局。狭いスペースを感じさせない躍動的なデザイン(特定局)

---

55 ポスタルショップ サンパル
所 在 地　神戸市中央区雲井通
完 成 年　平成2年

56 シティポスト阪急
所 在 地　大阪市北区角田町
完 成 年　平成2年11月

57 大阪ツイン21ビル内郵便局
所 在 地　大阪市中央区城見
完 成 年　昭和61年

58 K2ビル内郵便局
所 在 地　大阪市都島区東野田町
完 成 年　平成3年

西中島南方駅前郵便局



曲線カウンターがやさしい、ゆとりあるロビー空間（ビル内特定局）



天王寺小橋郵便局
(H.3)

ちょっとリッチな都市型特定局（ビル内特定局）



御堂筋ヒマワリ簡易郵便局 (H.3)

御堂筋ぞいの新しい窓口（都市型簡易局）



独立型CSカプセル
(H.2)

SF的デザインのキャッシュサービスコーナー（大阪貯金事務センター前）

---

59 西中島南方駅前郵便局
所 在 地　大阪市淀川区西中島
完 成 年　平成３年

60 天王寺小橋郵便局
所 在 地　大阪市天王寺区小橋町
完 成 年　平成３年

61 御堂筋ヒマワリ簡易郵便局
所 在 地　大阪市中央区平野町
完 成 年　平成３年

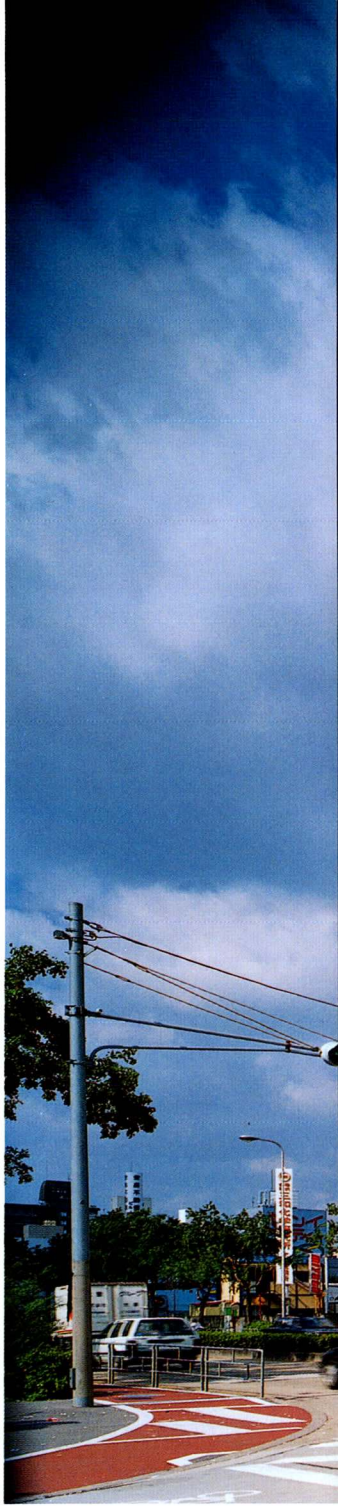
62 独立型CSカプセル
所 在 地　大阪市天王寺区城南寺町
完 成 年　平成２年

大阪郵便貯金会館
（メルパルクOSAKA）

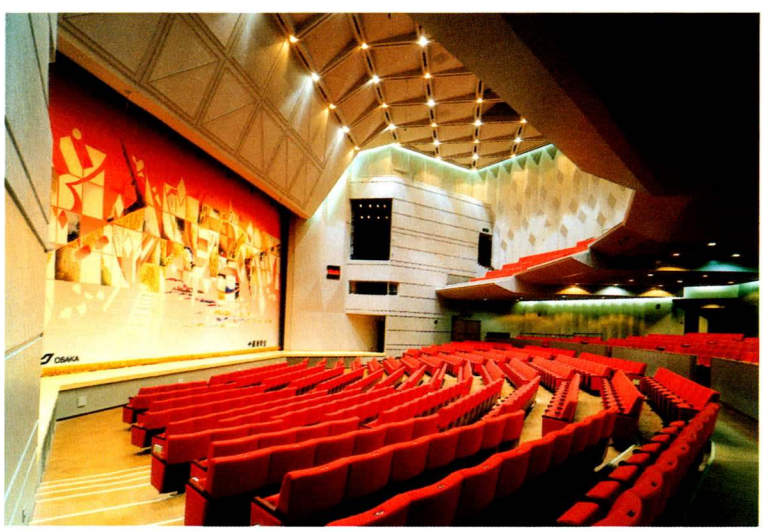
所 在 地　大阪市淀川区宮原４
施　　工　竹中工務店・青木建設・松井建設・共立建設
構造規模　SRC造　B2　10F
延床面積　25,884㎡
工　　期　昭和63年３月～平成２年８月



ピロティ／吹抜部分夜景（地階はレストラン）



文化施設

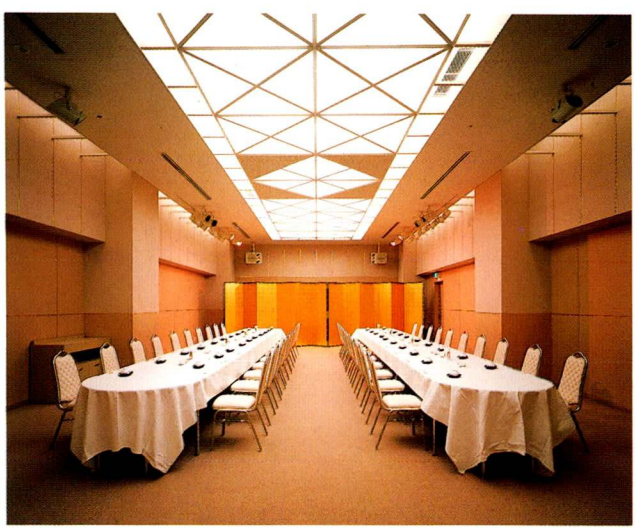


多目的劇場／主客融合を図り、円弧型の構成（1010席）

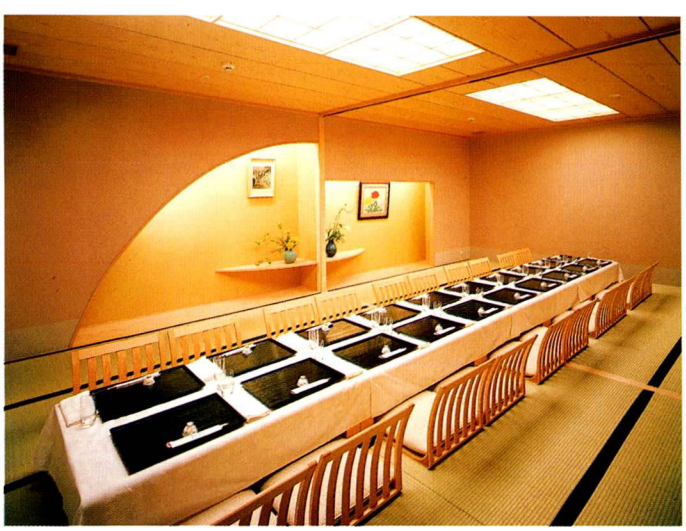


フロントまわり／多目的カウンター

全景／構造と機能を率直に表出するダイナミックな造形



宴会室／全14室それぞれデザインが異なる



レストラン（和室）／和洋中のメニューに対応



完成後13年でも古さを感じさせない。シンプルでのびやかな立面構成

近畿郵政局
研修所 (S.54)



中庭／中庭に面したリズミカルな外部空間の構成

厚生施設

---

64 近畿郵政局研修所管理・厚生・校舎棟

所 在 地　奈良県北葛城郡河合町高塚台
施　　工　熊谷組
構造規模　管理棟　RC造　2F　延床面積3,675㎡
　　厚生棟　RC造　3F　延床面積3,653㎡
　　校舎棟　RC造　B1　4F　延床面積6,158㎡
工　　期　昭和53年3月～昭和54年6月

近畿郵政局体育館 (S.61)



古い郵便局舎(右)を改装し、体育館(左)を増設。コンクリートのマッスとカーテンウォールの軽快さを対比させている

大阪北逓信病院 (H.2)



ロビー／明るくて、わかりやすくなった待ち合いロビー

厚生施設

65 近畿郵政局体育館

所 在 地　大阪市淀川区十三本町
施　　工　島藤建設工業
構造規模　RC造　3F
延床面積　2,386㎡
工　　期　昭和60年５月～昭和61年３月

66 大阪北逓信病院

所 在 地　大阪市北区中崎
施　　工　鴻池組
工　　期　平成２年４月～平成２年９月



京都東山・南禅寺の近くに建つ保養所

京都郵政共済会館《洛翠》

(S.62)



旧建物の庭園を生かしつつ(江戸時代の茶室を保存)、数寄屋風の雰囲気を表現している

厚生施設

---

67 京都郵政共済会館《洛翠》

所 在 地　京都市左京区南禅寺下河原町
施　　工　藤木工務店
構造規模　本　館　RC造　2F　延床面積1,342㎡
　　宿舎棟　RC造　2F　延床面積220㎡
工　　期　昭和61年2月～昭和62年4月

京都郵政
共済会館
《洛翠》



現代的和風をめざしたエントランスホール

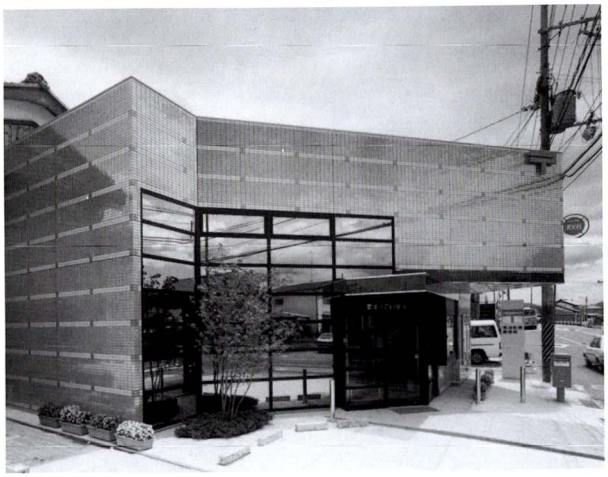


数寄屋風の会議室

厚生施設



芦屋公光郵便局



草津矢橋郵便局



西宮神明郵便局



尼崎田能郵便局



尼崎園田郵便局



大阪高津郵便局

68 芦屋公光郵便局
所在地　兵庫県芦屋市公光町
設　計　産建
構造規模　RC造　2F
延床面積　125㎡
竣　工　昭和62年２月

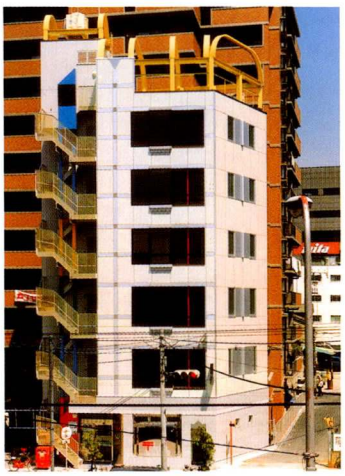
69 西宮神明郵便局
所在地　兵庫県西宮市神明町
設　計　日本逓信建築事務所
構造規模　S造　2F
延床面積　124㎡
竣　工　昭和62年８月

70 尼崎園田郵便局
所在地　兵庫県尼崎市東園田
設　計　日本逓信建築事務所
構造規模　S造　1F
延床面積　161㎡
竣　工　昭和62年10月

71 草津矢橋郵便局
所在地　滋賀県草津市矢橋町
設　計　日本逓信建築事務所
構造規模　S造　2F
延床面積　132㎡
竣　工　平成１年６月

72 尼崎田能郵便局
所在地　兵庫県尼崎市田能
設　計　日本逓信建築事務所
構造規模　S造　1F
延床面積　142㎡
竣　工　平成１年10月

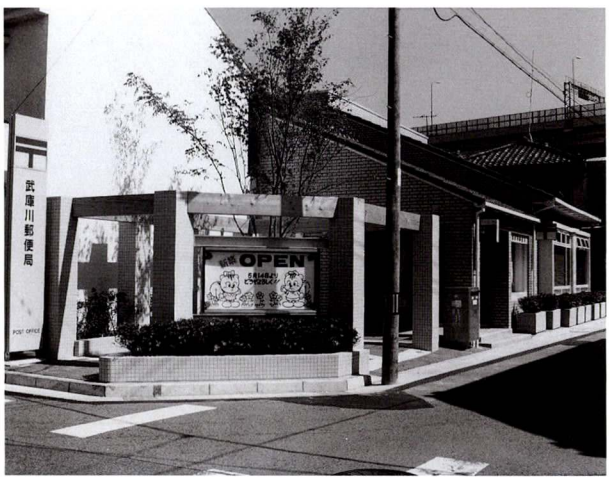
73 大阪高津郵便局
所在地　大阪市中央区道頓堀
設　計　日本逓信建築事務所
構造規模　S造　2F
延床面積　199㎡
竣　工　平成２年３月



大阪玉造郵便局



神戸竹の台郵便局



武庫川郵便局



新宮横町郵便局



伊丹森本郵便局



東淀川相川郵便局

74 大阪玉造郵便局
所在地　大阪市中央区玉造
設　計　光創建築事務所
構造規模　S造　6F
延床面積　379.47㎡
竣　工　平成２年３月

75 武庫川郵便局
所在地　兵庫県尼崎市武庫川町
設　計　日本通信建築事務所
構造規模　S造　2F
延床面積　159㎡
竣　工　平成２年５月

76 伊丹森本郵便局
所在地　兵庫県伊丹市森本
設　計　創間設計事務所
構造規模　S造　2F
延床面積　150㎡
竣　工　平成２年５月

77 神戸竹の台郵便局
所在地　神戸市西区竹の台
設　計　日本通信建築事務所
構造規模　S造　2F
延床面積　142㎡
竣　工　平成２年７月

78 新宮横町郵便局
所在地　和歌山県新宮市大橋通
設　計　日本通信建築事務所
構造規模　S造　2F
延床面積　134㎡
竣　工　平成３年11月

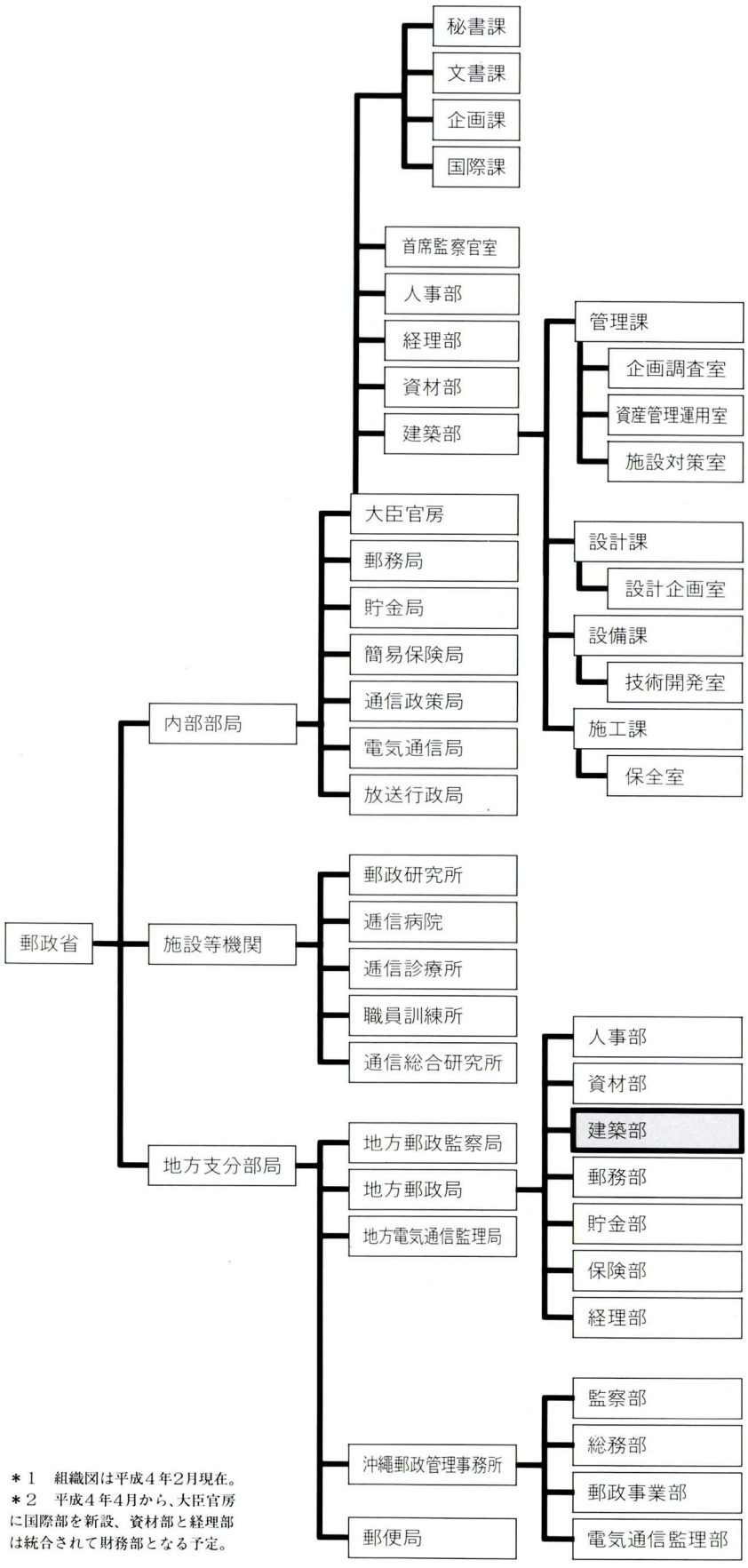
79 東淀川相川郵便局
所在地　大阪市東淀川区相
設　計　日本通信建築事務所
構造規模　S造　2F
延床面積　206㎡
竣　工　平成３年12月

近畿の郵政建築の歩み

	部長・主席/(組織)	近畿郵政局管内の作品	近畿地方の建築（設計者）	社会・イベント
1978 (*S. 53*)	部長：森井　広 主席：工藤秀一	東山郵便局 大正郵便局 中京郵便局(増築)	ピッコロシアター （兵庫県都市住宅部） 北野アレイ（安藤）	・伊豆大島沖地震 ・大韓航空機ソ連領空侵犯
1979 (*S. 54*)	部長：森井　広 主席：根橋利夫	大阪西郵便局 西成郵便局 近畿郵政局研修所	大阪南港ポートタウン	・東京サミット開催 ・スリーマイルズ島原子力発電所放射能漏れ
1980 (*S. 55*)	部長：沢田誠二 主席：根橋利夫	住之江郵便局 大和郡山郵便局 吉野山郵便局	宝塚市庁舎（村野） ナビオ阪急（竹中）	・静岡駅前地下街火災 ・モスクワ五輪
1981 (*S. 56*)	部長：尾島　勲 主席：根橋利夫	奈良郵便局 高槻郵便局 天理郵便局	神戸ポートピアホテル（日建） 織陣（高松） 三輪そうめん山本本社(竹中)	・北方領土の日決定 ・神戸ポートピア博覧会
1982 (*S. 57*)	部長：宮本明雄 主席：鎌田玄美 建築調整官設置 第三設計係設置 （構造設計）	西宮郵便局 姫路郵便局（増築） 岸和田郵便局（増築） 兵庫郵便局（増築） 近畿郵政局（増築）	ザ・シンフォニーホール （大成建設） 向日町教会・まこと幼稚園(内井)	・ホテルニュージャパン火災 ・羽田沖日航機墜落事故
1983 (*S. 58*)	部長：宮本明雄 主席：鎌田玄美	長浜郵便局 京都北郵便局 豊中郵便局 京都中央郵便局（増築）	六甲の集合住宅（安藤） ARK（高松） 電通大阪支社（槇）	・大韓航空機墜落 ・三宅島大噴火
1984 (*S. 59*)	部長：吉田　武 主席：永野龍男	山城八幡郵便局 吉野郵便局 芦屋郵便局（増築）	京都エミナース（伊藤喜三郎） 白鹿記念酒造博物館（大林） 伊丹市迎賓館「鴻臚館」（澤）	・グリコ森永事件 ・ロスアンゼルス五輪 ・郵便輸送体系改変
1985 (*S. 60*)	部長：吉田　武 主席：永野龍男	大阪港郵便局 藤井寺郵便局（増築） 枚方郵便局（増築）	国立京都国際会館展示場 （大谷） 味覚糖奈良工場（竹山）	・つくば国際科学技術博覧会 ・電電公社民営化(NTT)
1986 (*S. 61*)	部長：野々村俊夫 主席：永野龍男	東灘郵便局 浜寺郵便局 堺金岡郵便局（増築）	大阪ヒルトンインターナショナル （竹中） 六甲の教会（安藤） 都ホテル大阪（村野）	・三原山噴火 ・スペースシャトル爆発 ・チェルノブイリ原子力発電所火災事故
1987 (*S. 62*)	部長：野々村俊夫 主席：伊藤　勤	左京郵便局 伊丹郵便局（増築） 布施郵便局（増築） 京都郵政共済会館 「洛翠」	FISH DANCE(F. O. ゲーリー) 京都国立近代美術館（槇）	・シルクロード博 ・国鉄民営化（ＪＲ）
1988 (*S. 63*)	部長：野々村俊夫 主席：伊藤　勤	住吉郵便局 船場郵便局	神戸オリエンタルホテル(竹中) 京都宝ヶ池プリンスホテル （村野）	・瀬戸大橋開通 ・ソウル五輪
1989 (*H. 1*)	部長：海老沼一夫 主席：佐藤和夫	茨木郵便局 加西郵便局 野洲郵便局	エスカミューズ（若林） D-Hotel OSAKA（アモルフ） ワールド記念ホール(昭和設計)	・昭和天皇崩御（S. 64） ・名古屋デザイン博 ・消費税 ・東西ドイツ統合
1990 (*H. 2*)	部長：観音克平 主席：佐藤和夫	花の万博郵便局 神戸西郵便局 都島郵便局 大阪郵便貯金会館 「メルパルクOSAKA」	Ｋ２ビル（篠原） 南海サウスタワーホテル（日建） クリスタルタワー（竹中） 4 Walls（大久保）	・花と緑の万国博 ・湾岸戦争勃発
1991 (*H. 3*)	部長：観音克平 主席：木口修二	香芝郵便局 浪速郵便局 八尾郵便局（増築）	大阪東京海上ビル（鹿島） 大阪国際平和センター（シーラカンス）	・湾岸戦争終結 ・雲仙普賢岳噴火 ・ソ連邦崩壊

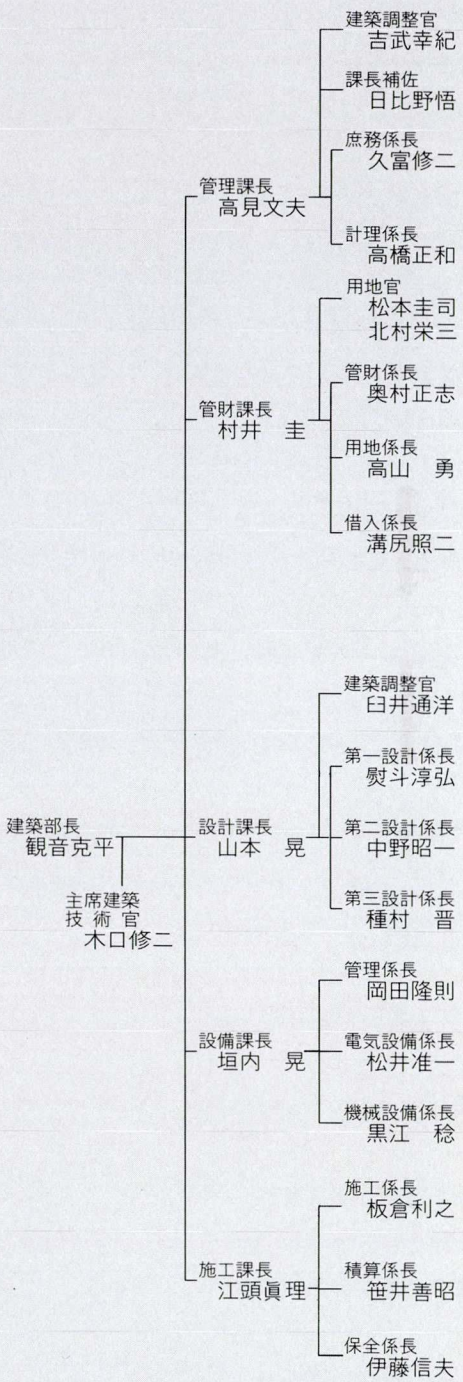
1992年　部長：観音克平、主席：木口修二　近畿郵政局管内の竣工予定作品：奈良西郵便局、尼崎北郵便局

郵政省の組織



＊1　組織図は平成4年2月現在。
＊2　平成4年4月から、大臣官房に国際部を新設、資材部と経理部は統合されて財務部となる予定。

近畿郵政局建築部の構成



『近畿郵政局建築部』作品特集

協　賛

建設業

株式会社 **暁建設工業 大阪支店**　大阪市北区芝田2-2-13浅野ビル TEL06-372-2146

株式会社 **新井組大阪支店**　大阪市中央区瓦町4-6-8　TEL06-227-5011

古久根建設 株式会社 **大阪支店**　大阪市西区靱本町1-14-18 TEL06-441-4121

株式会社 **笹川組**　滋賀県大津市打出浜13-15　TEL0775-23-2314

株式会社 **中田工務店**　神戸市西区伊川谷町有瀬1468-1　TEL078-974-1436

株式会社 **永岡組**　姫路市網干区興浜1862-9　TEL0792-74-2211

前川建設 株式会社　兵庫県加古川市野口町良野335　TEL0794-21-3281

株式会社 **吉村工務店**　奈良県北葛城郡新庄町大字北道穂56　TEL0745-69-2081

株式会社 **四ツ橋組**　神戸市西区森友5-53-1　TEL078-927-3777

電気・空調・衛生設備

株式会社 **朝日工業社大阪支社**　大阪市淀川区加島1-58-59　TEL06-302-2273

鳳工業 株式会社　大阪市北区堂島2-3-23　TEL06-344-4771

株式会社 **籠谷 電気工事事業部**　兵庫県高砂市荒井町御旅2-1-17 TEL0794-42-2407

旭日電気工業 株式会社 **大阪支社**　大阪市西区北堀江1-1-30 TEL06-531-5566

経塚工業 株式会社 **大阪支店**　大阪市北区天神橋3-10-8-104 TEL06-353-3782

株式会社 **協和エクシオ関西支店**　大阪市西区京町堀3-6-13 TEL06-459-2820

栗原工業 株式会社　大阪市北区角田町1-1　TEL06-313-1101

三建設備工業 株式会社 **大阪支店**　大阪市北区紅梅町3-5　TEL06-352-1131

株式会社 **三興社**　大阪市北区西天満2-6-8　TEL06-361-3671

三和電気土木工事 株式会社　大阪市北区南森町1-4-19　TEL06-361-6451

株式会社 **大気社大阪支社**　大阪市北区中之島3-2-18住友中之島ビル７Ｆ TEL06-448-5851

第一工業 株式会社 **大阪支店**　大阪市北区西天満3-6-14　TEL06-364-6661

大和施設工業 株式会社　神戸市須磨区大手町1-5-12　TEL078-731-2458

東光電気工事 株式会社　東京都千代田区西神田1-4-5　TEL03-3292-2111 06-202-0325

成瀬電気工事 株式会社 **大阪営業所**　大阪市東成区東今里1-4-20 TEL06-972-6979

株式会社 **西原衛生工業所大阪店**　大阪市北区中津6-8-4 TEL06-458-3628

日管工業 株式会社 **大阪支店**　大阪市都島区御幸町1-5-21　TEL06-921-6671

株式会社 **メイキコウ**　愛知県豊明市大久伝町東180　TEL0562-92-7111

富士電機総設㈱関西支社　大阪市福島区鷺洲1-11-19富士電機大阪ビル TEL06-458-5041

塗装工事

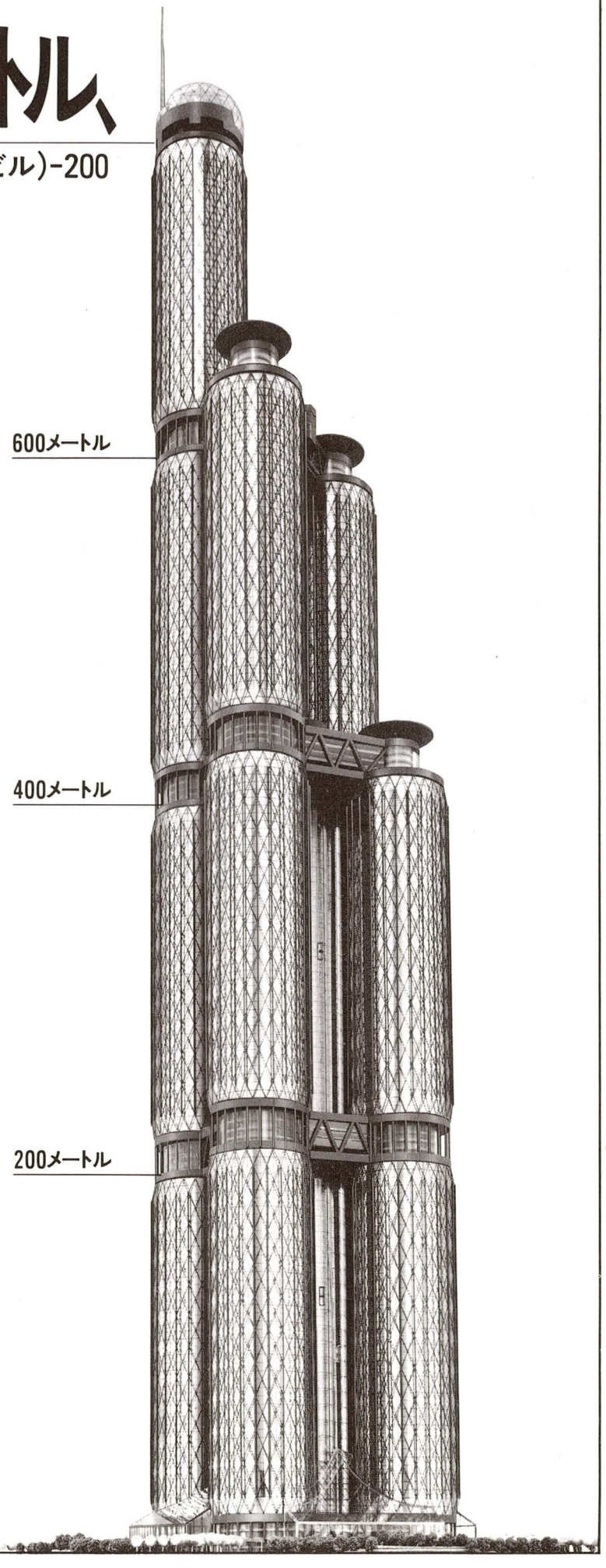
株式会社 **伊藤塗装商会**　尼崎市武庫元町1-21-18　TEL06-431-1104

株式会社 **フミヤ**　大阪市淀川区三津屋北1-33-4　TEL06-308-2138

株式会社 **みやた**　神戸市灘区大内通6-1-8　TEL078-801-3491

地上800メートル、

DIB(ダイナミック・インテリジェント・ビル)-200



しかし、高さだけでは語れません。

より人間に近い空間を追求した鹿島の超々高層ビル、DIB-200は50階建の超高層ビルをひとつのユニットとして、全体を構成する独自のユニット連結システムを採用。眺望・採光はもとより、オフィス・ホテル・住宅などの複合機能を有機的かつ一体化することで、職・遊・住の近接が図れるなど、都市にさまざまな恩恵をもたらします。また、建物全体の剛性を高めるこのシステムは、優れた制震技術とともに超々高層ビルの安全をしっかり支えます。

鹿島
KAJIMA CORPORATION
本社:〒107 東京都港区元赤坂1-2-7

自然と

人と

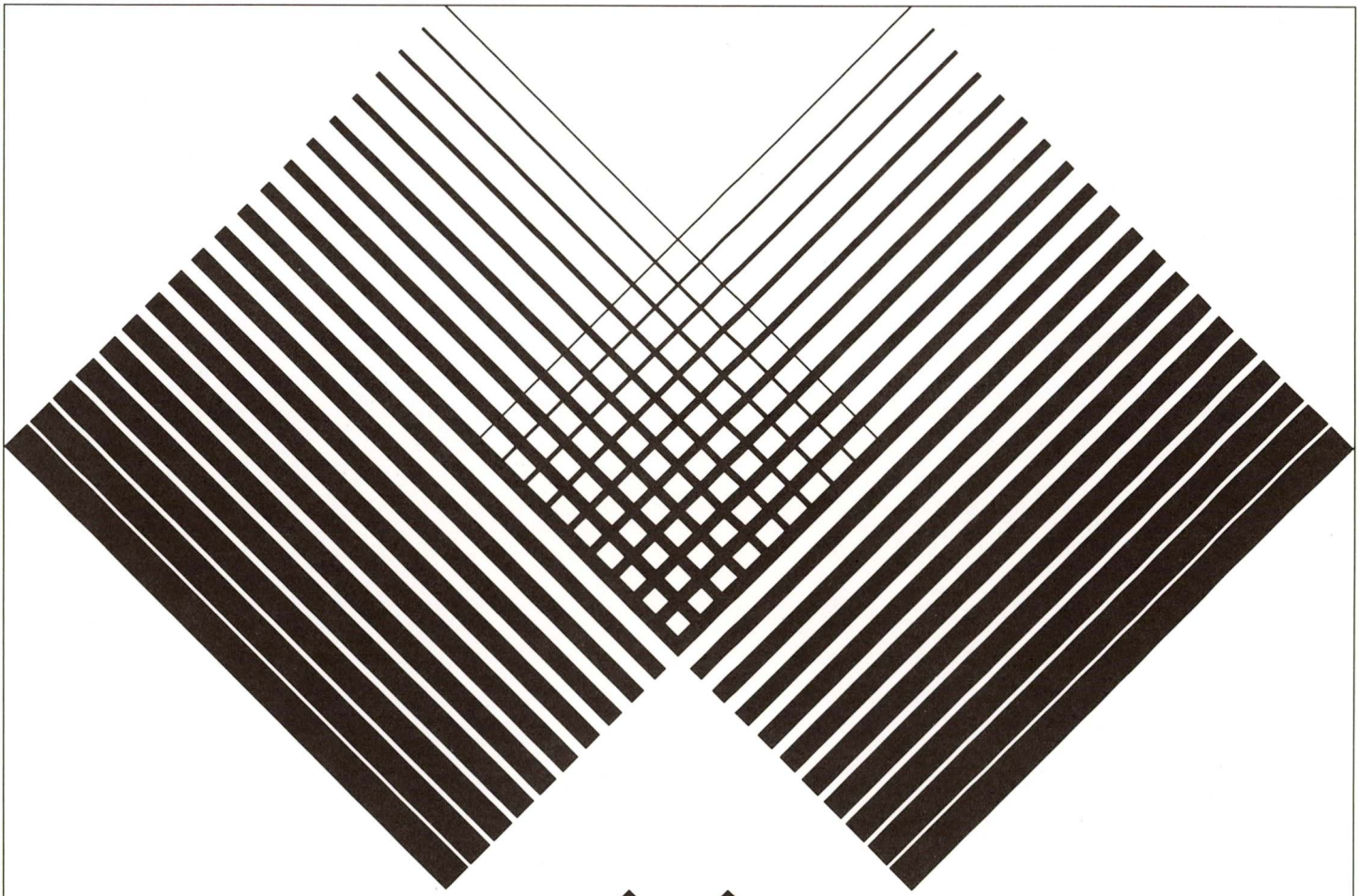
そして都市の

調和をテーマに21世紀を築きます。

CHALLENGE 21

株式会社 鴻池組
KONOIKE CONSTRUCTION CO., LTD.

本社・大阪本店 大阪市中央区北久宝寺町3丁目6番1号
電　話　06（244）3500



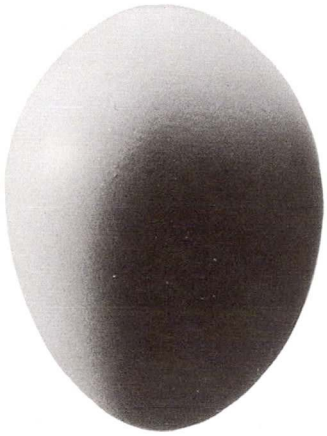
FUJITA

自然と街と人間の美しい調和を追い求めるフジタは、都市開発・市街地再開発をはじめ、さまざまな先端技術で建設の領域を超え、エネルギー開発やレジャー事業にも意欲的に取り組んでいます。フジタは、付加価値の高い企業活動を通じて、より豊かな人間環境を創ります。

"高"環境づくり フジタ

本　　社　151 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15 tel.(03)3402-1911
大阪支店　530 大阪市北区堂島2-1-16 tel.(06)348-4510

21世紀の新大陸発見



■不屈の冒険魂と情熱。コロンブスの頃、大航海成功に不可欠の条件でした。
■やがて21世紀。ゆたかな自然に包まれた生活環境を地上に取り戻すため、また、人類が活動する新しいスペースを確保するため地中や海洋に開発の熱い眼が注がれています。新大陸発見の夢を未来につなぐこうした開発で最も重要なものは技術力です。
■AOKIは、これらの高度技術を最重要テーマのひとつとして研究・開発に挑んでいます。

株式会社
青木建設

東京本社/〒150 東京都渋谷区渋谷2-17-3 TEL.03-3407-8511　本社/〒531 大阪市北区大淀南1-4-15 TEL.06-458-5851

株式会社 淺沼組

人間にやさしい
環境ってなんだろう。
アサヌマは考えます。

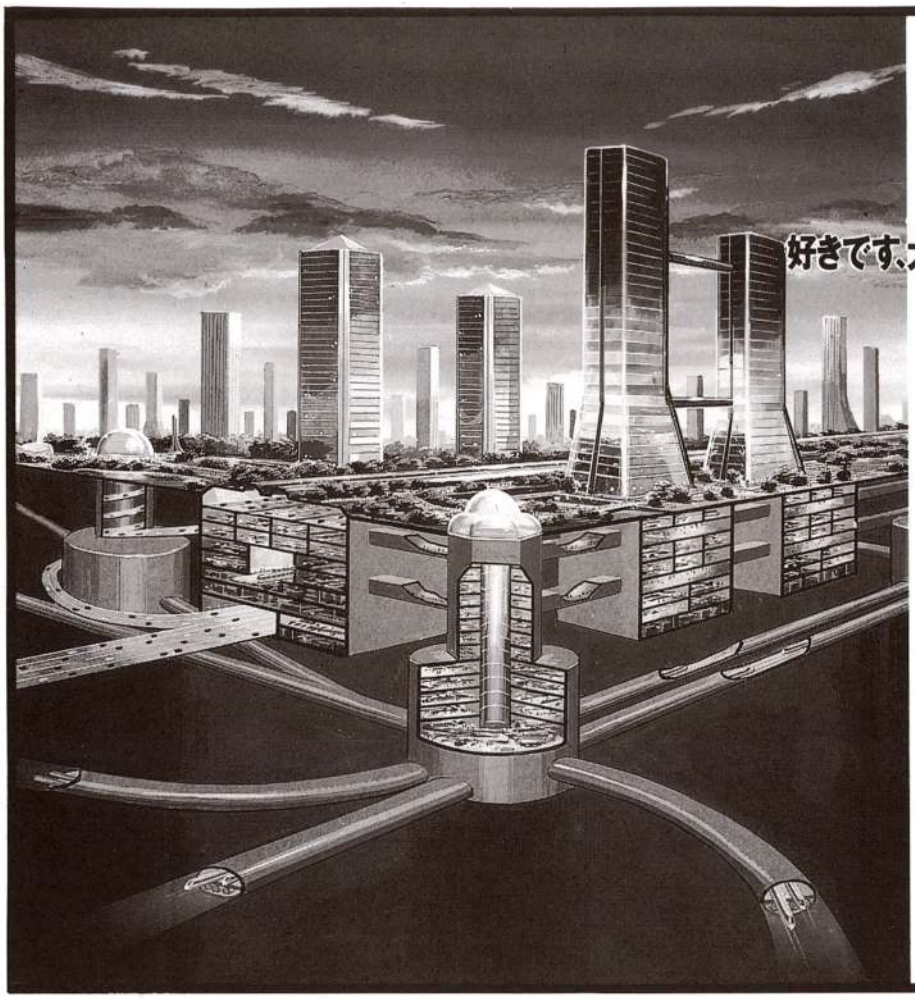


人・都市・自然のシンフォニー

Asanuma

1992年1月20日、おかげさまでアサヌマは創業100周年を迎えました。

本社・大阪本店 〒543 大阪市天王寺区東高津町12番6号 TEL.06-768-5222(代表)　東京本店 〒104 東京都中央区築地6丁目19番20号(ニチレイ東銀座ビル) TEL.03-3248-1800(代表)



好きです、大地。たいせつに築きます、未来を…

私たちはたくさんの夢を育んでいます。
それをひとつずつ実現していくため、
知恵とテクノロジー、豊かな経験を生かしながら、
奥村組は、新しい提案や試みを
積極的に推進したいと考えています。

奥村組

本　　社:大阪市阿倍野区松崎町2-2-2 TEL.06(621)1101
東京本社:東京都港区元赤坂1 - 3 - 10 TEL.03(3404)8111

技術で未来を考える——熊谷組

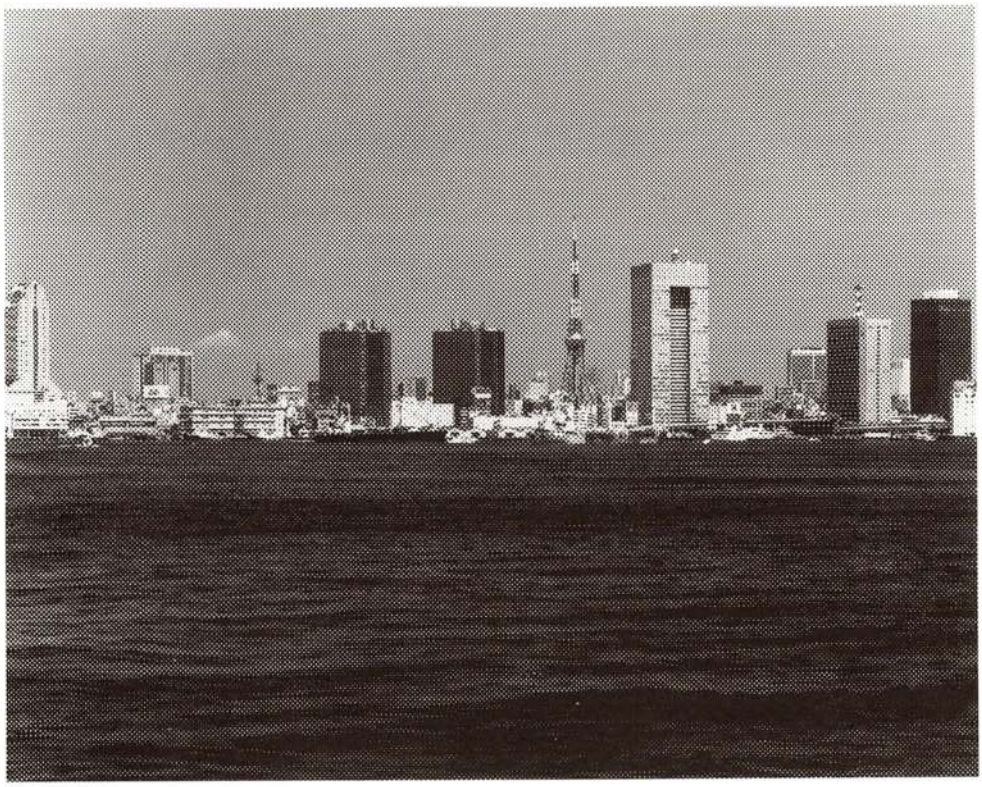


KUMAGAI 熊谷組

本社●〒162 東京都新宿区津久戸町2-1　☎03-3260-2111
大阪支店●〒534 大阪市都島区片町2-10-5 ☎06-352-1151

優しさと快適さの未来形。
水と緑と光あふれる環境づくり。

SHMZ



人がつくる、人の場所。
SHIMIZU CORPORATION
清水建設

大地への愛　人間への愛

錢高組

社長　錢高一善

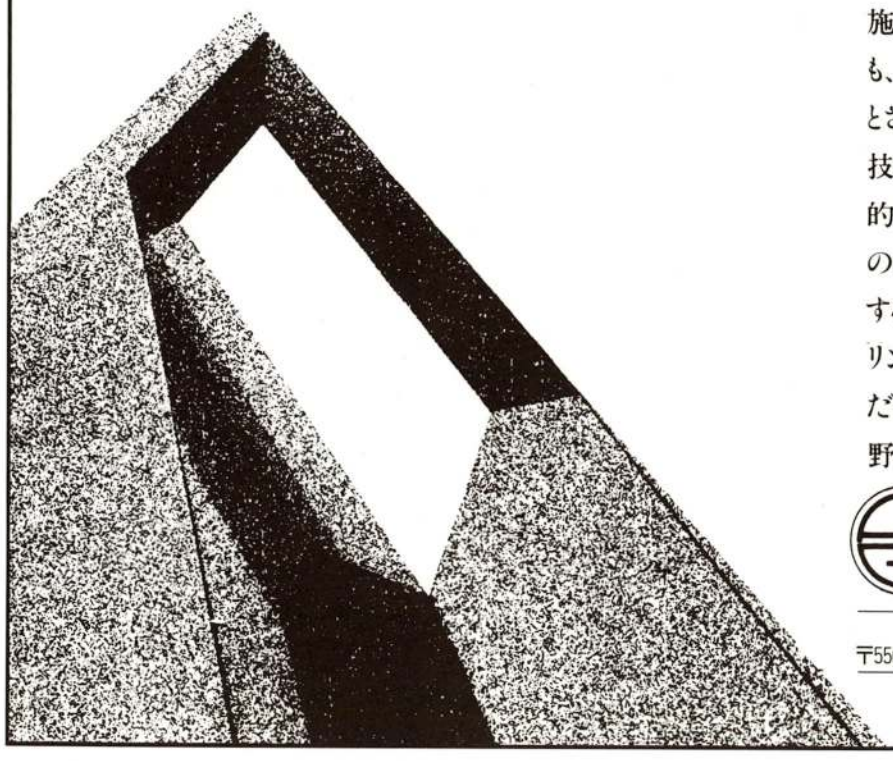
本社　大阪市西区西本町2丁目2番11号
大阪 (06) 531－6431
東京本社　東京都千代田区一番町31番地
東京 (03)3265－4611
支社・支店　大阪・東京・北海道・東北・北関東・千葉
横浜・北陸・名古屋・広島・四国・九州

TOKYU CONSTRUCTION

東急建設株式会社
大　阪　支　店

大阪市北区西天満５丁目14番10号（梅田ＵＮビル）〒530　☎06（313）1371（代表）
本社　東京都渋谷区渋谷1-16-14（渋谷地下鉄ビルディング）〒150　☎03（5466）5111（大代表）

新世紀へ、新分野へ、新技術で。

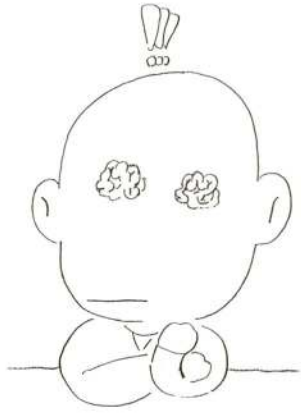


OA化、ニューメディアシステム、省エネルギー施設など…例えばひとつのビルを建設するにも、建築技術だけでなく、様々な分野の技術とさらにそれらを有機的に結びつけるシステム技術が必要です。いま、建設会社にもより総合的な技術力が求められる時代がやって来たのです。戸田建設は、そうした多様化、複雑化する社会的ニーズに応えるため、エンジニアリングコンストラクターとして、建築・土木技術だけでなく、これらに関連する様々な専門分野の技術開発に積極的に取り組んでいます。

戸田建設

本社/〒104 東京都中央区京橋1-7-1 ☎(03)3562-6111
大阪支店
〒550 大阪市西区西本町1-13-47新信濃橋ビル ☎(06)531-6095

発想エネルギーは、無限です。



未来へ——安心を創る(つく)る

FUJIKI

藤木工務店

大阪本店　〒550 大阪市西区立売堀1-9-33　㊅ 06- 538-6400
本　　社　〒540 大阪市中央区常盤町1-3-9　㊅ 06- 944-1468(代)
東京本社　〒160 東京都新宿区三栄町23-4　㊅ 03-3357-1600(代)
本 支 店　大阪・東京・倉敷・京都・四国・福岡
営 業 所　埼玉・大宮・多摩・横浜・静岡・名古屋・宇治・泉南・神戸・岡山・広島・徳島・新居浜・松山・長崎・南九州

●●●いろんな笑顔をつくります。



技術が生みだす笑顔は、私たちの誇りです。

MAEDA

前田建設工業株式会社 大阪支店

取締役支店長　吉田　鍾

大阪支店／大阪市都島区東野田町2-4-20　〒534　TEL.06(353)7891(代表)



こころと技術の交響楽

技術をこえる何かが
感性が響き合う
テクノロジーとカルチャーの
出会うところ
時代をこえ、
世代をこえ、
さらに拡がる可能性

松村組

大阪市北区天満２－１－33　　電話(06)353－1131
大阪・東京・名古屋・札幌・東北・広島・福岡・神戸・京都

Muramoto

心と技術で明日を築く

楽しくゆとりある空間、夢を抱いて暮らせる街づくり
環境保全や地域活性化など、たえずトータルシステムで建設を考えます。

村本建設株式会社

代表取締役 村本豊嗣

奈良本店　〒635 奈良県北葛城郡広陵町安部５４７ ☎(0745)55-1151　FAX (0745)55-2871
大阪本社　〒543 大阪市天王寺区四天王寺１－５－43 ☎(06) 774-2111　FAX (06) 772-2123
東京本社　〒102 東京都千代田区二番町３－４ ☎(03)3238-2111　FAX (03)3238-2010



▲東芝ケミカル・技術センター
（グランデタイルパネル）

- ●スタンダードパネル
- ●ミラーコートパネル
- ●タイルパネル

一般パネル
開口パネル
コーナーパネル

ダイナミックな感性で演出する ハイグレードな建築空間。

旭化成のグランデは、パネル幅600～1800ミリのワイドな超軽量コンクリートパネルです。ダイナミックな建築空間を創出する新しいモデュール。いま、最新のインテリジェントビル、ハイテク工場、そして著名なホテルなど、一流建築に次々と採用され、高い評価を頂いています。ハイグレードなデザイン性、さらには免震・耐火・経済性など、総合性能に優れた先進の建材としてグランデは、都市空間に新しい感性をつくりだします。



▲東京ベイホテル東急・アトリウム内壁使用
（グランデスタンダードパネル）

超軽量コンクリートパネル
（幅600～1,800ミリ）
グランデ

北海道・東日本
中日本・西日本
旭化成建材

東京03(3507)7855／札幌011(261)5443／仙台022(223)5155／金沢0762(31)7188／名古屋052(212)2233
大阪 06(347)3847／広島082(247)6131／高松0878(22)0305／福岡092(752)3974

●グランデの新しい（テクニカル・ハンドブック：150頁）（一般カタログ：56頁）を配布中。

施工が短期間なので、新築・改装時のフロア仕上げに!

簡単施工の置敷式、足元スッキリ溝配線方式。



インテリジェント化する都市空間。OA機器の配線ケーブルがスッキリと床下に——。既存フロアの上に敷く置敷式なので、施工が容易な上、短い工期で完成。タキロン独自のデルタ形状、溝配線方式により、堅牢で歩行性の良いフロアが誕生します。オフィス空間や店舗の、これからを考えれば「OAデバイスフロア」が効率的です。

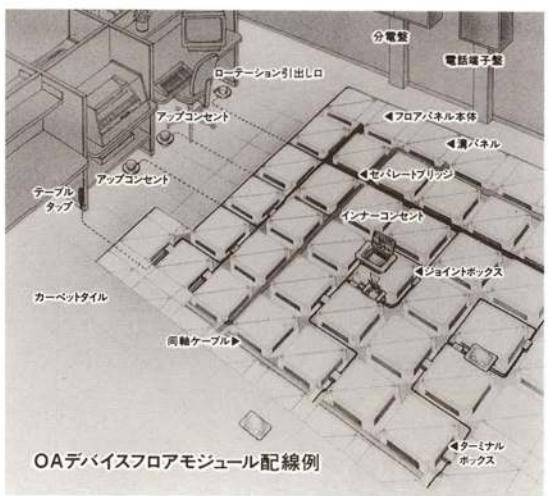
OAデバイスフロア

低床タイプ溝配線方式

- ●安定性の良い3点設置構造の三角形、3つの支点で床の不陸に対応。
- ●熱に強く、大幅な軽量化が実現した新素材BMCを採用。
- ●溝配線と3点設置構造により、簡単な施工で驚くほどの短工期が実現。
- ●レイアウトの変化にも対応力があり、配線の新設・移設・増設が容易。
- ●BMC素材とカーペットタイルがもたらす、快適な歩行感。
- ●ゆとりを持たせた豊富な配線容量。

■種類

タイプ	45H	64H	70H	100H
寸法	500mm角×高さ45mm	500mm角×高さ64mm	450mm角×高さ70mm	500mm角×高さ100mm
重量	23.7kg/㎡	26.6kg/㎡	24.3kg/㎡	27.3kg/㎡



OAデバイスフロアモジュール配線例

大阪タキストロン株式会社 〒564 大阪府吹田市垂水町3-17-25(第一福徳ビル) ☎(06)330-0404

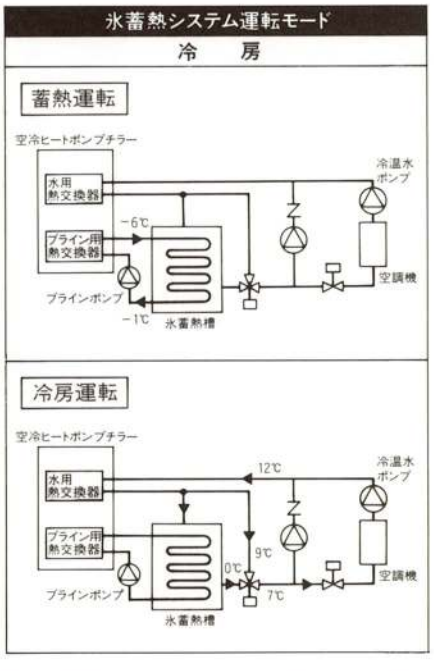


夜10時、今から蓄えます。

▲関西電力奈良営業所

夜間の電力料金は昼間の約1/3
ランニングコストのことを考えれば、蓄熱式ヒートポンプシステム。

氷蓄熱式ヒートポンプシステムは、業務用蓄熱調整契約による、午後10時から翌朝8時までの夜間の割安な電力料金を利用して、夏は氷、冬は温水を蓄熱槽に蓄え、昼間にそのエネルギーを冷暖房に活かします。

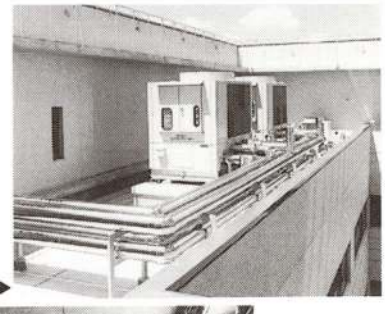


電力量料金の比較（1kWh当り 6,000V供給単価）

	夏　季	その他季
業務用電力料金	15.33	13.93
割引後の夜間蓄熱料金	4.60	

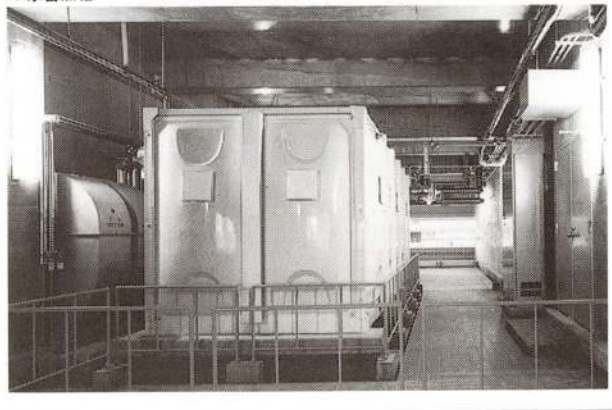
［氷蓄熱式ヒートポンプシステムの主な特長］

- ●水蓄熱に比べてエネルギー量は約12倍　必要スペースは1/4～1/12
- ●大型ビルから中・小型ビルまで、さまざまな規模のビルに設置可能
- ●運転、保守、管理が簡単
- ●電気だからセーフティ&クリーン
- ●同一設備での冷暖房運転可能
- ●有利な税制上の助成措置が適用可能



空気熱源ヒートポンプチラー▶

▼氷蓄熱槽



くらしとエネルギーを考える

関西電力

●お問い合わせ
関西電力株式会社・市場開発部
〒550 大阪市西区土佐堀1丁目4番11号
☎(06)441−8821(代表)

郵政建築と共に前進するART









メルパルク内郵便局

本誌作品特集のサイン関係は大半をアート工芸が協力させていただいてます。

ART
COMMUNITY SIGN
ART CRAFT CO.,LTD.

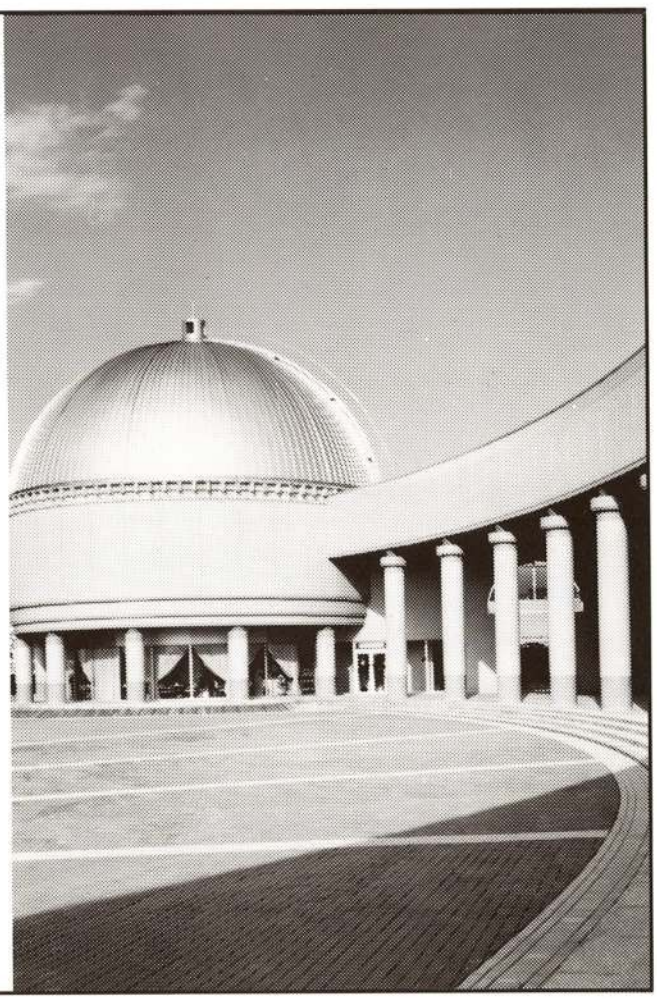
株式会社 アート工芸

本　　社　〒577 東大阪市川俣1丁目3番7号 TEL(06) 782-2403(代表)
中部営業所　〒451 名古屋市西区香呑町1丁目7 TEL(052)524-6791(代表)
中国営業所　〒730 広島市中区東白町10－4 TEL(082)223-8262(代表)

INAX

人・間・空・間
たいせつに

INAXが提唱する「環境美」は、都市空間を再構成する都市美、
高質の住まいづくりを推進する生活美、
そして企業イメージを建築物で高める企業美
この3つが柱となっています。
そしてここに共通する基盤は、「セラミック技術」です。
台所、浴室、トイレなど水まわりはもとより、
門、庭園、玄関まわりなどのエクステリアをカバーし、
さらに建築の内外装から街の広場づくりへと、
INAXタイルの世界は大きく未来をひろげつつあります。



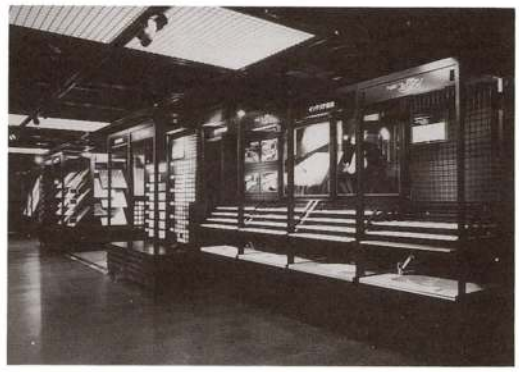
株式会社INAX

大阪支店　〒550　大阪市西区新道1－7－1　TEL.06－532－6081
本　　社　〒479　愛知県常滑市鯉江本町5－1　TEL.05693－5－2700

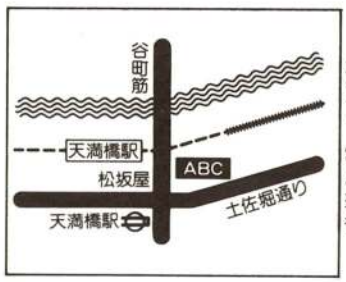
提案します。

高品位素材

人に豊かな生活空間を



最近情報がいっぱいの、エービーシー商会のショールームへどうぞ。



大阪ショールーム
〒540 大阪市東区京橋1-7 OMMビル8F
TEL. 06(943)2839

営業時間
AM10:00～PM6:00(日曜、祭日 休館)
交通機関
谷町線、京阪電鉄「天満橋」駅下車 徒歩3分

'90年代に入りエービーシー商会が提唱するコンセプトは、
〝素材は人の暮らしのために。人に豊かな生活空間を〟です。ことしのテーマは、
「'91提案します。高品位素材」。生活美学の欲求を満たす「高品位素材」を
世界各国からセレクトして、話題の新商品、注目の新色・新柄をはじめ、
幅広く豊富に取り揃えております。快適な暮らしの創造と、
美しい環境づくりのために、エービーシー商会はことしも提案しつづけます。

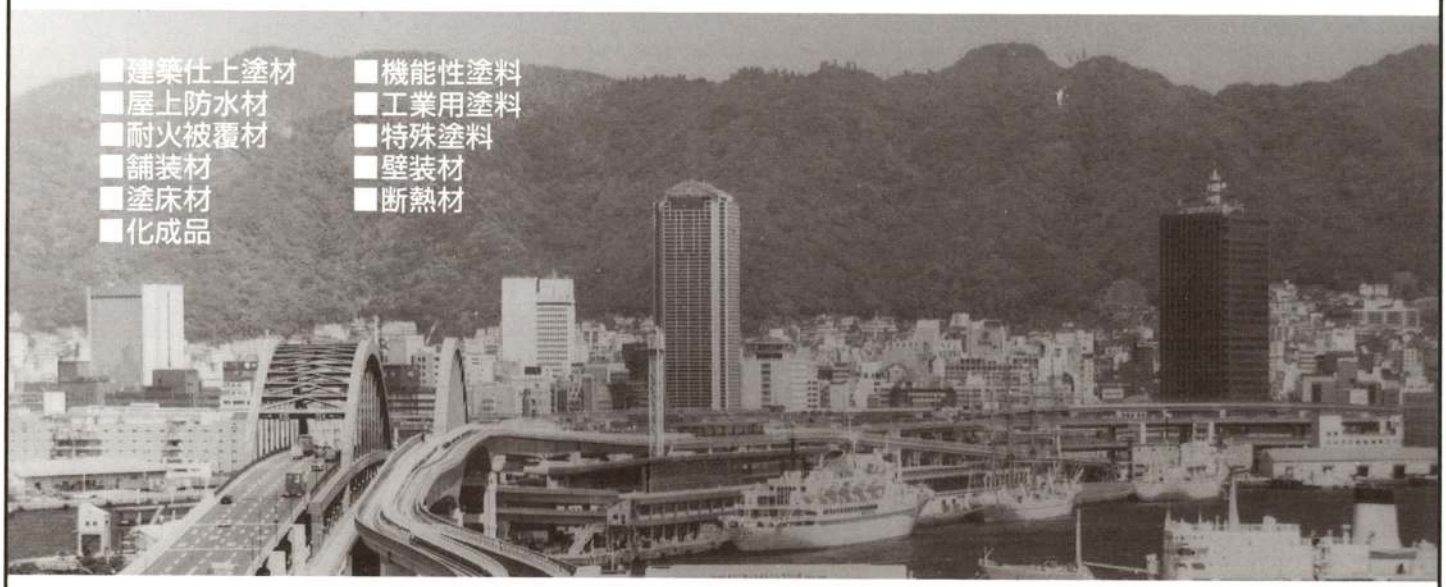
ショールームへどうぞ

札 幌 011(231)7060 北海道ビルチング1F
仙 台 022(263)9966 SS-30B1イベントプラザ
東 京 03(3507)7117 東京本社ビル
名古屋 052(263)1455 昭和ビル1F
大 阪 06(943)2839 OMMビル8F
広 島 082(243)8228 モントレービル1F
福 岡 092(272)3122 福岡東京海上ビル1F

カタログをご請求ください 〒100 東京都千代田区永田町2-12-14 株エービーシー商会 営業開発部 TEL. 03(3507)7111(代)

ABC shokai

建築仕上げの近代化と豊かな環境創りに貢献するSKK



SK KAKEN

建築塗材の総合メーカー

エスケー化研株式会社

本社：大阪府茨木市中穂積1-6-51 0726-26-2965
支 店 東京／大阪／名古屋／福岡
営業所 札幌／旭川／仙台／盛岡／北関東／長野／新潟／千葉
水戸／埼玉／東京／三多摩／城東／横浜／静岡／名古屋
北陸／岐阜／三重／大阪／京都／南大阪／神戸／姫路
岡山／広島／山口／高松／福岡／北九州／熊本／長崎
鹿児島／沖縄
工 場 大利根／神奈川／名古屋／大阪／兵庫／福岡

平成3年4月1日、四国化研工業㈱は「エスケー化研株式会社」に社名変更いたしました。

NICHIMAN RUBBER TILE

ハイステップタイル

ニチマンは、いつも人の行動を考えた、安全で快適な「ウォーキングゾーン」を実現します。

快適さを創る、カ・タ・チ。

ニチマン「ハイステップタイル」の新・床思想は、
立体感を生かした抜群の「床・造形力」。
6色×5種類の彫りの深い表面レリーフが生み出す計30パターンで、
インテリアと連動する立体的な空間演出を可能にします。
耐火性、適度なクッション性、心地よい歩行感、優れた消音効果など、
「新しい臨場感」を生む優れた素材として、活用範囲はさまざま。
より高い嗜好性をいかした空間の床造りに最適です。



丸型ハイステップ500㎜角・4㎜厚



左京郵便局

特長
- 過酷な床条件にも優れた復元力で独特の質感を保持します。●ソフトな足ざわりと、快適で安全な歩行感があります。
- 大きな空間でも、優れた消音効果を発揮します。●モップ拭きだけで日常のお手入れはOK。いつも美しく衛生的です。
- タバコの火にも焦げ後を残さない。ニチマン独自の難燃仕様です。●造形的なセンスが生きる立体感のある床材です。

用途
- ショールーム、官公庁・会館ロビー、銀行、図書館、博物館、レストラン等公共空間

株式会社 ニチマン
本社　〒726 広島県府中市府中町74-1
TEL 0847-41-5600㈹ FAX 0847-41-5420・8021

西日本発売元　大阪ニチマン商事株式会社
〒536 大阪市城東区関目1丁目21-11
TEL 06-939-3521㈹ FAX 06-939-3592

ALESCO



空間の、フォーマルウェア。

自然の風合を大切にした美しさ。
感性のきらめきを表現するデザイン。
そして、繊細にして個性を主張する色彩。
これからの商業空間に求められる美意識を、
全身で表現する高級内装用塗料〈ゾラトーン〉。
その優雅でモダンな表情は、
まさに空間のフォーマルウエアと呼ぶにふさわしい美しさです。

特長
- ▶優雅、重厚、ダンなど多彩な高級デザインが選択できます。
- ▶ワンコート仕上げで多様な彩色ができるマルチカラーコーディング材です。
- ▶施工時での臭気が弱い。
- ▶メンテナンスクリーニング性に優れています。

建設省認定防火材料基材同等0001号同等

用途
インテリジェントオフィスビル・ファッションビル・イベントホール・高級ホテル・デパート・病院・学校・ブティックなど高級店舗のインテリア・その他装飾用什器、備品。

高級多彩模様塗料

ZOLATONE®
ゾラトーン

関西ペイント株式会社

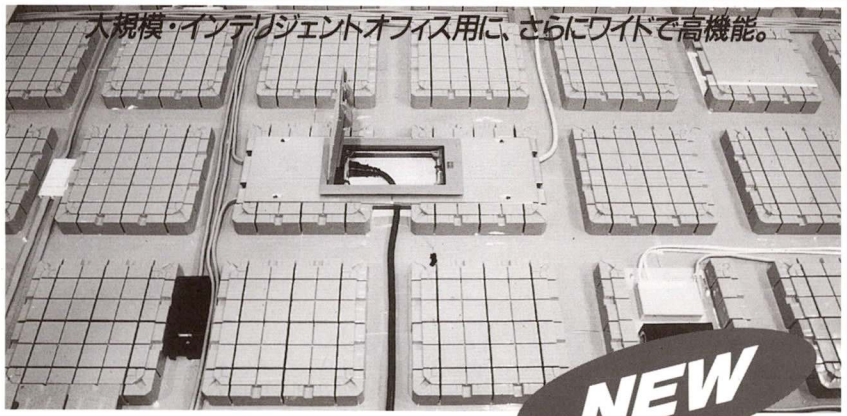
東京　〒140 東京都品川区東大井5丁目24番15号 TEL(03)3472-3121 FAX(03)3472-8251
大阪　〒541 大阪市中央区伏見町4丁目3番6号 TEL(06)203-5012 FAX(06)227-5690

40mm厚そのままに

配線容量140%にUP

次の新たなステージへと、大きく進化したネットワークフロア。
時代のニーズに応えるインテリジェントオフィスを創造します。

通商産業省選定
グッドデザイン商品



NEW

OAフロアのベストセラー

ネットワークフロア40

■配線容量
- ベースマット140%にアップ/フィードインマット125%にアップ(当社比)
- LAN用トランシーバーなどをすべて床内に収納。

■高機能
- 溝配線方式とニューインフロアコンセントシステムにより、ユーザー自身による配線変更自由自在。
- 〔超高強度軽量コンクリートマット〕を、床に直接置敷するタイプならではの確かな歩行感を持ち、大きな耐荷重・高い防災性に優れます。
- 置敷式で施工がスピーディ、新築ビルはもちろん、既設ビルも短期間でインテリジェントビルにグレードアップします。

新発売

中小規模のオフィスに
とくに天上高さに制限のあるオフィスに、
高さ29mm厚のニクイ奴"ネットワークフロア29"、
新登場。

インテリジェントビル用フロアシステム

共同電気株式会社

本　　社 〒150 東京都渋谷区東3-24-12
☎03(3409)2335　FAX 03(3409)2338
西日本FS営業所 〒530 大阪市北区東天満1-11-13 廣垣ビル
☎06(358)3995　FAX 06(358)1510
中部FS営業所 〒450 名古屋市中村区名駅南1-24-8 第1原ビル
☎052(581)0204　FAX 052(581)0206
仙台営業所 〒980 仙台市青葉区国分町1-4-7 OMビル
☎022(261)5987　FAX 022(261)5970



インフロアコンセント3型-40

たきのう君

NEW

(電力2口+電話2口ほか)

ネットワークフロア専用に開発された複合コンセントシステム。
コンセントの蓋から直接配線を取り出すことも、床を通してお好きな場所から取り出すことも、両方できるニュータイプです。



地球サイズの快適と、人間サイズの素敵を。

自然との調和、ライフスタイルの変化へのフレキシブルな対応。さらには、都市の表情を豊かに演出する感性。私たち三協アルミは、これからも、地球・時代・人間を見つめ、快適空間を創造しつづける企業でありたいと思います。そして今回、その思いをより具体的に実現させるために、新たなテーマを掲げました。"ドリームワーク"——夢をひとつずつカタチにすること。全国のお客様から寄せられる、さまざまなご要望にお応えするために、私たちは、蓄積されたノウハウのすべてを生かし、このテーマのもとに未来を目指します。



■新湊工場

三協アルミニウム工業株式会社
本　　社:〒933 富山県高岡市早川70 ビル建材本部 TEL.(0766)20-2201
大阪本部:〒550 大阪府大阪市西区靱本町1-9-15 近畿富山会館ビル6階 営業推進部 TEL.(06)448-5451

©三協アルミニウム工業株式会社 1991年

三和シャッター

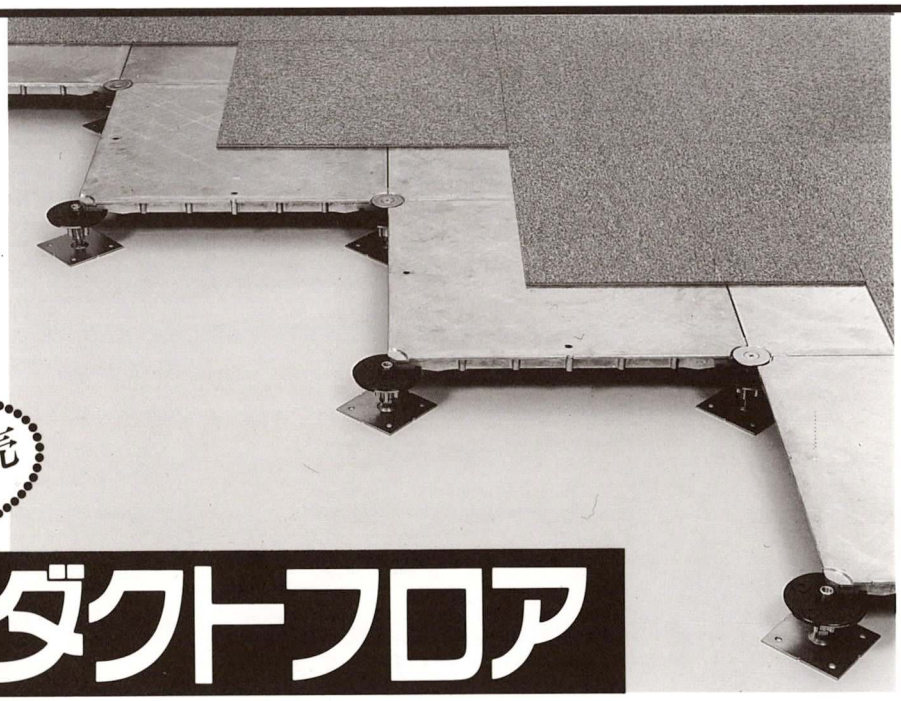


地球ブランド

「三和から～New Sanwa」へとたしかなビジョンのもとに、世界に通用する総合建材メーカーとして歩み始めました。

三和シャッター工業株式会社
営業本部関西営業推進部
〒532 大阪市淀川区宮原4-4-50 真和ビル8F ☎061(396)6871

SHODEN



新発売

OAダクトフロア

Fタイプ 型式 SD500-OA-F

高度情報社会の中枢機能をもつインテリジェントオフィスには、氾濫するケーブル配線を安全に収納し管理するための二重床の敷設が必要です。
そこで昭電はこれまでの経験をふまえ、
このたびあらゆるインテリジェントビルに対応できる、
超軽量アルミダイキャスト製パネルを開発しました。

特長
●超軽量アルミダイキャストパネル
●高層階オフィスにも対応可能
●床下空間は配線自由 ●取扱い易く割れない
●選べる床高2タイプ ●選べる表面材
●ガタつきがない固定型
●フロアコンセントもオプションパネルで、簡単な配線は切込みにて可。
●直接機器固定も出来ます。
●ほこりが出ないので、空調も可能です。

株式会社 昭電
本社 〒136 東京都江東区大島1丁目2番23号 ☎03(3637)7711
千葉事業所 ☎0434(22)2111 北陸支店 ☎0764(31)2011
北海道支店 ☎011(271)6701 中国支店 ☎082(246)5711
東北支店 ☎022(222)1401 四国支店 ☎0878(21)9231
名古屋支店 ☎052(936)3311 九州支店 ☎092(731)0373
大阪支店 ☎06 (444)5231 沖縄支店 ☎098(869)0215

環境-先進-企業

空間との調和を求め、
繊細な先進技術を提供し、
豊富な経験を生かす。

―多彩なビルの表情を残してきた
そしてこれからも残してゆく……



神鋼ノース株式会社

本　　社　〒104 東京都中央区京橋2－1－2(京橋ビル)　☎03(3278)4121
大阪支店　〒541 大阪市中央区備後町4-1-3(御堂筋三井ビル)　☎06(229)3461
東関東営業所　〒315 茨城県新治郡千代田町上稲吉1758－1　☎0299(59)4522～3



Feel The Color

高機能・高品質・高感性

シントーの外装材シリーズはあらゆるシーンにマッチします。

無機系超耐候性不燃形仕上システム
ムキテックス

アクリルシリコン上塗塗料
ハイテントップ

弾性形アクリルシリコン上塗塗料
ハイテンフレックス

常温乾燥形フッ素樹脂塗料
シントーフロン#200

JISA6910防水形複層仕上塗材
シントーセメロン#200

JISA6910防水形複層仕上塗材(単層形)
ニューラバロン

JISA6910防水形複層仕上塗材
ラバシール

防水形複層仕上塗材
ラバータイル

さわやかな環境の提案
神東塗料

東京　☎(03)3272-4031
大阪　☎(06)421-9851
名古屋　☎(052)262-5810

浮き根太式が、効く。

ガタツキがなく、安全で丈夫な鋼製二重床システム

浮き根太式鋼製二重床

タジマ フロアベース

株式会社タジマ

■大阪営業所 〒550 大阪市西区京町堀1-10-5 ☎06(441)5951
■営業本部 〒110 東京都千代田区岩本町3-11-13 ☎03(3866)6101

床を創る TAJIMA

金属製建具工事　空調衛生設備工事

人間と環境の調和

TOYOKO RIKEN 株式会社トーヨコ理研 大阪支店

〒541 大阪市中央区淡路町3−3−7 興和淡心ビル TEL(06) 201−2802(代表)

本社 〒106 東京都港区西麻布4−15−12 第6興和ビル TEL(03)3407−6111(代表)

ワイド型横引き折りたたみ式パネルドア

プリオーレ

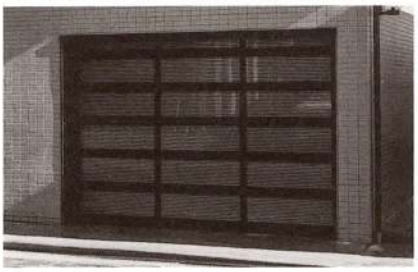
一枚一枚のパネルを大型化したワイドスパンを採用し、中桟も不要で一段と採光性、透視性に優れたファッショナブルなショップフロントを演出します。しかも今までにない重厚感や高級感が魅力的な空間づくりに貢献します。



ロール & スライド式パネルドア

エクレール

ロール&スライド方式の横型パネルを採用した「エクレール」。電動式の静かでスムーズな開閉や高い安全性・気密性・採光性など、先進機能を充実させさらにアルミ合金の強く美しい外観とともに、ショップイメージを24時間美しく演出します。



シースルーテクノロジー

街をショップを

さらに美しく

シースルードアの

テクノロジーは

限りなく進化し

ここにトリオの誕生です。

すでにこれは

ファッションの一部です。

横引き折りたたみ式パネルドア

イスターカーテン

横引きシャッターの機能とアルミサッシの優美さを兼ね備えた、折りたたみ式ドア。フルオープンできるので、限られたスペースの用途を大きく広げます。閉店後も防犯の役目をはたし、ディスプレー効果を一層高め、お店をファッショナブルに演出します。



まちにやさしい夢空間

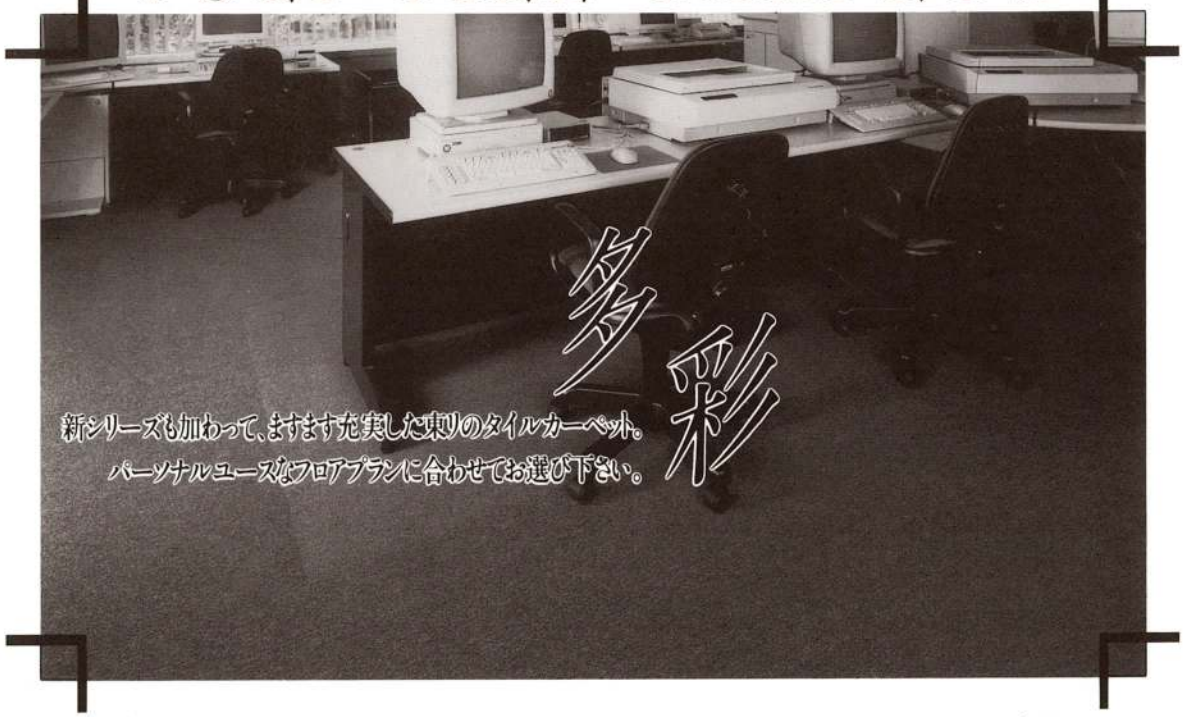
FASHIONABLE SEE-THROUGH WALL

TOKO

東工シャッター株式会社

本社・工場/〒916 福井県鯖江市熊田町1-100 ☎(0778)62-1121㈹
東京支店/東京都台東区東上野2丁目19-3(第2吉沢ビル2F) ☎(03)3833-4711㈹
大阪支店/大阪市福島区福島5丁目17-30(サノンビル2F) ☎(06)458-2296㈹
北陸支店/福井市四ツ井1丁目14-5 ☎(0776)54-4455㈹
名古屋支店/愛知県春日井市西本町2-6-32 ☎(0568)32-7565㈹

TOLI TILE CARPETS



多彩

新シリーズも加わって、ますます充実した東リのタイルカーペット。
パーソナルユースなフロアプランに合わせてお選び下さい。

TOLI

〈GA・GFの新シリーズが加わりました。〉

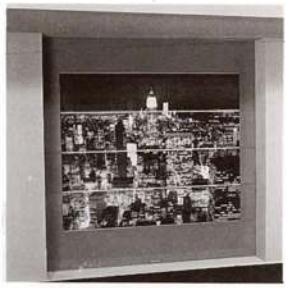
東リ

東日本営業開発部 〒105 東京都港区虎ノ門1-12-15 TEL.03(3503)6231
西日本営業開発部 〒540 大阪市中央区大手前1丁目7-31 OMMビル TEL.06(943)1645

TOYO Shutter

光り輝くビジュアル・シャッターが、
閉店後のお店をアピール。

絵や写真、文字を使って自由にデザインされたスクリーンとバックライトを、シャッターに組み込んだ〈アドビジョン〉。浮かびあがる美しいメッセージが、閉店後のお店を、効果的にアピール、夜間でも、あなたのお店を強く印象づけます。〈アドビジョン〉は、今、新しい時代の、新しい扉を開きます。



新登場

アドビジョン



東洋シヤッター株式会社
本　社／大阪市中央区常盤町1-3-8（日本生命谷町ビル）〒540
TEL.06-943-6571㈹
東京本社／東京都港区六本木6-3-18（第一地所麻布ビル）〒106
TEL.03-3479-2911㈹



美しく演出する
廊下のアクセントライン。



▲新東京都庁舎ご採用のO-40廊下手摺

快適な環境を創造する
ナカ工業
NAKA CORPORATION

お問い合せは
06-241-8611 大阪支店
〒541 大阪市中央区久太郎町3-6-8（御堂筋ダイワビル2F）

営業本部　〒100 東京都千代田区有楽町2-10-1（東京交通会館11F）☎03-3217-8620
本社・札幌・東北・東京・北関東・横浜・名古屋・大阪・広島・福岡にショールームオープン。ご自由にご覧ください。

思いやりをカタチにしました。 NAKA

廊下手摺

セフティーライン
O-40 オー

- 笠木は二層成型特殊樹脂製（半硬質）で、ソフトな手ざわり。
- 現代建築にマッチしたパステルメタリック調も新たにプラス。
- 笠木全体が樹脂で覆われているため、お年寄りや身体の不自由な方の安全を守る手にやさしい手摺。



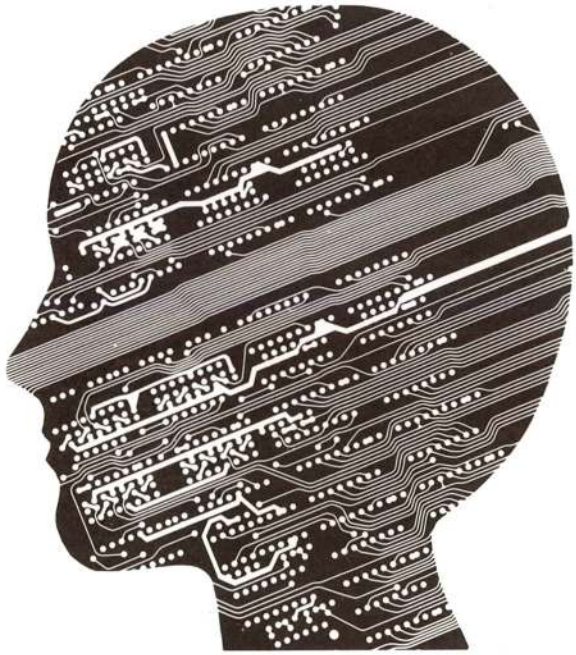
●固定式と調整式のブラケットは、意匠と機能性に優れた亜鉛ダイカスト製。



'90通商産業選定
グッドデザイン商品

NAIGAI

電気の利用技術は21世紀のキーテクノロジー!!



情報革命も通信革命もベースはいつもエレクトリック技術。

19世紀に発見された電気は、20世紀に豊かな成果を実らせ、さまざまなエレクトロニクス技術は、私たちの社会と生活のあらゆる場面に広がっています。21世紀を目前に控えたいま、情報・通信ジャンルを中心にさらに飛躍的な発展が期待されていますが、新たな乗り物に新たなレールが必要なように、電気の新しい働きの鍵を握るのはやはり電気利用技術です。

ナイガイ電機は、21世紀を視野に限りある電力を限りなく有効利用するために、新しい技術を提案しつづけます。

ご期待ください。

株式会社 内外電機製作所

営業本部 〒160 東京都新宿区新宿2-1-15(古澤ビル) ☎(03)3350-0901代 FAX(03)3350-0902
東日本営業部 〒160 東京都新宿区新宿2-1-15(古澤ビル) ☎(03)3350-0761代 FAX(03)3350-0849
中日本営業部 〒460 名古屋市中区大須4-14-26(ジツダビル) ☎(052)242-1526代 FAX(052)242-1770
西日本営業部 〒577 東大阪市高井田本通3-5 ☎(06)782-0181代 FAX(06)782-4731
商事部 〒577 東大阪市高井田本通3-5 ☎(06)782-9670 FAX(06)782-4892
本社 〒577 東大阪市高井田本通3-5 ☎(06)783-3361 FAX(06)783-6065

創業50周年 50 発想は新世紀へ

技術は人へ、自然へ。



大型電子ロールスクリーン(特殊製品)

時代を先取りした提案で、新しいインテリアの可能性を追求する窓装飾と間仕切りの専門メーカー・ニチベイ。自然と人と技術の共存を追求し、確かな技術と豊富な経験を活かして、快適な人間空間の創造を目指します。

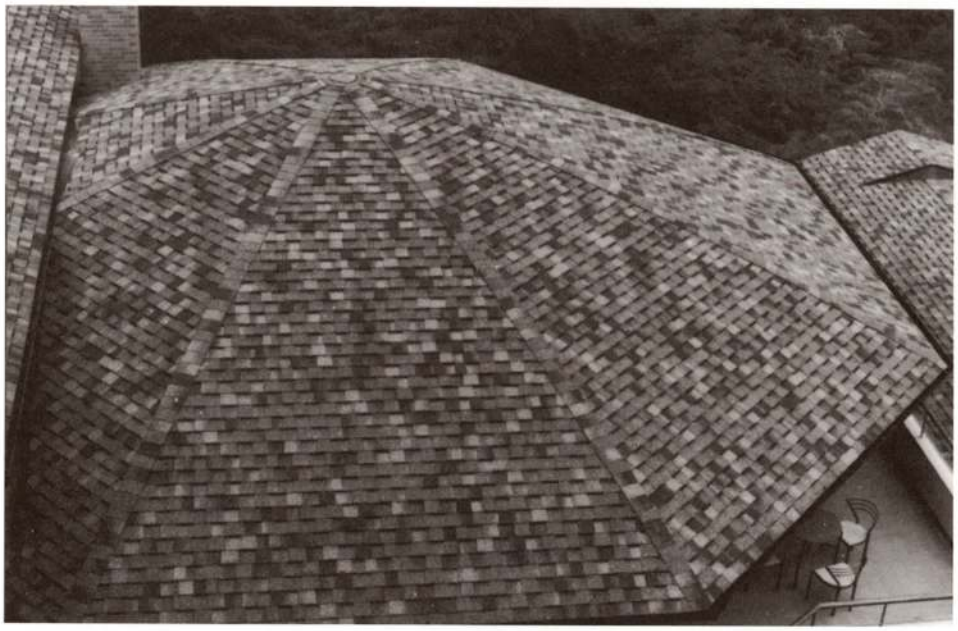
営業品目●よこ型・たて型ブラインド●天窓・傾斜窓用ブラインド●ロールスクリーン●ローマンシェード●プリーツスクリーン●アコーディオンドア●スライディングウォール●パーティション 他

Creation of Human Space

株式会社ニチベイ

本社／〒103 東京都中央区日本橋3-15-4 TEL.(03)3272-2011代
京都営業所／〒600京都市下京区七条御所ノ内北町84TEL.(075)315-4560
大阪第一営業所／〒550 大阪市西区靱本町1-6-10 TEL.(06)448-5586
大阪第二営業所／〒540 大阪市中央区北浜東1-8 TEL.(06)949-3711
神戸営業所／〒651 神戸市中央区浜辺通り2-1-30 TEL.(078)251-2003
滋賀出張所・南大阪出張所・東大阪出張所・奈良出張所・和歌山出張所・阪神出張所・姫路出張所

三星シングル WP-35



シングル独自の柔らかい葺き味に、彫りの深い独特のパターンを展開するダイナミックなメカニズム。
ニューインプレッションがそこにある。
コンポジットタイプのニューシングル「三星WP－35」は、二枚重ねの厚みがつくるリズミカルな陰影で、立体的なアクセントを強調します。

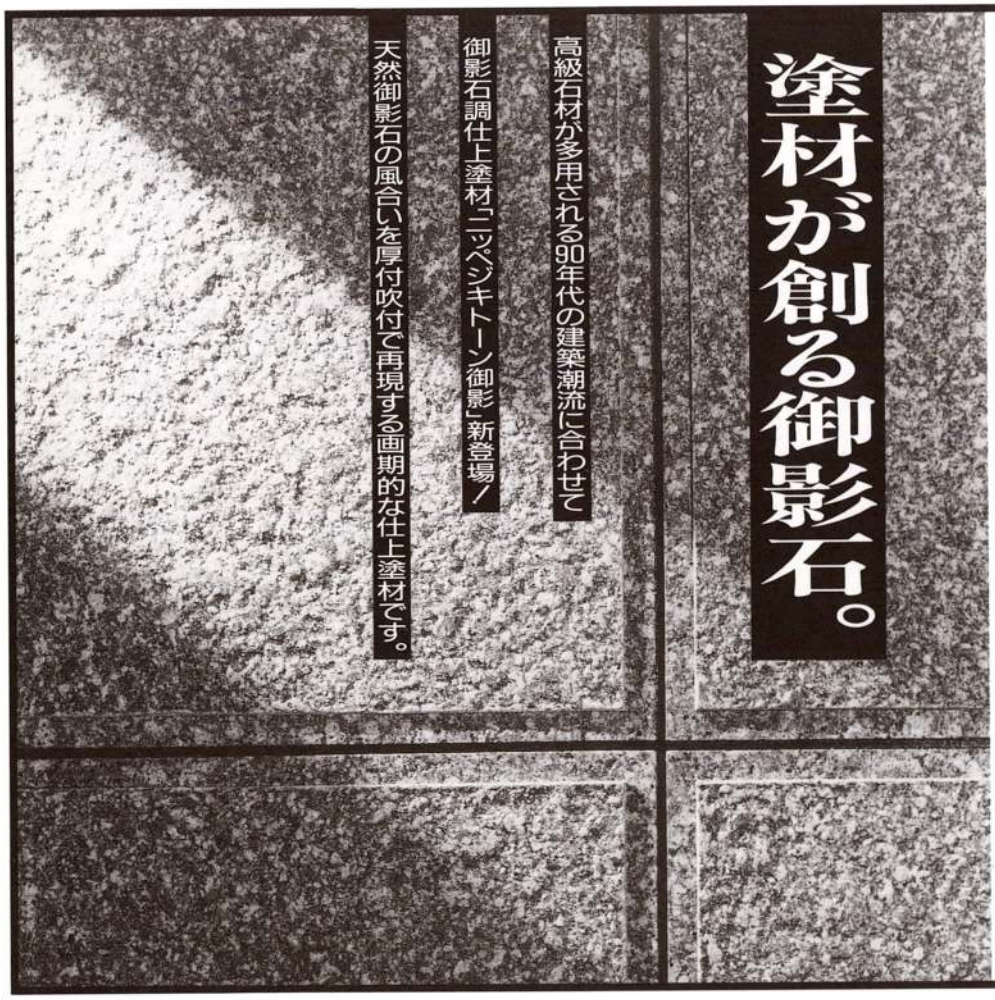
西日本三星シングル工事協同組合
田島ルーフィング株式会社

大阪 〒550 大阪市西区京町堀１－10－５ TEL06（443）0431
広島 〒730 広島市中区西平塚町8-13 立駐広島ビル TEL082（246）8625
福岡 〒810 福岡市中央区港２－１－29 TEL092（712）0800
東京 〒101 東京都千代田区岩本町３－11－14 TEL03（3862）8531



NISSHIN

マルエス 日新
総合防水メーカー
日新工業株式会社
本　社 東京都足立区千住東２－２３－４☎03（3882）2424
大阪支店 大阪市西区新町１－１２－２２☎06（533）3131
●九州　●名古屋　●札幌　●仙台　●広島



塗材が創る御影石。

高級石材が多用される90年代の建築潮流に合わせて

御影石調仕上塗材「ニッペジキトーン御影」新登場！

天然御影石の風合いを厚付吹付で再現する画期的な仕上塗材です。

ニッペ
ジキトーン御影
MIKAGE

特長

- ●天然石模様の風格ある仕上がり
- ●厚みのある重厚な仕上がり（厚さ2.5㎜以上）
- ●変色が少なく、優れた光沢保持性・耐水性・耐候性・耐汚染性
- ●ALC下地にも施工可能
- ●湿式工法で自由な目地模様・目地割が可能

用途

- ●適用下地：
  コンクリート、モルタル、PC板、ALC板、ブロックなど
- ●適用箇所：
  一般内外壁面、玄関、ロビー、応接室、店舗、レジャー施設、門、塀、柱、柱型など

日本ペイント
Basic & New

〒531 大阪市北区大淀北2-1-2 ☎06- 458-1111
〒140 東京都品川区南品川4-1-15 ☎03-3474-1111



文化シヤッター

新時代の空間演出にパネルック。アルミ枠と透明パネルを組合わせたフロント構成のため、シャッターを閉めた後でも店内ディスプレーが見せられる、いわばショーウィンドーを兼ねた建築素材です。透明だから、空間を広く、明るく、美しく演出し、大切なお客様とのコミュニケーションを活性化します。

- ●最大間口6m、最大高さ4mに対応するワイドタイプと標準型のライトタイプ。
- ●気密性が高く、耐火性能についても乙種防火戸性能試験をクリア（6.8㎜厚の網入ガラス使用の場合）。

透明パネルシャッター

パネルック

ワイドタイプ●ライトタイプ

多彩な空間クリエーション

文化シヤッター株式会社　関西事業部／大阪府大阪市淀川区宮原4-1-14 住友生命新大阪北ビル9F ☎06(399)2777

オフィスの照明設計でお困りなら…

A&i
快適を科学します

結論、
オフィス
コンフォート。

インバータ搭載の基本灯具

■チラツキがなく、低騒音で軽量。
■PUインバータ150は、150%の明るさを実現。(当社比)
■PSインバータは約15%の省電力化。(当社比)



基本灯具と自由に組み合わせられるルーバ・パネル

■新開発のシルブライトルーバは、驚異の器具効率84%を達成。
■他に、目的・用途に合わせて選べる32種類をご用意。



シルブライトルーバ

オフィスコンフォート

インバータ照明はナショナル

National 松下電工

カタログを差し上げます。〒571-71 松下電工・電機総合企画部オフコン係へ。(住所不要) ☎(06)908-1131

MITSUBISHI

快適な、最適な、空間環境を創ります。



常に休むことなくビルの安全を見守る、
全国ネットの《情報センター》

システムで追求する、先進の空間環境づくり。

トータルビル管理サービス

三菱電機ビルテクノサービスでは、長年にわたるビル設備管理の豊富な経験と実績をベースに、それぞれの建物にふさわしい、より快適な空間環境づくりを追求。ビル管理に関するあらゆるテーマに、トータルに取り組んでいます。



ビル設備のメンテナンスからインテリジェントビルのトータル管理サービスまで

三菱電機ビルテクノサービス株式会社

大阪支社　〒530 大阪市北区梅田2-5-2 (新サンケイビル)　☎(06)344-1196

営　業　内　容

★お得意先　郵政省　その他諸官庁
★メンテナンスサービス
◇搬送用機械器具類の整備と保守
◇搬送用機械器具類の設置工事
◇搬送用機械器具類の小修繕工事
◇営業エリア　近畿・九州・中国・四国・北陸・沖縄
★情報処理サービス
◇営業所　京都・神戸・大阪南部・大阪北



株式会社 **ゆーテック**

本　　社　〒532 大阪市淀川区西中島5-9-6　新大阪サンアールビル301号　☎(06)886-8092
技術センター　〒531 大阪市北区大淀中1-1-52　大阪小包集中局内出張所　☎(06)451-2273

BATTERY YUASA

情報・通信社会をバックアップする——



ユアサの標準形AC・UPS



商用電力の瞬低・停電など、さまざまな電力障害にユアサ交流無停電電源装置は、瞬断なく安定した電源をみなさまのコンピュータ・電子機器などに供給します。蓄電池の専門技術と整流器、インバータの豊富な経験をカップリングし、確かな技術で信頼にお応えします。

交流無停電電源装置
YUMIC-MBシリーズ
(5・7.5・10・15・20・30・40KVA)
■停電時保持時間：標準10分

※本装置には「シール鉛蓄電池」が内蔵されています。

ユアサ無停電電源装置YUMICシリーズ

シリーズ名	KVA	0.5	0.85	1	2	3	5	7.5	10	15	20	30	40	50	60	75	100
YUMIC-S	常時商用・1φ入力	○	○														
YUMIC-SA	常時インバータ・1φ入力	○		○	○	○	○										
YUMIC-MB	常時インバータ・3φ入力						○	○	○	○	○	○	○				
YUMIC-Y500/Y510	常時インバータ・3φ入力						●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

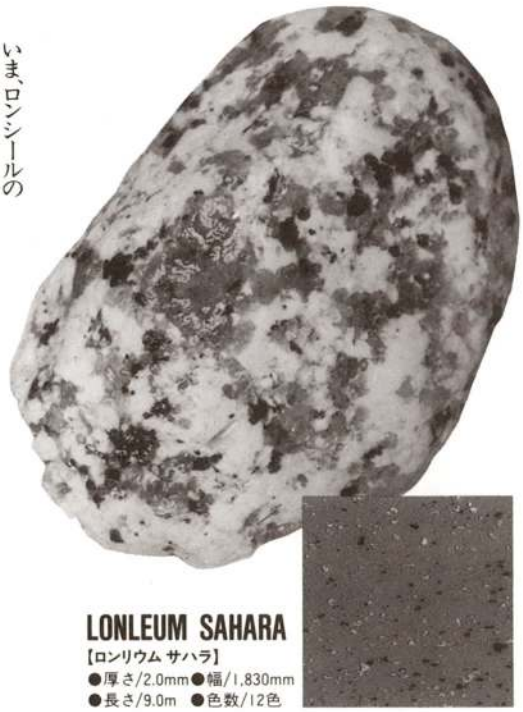
○汎用タイプ　●受注品タイプ

■ユアサ無停電電源装置YUMICシリーズの単相出力は上記の機種があります。3相出力、機器組込みタイプもとり揃えておりますので別途お問合せください。

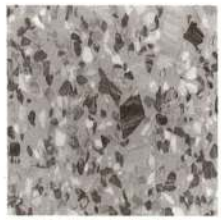
湯浅電池株式会社　関西支社　〒530 大阪市北区天満1丁目6番11号(ユアサ天満橋ビル)
TEL.06-358-8911(ダイヤル・イン)　FAX.06-358-8954

原点は、自然の中に。

いま、ロンシールの
ビニル床シート&ビニル
床タイルは、時代を見つめて
自然環境を重視。
「ロンリウム・サハラ」はナチュラル化と
デザイン性を高めて〝オアシス〟のイメージ。すがすがしい
ベーシックなエコロジー・カラーで構成。また、「ロンレイド・
ナトーラ」は、自然石の持つ偶発的なおもしろさをテーマに、
やすらぎを感じる豊富なカラー・バリエーションを揃えました。



LONLEUM SAHARA
【ロンリウム サハラ】
●厚さ/2.0mm●幅/1,830mm
●長さ/9.0m ●色数/12色



LONLAID NATURA
【ロンレイドナトーラ/シートタイプ】
●厚さ/2.0mm●幅/1,830mm
●長さ/9.0m ●色数/10色
【ロンレイドナトーラ/タイルタイプ】
●厚さ/3.0mm●幅/457.2mm角
●梱包/16枚 ●色数/10色

ときめきの生活空間をサイエンスする
ロンシール工業株式会社

●本社／〒130東京都墨田区緑4-15-3 TEL.03(5600)1821●大阪支店／〒532大阪市淀川区西中島3-9-13大北ビル TEL.06(304)2700

●営業所 札 幌 TEL.011(531)2602 金 沢 TEL.0762(92)1161 静 岡 TEL.054(251)3712 広 島 TEL.082(211)2700
青 森 TEL.0177(77)1155 大 宮 TEL.048(664)1511 名古屋 TEL.052(935)7063 福 岡 TEL.092(472)5857
仙 台 TEL.022(265)4771 千 葉 TEL.0472(46)5851 岡 山 TEL.086926－4321 鹿児島 TEL.0992(58)6571
新 潟 TEL.025(243)3791 横 浜 TEL.045(662)7370 高 松 TEL.0873(31)4177

『近畿郵政局建築部』作品特集

関連広告目次

青木建設…… 114
淺沼組…… 114
大林組……前付1
奥村組…… 115
鹿島建設…… 111
熊谷組…… 115
鴻池組…… 112
清水建設…… 116
錢高組…… 116
大成建設……前付2
竹中工務店……前付3
東急建設…… 117
戸田建設…… 117
フジタ…… 113
藤木工務店…… 118
前田建設工業…… 118
松村組…… 119
村本建設…… 119

アート工芸…… 123
旭化成建材…… 120
イトーキ……表3
INAX …… 123
宇部興産……表4
エービーシー商会…… 124
エスケー化研…… 124
大阪ガス……表2・表2対向
大阪タキストロン…… 121
大阪ニチマン商事…… 125
関西電力…… 122
関西ペイント…… 125
共同電気…… 126
三協アルミニウム工業…… 126
三和シャッター工業…… 127
昭電…… 127
神鋼ノース…… 128
神東塗料…… 128
タジマ…… 129
トーヨコ理研…… 129
東工シャッター…… 130
東リ…… 130
東洋シャッター…… 131
ナカ工業…… 131
内外電機製作所…… 132
ニチベイ…… 132
西日本三星シングル工事(協)…… 133
日新工業…… 133
日本ペイント…… 134
文化シャッター…… 134
松下電工…… 135
三菱電機ビルテクノサービス…… 135
ゆーテック…… 136
湯浅電池…… 136
ロンシール工業…… 137

設備の頁

202

遠赤外線パネルヒーター

小林　朗

遠赤外線とは

従来の赤外線用途（加熱、乾燥、殺菌等）に加え、昨今、マスコミの遠赤外線ブームに乗って、健康食品、衣料品、医療機器等広範囲の商品群が出回り、「遠赤外線」も一般用語化されてきた。

赤外線は可視光線よりやや波長の長い（0.8μm～1 mm）電磁波で、一般の物質に対して透過力が弱く、人体皮膚および食品等に熱吸収の良い熱線としての特徴がある。暖房、乾燥等には、対流、伝導加熱ではできない直接加熱、均一加熱、ソフト加熱等の熱源として下記波長範囲の赤外線が利用される。

中赤外線：波長（2.5μm～5μm）
　　放射表面温度（約500℃～200℃）
遠赤外線：波長（5μm～20μm）
　　放射表面温度（約200℃～100℃）

遠赤外線暖房

従来の空調における暖房は、ほとんど空気を熱媒体とする対流暖房方式であり、工場、体育館、倉庫等の天井が高い建物では、経済的暖房が困難であった。

ここに紹介する「遠赤外線暖房」は、1960年後半にヨーロッパより技術導入されたもので、古代から用いられている「暖炉」あるいは太陽光線のように、空間の空気を暖めずに直接対象物（人体、床等）に熱を与える輻射（放射）による大空間向け暖房方式である。

一般的「輻射暖房」の分類、特徴を下記に掲げる。

●分類

(イ)　熱源の温度（低温、中温、高温）
(ロ)　熱源の媒体（蒸気、低または高温水、熱媒体）
(ハ)　取り付け位置（天井、側壁）

●特徴（対流方式との比較）

(1)　室内（上下方向、水平方向）の温度分布が良く温度差が小さい（1～2℃）ため、足元の暖かいソフトな快適暖房ができる。
(2)　空気対流による「埃」が立たず、清潔である。
(3)　天井の高い建物でも、室内空気温度は比較的低い設定で十分な暖房効果（体感温度 tg≒対流式空気温度＋3℃）が得られるため、外部放熱損失、ドアー開閉熱損失等が少なく、省エネルギーとなる。
(4)　室内床面を広く有効に使用できる。
(5)　温風吹出口の気流偏在がなく、不快感がない。
(6)　起動時の暖房効果が早く、負荷追従性が良い。
(7)　大空間を間仕切なしに局部的暖房ができる。
(8)　送風機騒音がなく、保守点検も不要である。
(9)　天井構造、床面機器配置変更等をせずに設備の取り付け、追加等が簡単にできる。

パネルヒーターの構造

表－1および**図－1**に示すように、加熱熱源（蒸気または高温水）出入口ヘッダー、熱源を流す輻射管（2～3本）、輻射管よりの熱伝導により温度上昇する鋼製フィンで構成され、輻射管およびフィン表面には、塗装を施し、裏面にはアルミ箔付き保温板を取り付けた天井吊り方式「パネルヒーター」である。

なお、塗装は輻射率の高い、かつ、建物に調和した色彩、光沢を持つ特殊塗料を採用している。

輻射暖房納入実績

1966年以来「輻射暖房」用として、国内で最も実績のある輻射パネルヒーター（商品名：ストリップヒーター）について紹介する。

設備件数　……約1600件
延べ暖房面積　……約4,000,000㎡
ヒーター構造　……天井吊りパネルヒーター
熱源（中温度）……蒸気3～9 kg/㎠または
　　高温水　120～150℃

その代表的設置例を、**写真－1**および**写真－2**に示す。

輻射パネルヒーターを設置した建物の種別を示すと、下記のとおりである。

●天井の高い建物
工場…45%、体育館…25%、倉庫…15%
●静粛を求む建物
学校、図書館、研究所、食堂等…15%

今後の展開

以上のように、「輻射暖房」は人間の体感に基づく快適性に富んだ暖房方式であり、今後、工場、レジャー施設、公共施設等の大空間構造物を対象に増加し、特に最近の工場内環境3A（明るい、安全、アメニティー）の対応、従業員の健康管理、災害防止、定着度向上、作業能率向上等から、環境改善策として採用が進むものと予想される。

なお、「冷房」完備の要望も急速に増加しており、早急に「輻射暖房」と「換気冷房＋輻射冷房」のコンビネーションによる高効率、低コスト機器の開発、システム開発等が望まれる。

また、輻射パネルの構造も、輻射性能面以外に近代建築に調和した美的感覚を満足するようなデザイン、色調、照明との調和等の展開が予測される。

表－1　寸法、性能、重量表（放熱量:加熱熱源温度150℃の場合）

形　式	2HF型／1枚当たり			3HF型／1枚当たり		
型番	放熱長さ (m)	概算放熱量 (kcal/h)	重量 (kg)	放熱長さ (m)	概算放熱量 (kcal/h)	重量 (kg)
03	3.6	2800	72	3.6	4300	108
05	5.4	4300	108	5.4	6400	162
07	7.2	5700	144	7.2	8500	216
09	9.1	7200	182	9.1	10800	273
11	10.9	8600	218	10.9	12900	327
12	12.7	10000	254	12.7	15000	381
14	14.5	11400	290	14.5	17100	435
16	16.4	13000	328	16.4	19400	492
18	18.2	14300	364	18.2	21500	546
20	20.0	15800	400	20.0	23700	600
22	21.8	17200	436	21.8	25800	654



図－1 パネルヒーター外形図（単位mm）

（こばやし　あきら
タクマ汎用機械株式会社技術部長）



写真－1　自動車工場（1200㎡×5㍍）



写真－2　体育館（1800㎡×12㍍）

構造の頁

201 ステンレス鋼柱の構造設計

足立　直行

はじめに

ステンレスは耐食性に優れてさびにくく、耐久性があるほか、美しく清潔な感触が多くの人に好まれ、メンテナンスフリーを重視する建築主や美観センスある設計者により使用されるケースが増えている。

しかしながら現行の建築基準法ではステンレス鋼の構造規定がないため、建築構造材として使用するときには、その都度、建設大臣の個別認定を取得する必要がある。このためステンレス協会では、昭和59年から「ステンレス鋼構造設計・施工規準（案）」を作成し、建築基準法第38条による建設大臣特別認定取得事業を進めており、ここに紹介する実施例はその5件目である。

ステンレス鋼の特性

ステンレスは鉄や金、銅などのように自然に産出する金属ではなく、鉄を主成分にクロムを加えたクロム系と、鉄にクロムとニッケルを加えたクロム・ニッケル系がある。鉄は空気中でさびやすいが、クロムを加えると表面に薄くて丈夫な酸化膜ができ、さびを防止する。この酸化膜は、キズがついてもまたすぐ新しい酸化膜が形成されて、ステンレスの表面を保護する。

このようなステンレス鋼の種類は、クロムやニッケルの含有量により3種類、マルテンサイト系、フェライト系、およびオーステナイト系に分類され、それらの主な材料特性を**表—1**に示す。

建築用材料によく用いられるのはオーステナイト系ステンレス鋼SUS 304で、磁性はなく、機械的特性は炭素鋼に比べ引張強さ、伸び率ともに大きく、低温域、高温域とも強度特性は良好に保持される。降伏耐力近傍の応力—歪関係は、**図—1**に示すように、SUS 304には明確な降伏点が見られない。従来のSUS 304では0.2%オフセット耐力を2.1t/cm²以上と規定されていたのに対し、新たに構造材として規格されるPS 235-SUS 304では0.1%オフセット耐力を2.4 t/cm²以上と規定し、基準強度F値2.4 t/cm²としている。

コスト面については、平成3年の調査によれば、ステンレス鋼の材料費のSS400材に対する割合は5.4倍、またステンレス鋼材の加工費は材料費の約2.4倍であるが、今後はこれらの値は低くなるものと予想される。

ステンレス鋼柱の構造設計

住友金属工業㈱波崎研究センタで使用するステンレス鋼柱は、半円形状の食堂の外周にならぶH形断面柱であり、表面仕上げはヘアライン仕上げ程度としている。その外観を**写真—1**に示す。

柱部材は構造用ステンレス鋼PS235—SUS304（ステンレス協会規格品）H-250×250×9×14を使用し、柱脚部は地中梁内に埋め込み、また、柱頭部の大梁との剛接仕口はフランジ引張接合により設計している。ステンレス柱頭部と炭素鋼大梁SS400との接触摩擦面の処理は、サンダー掛け下地処理の後、ステンレス鋼面には無機ステンレス粉末入塗料を塗布し、またSS400鋼面には無機ジンク塗装を行う。これにより、SS400鋼面のさびを防ぐと同時に、接触摩擦面のすべり係数0.45を確保する。引張接合用高力ボルトはステンレス協会規格品の10T SUS M22を使用している。（**図—2**参照）

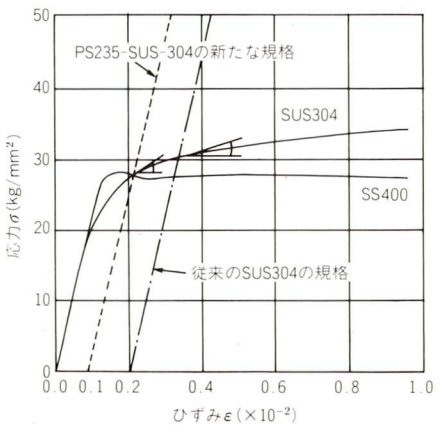
なお、耐震設計はルート2（靱性確保）、層間変形1/150以下で設計しており、「ステンレス鋼構造設計・施工規準（案）」にも適合する。

ステンレス鋼の製作

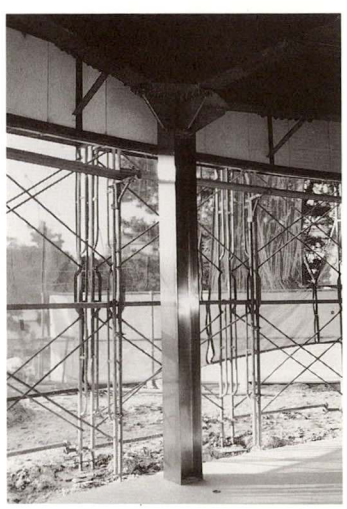
ステンレス鋼材の工場加工において普通鋼と異なる点の第一は、素材の表面をそのまま最終製品の表面として使用することが多いことである。したがって、現場への運搬および建方施工中において当て傷に対してはベニヤ板で、また汚れに対し

表—1　ステンレス鋼の主な材料特性（代表値）

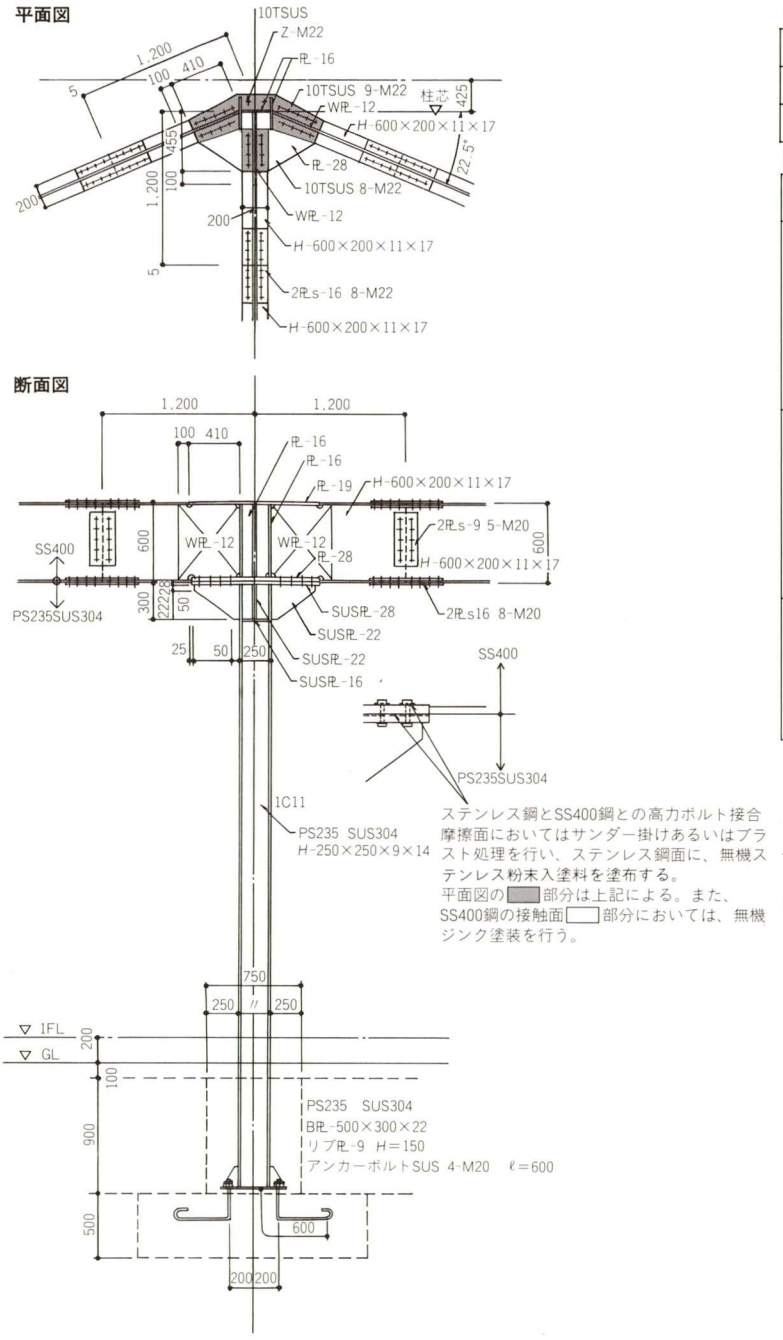
鋼種			マルテンサイト系鋼（13Cr系）SUS 410	フェライト系鋼（18Cr系）SUS 430	オーステナイト系鋼（18Cr-8 Ni系）SUS 304	炭素鋼 SS 400
物性	比重	(g/cm³)	7.7	7.7	7.9	7.8
	線膨脹係数	(×10⁻⁶/℃)	9.9	10.4	17.3	11.7
	熱伝導率	(cal/cm·s·℃)	0.059	0.062	0.039	0.12
	比熱	(cal/g·℃)	0.11	0.11	0.12	0.10
	磁性		有	有	無	有
溶接性			困難	良	優	優
機械的特性	弾性率	(×10³ t/cm²)	2.04	2.04	1.97	2.10
	降伏耐力	(t/cm²)	2.8	3.1	2.6	2.8
	引張強さ	(t/cm²)	5.2	5.6	6.0	4.4
	降伏比		0.53	0.55	0.43	0.64
	伸び	(%)	25	27	60	28
	耐低温性		不良	不良	<−200℃（遷移温度なし）	−45℃で靱性が低下
	耐高温性（3t/cm²の強度を保つ温度範囲）		600℃	550℃	700℃	450℃
一般耐食特性	耐候性		フェライト系鋼に比べ劣る	オーステナイト系鋼に比べ劣る	優	
	耐海水性		使用条件による鋼種の選定が必要（例：SUS329JIなど）			
	塩化物腐食感受性	孔食隙間腐食	大	大	中	
		応力腐食	無	無	大	
	耐酸性	<60% 硝酸	良	良	優	
		硫酸	不良	不良	不良～優	
		酢酸	不良	良	優	
	耐アルカリ性		良	良	優	
	水素脆性		大	大	無	



図—1　降伏耐力近傍の応力～歪関係



写真—1
波崎研究センタ食堂

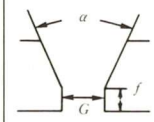
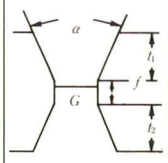
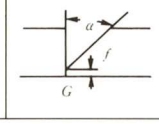


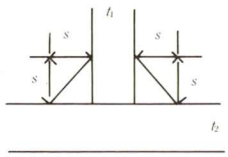
図— 2　柱詳細図

すみ肉溶接

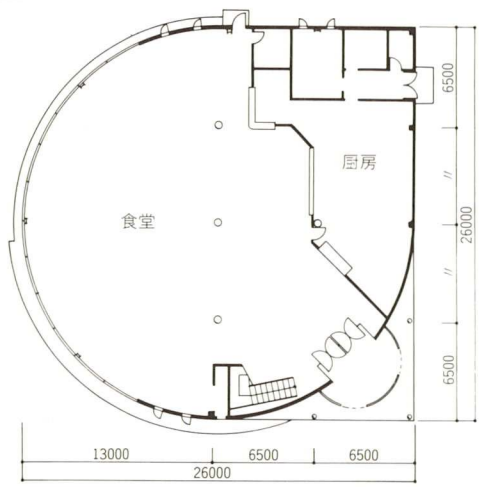
t_2	7mm	8mm	9mm	9mm				
t_1	5mm	6mm	6mm	8mm	9mm	14mm	16mm	22mm
s	4mm	4mm	4mm	5mm	5mm	6mm	6mm	7mm

突き合わせ溶接

型	形状	板厚 $t$mm	Gmm	$f$mm	α度	$t_1$mm	$t_2$mm
V		6	0～2	0～2	60～90		
		8	0～2	0～2	60～90		
		9	0～2	0～2	60～90		
X		6	0～2	0～2	60～90	2	2
		8	0～2	0～2	60～90	4	2
		9	0～2	0～2	60～90	4	3
レ		9	0	0～1.5	35～45		
		12	0	0～2	35～45		



図— 3　溶接サイズおよび開先形状



図— 4
波崎研究センタ
食堂平面図

てはビニールシートで注意深く養生することが肝要である。

次にステンレス鋼を加熱して切断する場合、クロムが燃焼し高融点の酸化クロムが形成されて鉄の燃焼を妨げるのでスラグが流れにくくなり、連続して切断することが難しい。したがって、普通鋼に使用される通常のガス切断は適用できず、多くはプラズマアーク切断法を用いている。この切断法は切断速度が大きいので材に及ぼす熱影響が少なく、また切断の精度が良いのでステンレス鋼の切断には適している。電極（タングステン系）と切断物の間に生じたアークに高速ガス流（アルゴン、窒素、水素系）を作用させて発生させるプラズマの温度は1万～2万度で、噴出速度は毎秒3千mになる。

ステンレス鋼の熱に対する性質は普通鋼のそれとは異なり、溶接後のひずみが大きくなる傾向があるので、この溶接に関する知識・技能を有する「ステンレス鋼溶接資格者」による適切な溶接を行わなければならない。開先の形状は、溶接ひずみを小さくするためI形またはU形とする。やむを得ずV形とする場合には、開先角度やルート間隔をできるだけ小さくしている。一例を**図— 3**に示す。

ステンレス鋼と普通鋼との接触による錆の発生がよく問題になるが、これは接触した普通鋼が流電腐食によりさびやすくなるためである。やむを得ず両者を溶接する場合はニッケル、クロムの合金成分の多い溶接棒を使用する必要がある。

最後に、ステンレス鋼材料の表面仕上げの種類としては、圧延形鋼部材を酸洗いしたままの銀白色で光沢がないもの（NO. 1）から、鏡と同程度の反射率をもつ鏡面仕上げNO. 6～NO. 8まで多々ある。今回の建物（**図— 4**）では、建材で最も一般的な仕上げであるヘアーライン仕上げ（HL）#150程度を、H形断面の全面に行っている。

おわりに

以上、ステンレス鋼材を使用した柱の構造設計、日本建築センターでの評定および製作における特異な点を中心に概略説明したが、これらのステンレス鋼材についての技術情報はステンレス協会開発事業部梅沢三雄氏、住友金属工業㈱建設技術部大竹章夫、清水秀夫の両氏およびトピーメタリ㈱田原正明氏らに多大なご指導をいただいた。

ここに深く感謝いたします。

参考文献

(1)　ステンレス協会「ステンレス鋼構造設計・施工規準（案）・同解説」
(2)　同上　　各種ステンレス協会規格
(3)　建設省建築研究所「新ステンレス鋼利用ガイドライン」

（あだち　なおゆき
株式会社大林組本店建築設計第8部担当課長）

日本建築協会

月間の動き

平成３年12月分

理　事　会

第６回定例理事会

13日　5時～5時40分　於太閤園オパールルーム
出席者　佐野会長ほか26名
議事　(1)通常総会開催の件
(2)後援及び協賛名義の件
(3)入退会者承認の件
(4)報告事項

編　集　委　員　会

第９回会員企画小委員会

10日　６時半～９時　於本会会議室
出席者　高田副委員長ほか５名
議事　(1)シリーズものの報告と掲載予定
(2)新しい企画案について

第９回編集委員会

12日　６時～７時20分　於本会会議室
出席者　溝神委員長ほか４名
議事　(1)12月号「タフでスリムなコンクリート」・「21世紀の住まいシンポジウム」特集経過報告
(2)１月号「夢物語―人がかわる，街がかわる」特集経過報告
(3)２月号「こだわりのインテリア」・「近畿郵政局」特集経過報告
(4)３月号「建築家のための設備知識―III」「東海支部」特集経過報告
(5)４月号「自然環境と建築」（仮称）特集経過報告
(6)その他の検討事項
(7)収支状況報告

第４回設備分科会

12日　６時～８時30分　於本会会議室
出席者　伊達幹事ほか３名，北島章因特別幹事
議事　(1)建築家のための設備知識―III―」特集経過報告
(2)「設備の頁」の企画
(3)今後の設備特集

第９回作品作風小委員会

19日　６時～７時15分　於本会会議室
出席者　宮下副委員長ほか５名
議事　(1)作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
(2)作品の選定
(3)「Gallery」内容報告及び今後の予定
(4)誌面（「作品作風欄」・「スケッチブック欄」）の検討

第７回　計画分科会―建築系―

19日　７時～９時半　於本会会議室
出席者　北村幹事ほか５名
議事　本分科会特集案検討

第９回　広告企画小委員会

24日　４時～５時半　於本会会議室
出席者　溝神委員長ほか３名
議事　(1)12月号「コンクリート」・「21世紀の住まい」特集広告経過報告
(2)１月号「夢物語」特集・「謹賀新年」広告経過報告
(3)２月号「こだわりのインテリア」・「近畿郵政局」特集経過報告
(4)３月号「設備（集合住宅篇）」・「東海支部」特集広告経過報告
(5)４月号「地球環境時代の建築」特集経過報告
(6)平成３年度独自特集企画，その他
(7)収支状況報告

事　業　委　員　会

第２回　東欧建築研修旅行分科会

10日　６時半～９時　於本会会議室
出席者　米井主査ほか２名
議事　見学先・旅行スケジュールについて

建　材　委　員　会

第８回委員会

11日　３時半～５時半　於本会会議室
出席者　金井委員長ほか
材料説明：カルチャードストーン（人工石材）
ボーラルブリック（レンガ）
担当：元木副委員長
今後の検討建材：DLRC（CFRC）

教　育　委　員　会

第８回工高生教育小委員会

12日　６時～７時半　於本会会議室
出席者　和田副委員長ほか６名
議事　(1)日本建築協会創立75周年記念事業
(2)「施工教育用ビデオ」について

GALLERY・MA 講演ビデオ映写会

16日　６時半～８時40分　於本会会議室
阪田誠造（多様な相とひとつの理念）
黒川紀章（黒川紀章と美術館）
参加者　18名

建　築　ク　ラ　ブ

第236回朝食会

10日　８時半～10時　於大阪グランドホテル
演題　「激動ソ連の底流―多様な民族と文化」
講師　長井　康平氏（朝日新聞編集委員）
参加者　54名

建築関係団体合同忘年懇親会

13日　６時～７時半　於太閤園
参加者　350名

11月，12月の入会者（敬称略）

〔団体会員３社〕
㈱協和エクシオ中国支店　㈱新協和
松野電工㈱広島支店

〔個人会員11名〕

池田　恵子（ケイズスペースプランニング）	河野　通孝（タック）	藤本　正人（アーキイズム）
山根　秀雄（タック）	吉田　伊織（吉興建設）	城井　修一（西日本旅客鉄道）
田辺　浩通（大和ハウス工業）	武部由紀子（オム設計室）	黒葛原美利（太啓建設）
野口　浩（野口建築事務所）	山口　芳博（阪神相互）	

◀会員の訃報

〔名誉会員〕
井手　正雄(89歳)　平成３年12月17日死亡
〔団体会員〕
熊谷太三郎(85歳)　平成４年１月15日死亡
〔個人会員〕
米田　芳松(72歳)　平成４年１月21日死亡

INFORMATION

第１回ＡＦシンポジウム

テーマ　「建築の世紀末と未来」
パネラー　磯崎　新，原　広司
司　会　浅田　彰
実行委員　布野修司，磯野英生
とき　1992年２月27日(木) PM6：30～8：30
ところ　メルパルクホール（郵便貯金会館）
大阪市淀川区宮原４―２―１
TEL06-350-2128
ＪＲ新大阪駅西口徒歩８分，地下鉄新大阪駅（４番出口）徒歩６分
申込み　当日先着順（定員950名）
入場料　3000円
主　催　建築フォーラム
問合せ　〒550 大阪市西区南堀江１-11-１栗建ビル㈱ADD営業開発部内 担当 大森
TEL06-534-4145

ヨーロッパ最新建築事情視察参加募集

主　催　㈳日本建築材料協会
代理店　日本交通公社
期　間　1992年６月８日(月)～20日(土)13日間
費　用　E・C 788,000円
（B・C利用は980,000円）
人　員　30名
資　格　建材協会及び建築関係団体会員
視　察　フランクフルト（ドイツ建築博物館他）
セビリア（スペイン万博施設他）
バルセロナ（オリンピック施設，聖家族教会他）
パリ（パリ郊外のニュータウン他）
締　切　1992年４月20日申込み締切
問合せ　建材協会事務局　担当　田村
TEL06-443-0345 FAX06-443-0348

室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市中央区三宮町3−7−6(神戸フクトクビル5階)
電話　神戸(331) 0881〜3
支店　大阪市北区西天満2丁目6番8号(堂ビル5階)
電話　大阪(364) 2031〜4
倉庫　神戸市東灘区御影石町4丁目（電話811-3610)

OM

テトカッパー防水層

カッパー防水帯——コーパータイト／オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL03(3571)2703㈹ FAX03(3571)0264
大阪事務所TEL06(391)1081〜2FAX 06(395)2109　名古屋出張所TEL052(811)3660
横浜営業所TEL045(320)4832　FAX045(320)4765　厚木出張所TEL0462(21)1761FAX0462(23)1341
埼玉営業所TEL048(774)2845　茨城出張所TEL0292(28)0878FAX0292(28)2614

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社

本　社　〒540 大阪市中央区常盤町1−3−8（日本生命谷町ビル）
TEL(06)943−6571(代)
■東京/横浜/盛岡/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/大津/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

学校建築のトータルアドバイザー

二葉工業株式会社

黒　板・掲示板・家　具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547 大阪市平野区加美北3−4−5
TEL06(792)5858　FAX06(792)2810

奉仕感謝の店
タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

本　社　〒550 大阪市西区西本町1−13−33
電話　大阪 06(532)代0461　〒550
天理営業所　天理市丹波市新町50

ND
JAPAN ELECTRIC TYPESETTING CO.,LTD.

■情報処理　■編集・企画　■印刷・製本

日本電植株式会社

〒530 大阪市北区天満1-7-23
TEL.06(357)1803㈹　FAX.06(357)4950



奥郷屋敷(四国高松市)
㈱竹中工務店施工

〒556 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
ファックス　五六一〜七四五四
五六一〜七四一六

ナニワ瓦株式会社

あらゆる屋根工事の相談は、

空気調和・給排水・衛生・防災設備 設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話(3434)6171(大代)
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話(302)2271(代)
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03-3344-1851(大代)　大阪本社☎06-448-3603(代)
大阪支社 ☎06-448-5851(代)　名古屋支店 ☎052-211-1535(代)　中国支店 ☎082-247-5541
九州支店 ☎092-431-2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒650 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

人に優しい環境づくり

第一工業株式会社

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号　電話　06-364-6661(代表)
本　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号　電話　03-3211-8511(代表)

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　白谷清二
大阪支店長　三田村嘉也

大阪支店　大阪市中央区北浜2-2-21　電話06(202)3071(代表)
本　店　東京都千代田区有楽町1-4-1　電話03(3502)6111(大代)
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　社
大阪営業所　大阪市北区西天満5-11-12　電 06-313-1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9-3　電0720-49-2128

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話(352)1131(代)
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2-22　電話(3667)3431(大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06-949-1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-1911
大阪本店　大阪市北区西天満4丁目6番18号　電話 06-363-1371
支　店　仙台・横浜・名古屋・神戸・広島・福岡
営業所　札幌・京都・松江
出張所　青森・秋田・盛岡・大宮・千葉・川崎・富山・福井・和歌山・鳥取・岡山・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長　依藤孝行

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号　TEL(06)351-5428(代)
FAX(06)351-5299

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1　2階)
郵便番号542　電話 大阪(06)768-5031　代表
メンテナンス部　電話　大阪(06)768-1651　代表
東京支店　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
郵便番号112　電話(03)5689-2351代表



自然環境を大切に
夢ある未来を
くりエイト！

電気・計装・空調・土木
栗原工業株式会社
本　社／〒530 大阪市北区角田町1番1号(東阪急ビル)
TEL 06(313)1101　FAX 06(315)0050

Carrier 冷暖房は CARRIER キャリア
東洋キャリア工業㈱デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7

電気工事設計施工
株式会社 三興社
代表取締役 土井敏裕
本　社　大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル5階)
電　話　06（361）3671(代)
支　店　東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電　話　03（3666）1478（代）
営業所　堺・泉　州・泉　南・滋　賀

――誠実と技術でお応えする――
住友電設株式会社
取締役会長 代谷正元
取締役社長 相馬一男
本社/〒550 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06)537-3400(大代)　東京/〒105 東京都港区芝2丁目2-17 ☎(03)3454-7311(大代)
営業種目 設計・施工・監理
●電力工事　配変電設備工事　架空送電線工事　地中送電線工事　土木工事
●設備工事　ビル電気設備工事　工場電気設備工事　防爆電気設備工事　計装工事　空調工事　給排水衛生工事　特殊配管工事　消防施設設備工事
●プラント工事
●情報システム工事　光伝送システム工事　CATVシステム工事　各種アンテナ装置工事

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工
三宝電機株式会社
取締役社長 嘉納秀一
本　社　〒530 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル)　TEL 06(364)1471・FAX 06(364)5533
東京支社　〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル)　TEL03(3504)0231・FAX 03(504)0268
名古屋支店　〒462 名古屋市北区金城3-12-14　TEL052(991)5131・FAX052(914)7535
神戸支店　〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル)　TEL078(881)5571・FAX078(871)6261
堺研究所　〒590 大阪府堺市三宝町七丁389　TEL0722(27)8408・FAX0722(27)1424

電気設備 設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役 山本貴士
本　社　大阪市北区中之島3－2－4　朝日ビル　TEL 大阪06（385）1361(代)
大阪営業所　TEL 大阪06(385)1361(代)　京都営業所　TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所　TEL 東京03(3574)0665　福岡出張所　TEL 福岡092(771)6168

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙 ●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉8－173－1
TEL(0729)39－3610
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597　大阪府貝塚市王子501

電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
支社長 馬田栄
大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号　電話 大阪(202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・中部・九州

営業種目
●防水工事　塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法　各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事　各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事　シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹付工事　アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建設業許可　大阪府知事許可（般－53）第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員
大阪市北区末広町3－21
星和地所扇町ビル201S
TEL06(315)0701
㈱特殊技研

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
株式会社 エヌエムビー
株式会社 ポゾリス物産
本　社：東京都港区六本木3－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-202-3294

技術と信頼で人と企業に貢献する
青葉印刷株式会社
代表取締役社長 依藤孝行
〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号　TEL(06)351—5428(代)
FAX(06)351—5299

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社　本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー!



大和郡山市九条スポーツセンター屋根　エターノコアーF

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
・オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
・オリエンタルメタル(ＯＰＭ)
・鋼板製オリエンタルフネンシングル
・オリエンタルオリセラム
・オリエンタルエターノコアー(ETC-F)

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ボーロイド(断熱材)D.G.K.　※カタログをご請求下さい。

オリエンタルメタル製造株式会社

大　阪　本　社　〒660 尼崎市昭和南通り３―26　電話大阪(06)412―5131㈹
大阪支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・姫路
東京本社及工場　〒335 蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42―3115㈹
支店及工場　東北・東京・関東・熊谷

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・綱野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）332－6861
TEL 東京（03）3272－8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）443－6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）252－6000

株式会社トーゴー
TEL 滋賀・守山(0775)83－2381

仕上工事監理の チェックポイント

◆日建設計大阪監理部「監理業務研究会」著

今日まで明確にされなかった仕上工事監理の基本を詳述し，執筆者陣の豊富な知識と経験に基づく厳選された技術情報を提供．最適な仕上工事施工のためのチェックポイントを97項目にわたり簡潔に見開きで構成．今までの過ちをくり返さないための決定版．

主要目次

1 〈石・タイル・左官〉 26項目
2 〈屋根・金属・建具・ガラス〉 21項目
3 〈木材・塗装・内装〉 30項目
4 〈組積・防水・外構〉 20項目

プロのノウハウ 四六判・2色刷・224頁・定価2000円◆

企画／日本建築協会

〒600 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
☎ 075-343-0811 振替／京都 0-26789

G (株)学芸出版社

日常業務のなかで起こる労働災害の実状を把握し，現状を踏まえたうえで，災害を誘発させる原因を明確に分析し，今後の安全衛生管理はどのようにあるべきかを詳述．実践的なゼロ災運動にとりくむための理念（心がまえ）と手法を豊富な経験に培われた視点で丁寧に説く．

プロのノウハウ 四六判・240頁・定価1600円

表 一郎（株式会社松村組 安全衛生部長）著

ゼロ災への道

建設現場の安全管理活動

目次

1 ゼロ災への旅
2 労働災害の現況
3 労働災害防止対策の推進
4 わが国と米国の安全
5 ゼロ災への道
6 ヒューマン・エラー事故防止
7 信じられない災害を探る
8 安全のこころ
9 職場の人間関係管理
10 安全担当者のあゆむ道

企画／日本建築協会

〒600 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
☎075-343-0811 振替／京都 0-26789

G (株)学芸出版社

建築デザインのための 構造計画

須賀好富 著

B5判・216頁・2800円（消費税抜）

建築技術選書〈特装版〉

よいデザインは構造計画によって支えられ，構造計画はよいデザインの「かて」となる．建築家が構造計画を認識し，構造家の計画案が建築家のアイデアに刺激を与えることにより始めて優れた建築が生まれる．建築家と構造家のギャップを埋めるための知識を図・写真などの最新情報を載せてわかりやすくまとめた，両者待望の技術書．

〈目次〉

第1章 構造とデザイン
第2章 柱の計画
第3章 はりの計画
第4章 架構の計画
第5章 屋根の計画
第6章 床の計画
第7章 耐震壁の計画
第8章 コストと構造計画

企画／日本建築協会

〒600 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
☎075-343-0811 振替／京都 0-26789

G (株)学芸出版社

生コン工場の普及につれてその技術面はメーカー任せとなり，現場技術者のコンクリートに対する知識の低下を招き，施工不良による欠陥構造物につながりやすくなっている．本書では，使用材料の選定から施工欠陥の補修までコンクリート工事に必要な基本的事項と管理のポイントを改訂されたJASS5に従い簡便に解説．

プロのノウハウ 四六判・2色刷・224頁・2000円（消費税抜）

加賀秀治 著

コンクリート工事のチェックポイント100

Ⅰ．コンクリート技術の展望
Ⅱ．コンクリート工事の施工計画
Ⅲ．使用材料の選定
Ⅳ．コンクリートの調合設計
Ⅴ．生コンの発注 Ⅵ．型わく工事
Ⅶ．コンクリートの運搬（ポンプ圧送）
Ⅷ．コンクリートの打込み・締固め
Ⅸ．コンクリートの養生
Ⅹ．コンクリートの品質管理・検査
Ⅺ．施工欠陥と補修
Ⅻ．特殊コンクリートの施工

企画／日本建築協会

〒600 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
☎075-343-0811 振替／京都 0-26789

G (株)学芸出版社

オフィスの未来を
デザインする

ITOKI

ITOKI
NEW COLOR
PROGRAM
色 彩 新 次 元

ソフトタッチの椅子。

機能、デザイン、カラー。椅子の新しいスタンダードは、この方向に向かう。サクラルは、仕立ての良いスーツのように、あなたの体にジャストフィットするチェアです。ヒップチルト機構の採用とボディの大幅な軽量化により、オフィスワーカーの姿勢の変化を常に的確にサポート。座っていることを意識させず、快適なデスクワークを実現します。デザインの重要なファクターである色彩システムには、イタリアのデザイナー、クリーノ・トリーニ・カステッリとの共同開発による「イトーキ・ニューカラー・プログラム」を適用。本体色に2種類のグレー、それぞれにグレーとコーディネートさせた7色ずつの布地カラーを採用しています。機能、デザイン、カラーシステム、全てにこれからのスタンダードにふさわしい厳しい基準を設定したサクラルチェア。その軽やかな「着心地」がオフィスワークを変えます。

仕様●ヒップチルト機構、ガス上下調節、樹脂製5本脚　本体色●ダークグレー、グレー　張地色●グレイッシュブルー、グレイッシュグリーン、グレイッシュピンクなど、全11色

サクラルチェア Sacral



新発売

株式会社イトーキ
東京都中央区銀座1-8-19 〒104 Telephone 03 3566-5211お客様係(ダイヤルイン)
大阪市中央区道修町1-5-18 〒541 Telephone 06 223-3050お客様係(ダイヤルイン)

建築と社会
第73輯第2号

改質アスファルト防水シート

トーチ工法「メルトーチ」
常温工法「RAシート」

床下地材

「SLスラリー」
「クイックセラミックフロー」

左官材料

「Uプライマー」
「ウレサンドU」
「U-グラウト」
「U-モルショット」
「床レベラー」
「天端レベラー」

建築資材の
総合メーカー

UBE

浴水〈循環・浄化・殺菌〉装置

一番風呂

セメント系固化材

「宇部UKC」
「USP工法」
「ザンドックス工法」

パイル

「宇部USパイル」
「宇部タフパイル」

UBE 宇部興産株式会社

資源建材事業本部

〒107 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル 電話(03)3505-9371 FAX(03)3505-9370

大阪支店資源建材販売部 〒530 大阪市北区曽根崎新地2-2-16 桜橋東洋ビル…電話 06-346-1403
名古屋支店資源建材販売課 〒460 名古屋市中区錦1-11-18 興銀ビル……電話 052-201-7079
広島支店資源建材販売課 〒730 広島市中区紙屋町2-1-22 広島興銀ビル……電話 082-244-7234
九州支店資源建材販売課 〒810 福岡市中央区天神1-10-24 三和ビル……電話 092-781-2309
仙台支店資源建材販売課 〒980 仙台市青葉区中央4-6-1 住友生命仙台中央ビル……電話 022-262-6235

社団法人 日本建築協会 〒530 大阪市北区梅田1の1の3の2100 電話大阪06(348)0635 FAX06(348)0634

振替口座大阪一三九九七五番
正会員の購読料は会費に含めて徴収
定価九八〇円（本体九五一円 送料共 消費税一九円）

雑誌 03379-2